クボタ乗用田植機

取扱説明書

VIP

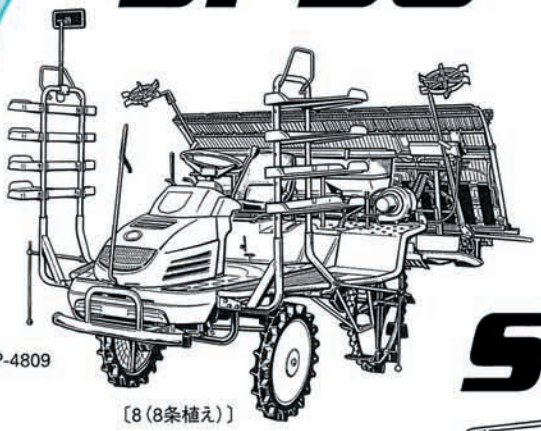
WELSTAR

SPD6

P-4807

〔6（6条植え）〕

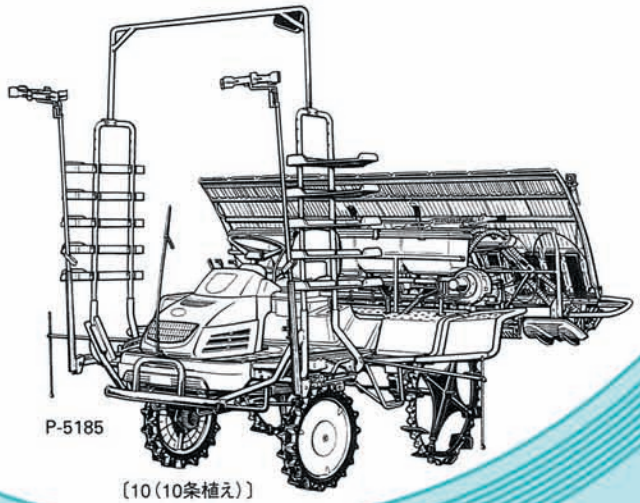
SPD8



P-4809

〔8（8条植え）〕

SPD10



P-5185

〔10（10条植え）〕

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

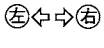
燃料

バッテリ充電異常

エンジンオイル油圧

エンジン水温

エンジン停止



ウインカの操作方向

ヘッドライト

エンジン回転数**“高回転”**

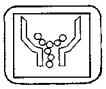
エンジン回転数**“低回転”**

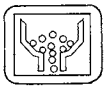
苗切れ

あぜぎわクラッチ**“切”**

植付クラッチ**“切”**

マーカ**“出し忘れ”**


肥料切れ
【F仕様】


肥料づまり
【F仕様】

専門用語の説明

●パワーステアリングハンドル	油圧式の操向操作ハンドル
●主変速レバー (HST)	**“前進”・“後進”・“停止”**の切換え及び走行速度をコントロールするレバー (油圧式の無段変速装置)
●副変速レバー	**“圃場作業”（低速位置）**と**“路上走行”（高速位置）**を切換えるレバー
●十字ポンパレバー	植付部（苗のせ台）の**上昇←→下降**，植付部への動力伝達の**“入”**，**“切”**及びラインマーカの**セット**を操作するレバー
●アクセルレバー 【SP仕様除く】	エンジン回転をコントロールするレバー
●ブレーキペダル	踏込むと動力を断ちブレーキが掛かるペダル
●バックアップ	主変速レバーを**“後進”**側に操作すると植付部が自動的に上昇する機能
●フィットセンサ	ほ場条件による植付部の感度を設定するセンサ
●モンロー	マイコンのはたらきで植付部を常に一定の水平状態に修正・保持する自動装置
● オートフロート	マイコンのはたらきで，凸凹のあるほ場で植付け深さを一定に修正する自動装置
●安全クラッチ	植付爪に障害物が詰まったとき，植付部のギヤの破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
●コントローラ	運転席下部にある自動制御をコントロールするマイコン部
●フラットローラ	フロート前方にあるフロート浮上り防止のための整地ローラ
●スローブローヒューズ	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ

PM808-9751-6(カラー)

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**“SPD8”**を基本とし，**“SPD8”**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

基本型式の表示

【例】SPD8 －SP － C I T2 (Y32) F

①　②　③④　⑤　⑥　⑦

①植付条数によって
- SPD6 …… 6条植
- SPD8 …… 8条植
- SPD10 …… 10条植
- SPD10-8 …… 10条植

②機能によって
- SP仕様 …… 表1参照

③植付条間によって
- 表示なし（標準） …… 30cm
- C仕様 …… 33cm

④植付爪の形状によって
- ●I …… アイ爪
- ●H …… はし爪

⑤車輪の種類によって …… 表2参照

⑥予備苗のせ台によって …… 表3参照

⑦施肥装置
- ●表示なし …… 施肥装置なし
- ●F …… 粒状施肥装置付

※諸装置 …… 表4参照

※諸装備について …… 表5参照

●表2

区分／仕様	種類 前輪（車輪径×幅）	種類 後輪（車輪径×リム幅）	対象型式
表示なし（標準）	ノーパンクタイヤ（φ650×78）	ゴムラグ車輪（φ950×50）	6
	ノーパンクタイヤ（φ650×95）	ゴムラグ車輪（φ950×50）	8
	ノーパンクタイヤ（φ650×120）	ゴムラグ車輪（φ950×50）	8C
T2	細幅ノーパンクタイヤ（φ650×78）	ゴムラグ車輪（φ950×50）	8,10,10-8

●表1

機能
アクセル連動主変速レバー（ゆう優ワンレバー）
可動式予備苗のせ台（予備苗ラック）
温風ドライ施肥

●表3

表示	とう載枚数	対象型式	備考
表示なし	6	6	—
	8	8	—
	10	10	—
	—	10-8	—
Y12	12	6	—
Y32	32	8，8C	回転式

●表4

諸装置	
自動化装置	十字ポンパ
	植付部自動水平制御装置
	自動昇降装置（オートフロート）
諸機能	バックアップ機能
	ノーペダル旋回機能（ゆう優ターン）

●表5

諸装備
フラット（整地）ローラ
ワイド・ロングステップ
回転マーカ
ぴったりマーカ
あぜぎわワンレバー

田植機を安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から田植作業まで順番に理解体得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に各装置を理解しましょう

2．**装置の名称と取扱い：**各装置のはたらきをまず理解し，基本操作を体得してください。

作業装置で田植機の性能を最大に発揮させましょう

3．**作業装置の名称と取扱い：**作業装置のはたらきと基本操作を体得してください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

4．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

エンジンの安全基本操作・田植機の安全走行のための基本操作を体得しましょう

5．**移動走行と輸送：**

⑴機体の急発進を防止するため，エンジンの始動と停止の手順を体得してください。

⑵機体の前・後進や停車の基本操作を体得してください。

⑶田植機をほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降ろしと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

では実際にほ場で田植作業を始めてみましょう

6．**田植作業のしかた：**作業前の各装置の取付け，作物とほ場条件に合わせた調整，安全で正しい田植作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

7．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，田植えシーズン前・後及び長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

田植機がもしもの不調のときは

8．**田植機の不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために

⚠安全に作業するために …… ⚠-1

サービスと保証について

サービスと保証について …… 1

装置の名称と取扱い

装置の名称と取扱い …… 2
- 機体方向説明 …… 3
- 装置の名称と各部のはたらき …… 4
  - メインスイッチ …… 9
  - 非常エンジン停止レバー …… 9
  - アクセルレバー …… 10
  - 主変速レバー …… 10
  - 副変速レバー …… 11
  - パワーステアリングハンドル …… 11
  - ブレーキペダル …… 11
  - 駐車ブレーキレバー …… 12
  - 運転席（シート） …… 12
  - メインパネル …… 13
  - コンビネーションスイッチ …… 13

作業装置の名称と取扱い

作業装置の名称と取扱い …… 14
- 装置の名称と各部のはたらき …… 14
  - 前輪デフロックペダル …… 21
  - 十字ポンパレバー …… 21
  - 植付部落下防止レバー …… 22
  - フィットセンサダイヤル …… 22
  - 苗取り量調節レバー …… 23
  - 植付深さ調節レバー …… 23
  - 横送り切替えレバー …… 24
  - あぜぎわワンレバー …… 24
  - 株間調節レバー …… 25
  - フラットローラ切替えレバー …… 26
  - 油圧ロックレバー …… 26
  - ラインマーカ …… 26
  - マスコット …… 27
  - 隣接マーカ …… 27
  - ぴったりマーカ …… 28
  - 苗ステー …… 28
  - 苗押さえ棒 …… 28
  - 予備苗のせ台 …… 29
  - 回転式予備苗のせ台【8CY32仕様】 …… 30
  - ホッパ …… 31
  - ロールケース（繰出し部） …… 32
  - ブロワ …… 33
  - 施肥全条停止レバー【SP仕様】 …… 33
  - 施肥量調量金具 …… 34
  - メインパネル …… 35
  - 警報停止スイッチ …… 38
  - コントローラ …… 38

運転前の点検

運転前の点検 …… 40
- 日常点検項目 …… 41

移動走行と輸送

移動走行と輸送 …… 43
- 新車時の扱いかた …… 43
  - ならし運転について …… 43
- エンジンの始動と停止のしかた …… 43
  - 始動のしかた …… 43
  - 停止のしかた …… 46
- 移動走行について …… 46
  - 移動走行前の準備 …… 47
  - 発進のしかた …… 53
  - 旋回のしかた …… 54
  - 停車・駐車のしかた …… 54
- 輸送について …… 55
  - トラックとあゆみ板の準備 …… 55
  - 田植機の準備 …… 55
  - 田植機の積込み・積降ろしのしかた …… 55
  - トラック上での処置 …… 56

目　次

田植作業のしかた

田植作業のしかた …… 59
ほ場と苗の条件 …… 59
ほ場条件 …… 59
苗条件 …… 60
田植機の準備 …… 61
作業前の準備 …… 61
苗のせ台の折りたたみ・広げかた …… 67
植付作業のしかた …… 77
ほ場の出入りのしかた …… 77
植付作業の手順 …… 77
植付けかたと旋回のしかた …… 83
苗の補給のしかた …… 89
あぜぎわの植付けかた …… 90
施肥作業のしかた【F仕様】 …… 92
ほ場と肥料について …… 92
作業前の準備 …… 95
施肥作業のしかた …… 98
ホッパ内の肥料の排出のしかた …… 99
作業に合わせた各部の調節・調整 …… 102
メインパネルによる異常と処置 …… 124
コントローラ（自己診断）による異常と処置 …… 126

メンテナンス

メンテナンス …… 127
各部のオープン（開閉）と脱着のしかた … 127
ボンネットのオープン …… 127
運転席下カバーの脱着 …… 127
ブロワの開閉【F仕様】 …… 128
ロールケース・ダクトの脱着【F仕様】 …… 129
ロール・ブラシの取付け・取外し方法【SP-F仕様】 …… 131
各部の掃除と注油のしかた …… 133
掃除のしかた …… 133
注油のしかた …… 137
定期点検 …… 142
廃棄物の処理について …… 142
洗車時の注意 …… 143
使用者が行なってはいけない修理 …… 143
定期点検一覧表 …… 144
給・注油（水）点検一覧表 …… 146
燃料・オイルの点検・補給・交換 …… 147
ラジエータ冷却水の点検・交換 …… 151
ラジエータフィンの掃除 …… 153
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 …… 154
フューエルフィルタアッシの交換 …… 154
エンジンバルブクリアランスの点検 … 154
エアクリーナの点検・掃除・交換 …… 155
パイプ・ホース類の点検・交換 …… 156
ミッション駆動ベルトの点検 …… 157
ミッションオイルフィルタカートリッジの交換 …… 159
タイヤの点検 …… 159
植付爪・押出金具の点検・調整・交換 159
苗のせ台のしゅう動板と受けの点検 … 163
施肥ブラシの点検・掃除・交換【F仕様】 …… 163
バッテリの点検・交換 …… 165
電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換 …… 169
ランプ（電球）の点検・交換 …… 171
反射テープの点検・交換 …… 171

植付作業後の手入れ …… 172
毎日の作業後 …… 172
長期格納時 …… 173

乗用田植機の不調と処置

乗用田植機の不調と処置 …… 174
欠株が出る …… 175
浮苗が出る・植付けが乱れる …… 179
浮苗が出る・植付けが悪い …… 183
植付けが乱れる・欠株が出る …… 184
施肥をしない・施肥量がばらつく
【F仕様】 …… 185
その他の不具合 …… 189

付表

付表 …… 191
主要諸元 …… 191
付属部品 …… 194
オプション（別売品）
（純正部品を使いましょう） …… 195
苗キーパ …… 195
クリーナ …… 195
補助車輪 …… 196
整地板 …… 197
後輪タイヤ …… 197
広幅前輪タイヤ …… 197
線引きマーカ …… 197
周り植えマーカ …… 197
苗スライドストッパ …… 198
延長予備苗のせ台 …… 198
回転予備苗台 …… 199
苗すくい板ホルダ …… 199
キャノピ …… 199
薬剤散布機“こまきちゃん” …… 199
除草剤散布機“滴下マン” …… 199
増量ロール【SP-F仕様】 …… 200
消耗部品（純正部品を使いましょう） … 200
クボタ純オイル …… 205

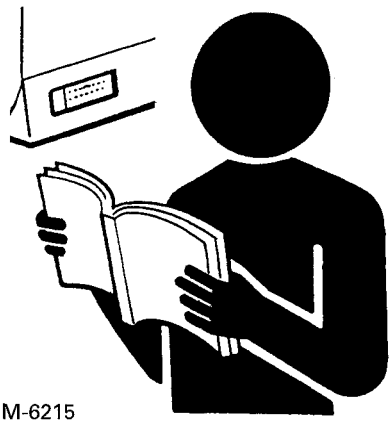
⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください。

■安全指示順守

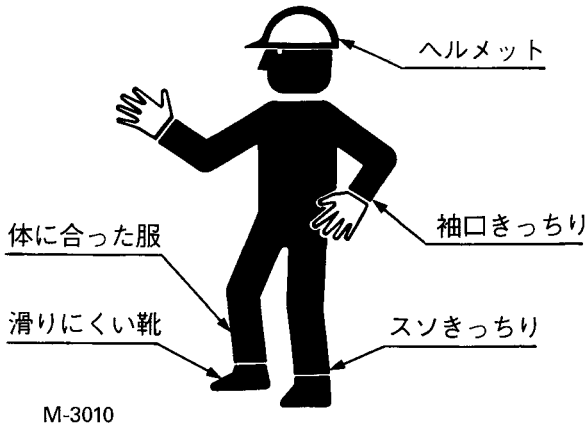
- 本書及び本機の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。また，破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかの人に機械を貸すときは，取扱方法や安全のポイントをよく説明し，この取扱説明書をよく読むように指導してください。



M-6215

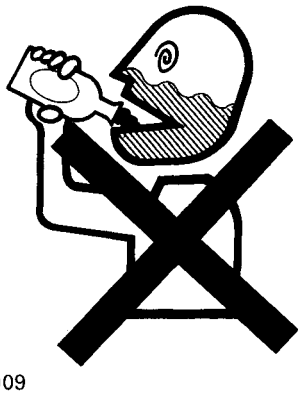
■作業に合った服装及び健康状態

- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
  だぶついた服装は，回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は，すべらないものを使用してください。



M-3010

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

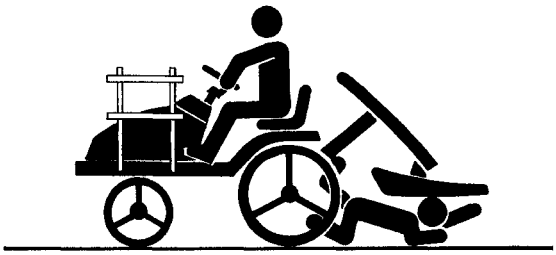


M-3009

⚠ 安全に作業するために

■子供が近づくのは危険

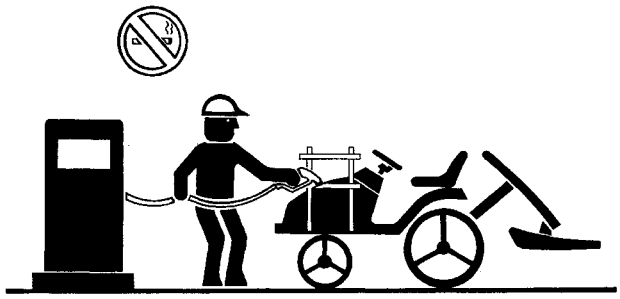
- 点検・整備中及び田植作業中機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかくれたりしてたいへん危険です。



P-3489

■使用前の準備・点検

- 使用前の点検は必ず行なってください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，エンジンを止めて行なってください。
- 火気厳禁。
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。
- 植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは，油圧昇降ロックをするとともに，台などで支えをして落下を防止してください。



P-3490

P-3491

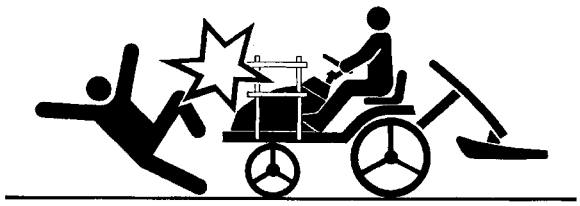
■タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

- 空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
  （特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

P-3295

■エンジンの始動

- エンジンの始動時，運転席に座り，主変速レバー，副変速レバーが“N”（中立）になっていることを確認してから始動してください。
- 機械の周囲の人・物にじゅうぶん注意し，ブレーキペダルを踏んでから始動してください。
- 屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。



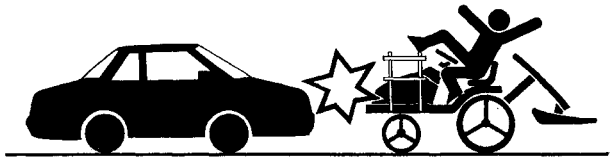
P-3492

F-8842

⚠ 安全に作業するために

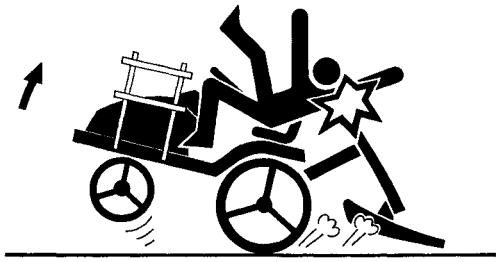
■走行運転

- この機械は一般道路は走れません。
- 一般道路はトラックなどで運搬してください。
- 発進前に必ず植付部が持上げられているかを確認してください。
- 機械の周囲の人・物に注意して，ゆっくり発進してください。
- 初めて運転される方は，操作になれるまで低速で運転してください。
- 道のりが遠くても，その他どのような場合でも，絶対に運転者以外の人を乗せないでください。
- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないで，荷物はめんどうでも，別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- 副変速レバーを**“圃場作業”**又は**“路上走行”**に入れて発進する場合は，植付部を最上昇位置にしたあと，油圧ロックレバーを**“ロック”**位置にして植付部の落下防止を行なってください。
- 急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 発進するときは，ブレーキペダルを離してから主変速レバーを**“N”**（**中立**）位置からゆっくりと操作してください。
- 停止するときは，必ず主変速レバーを**“N”**（**中立**）位置に戻してからブレーキペダルを踏込んでください。
- カーブ・曲り角では早めにスピードを落としてください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。
- 油圧ロックレバーを**“ロック”**位置にし，植付部の落下を防止してください。
- 隣接マーカ・ぴったりマーカ・マスコットを収納し，ラインマーカをロックし，苗のせ台を収納（**【6】**は苗のせ台を機体中央で止める），又は，折りたたみ**【10・10-8】**してください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。特に，苗のせ台の接触には注意してください。
- 機体が右又は，左に大きく傾き，転倒するおそれがあるので，傾きの大きいところでは走行しないでください。

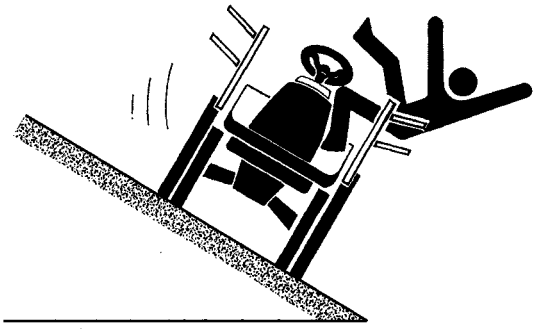


P-3493

P-3494



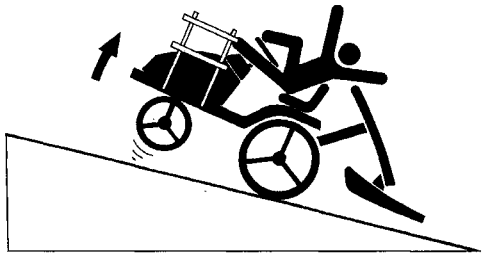
P-3495



P-3499改

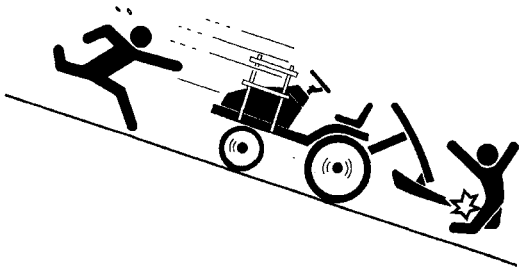
■坂道走行

- 坂の手前で一旦停止して，副変速レバーを**“圃場作業”**に切換えてから，坂道の登り降りをしてください。
- 停止するときはブレーキペダルは踏込まないで，必ず主変速レバーを操作してください。
- 急発進は禁物。
- 坂が急で，前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は，後進で登るようにしてください。
- 坂の途中で副変速レバーを**“中立”**にしないでください。また，ブレーキペダルは踏込まないでください。
- 坂の途中で危険回避などのためにやむを得ず機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキペダルの踏込みが足らない場合は，暴走するおそれがあります。
- 坂道では，特別なときのほか駐車しないようにしてください。
- 駐車する場合は，駐車ブレーキをかけて，石や木片などで下側の両輪に車止めをしてください。
- 駐車中は，副変速レバーを**“圃場作業”**又は**“路上走行”**に入れておいてください。



P-3496

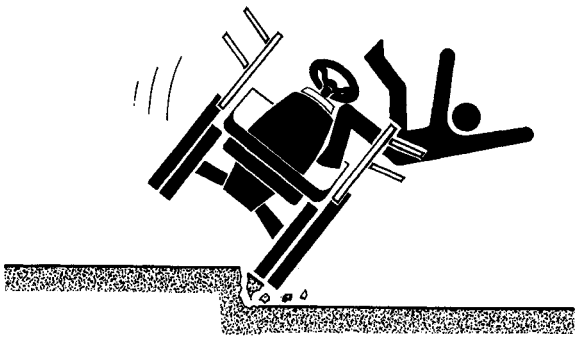
P-3497



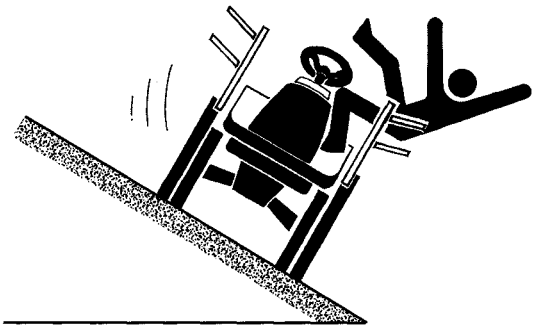
P-3498

■農道，ほ場の移動

- 副変速レバー**“路上走行”**で，植付部を上昇させて，ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。
- 草などでおおわれていて路肩がわからないときや危ないと思われる所では，機械から降りて確認するようにしてください。このとき必ずエンジンを止めて行なってください。
- 雨あがりのとき，狭い農道では，速度を落として慎重に走行するようにしてください。
- 対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一旦停止して対向車をやりすごしてください。
- 油圧ロックレバーを**“ロック”**位置にし，植付部の落下を防止してください。
- 隣接マーカ・ぴったりマーカ・マスコットを収納し，ラインマーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。
- 機体が右又は，左に大きく傾き，転倒するおそれがあるので，傾きの大きいところでは走行しないでください。



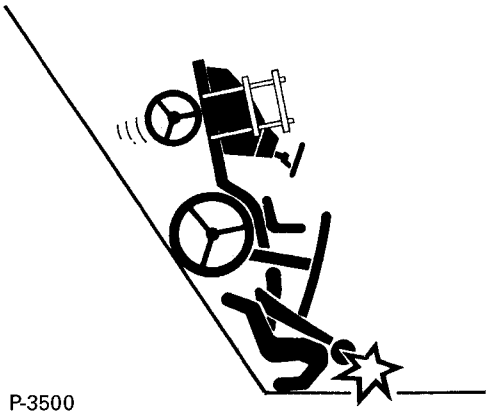
P-3499



P-3499改

■ほ場の出入り

- 機械をあぜ・溝に直角に向けて止め，副変速レバーを**“圃場作業”**にし，十字ポンパレバーで植付部を下げ，主変速レバーを**低速**で，ゆっくり発進してください。後輪があぜに上がると同時に，植付部を上げてください。
- 農道が狭い場合は，ほ場に出入口の傾斜をつくり，溝は渡り橋をつくってください。
- ほ場の出入り，土手などの急斜面の登り降り，溝越えのときには，必ずあゆみ板を使うか，ほ場に出入口傾斜や渡り橋をつくって，後進で登ってください。
- あゆみ板は，機械の重量に耐える強度（金属製）で，段差に対して４倍以上の長さのもの，また，横サンスベリ止めのついたものを使用してください。
- あゆみ板を登り始める前に，前輪デフロックペダルを**踏む**ことを忘れないでください。
- あぜ・溝に対して機械を直角にとめ，左右の２枚のあゆみ板が機械の両輪に合い，平行になっているかを確認してください。
- ハンドルを真っ直に直し，真っ直に登ってください。
- 急傾斜面の移動で斜面を下るときは，副変速レバーを**“圃場作業”**で，前輪デフロックペダルを踏んで前輪を左右ロックしてください。
- 途中で副変速レバーを**“N”（中立）**にしないでください。
- 途中で危険回避などのために本機を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキペダルの踏込みが足らない場合は，暴走するおそれがあります。

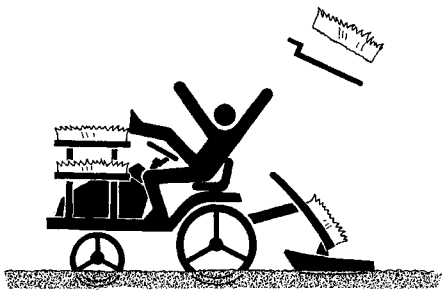


P-3500

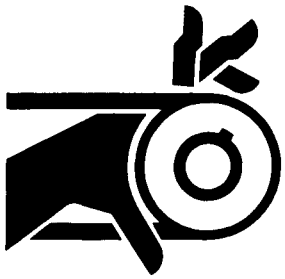
P-3497

■ほ場での作業

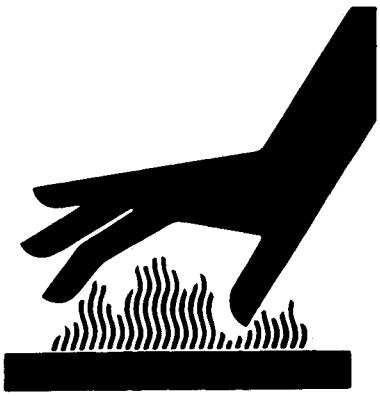
- 苗を補給するときは，エンジン回転を低速にし【SP仕様除く】，主変速レバーを“N”（中立）にし，駐車ブレーキを掛けてください。
- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
- あぜぎわで旋回するときは，あぜの周囲の人や物にじゅうぶん注意を払ってください。
- 作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近づけたりしないでください。
- ウエイト代りに，人や物を乗せないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。
- 植付爪などに異物がかみこんだときは，エンジンを停止し，完全に止まったのを確認してから取除いてください。



P-3501



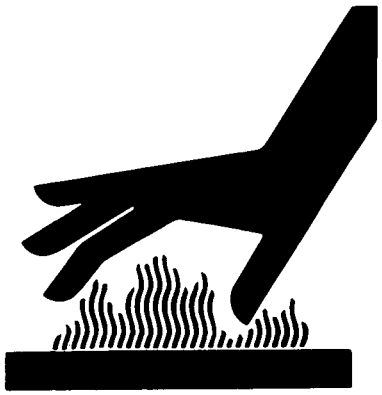
B-1506



B-1502

■機械から離れるとき及び走行，作業途中の駐車・点検

- 駐車及び点検などで運転席を降りるときは，主変速レバーを“N”（中立）位置にしてエンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてキーを抜いてください。
- 高温部に触れないよう注意してください。
- 植付部を上昇させて点検するときは，油圧ロックレバーを“ロック”位置にし，植付部の落下を防止してください。

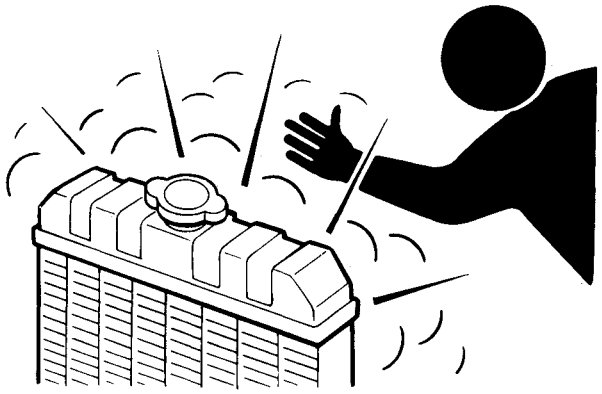


B-1502

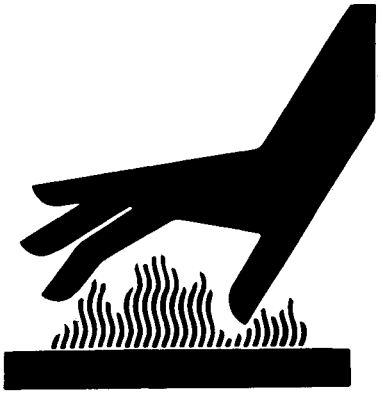
P-3502

ヤケド防止

- 過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。
- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は，過熱，加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。
- 高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。
- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



B-1503



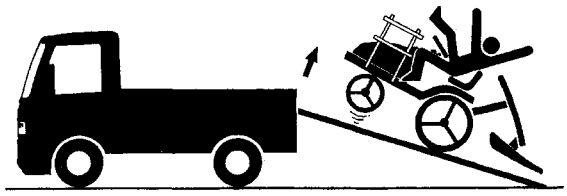
B-1502

⚠ 安全に作業するために

■トラックなどへの積み・降ろし

- 前進であゆみ板を登ると大変危険です。必ず，後進で積込み，前進で積降ろしてください。
- 積み・降ろしを開始する前に，トラックの駐車ブレーキがかかっているかを確認してください。
- 脱輪に注意してください。
- 前輪デフロックペダルを使用してください。
- 副変速レバーを**“圃場作業”**にし，主変速レバーをゆっくり操作してください。
- 途中で副変速レバーを**“N”**（**中立**）にしないでください。
- あゆみ板は，段差の４倍以上の長さのものを使ってください。
- 誘導者を付け，周囲の安全をじゅうぶん確認してください。また，機械の前には絶対に立たないでください。
- 途中でエンストしたときは，即ブレーキペダルをいっぱい踏込み，再びエンジンを始動して，アクセルレバーを**“作業範囲”**まで動かしてエンジン回転数を上げてください。

  【SP仕様除く】
- 途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは，ブレーキペダルを素早くいっぱい踏込んでください。



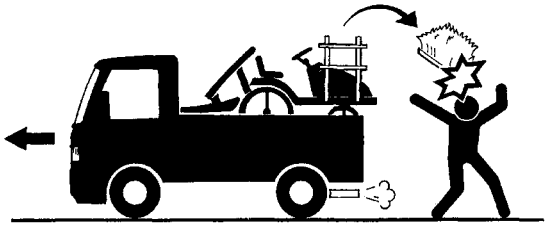
P-3503

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が600kg以上の重量に耐えうる

■トラックなどでの運搬

- 駐車ブレーキをかけてください。
- ロープは前輪と後輪に掛け，確実に固定してください。
- 苗のせ台・予備苗台などにのせてある物は，必ず降ろしておいてください。



P-3504

この田植機を他人に貸すときは

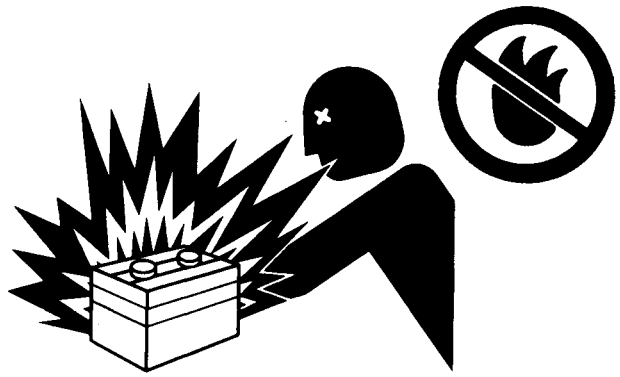
■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱い方法・安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるように指導を行なってください。

■バッテリの取扱い注意

- バッテリのガスは爆発のおそれがあります。
- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
- バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。
- バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。

【補水タイプ】

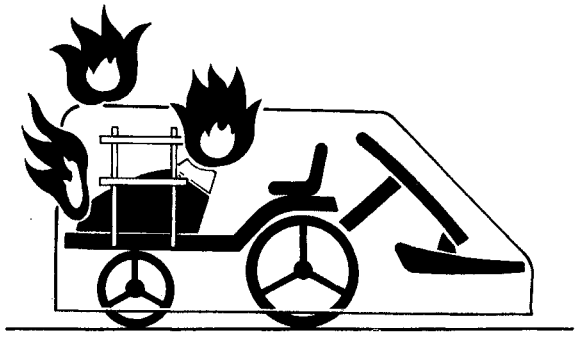
- バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。
- 充電は，機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂するおそれがあり危険です。
- バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。
- バッテリ液（希硫酸）が目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
- バッテリ液（希硫酸）が目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。
- 指定外のバッテリは使わないでください。



F-8836

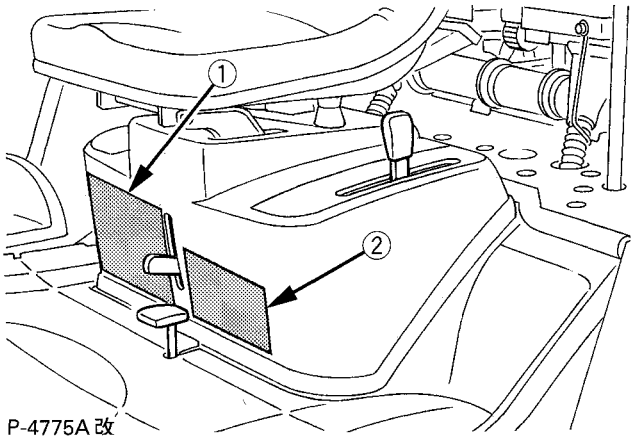
■使用後の手入れ

- 点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行なってください。
- 取外したシートカバーなどは，必ず元のとおりに取付けてください。回転部などがむき出しになり危険です。
- 格納するときは，平坦な場所に植付部を下げて置いてください。
- 駐車ブレーキを掛けておいてください。
- 本機カバーなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分がじゅうぶん冷えてからにしてください。火災の原因になります。



P-3505

2. ⚠表示ラベルと貼付け位置



P-4775A 改

①品番　PL501-8986-2

⚠ 警　告

転倒や暴走の危険があるため、下記事項を守ること。

エンジン始動時
ブレーキペダルを踏み込み、主変速レバーを『N(中立)』にしてからエンジンを始動すること。

走行全般
主変速レバーを『N(中立)』にしてから、ブレーキペダルを離すこと。
高速時に急ブレーキ、急ハンドル操作を行わないこと。

作業時
苗補給時は、主変速レバーを『N(中立)』にし、駐車ブレーキをかけること。

トラックなどへの積み降ろし・畦越え・急な坂道での走行時
1．登るときはバックで登り、副変速レバーを『圃場作業』にすること。
2．段差の4倍以上の長さのあゆみを使用し、誘導者をつけること。
3．斜面に対して直角に走行すること。
4．坂道を下る時は急ブレーキをかけないこと。

機械から離れるとき
1．エンジンを止め、駐車ブレーキをかけること。
2．坂道では車止めをすること。

⚠ 注　意

使用前
1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．屋内では排気ガスが溜まり易くガス中毒の危険があるため、換気を十分すること。

移動走行時
1．この機械は公道走行はできないため、トラックにのせて運搬のこと。
2．転倒などの危険があるため、傾斜地・路肩の軟弱な農道・がけ際は走行しないこと。
3．転落や破損の危険があるため、運転者以外の人や物を乗せないこと。
4．植付部が不意に下降してはさまれる危険があるので、植付部を上げて移動するときは、油圧昇降を必ずロックすること。

作業時
1．ケガをするおそれがあるので、清掃・点検・整備・給油はエンジンを必ず止め、冷えてから行うこと。
また、油圧昇降を必ずロックすること。
2．ケガをする危険があるので、夜間作業は絶対にしないこと。
3．植付作業中、安全クラッチが作動(ガッガッという大きな異音)したら、すぐに走行を停止し、エンジンを止めて植付爪先端の障害物を取り除くこと。

使用後
火災の危険があるので、シートカバーは機械が冷えてからすること。

②品番　PM910-8962-1【10・10-8】

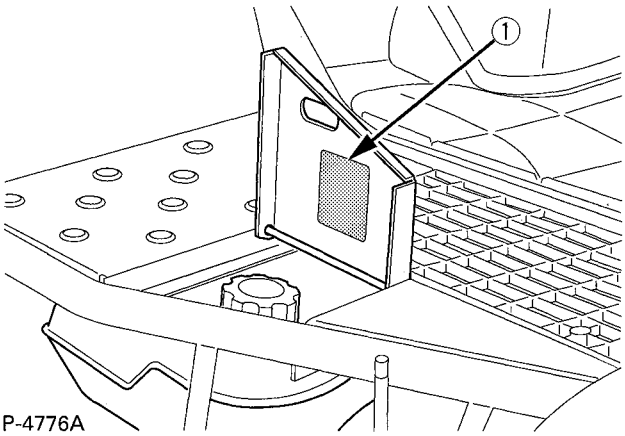
⚠ 注　意

植付部の開閉作業は、下記事項を守り安全に作業すること。
1. まわりに人がいないことを確認する。
2. 駐車ブレーキをかけ、油圧ロックを「閉」にし、平坦な場所で行う。
3. 植付部に挟まれることがないように注意する。

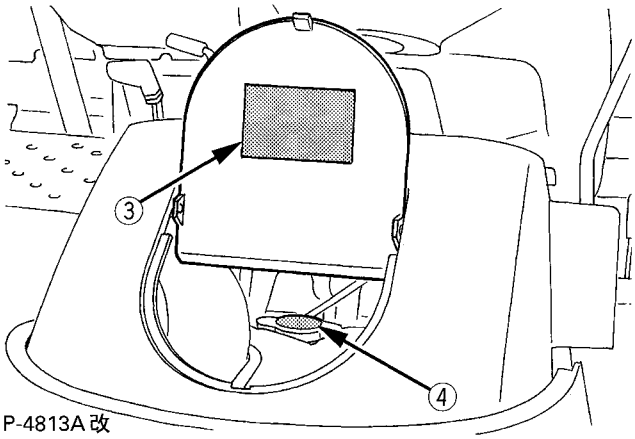
植付状態にする操作手順
1. 各レバーが「折り畳み」位置にあることを確認する。
2. 左側折り畳みロック解除レバーを「解除」し、左側植付部を回転させ植付状態にする。
3. 右側折り畳みロック解除レバーを「解除」し、右側植付部を回転させ植付状態にする。このとき左右の摺動板がそろうよう右側植付部をしっかり押し込む。
4. 後側ガードロックレバーを「植付」位置にする。
5. 左側苗のせ台を中央によせ、苗のせ台ロックレバーを「植付」位置にする。
6. 植付部ロックレバーを「植付」位置にする。
7. バランスバネロックレバーを「植付」位置にする。

折り畳み状態にする操作手順
1. 「苗のせ台停止範囲」が「苗のせ台停止位置」にくるよう、苗のせ台を横送りさせる。
2. バランスバネロックレバーを「折り畳み」位置にする。
3. 後方ガードロックレバーを「折り畳み」位置にする。
4. 苗のせ台ロックレバーを「折り畳み」位置にし、左側苗のせ台を左側によせる。
5. 植付部ロックレバーを「折り畳み」位置にする。
6. 右側植付部を回転させ折り畳み状態にする。このとき折り畳みロックにより植付部が固定されていることを確認する。
7. 左側植付部を回転させ折り畳み状態にする。このとき折り畳みロックにより植付部が固定されていることを確認する。

植付作業中に各種ロックレバーを折り畳み位置にしないこと。機械が壊れる恐れがあります。



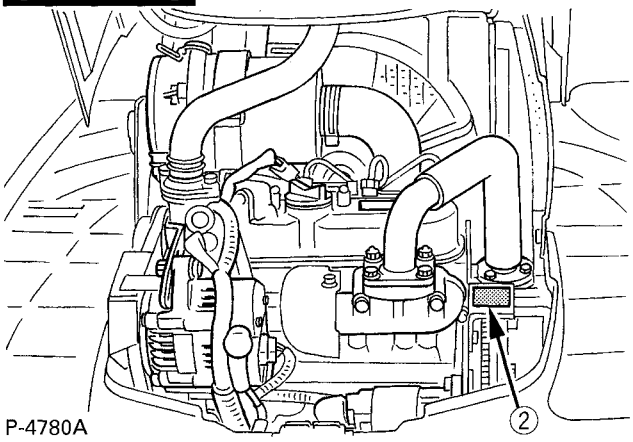
P-4776A



P-4813A 改

※イラストは【SP仕様除く】

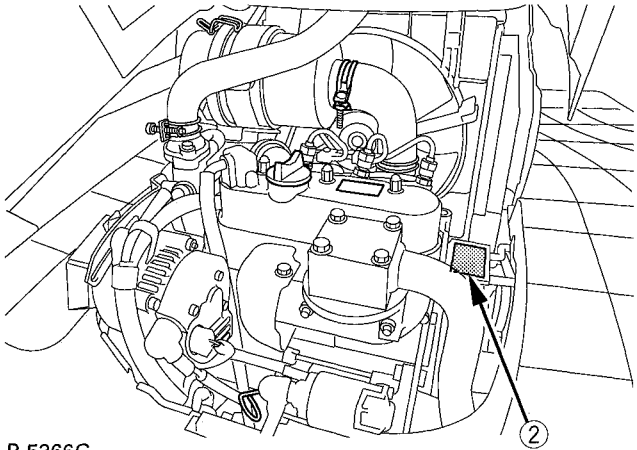
【6・8・10】



P-4780A

【6・8・10】

【SP仕様】



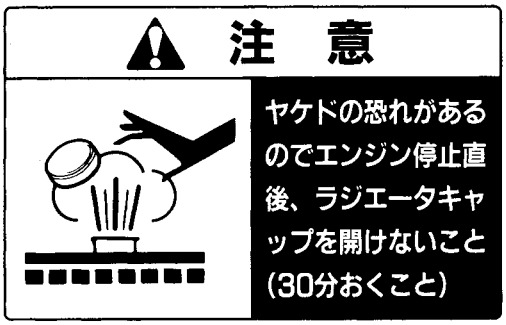
P-5366G

【SP仕様】

①品番　3F740-9828-2

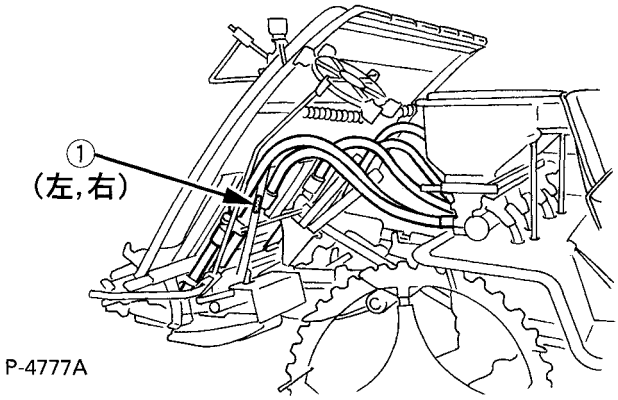
②品番　T0180-4958-1

③品番　PF801-8983-1



④品番　16667-8724-1

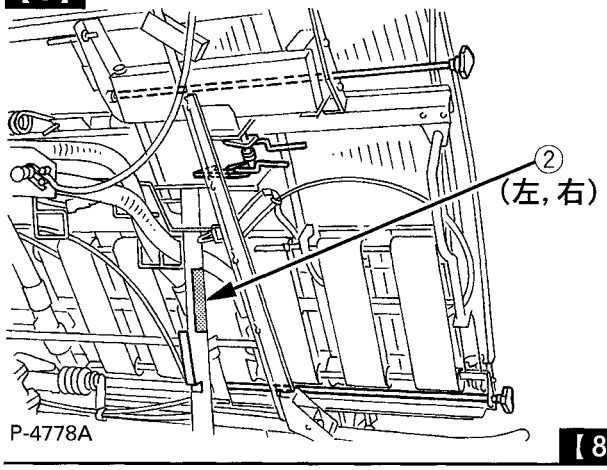
【6】



P-4777A

【6】

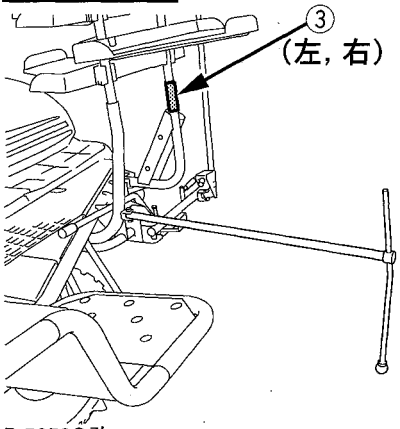
【8】



P-4778A

【8】

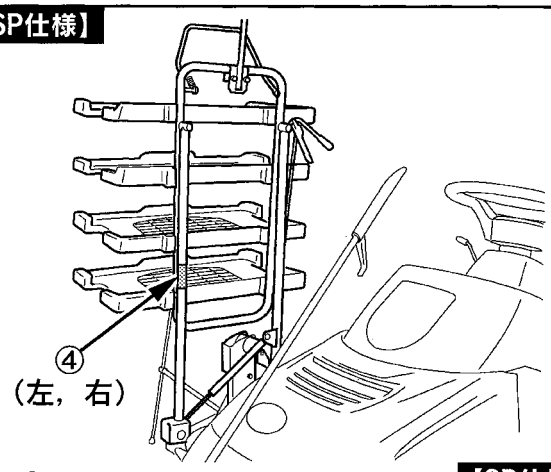
【10・10-8】



P-5053C 改

【10・10-8】

【SP仕様】



P-5349C

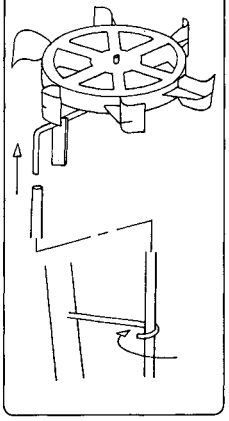
【SP仕様】

①品番　PL651-8953-1　②品番　PL851-8953-1　③品番　PJ401-8953-2　④品番　PP501-8948-2

【6】

⚠ 注 意

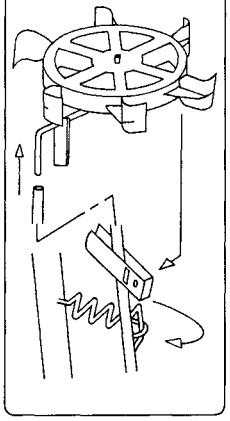
マーカが人・物にぶつかる危険があるので移動走行時・トラックでの運搬時には、マーカをロックし、先端部を外すこと。



【8】

⚠ 注 意

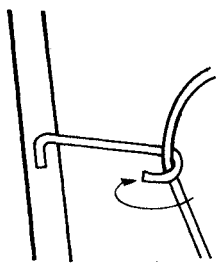
マーカが人・物にぶつかる危険があるので移動走行時・トラックでの運搬時には、マーカをロックし、先端部を収納すること。



【10・10-8】

⚠ 注 意

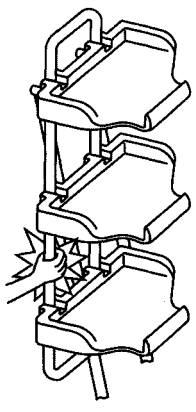
マーカが人・物にぶつかる危険があるので移動走行時・トラックでの運搬時には、マーカを図の様にロックすること。

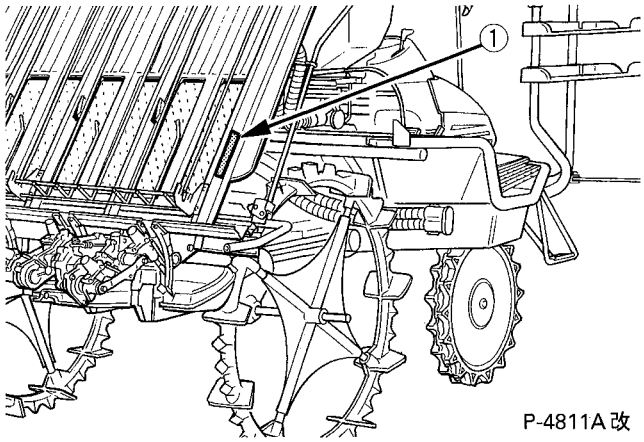


【SP仕様】

⚠ 注 意

手を挟む恐れがあるので、フレームを握って操作しないこと。また、操作は運転者が行うこと。





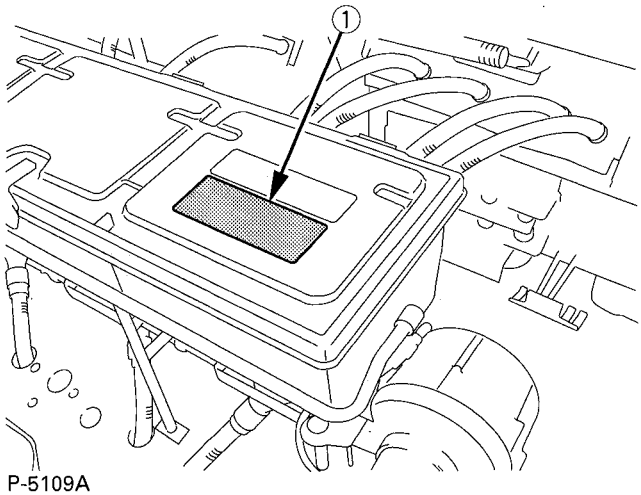
P-4811A改

※イラストは【SP仕様除く】

①品番　PL501-8958-1

⚠ 警 告

植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので、植付爪の交換・調整・清掃、苗取り出し口の異物の除去、残り苗の取り出しなどを行うときは、エンジンを必ず止めること。



P-5109A

①品番　PL501-9553-1【F仕様】

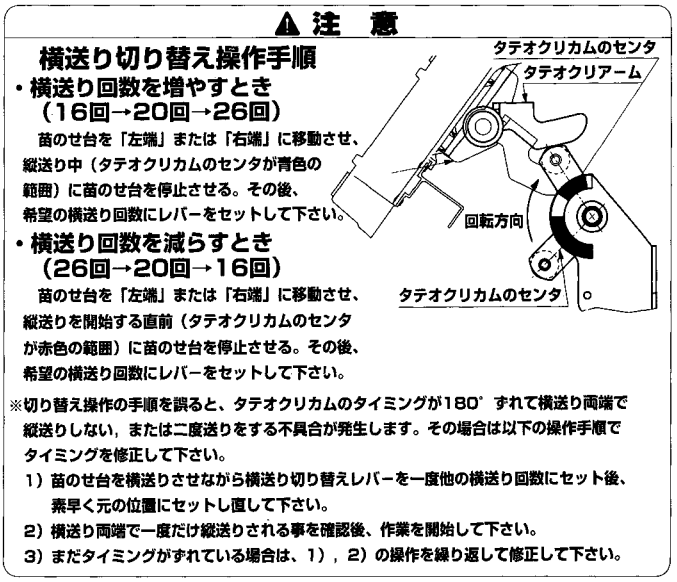
⚠ 注 意

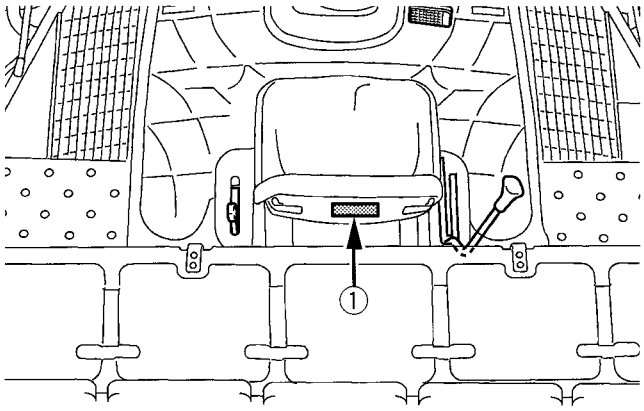
肥料の選択や取り扱いを誤ると、生育ムラのおそれがあります。

詳しくは、取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。

1. **肥料は適切なものを選び、新しく、固まりの無い開封直後のものを使用してください。**
2. **雨天作業時は、肥料に水がかからないように注意してください。(特に肥料補給時)**
3. **一日の作業が終わったら必ずホッパ・ロート・ロール部の肥料を排出してください。ハンドルによる排出までしっかり行ってください。(肥料排出ラベルを参照)**
4. **長期に保管する時は、ホッパ・ロールケース・ロート・ロール・ブラシを洗浄して、乾燥させてください。**

①品番　PM910-4248-2【10・10-8】





P-5187D

3. ⚠表示ラベルの手入れ

⚠表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
- ⚠表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- もしラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいたご購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
(1) 型式名・区分と製造番号
(2) 搭載機関（エンジン）の型式名と番号
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，ご購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

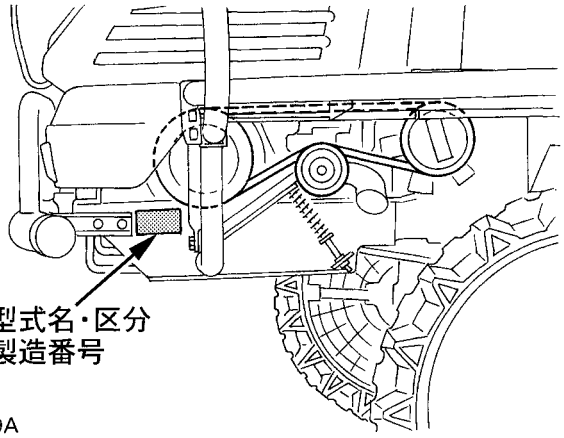
◆認定番号

型 式 名		安全鑑定番号
クボタSPD	6	27084
	8	27085
	10	28106

◆補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

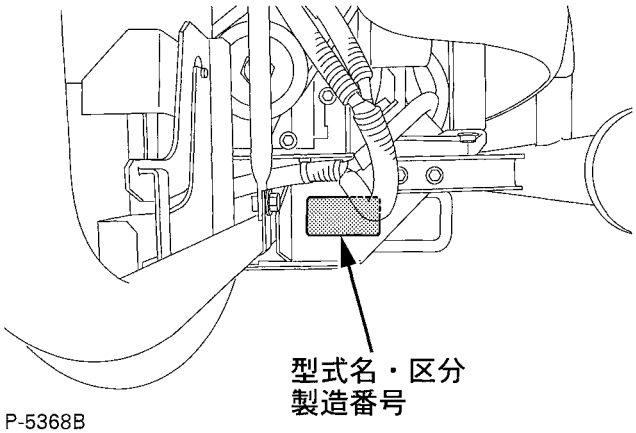
【6・8・10】



P-4779A

【6・8・10】

【SP仕様】

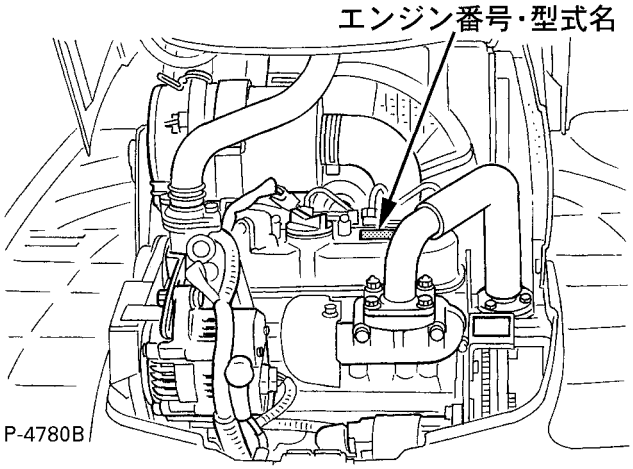


P-5368B

【SP仕様】

農業機械の種類	田植機（土付き苗用）
型式	クボタ
区分	
条数	
製造番号	
製造会社	株式会社クボタ

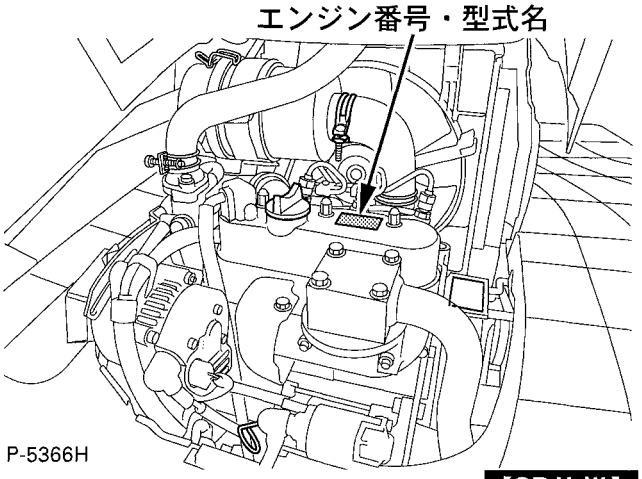
【6・8・10】



P-4780B

【6・8・10】

【SP仕様】



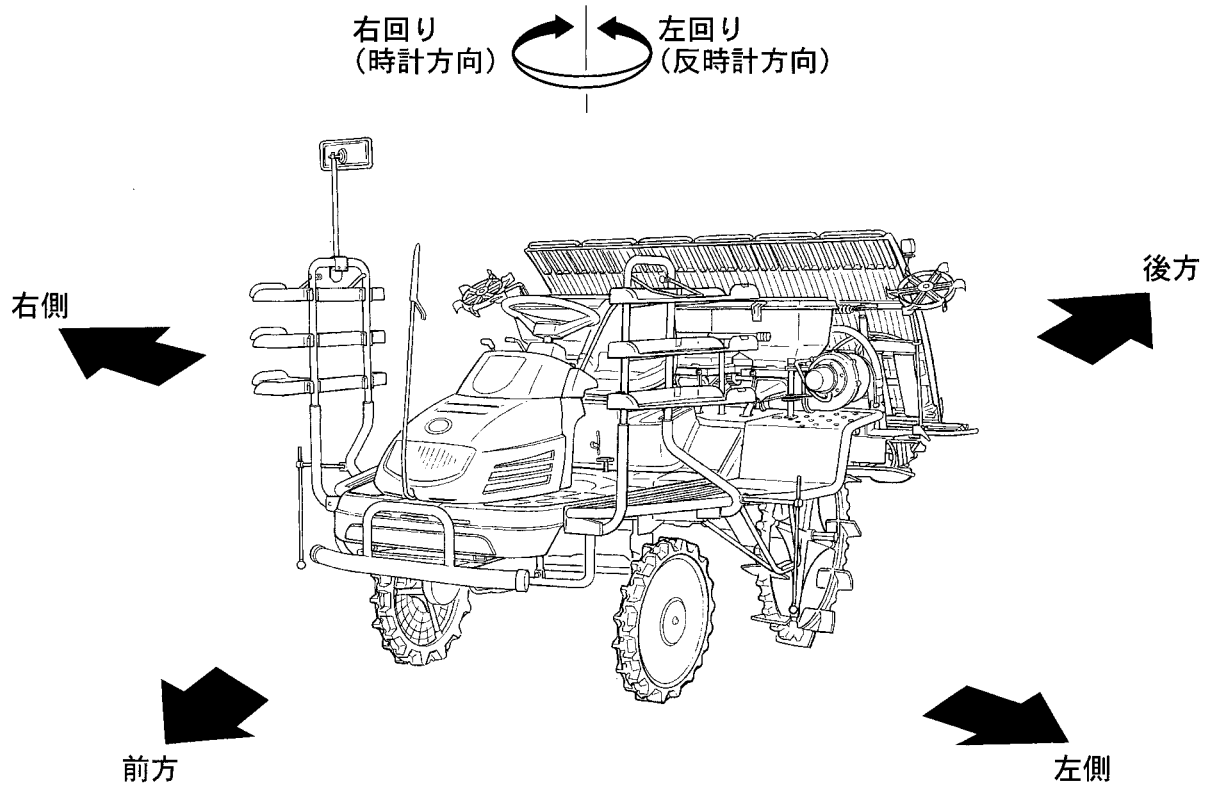
P-5366H

【SP仕様】

装置の名称と取扱い

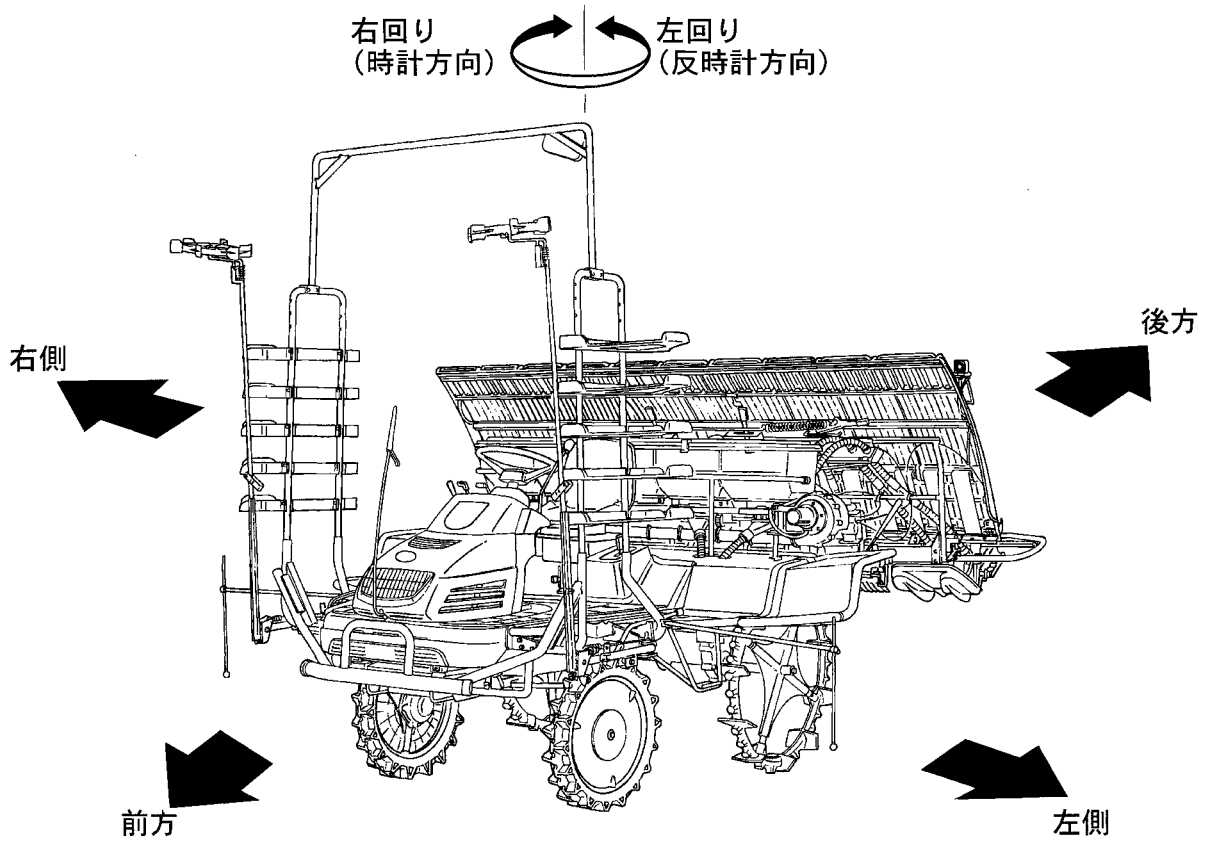
機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。



P-4808I

※イラストは【6】

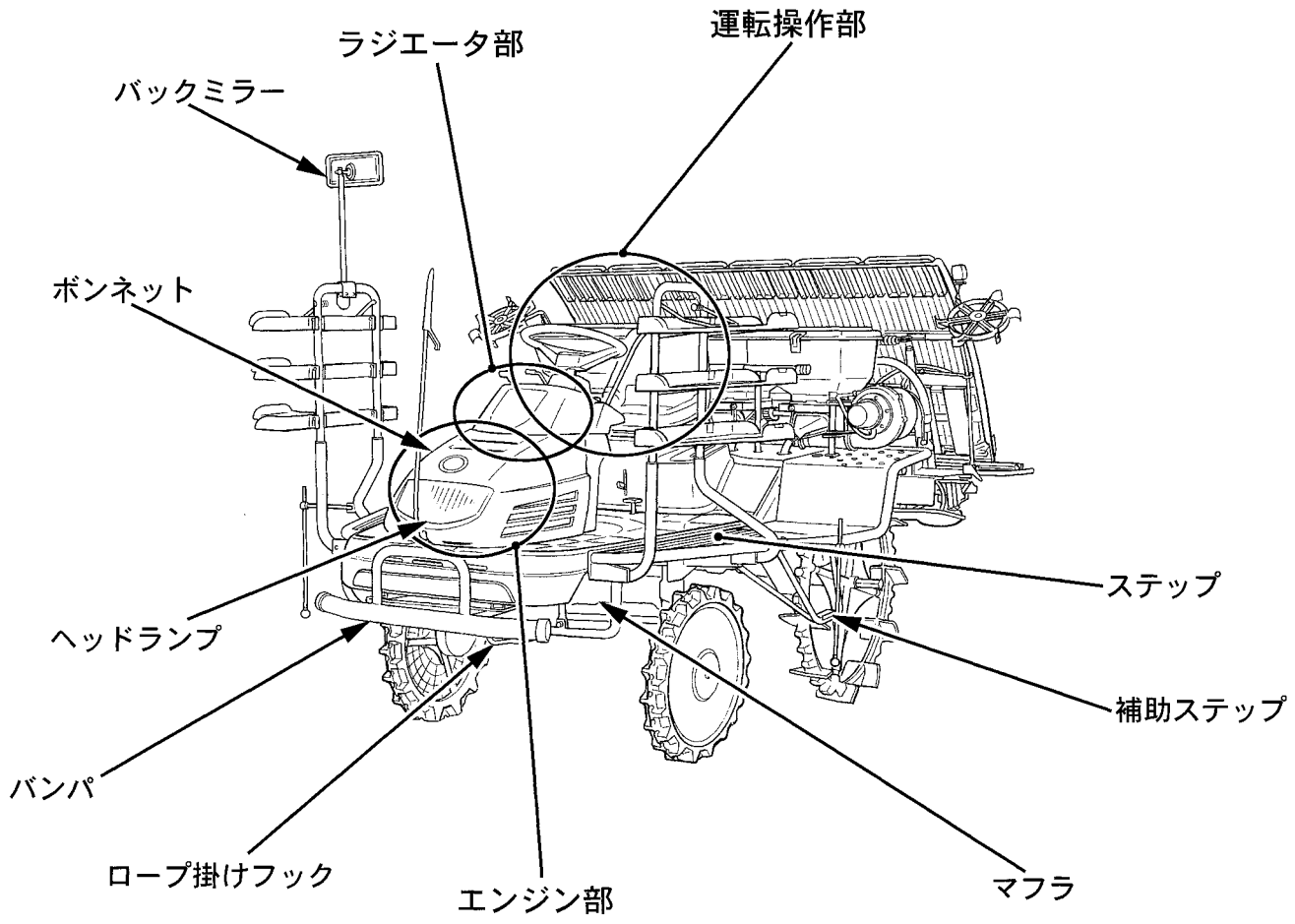


P-5186A

※イラストは【10】

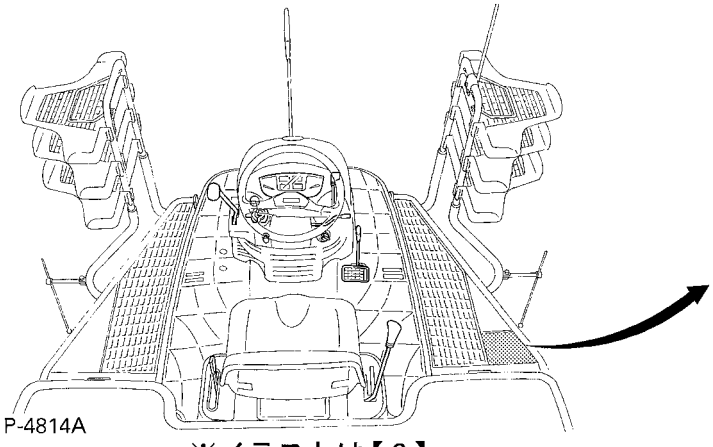
装置の名称と各部のはたらき

【6・8】



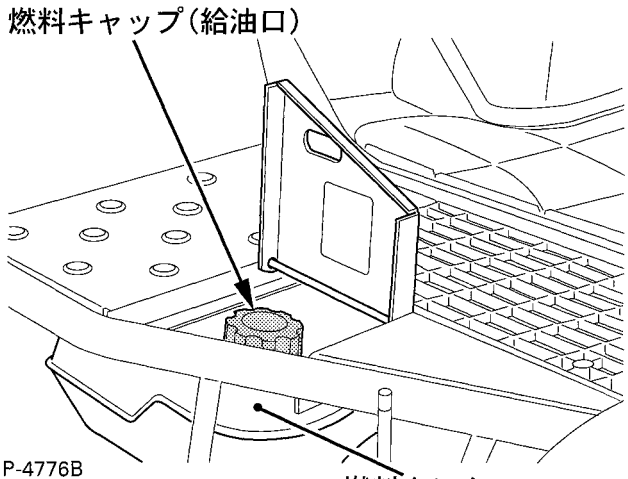
P-4808C

※イラストは【6】



P-4814A

※イラストは【6】

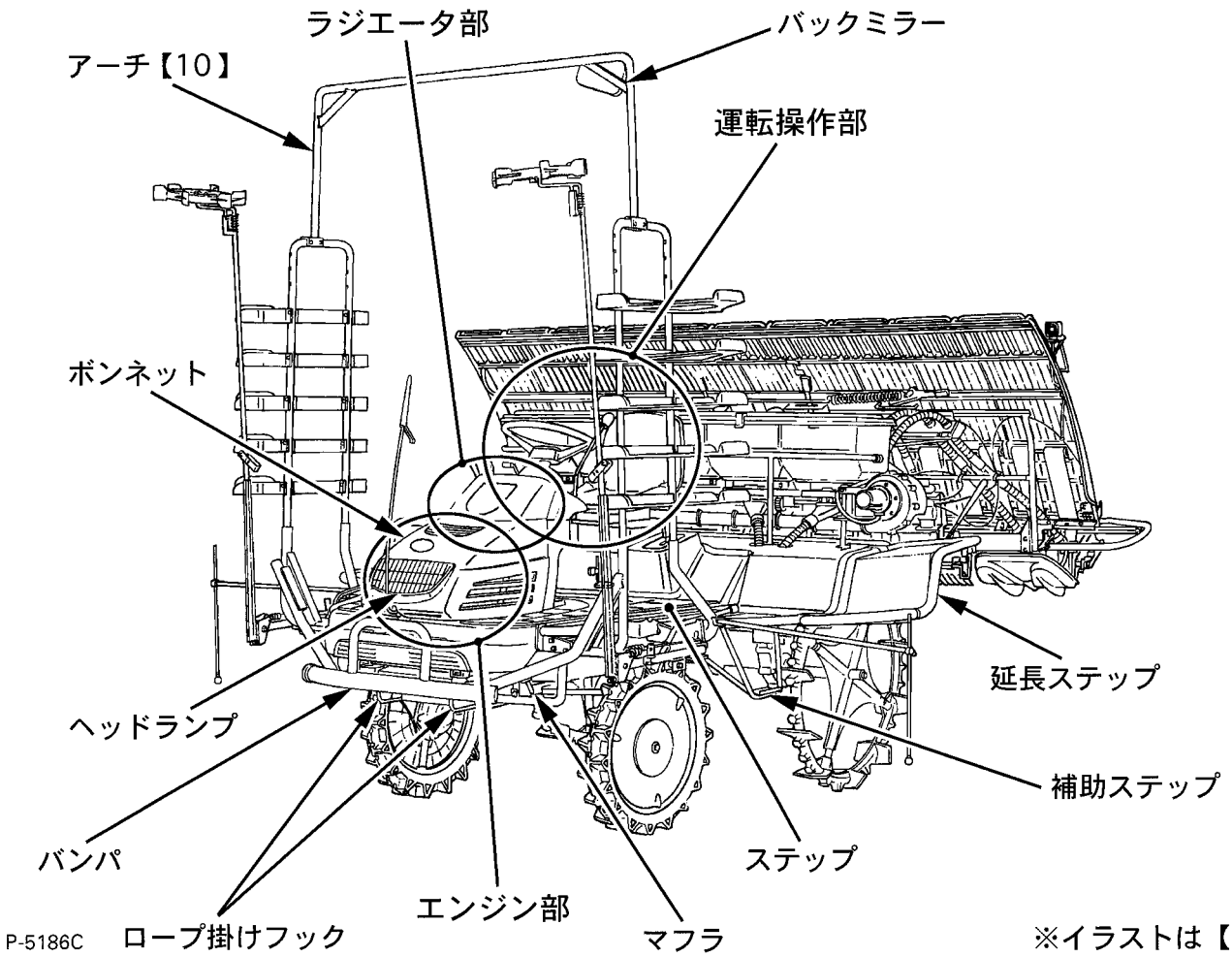


P-4776B

【6・8】

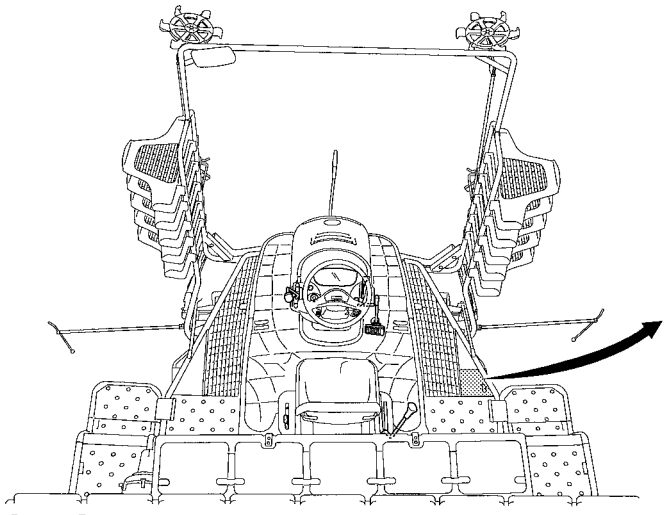
装置の名称と各部のはたらき

【10・10-8】

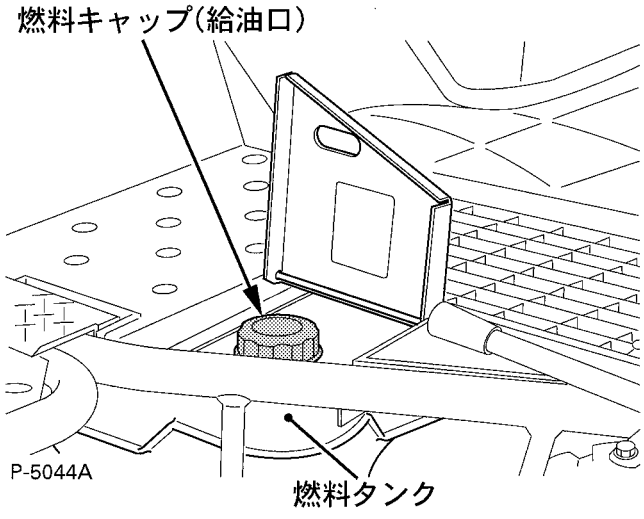


P-5186C

※イラストは【10】



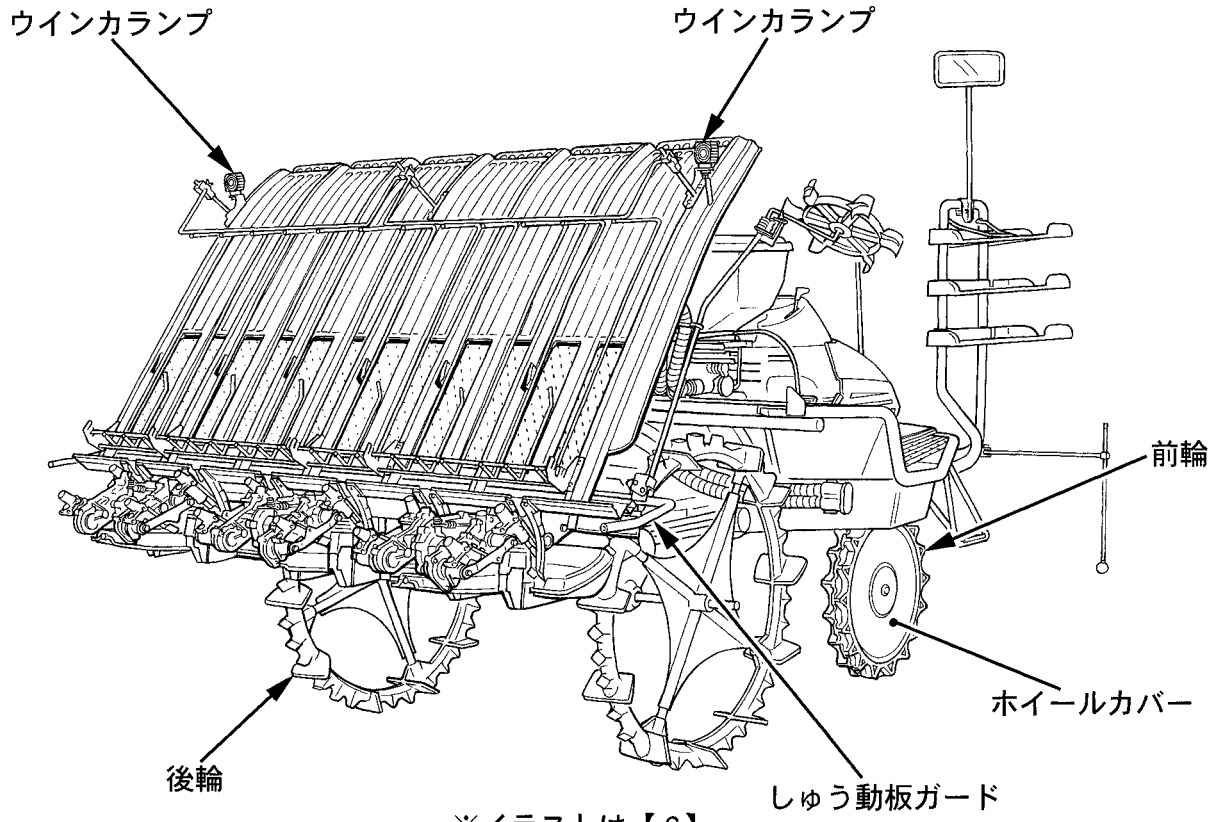
P-5187B



P-5044A

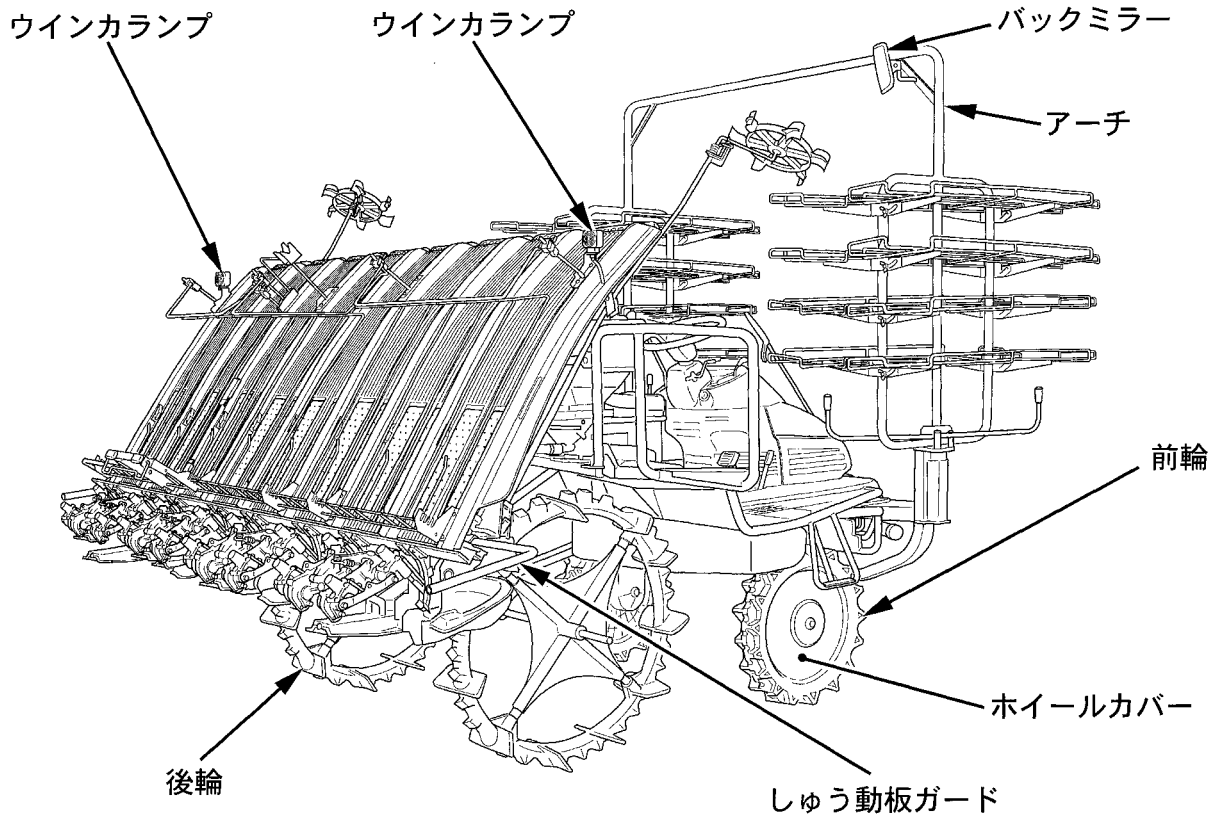
装置の名称と各部のはたらき

【6・8】



P-4811B

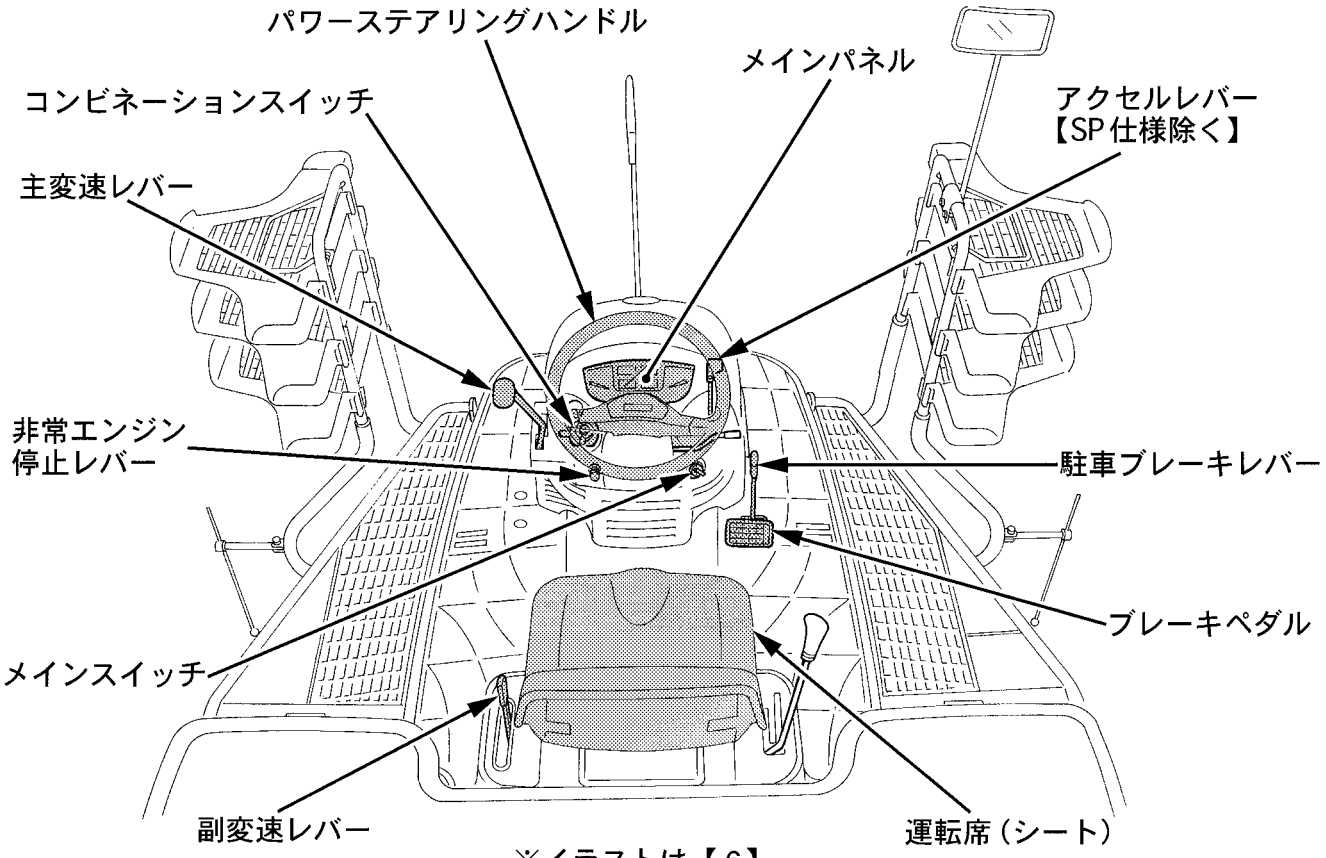
※イラストは【6】



P-5031A

※イラストは【8CY32仕様】

装置の名称と各部のはたらき



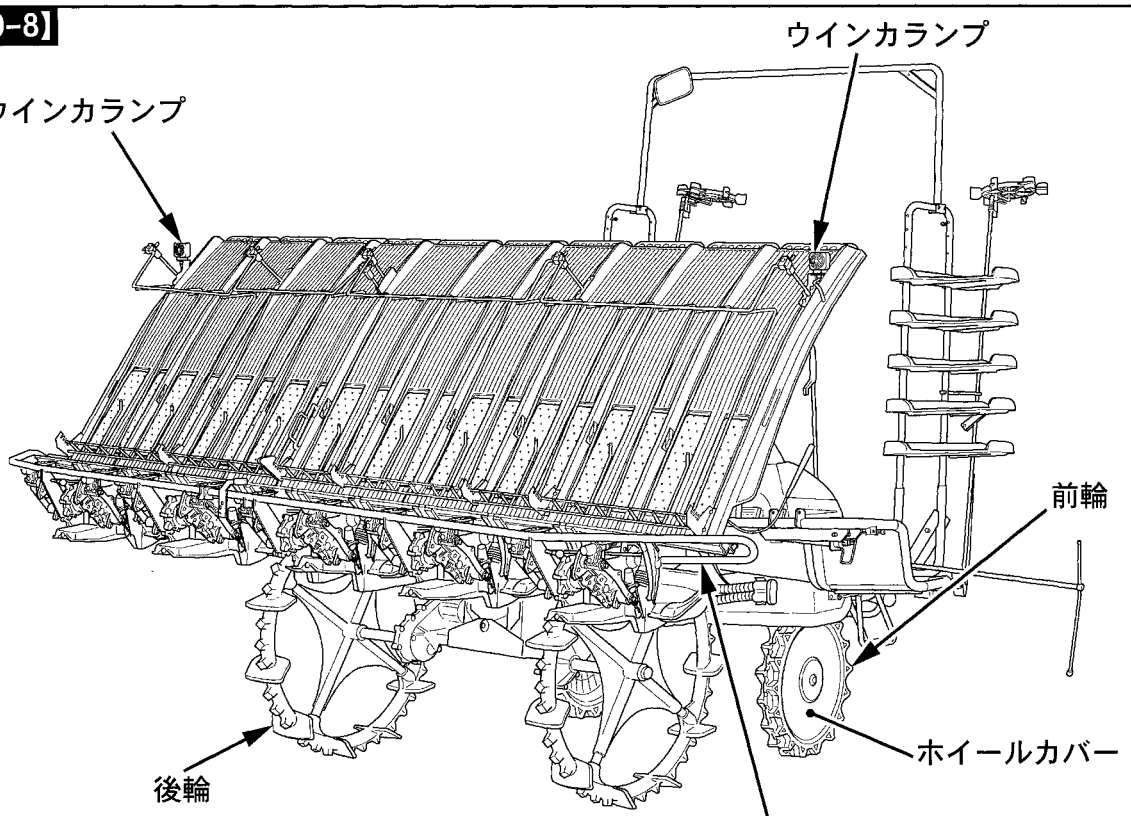
※イラストは【6】

P-4814B

【6・8】

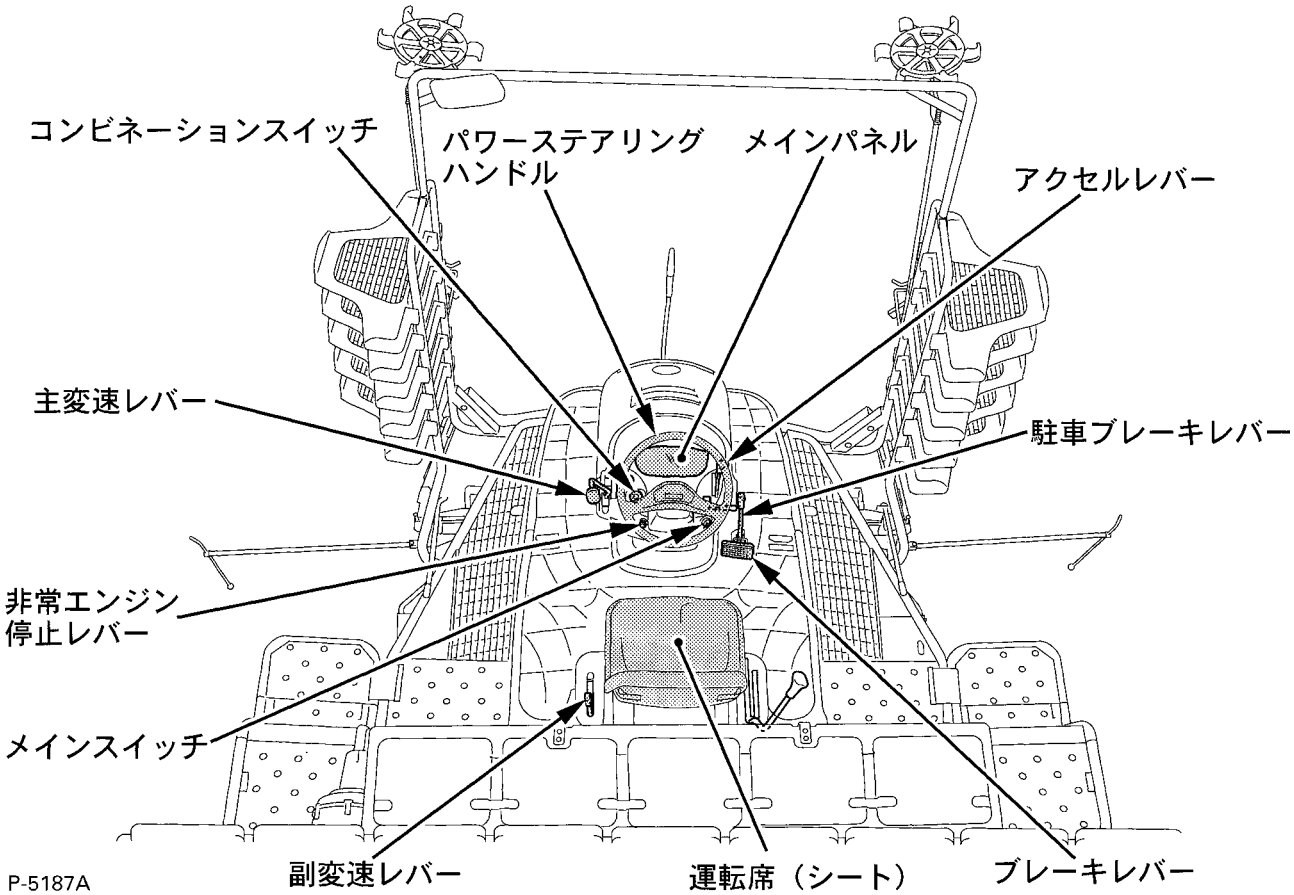
装置の名称と各部のはたらき

【10・10-8】



P-5188A

※イラストは【10】



P-5187A

※イラストは【10】

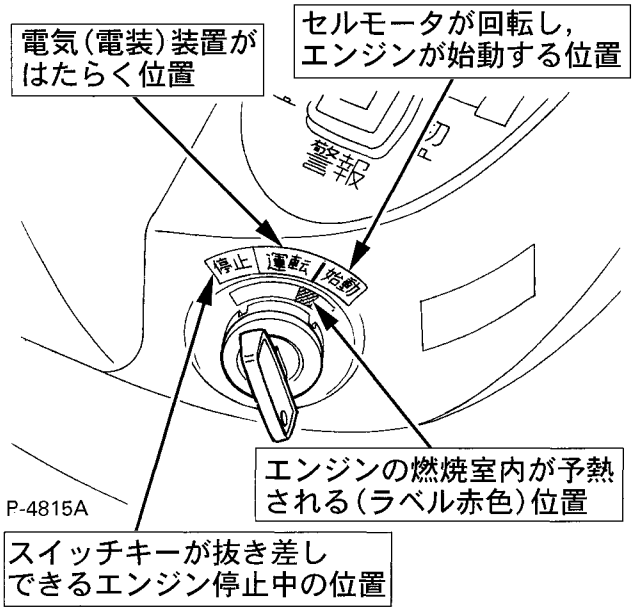
【10・10-8】

装置の名称と各部のはたらき

◆エンジン操作関係

■メインスイッチ

田植機の電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



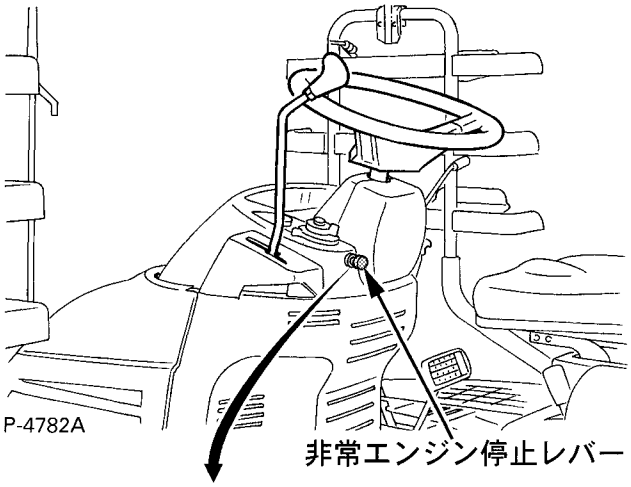
補　足

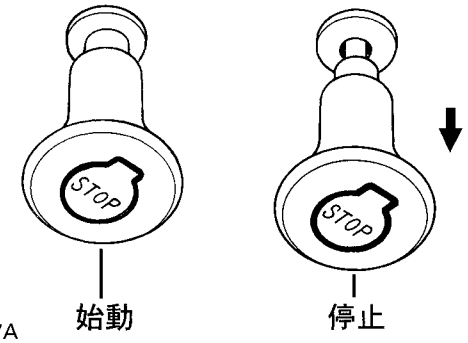
＊**“運転”**位置と**“始動”**位置の間（ラベル**赤色**位置）は**予熱**位置の範囲（エリア）です。寒冷時にエンジンを始動するときに使用します。
（44ページ参照）

＊エンジン始動後，キースイッチから手を離すとキースイッチは，**“運転”**の位置に戻ります。

■非常エンジン停止レバー

キースイッチを**“停止”**位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンを停止させるレバーです。





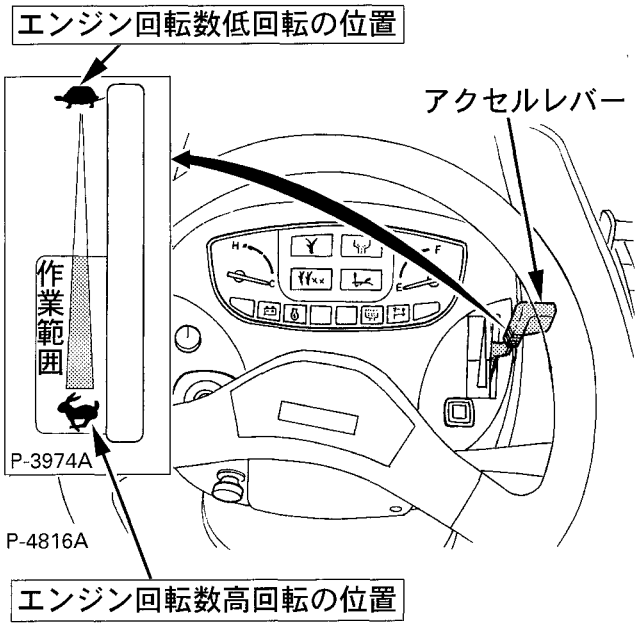
補　足

＊レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

■アクセルレバー

【SP仕様除く】

エンジンの回転数をコントロールするレバーです。レバーを後方に引く（“🐇”方向）と回転数が上がり，前方に押す（“🐢”方向）と回転数は下がります。



補　足

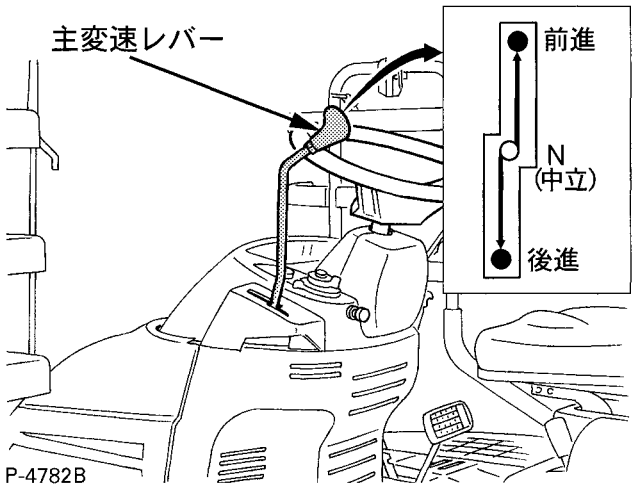
＊通常の移動走行や植付作業を行なうときは，**“作業範囲”**内で操作してください。

【SP仕様除く】

◆走行操作関係

■主変速レバー

前進・後進・停止（中立）の操作及び走行速度の調整を行なうレバーです。



補　足

＊走行速度は，主変速レバーを動かす量に応じて変わり（増・減速）ます。

【SP仕様】

＊走行速度及びエンジン回転数は，主変速レバーを動かす量に応じて変わり（増減）ます。

【SP仕様】

＊主変速レバーを**“N”(中立)**位置より**“後進”側**に操作するとバックブザーが鳴ります。

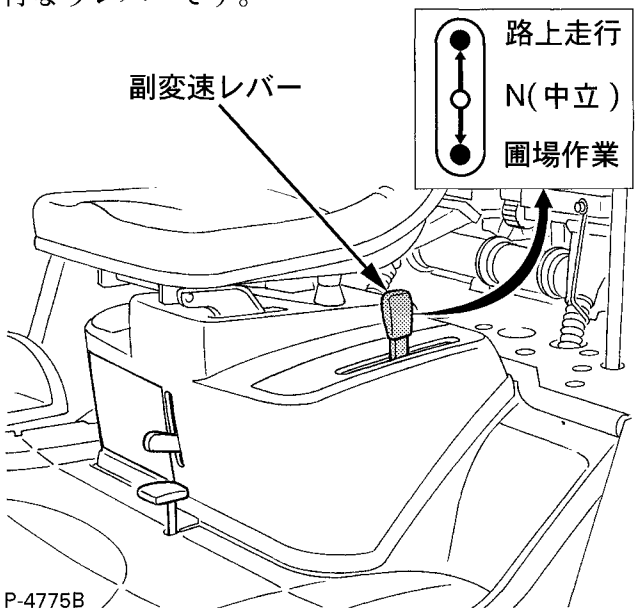
＊通常の走行を停止するときは，主変速レバーの操作で行なってください。

＊植付部が下降し，フロートが接地しているとき，主変速レバーを**“N”(中立)**位置より**“後進”側**に操作するとバックアップ機能がはたらいて植付部が上昇します。（植付部が接地していないときは，バックアップ機能ははたらきません。）

装置の名称と各部のはたらき

■副変速レバー

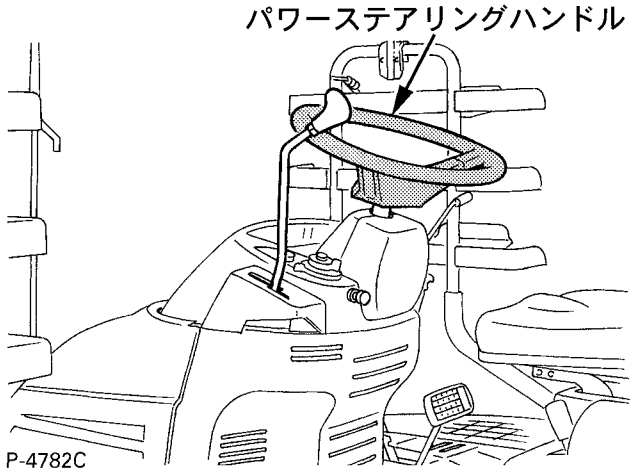
“路上走行”位置と**“圃場作業”位置**の切換えを行なうレバーです。



P-4775B

■パワーステアリングハンドル

走行操作（旋回や進路変更）を行なう油圧式のハンドルです。



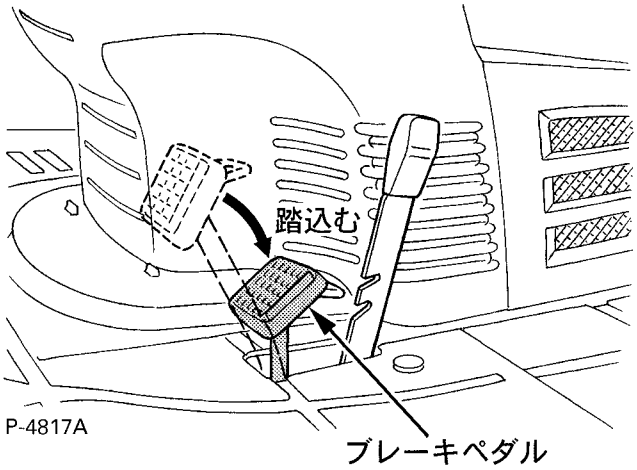
P-4782C

重　要

＊ハンドル操作は，エンジン始動中は軽くなりますが，エンジンが停止しているときは重くなりますので無理に操作しないでください。タイヤの摩耗が早くなったり，リムの破損の原因になります。

■ブレーキペダル

踏込むとクラッチが切れてブレーキが掛かります。エンジンの始動時や緊急停止時に使用します。



P-4817A

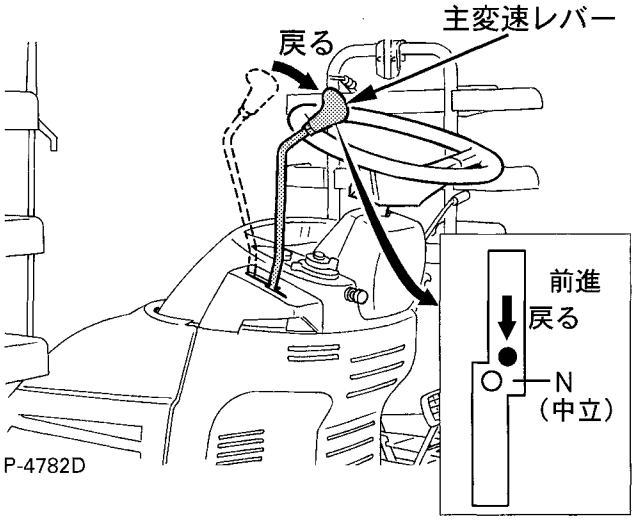
【6・8・10】

重　要

＊ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーを**前進側**へ操作できません。無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。

補　足

＊前進中にブレーキペダルを踏込むと，自動減速すると同時に主変速レバーが強制的に**“N”（中立）**側へ戻ります。



P-4782D

【6・8・10】

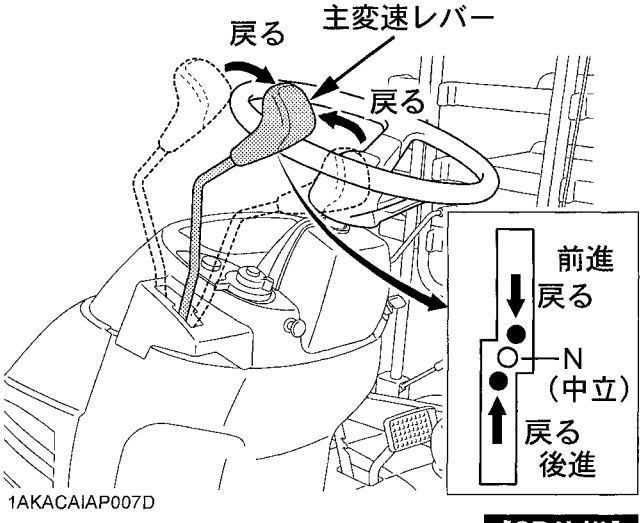
【SP仕様】

重　要

＊ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーを**前進側，後進側**への操作はできません。無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。

補　足

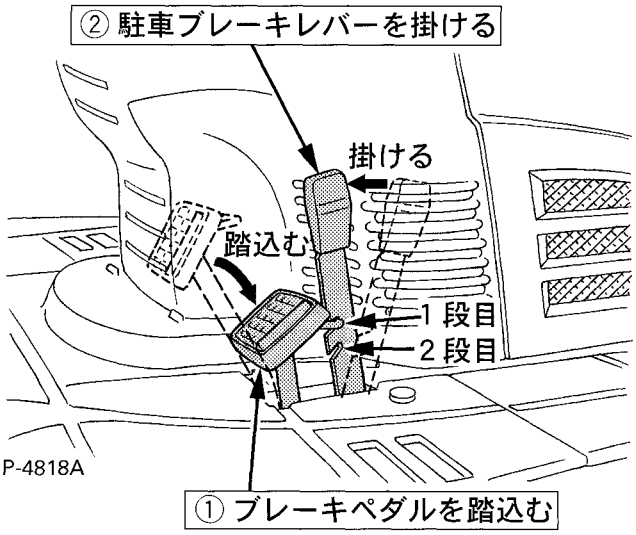
＊前，後進中にブレーキペダルを踏込むと，自動減速すると同時に主変速レバーが強制的に**“N”（中立）**側へ戻ります。



【SP仕様】

■駐車ブレーキレバー

ブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキレバーでペダルをロックすると駐車ブレーキが掛かります。また，ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキレバーを外すと駐車ブレーキが解除されます。



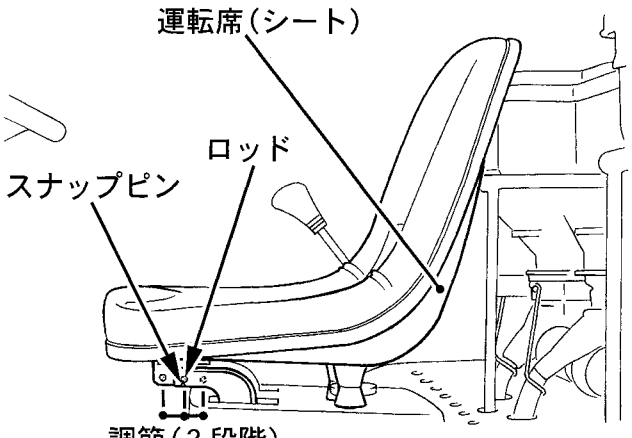
補　足

＊急な坂道など傾斜の大きいところで駐車するときは，2段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛けてください。

■運転席（シート）

【6・6F・8・10】

運転席は前後に調節することができます。運転席の前方下にあるスナップピンとロッドを外し，穴を差換えて**前⟷後**に調節してください。

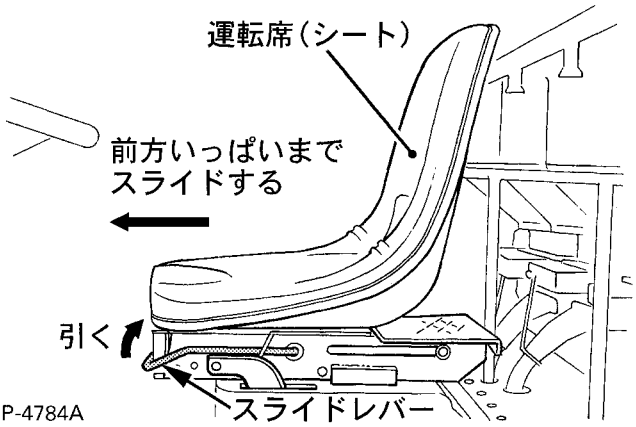


【6・6F・8・10】

装置の名称と各部のはたらき

【8F・10F・10-8】

運転席の前後調節は【6・6F・8・10】と同じですが，【8F・10F・10-8】のみにスライド機構が付いています。
肥料補給など座席を前方にスライドさせ，座席後方を左右に移動することができます。
運転席前下側にあるスライドレバーを引上げて前後にスライドさせてください。運転席は，後ろいっぱいまでスライドさせた位置のみ固定されます。



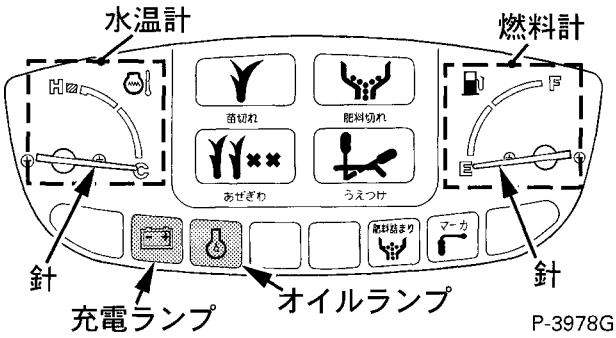
P-4784A

補　足

＊スライド途中の位置では，運転席はロックされません。

【8F・10F・10-8】

■メインパネル



P-3978G

●各メータ

燃料計

燃料の残量を針で表示（**“F”**〔満タン〕⟷**“E”**〔空〕）します。

水温計

エンジン冷却水の温度を針で表示（**“C”**⟷**“H”**）します。

補　足

＊キースイッチを**“運転”**位置にするとメータが，はたらきます。

●各ランプ

充電ランプ（充電警報）

電気系統の故障で，充電できなくなったときに点灯します。

オイルランプ（油圧警報）

エンジンオイルの圧力が，異常に低下したとき点灯します。

補　足

＊警報発生後の処置については，124ページを参照してください。また，ランプは異常の原因を取除くと消灯します。
＊エンジンが停止状態のとき，キースイッチを**“運転”**位置にすると，各警報ランプがランプチェックのため約2秒間点灯したあと消灯します。また，オイルランプと充電ランプは，エンジン始動後に消灯します。
＊パネル表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は，アルコール類（メチルやエチルなど）やカーシャンプ原液を使って掃除はしないでください。カバー表面が白くにごって，見えにくくなります。

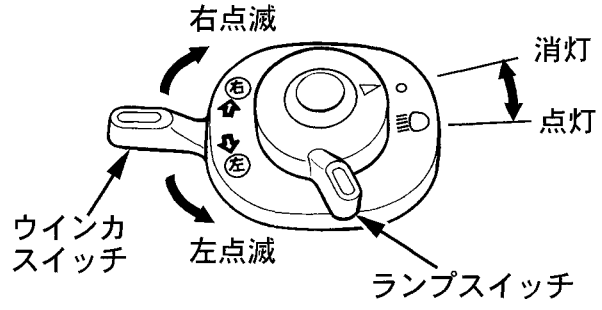
■コンビネーションスイッチ

●ランプスイッチ

“○”……ヘッドランプが消灯します。
“≡○”……ヘッドランプが点灯します。

●ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅します。旋回が終ったら，スイッチを中央に戻してください。

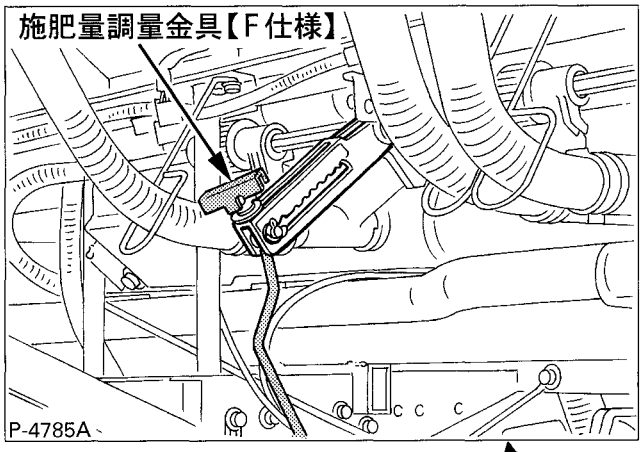


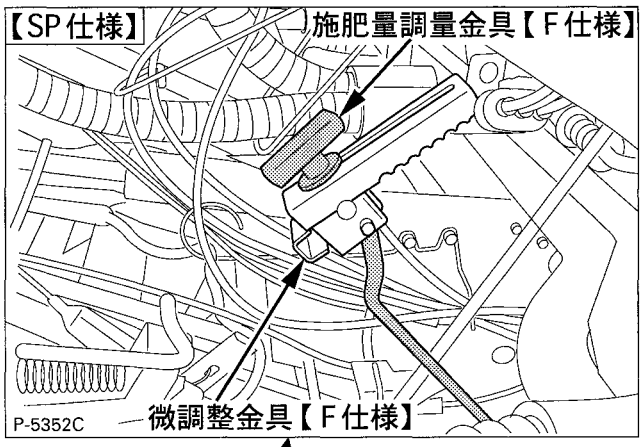
P-3529A

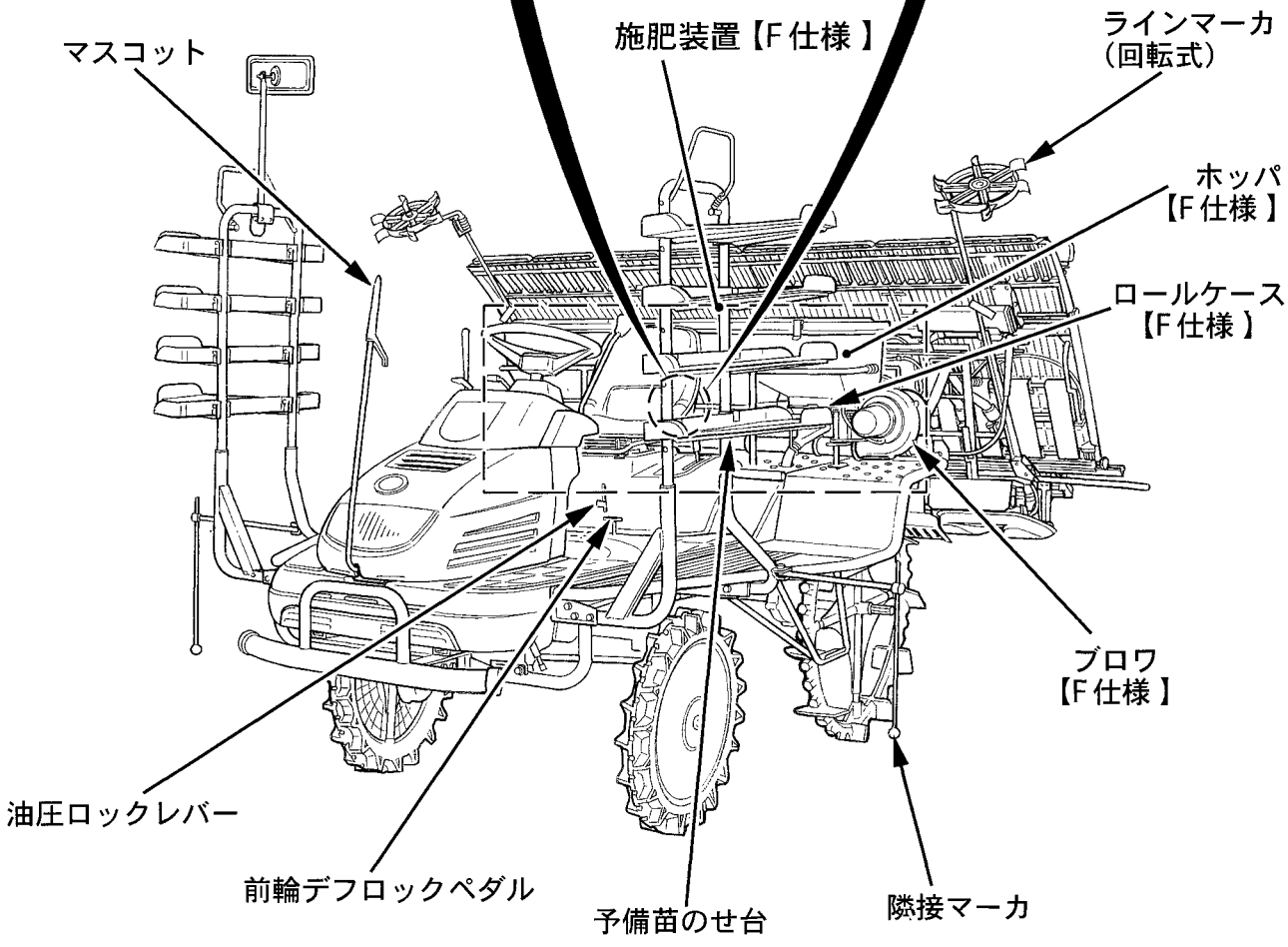
作業装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき

【6・8】



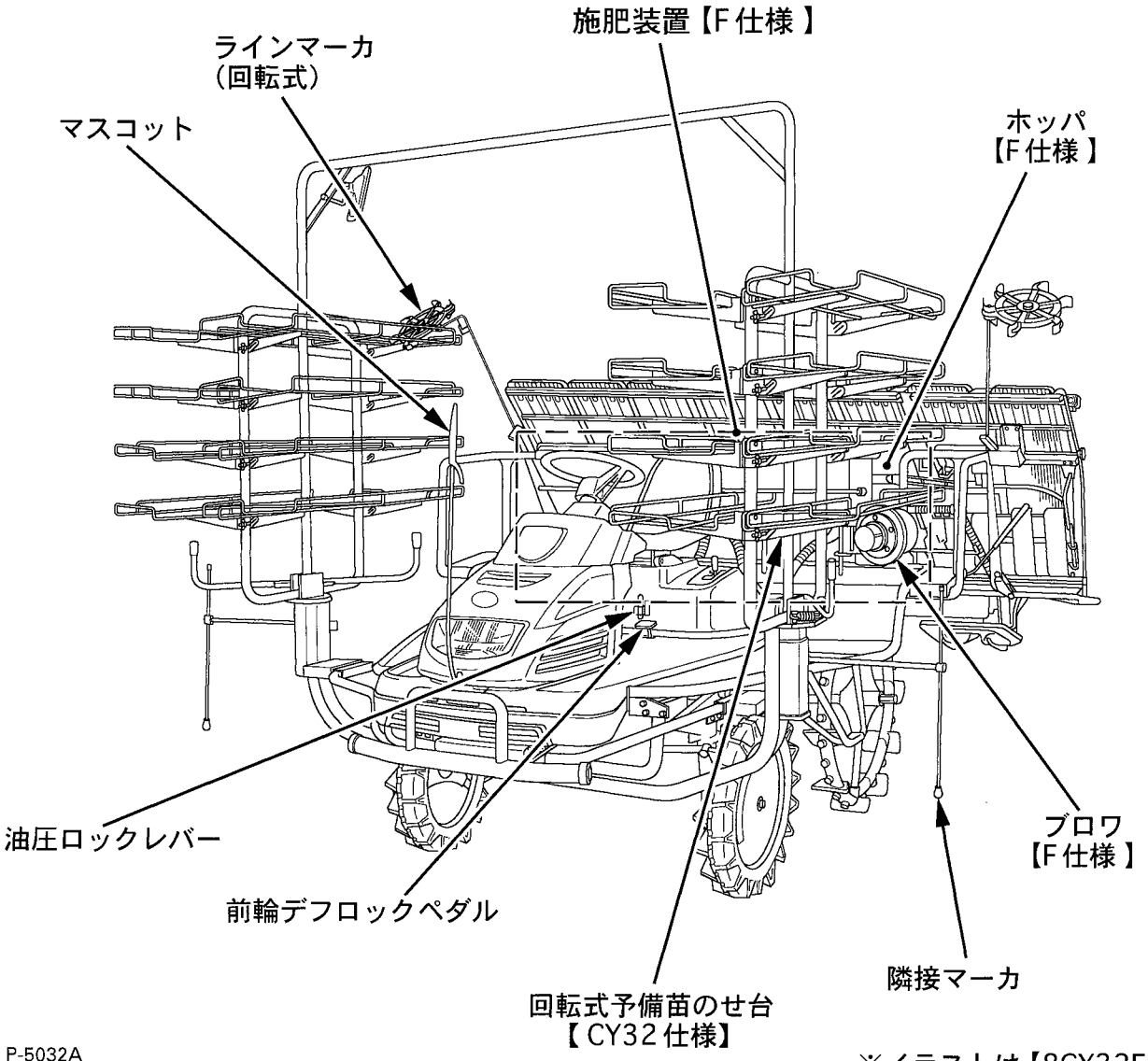




※イラストは【8F仕様】

P-4810A

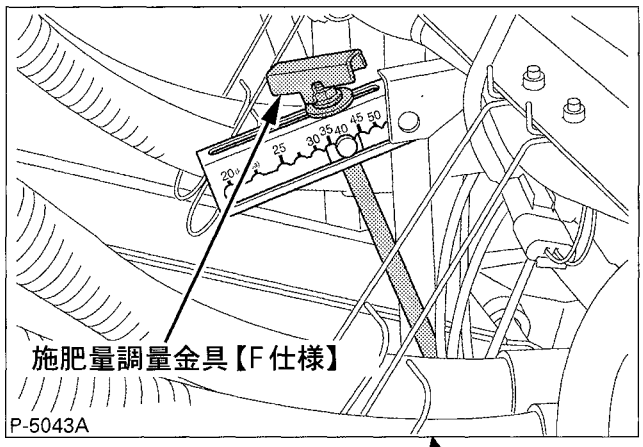
装置の名称と各部のはたらき

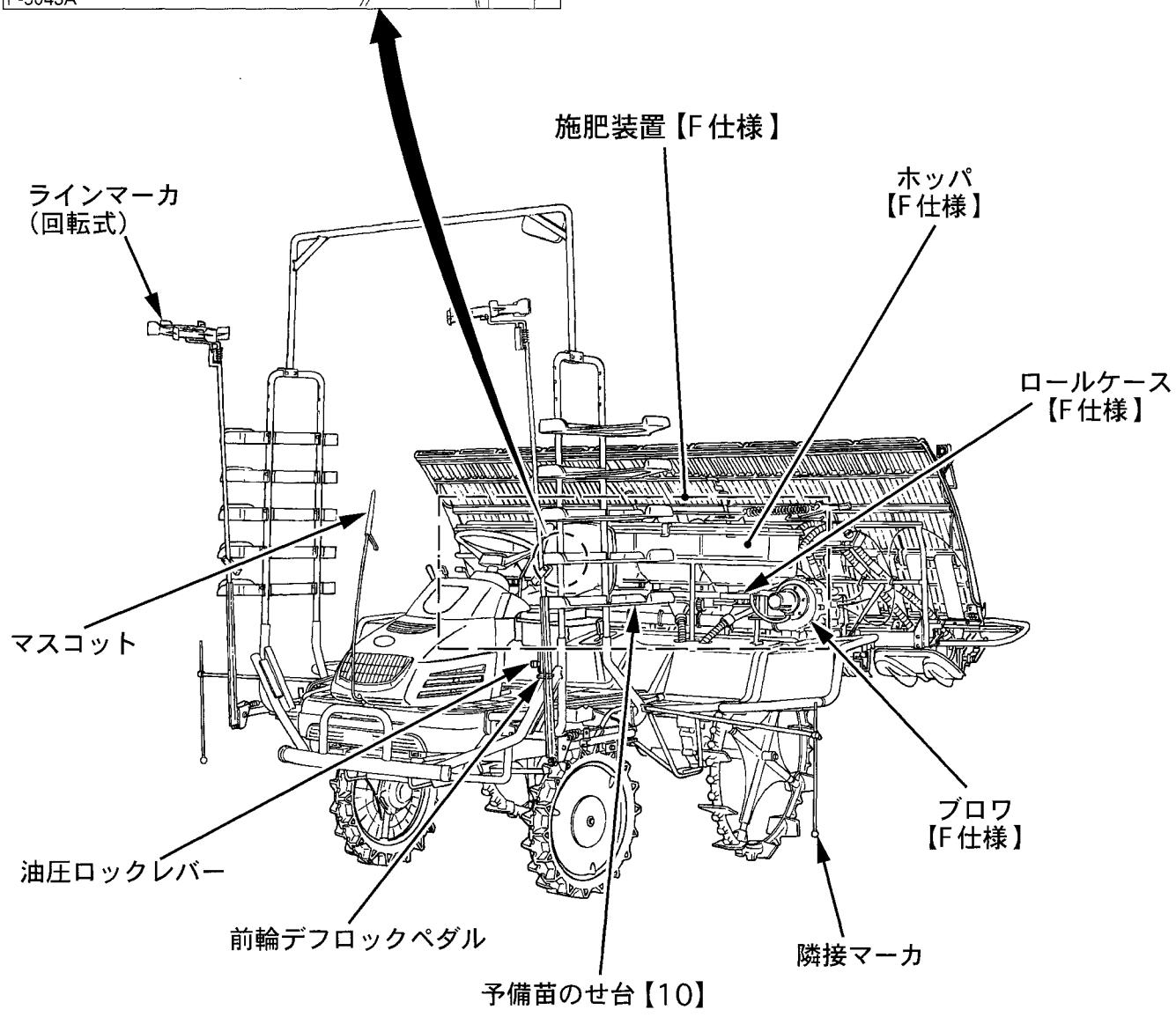


P-5032A

※イラストは【8CY32F仕様】

【10・10-8】



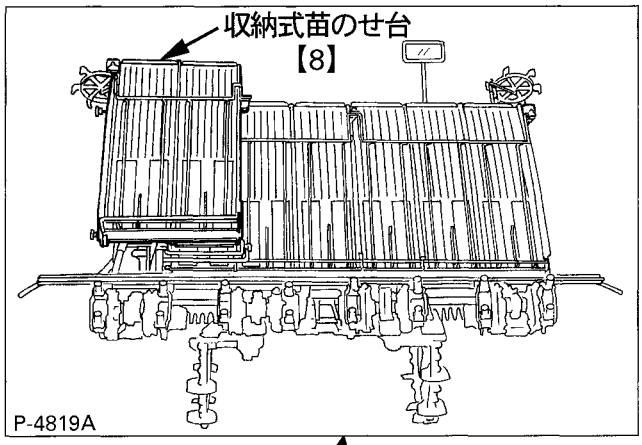


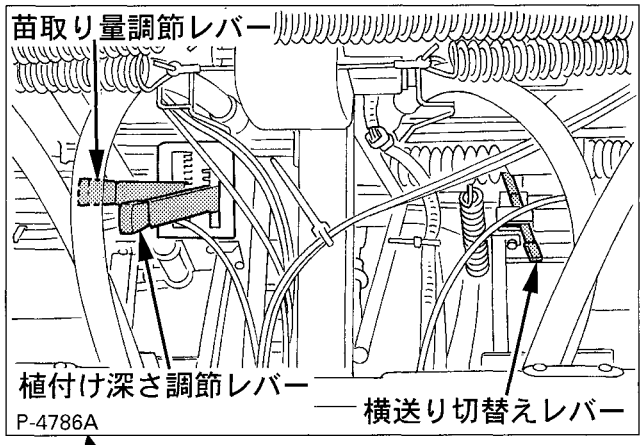
※イラストは【10F仕様】

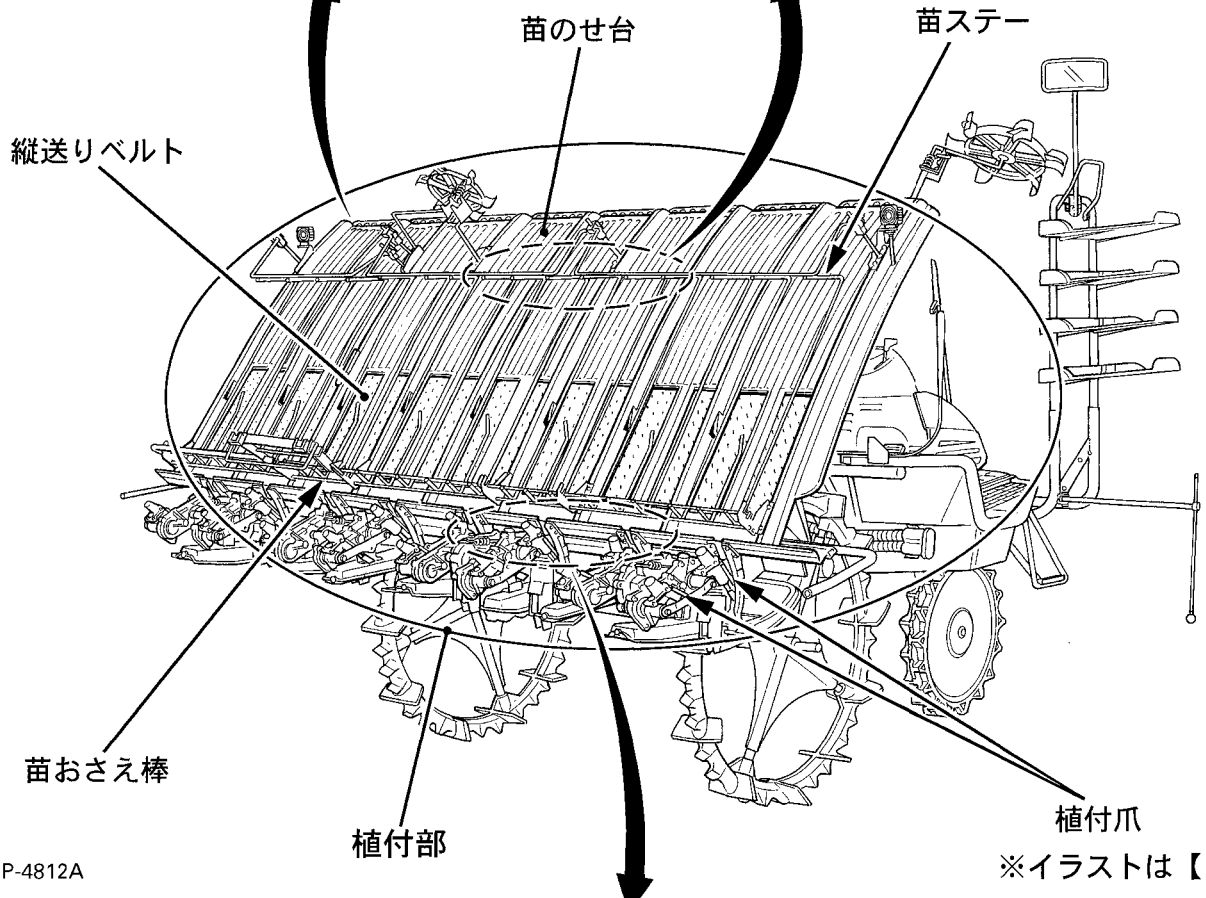
P-5186B

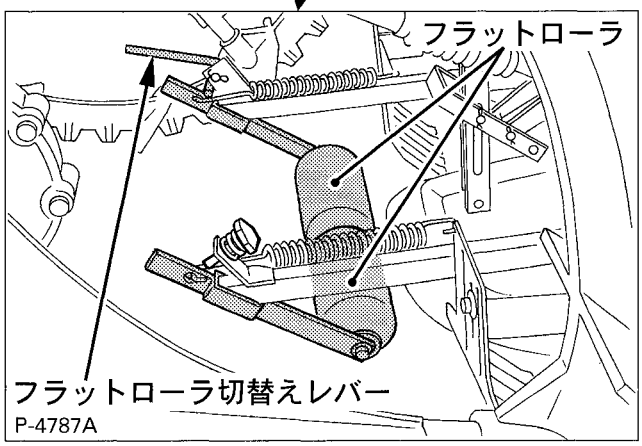
装置の名称と各部のはたらき

【6・8】



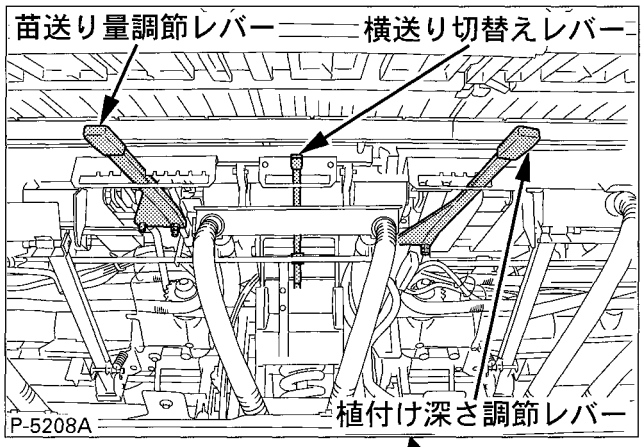


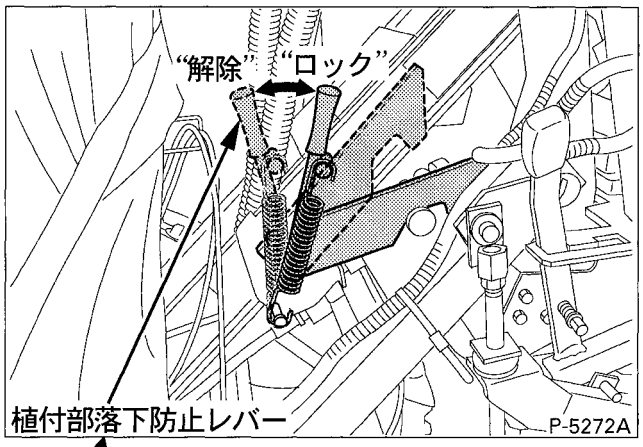


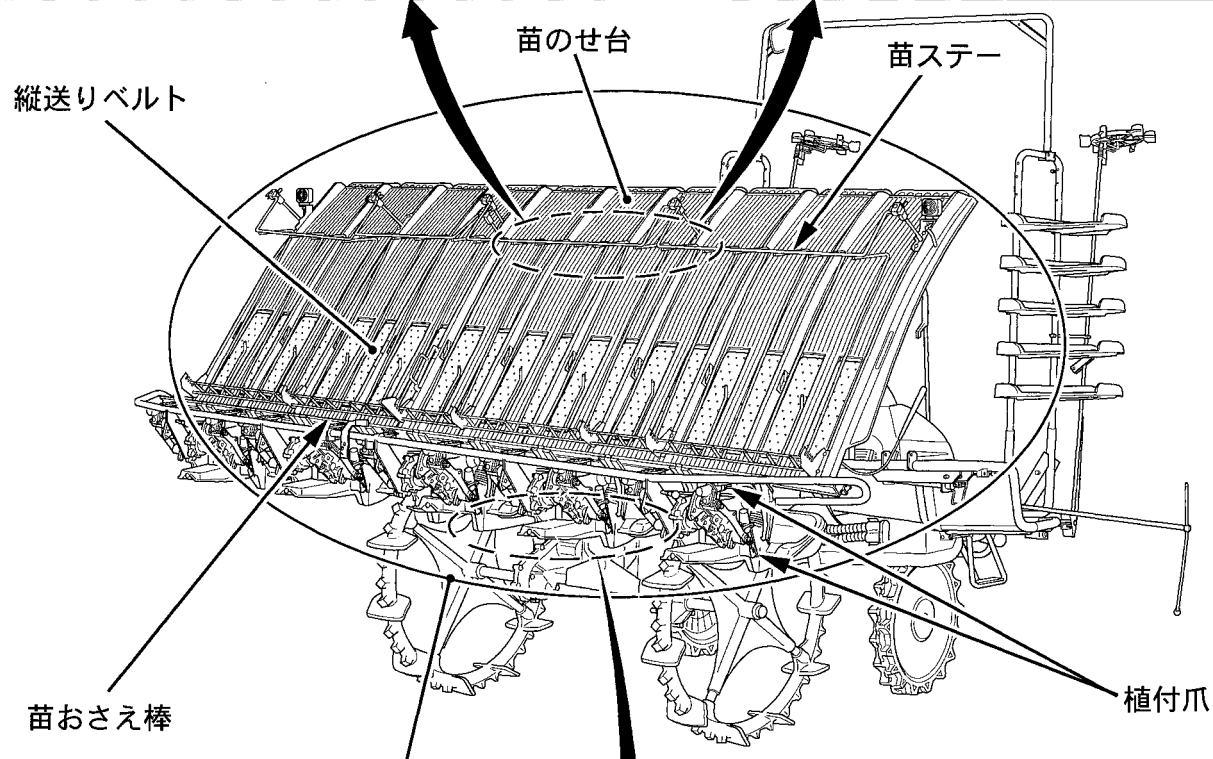


【6・8】

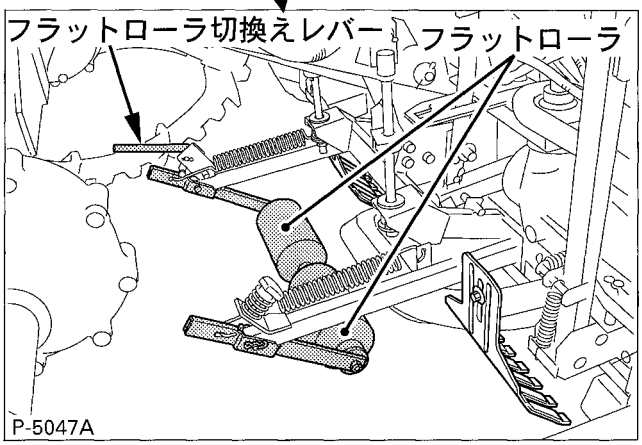
【10・10-8】





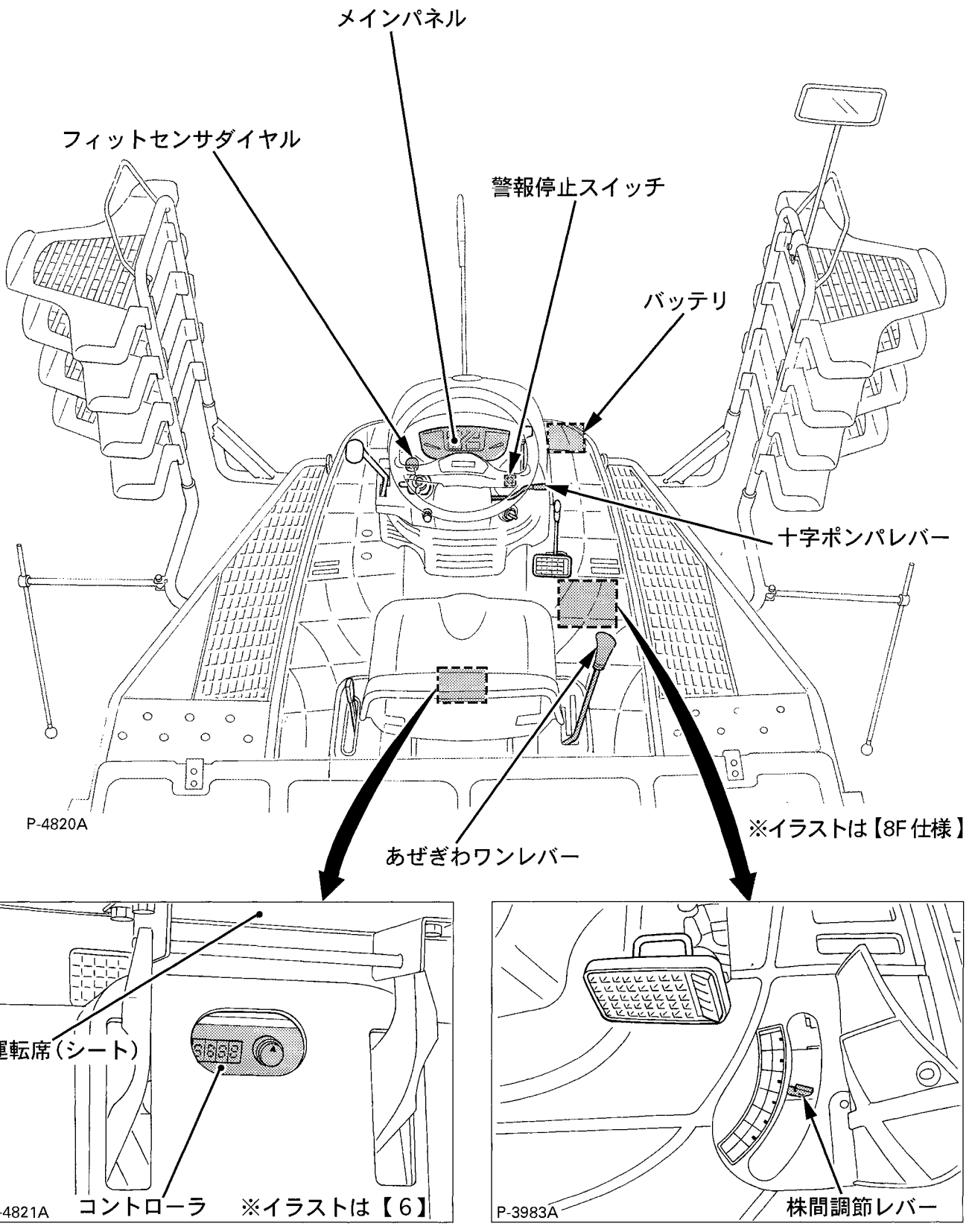


※イラストは【10F仕様】



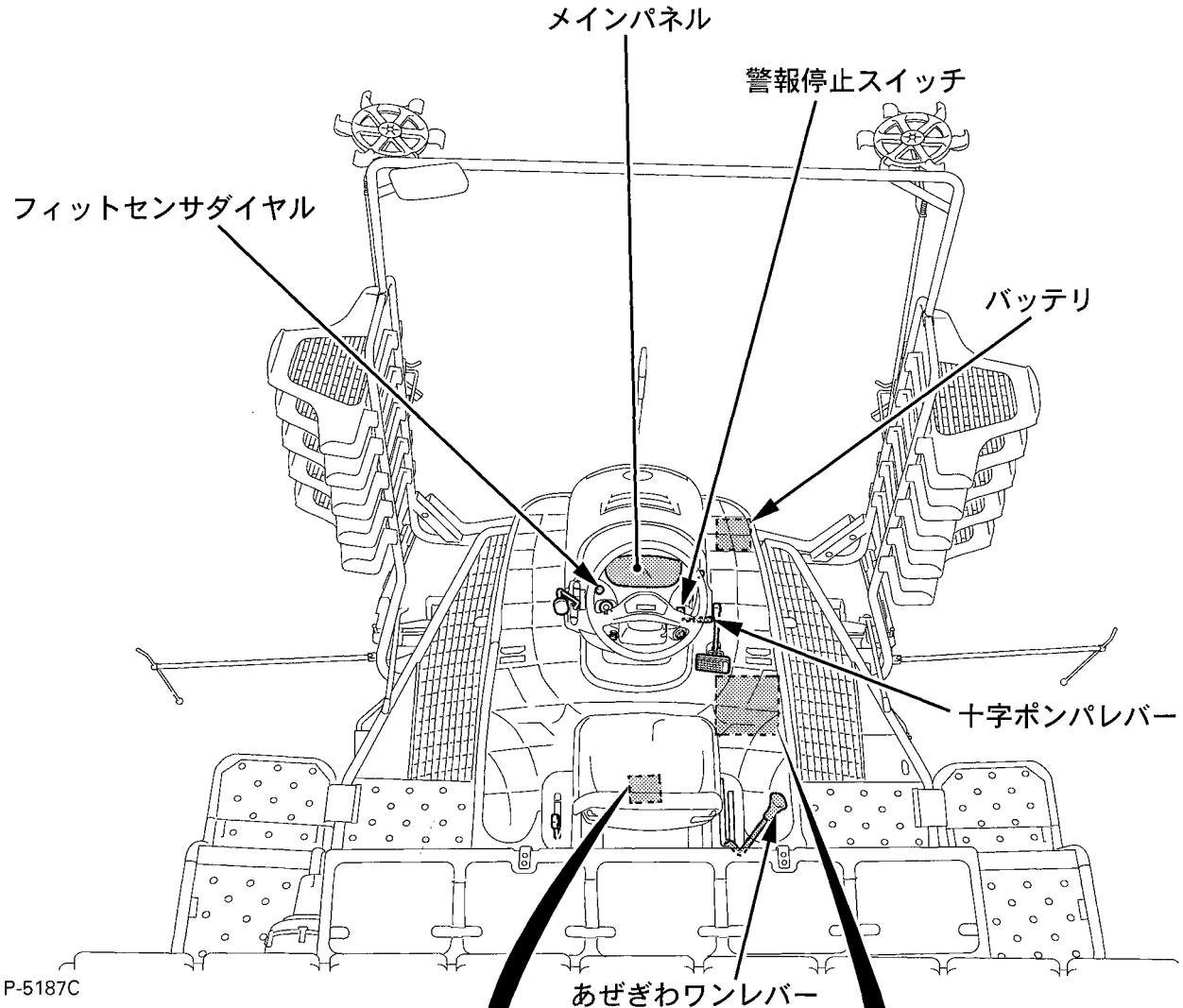
装置の名称と各部のはたらき

【6・8】

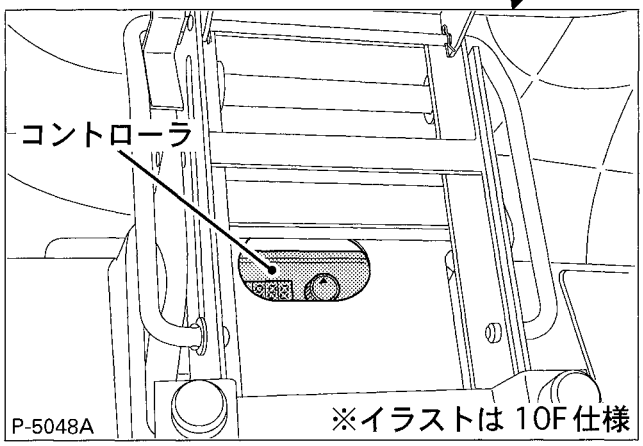


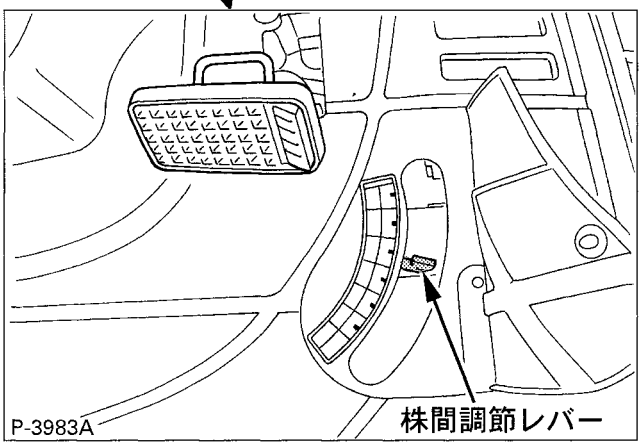
【6・8】

【10・10-8】



※イラストは【10F仕様】



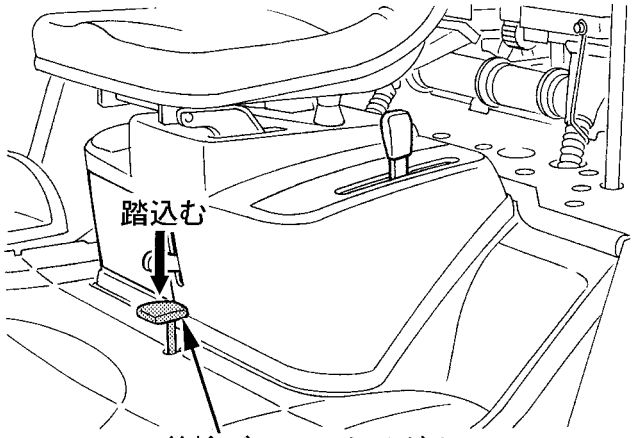


装置の名称と各部のはたらき

◆走行操作関係

■前輪デフロックペダル

踏込むと，左と右の前輪が一体となって駆動します。あぜごえ，傾斜地（あゆみ板や急な坂道）や前輪がスリップするときに使用します。

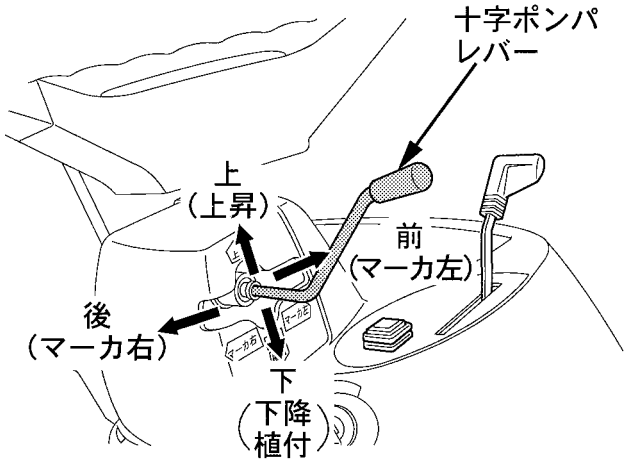


P-4775C

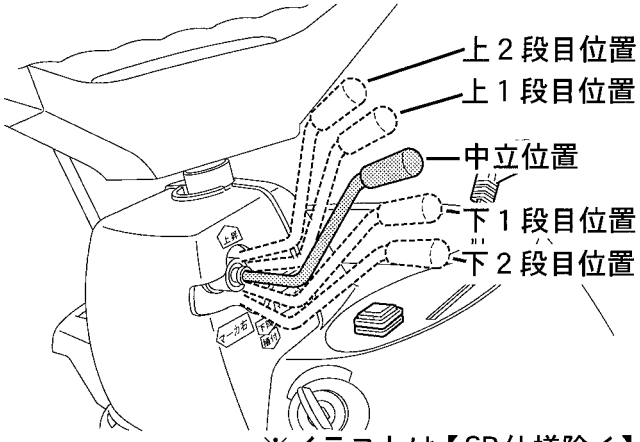
◆植付関係

■十字ポンパレバー

エンジンが始動中に植付部（苗のせ台）の**上昇・下降**，動力伝達の**入・切**，ラインマーカのセットを操作するレバーです。操作するときは，**上・下・前・後**各方向に軽く押したあと離してください。



P-4781A　※イラストは【SP仕様除く】



P-4781B　※イラストは【SP仕様除く】

上(“上昇”)…… 植付部の駆動が停止し，植付部が上昇します。

補　足

＊**上１段目**位置にレバーを上げると，上げている間だけ植付部が上昇します。
植付部を一気に最上昇位置にするには，**ピッ**と音が鳴る**上２段目**までレバーを上げてください。

下(“下降”・“植付”)… 植付部が下降します。そのあと，再度操作すると植付部が駆動します。(爪が回転し，苗のせ台が横送りします。)

補　足

＊**下１段目**位置にレバーを下げると，下げている間だけ植付部が下降します。
植付部を一気にフロートが接地するまで下げるには，**ピッ**と音が鳴る**下２段目**位置までレバーを下げてください。
もう１度レバーを**下２段目**位置まで下げると，**ピッピッ**と２回連続音がして植付部が駆動します。

前(“マーカ左”)…… 植付部が下降状態のとき，操作するとラインマーカが**左**(**前**方)又は，**右**(**後**方)に倒れ(セット)ます。
後(“マーカ右”)

重　要

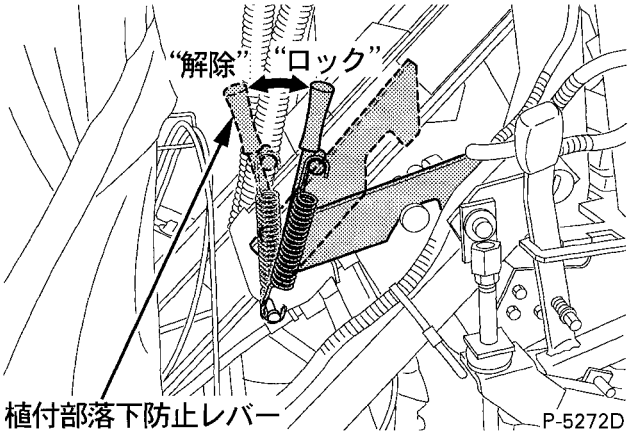
＊レバーは軽く操作してください。強く操作するとレバーの破損やスイッチの故障によるトラブルの原因となります。

補　足

＊植付部が接地している状態で，主変速レバーを**“N”**（**中立**）位置より**“後進”**側に操作すると，植付部の駆動が停止し，植付部が上昇します。（**バックアップ機能**）
＊植付部を上昇させるとラインマーカは自動的に収納されます。

■植付部落下防止レバー

植付部の落下防止を行なうレバーです。
落下防止レバーを押す（**“ロック”**位置）と，エンジンが始動中に十字ポンパレバーを操作しても植付部は**下降⟷上昇**はしません。解除するときは，落下防止レバーを引いて（**“解除”**位置）ください。

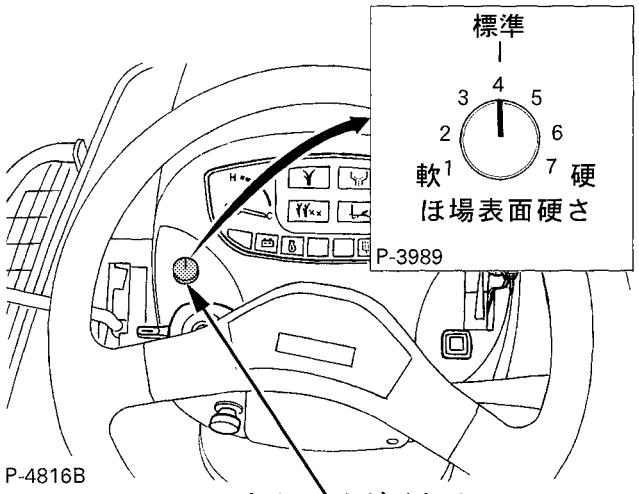


補　足

＊レバーを操作するときは，押す方向又は引く方向いっぱいまで操作してください。

■フィットセンサダイヤル

- フィットセンサは，フロートによるほ場表面の整地を最良にするため，ほ場表面の状態に合わせて植付部の上下の動きの感度を調節する装置です。
- フィットセンサダイヤルは感度を変更するダイヤルです。ほ場の状態に合わせて７段階（１～７）の調節が行なえます。



フィットセンサダイヤル
※イラストは【SP仕様除く】

補　足

＊出荷時は，**“４”**（標準）の位置です。

装置の名称と各部のはたらき

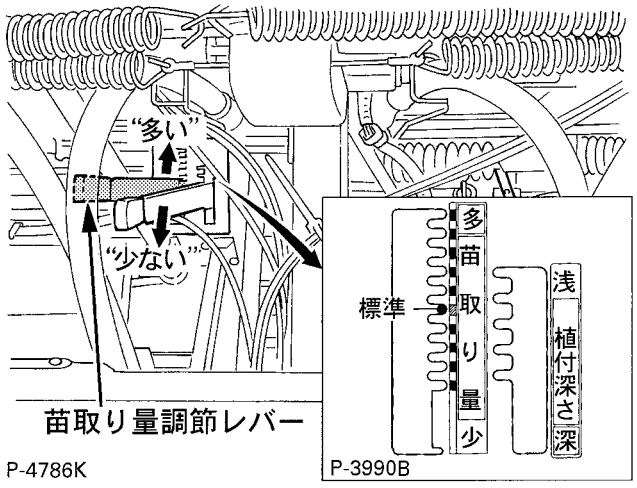
■苗取り量調節レバー

苗の縦取り量を調節するレバーです。苗の状態や種類に合わせて10段階の調節が行なえます。

補　足

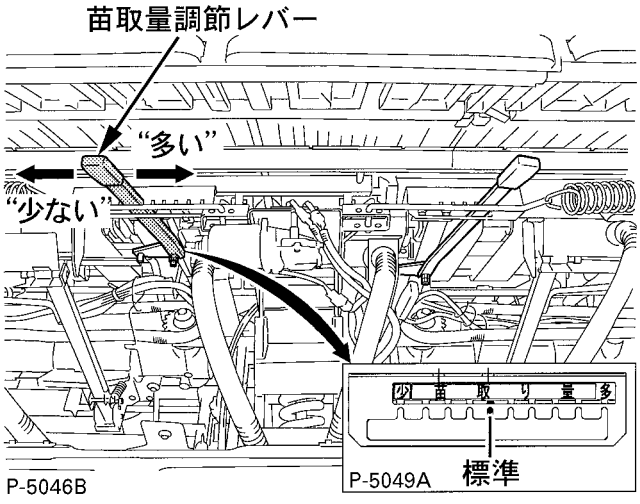
＊出荷時は，**“最多”**位置です。

【6・8】



【6・8】

【10・10-8】



【10・10-8】

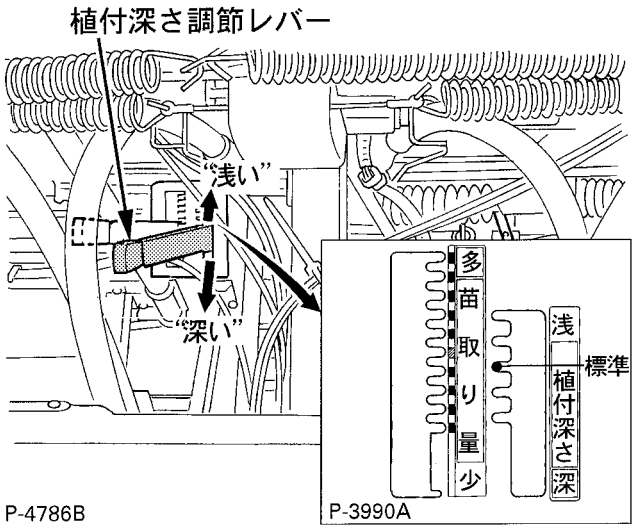
■植付深さ調節レバー

ほ場に適した苗の植付深さを調節するレバーです。苗の植付深さに合わせて５段階の調節が行なえます。

補　足

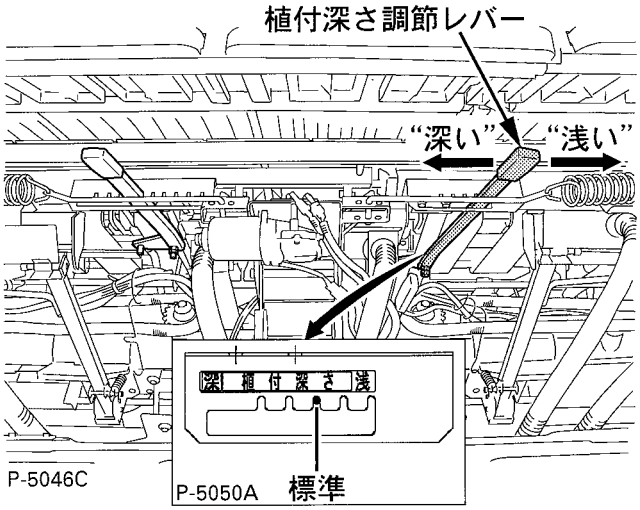
＊出荷時は，**“最浅”**位置です。

【6・8】



【6・8】

【10・10-8】



【10・10-8】

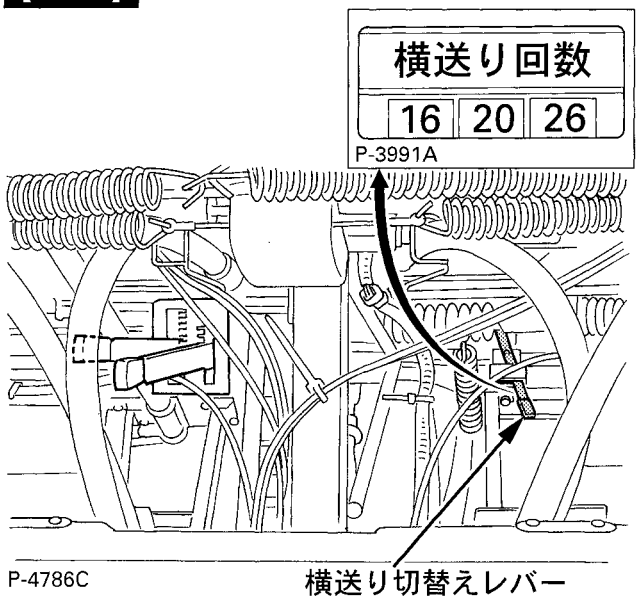
■横送り切替えレバー

苗の横送り回数を切替えるレバーです。苗の種類に合わせて３段階（16回〔成苗〕・20回〔中苗〕・26回〔稚苗〕）の切替えが行なえます。

補　足

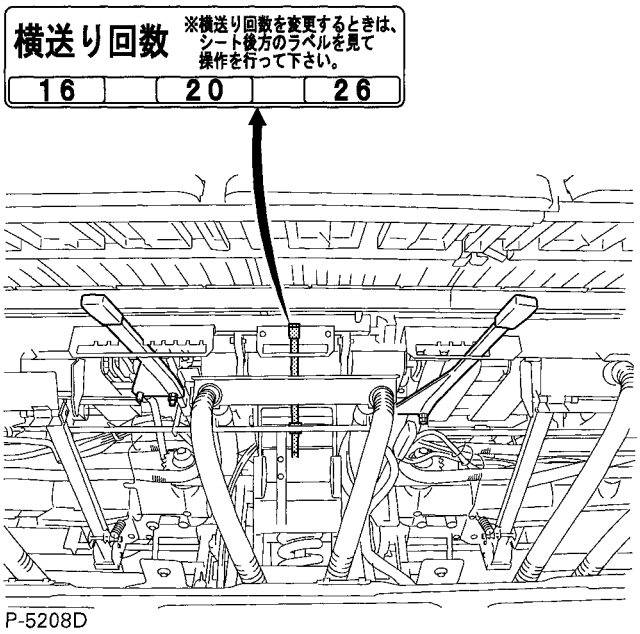
＊出荷時は，**“26回”**位置です。

【6・8】



【6・8】

【10・10-8】

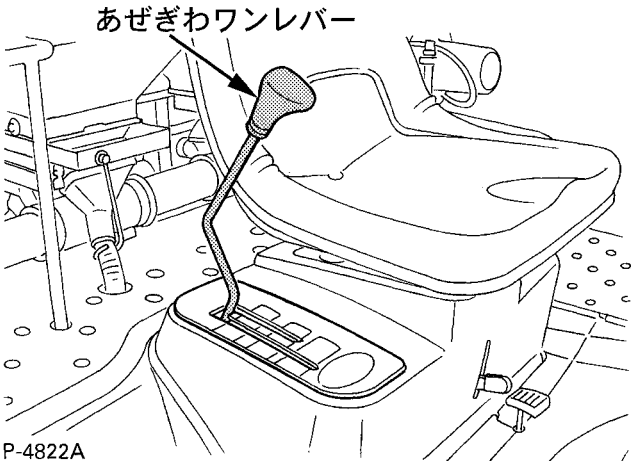


【10・10-8】

■あぜぎわワンレバー

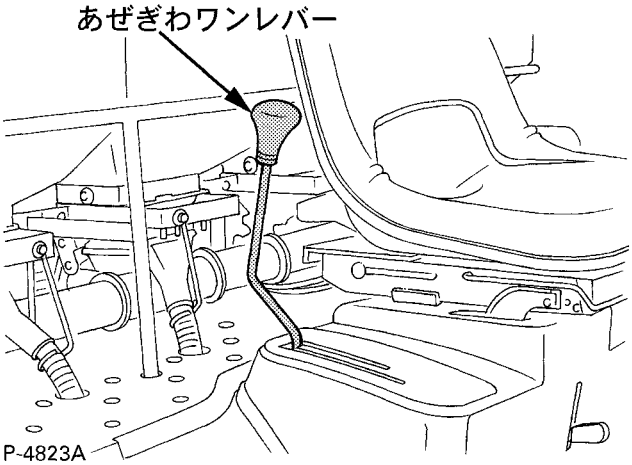
２条ごとに苗の縦送りと植付爪の駆動を停止するレバーです。ほ場の形状にあわせて，必要なときに使用してください。

【6】



【6】

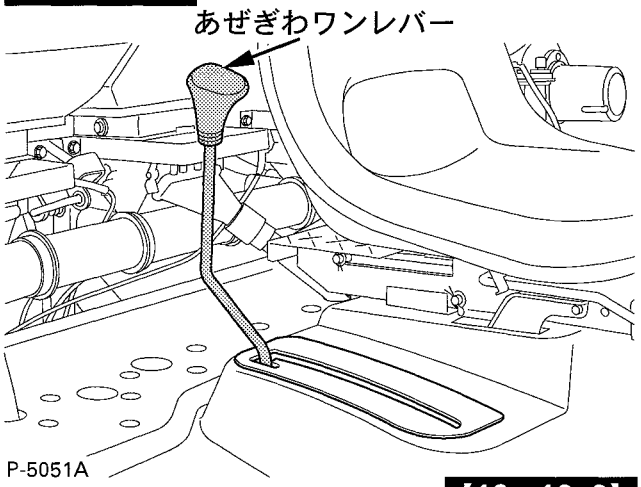
【8】



【8】

装置の名称と各部のはたらき

【10・10-8】



P-5051A

【10・10-8】

補　足

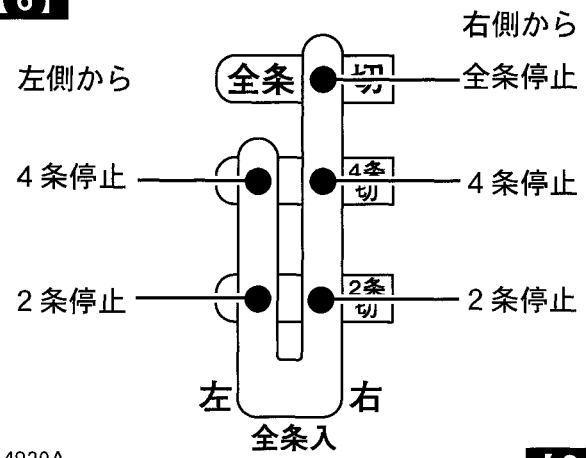
＊あぜぎわワンレバーの**“全条切”**は，メンテナンス時などで苗のせ台を横送りする際に使用してください。構造上**“全条切”**から逆に操作しても【6・8】は左端２条，【10】は右端２条の爪は回りません。【6・8】は左端２条，【10】は右端２条の爪を回転させるためには，再度**“全条入”**にしてください。

＊あぜぎわワンレバーを**“切”**位置にして植付作業を行なうと，警報ブザーが８回鳴り，メインパネル内のあぜぎわモニタのランプが点滅します。また，全条植えを行なうときは必ずレバーを**“入”**位置にしてください。

＊あぜぎわワンレバーを**“切”**位置にすると，植付けが停止すると同時に肥料の繰出しも停止します。**【F仕様】**

＊あぜぎわワンレバーは，レバー操作により左又は，右側それぞれから２条ずつ駆動を停止します。

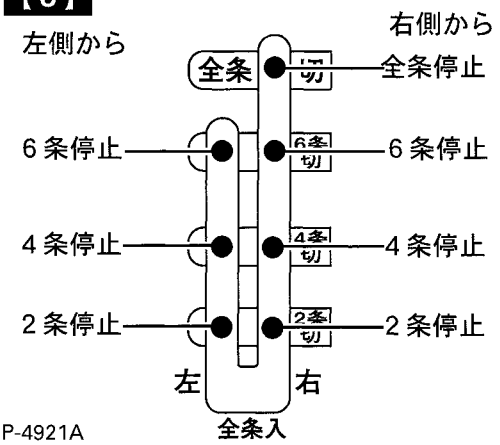
【6】



P-4920A

【6】

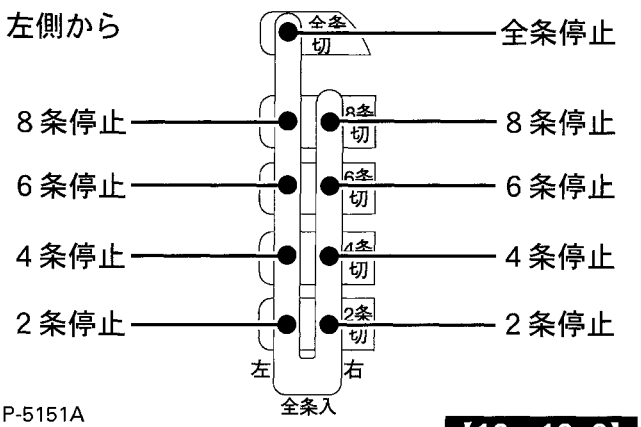
【8】



P-4921A

【8】

【10・10-8】

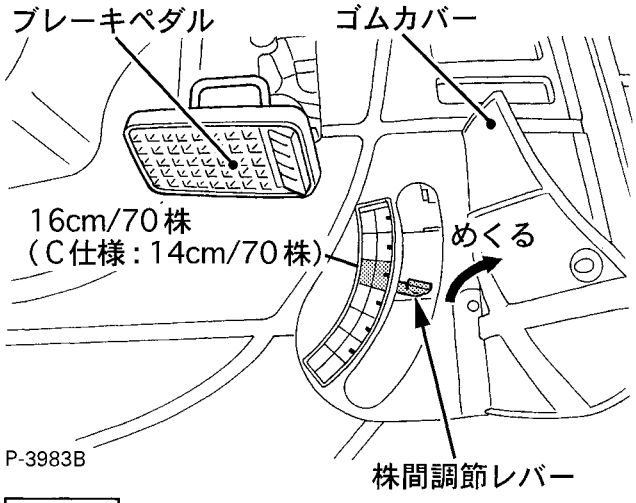


P-5151A

【10・10-8】

■株間調節レバー

植付株間の調節を行なうレバーです。６段階（SP仕様：５段階）の株間に調節できます。



P-3983B

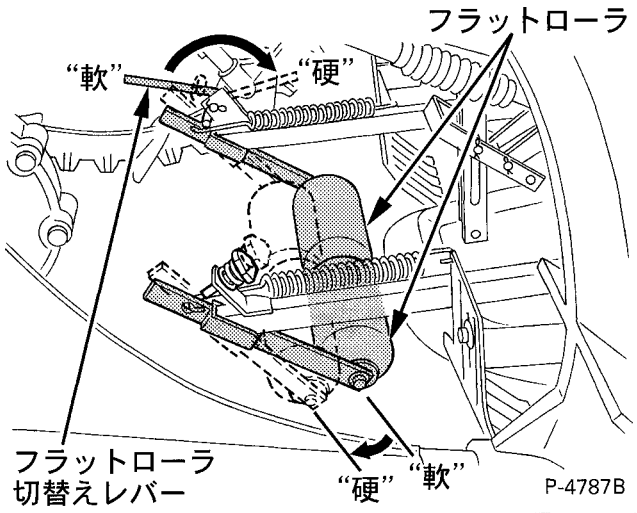
補　足

＊出荷時は，**16cm/70株（C仕様：14cm/70株）**位置です。

■フラットローラ切替えレバー

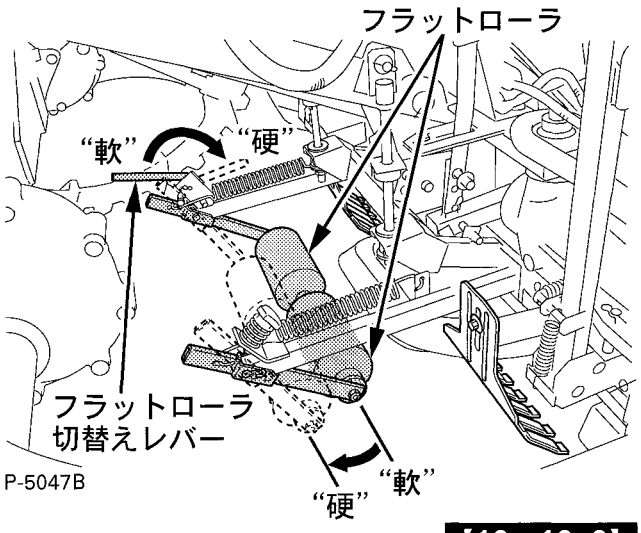
フラット（整地）ローラの整地圧を切替えるレバーです。フラットローラは，枕地に残った車輪跡の溝の整地をより良く行ない，植跡をきれいにするためのものです。また，ほ場条件によりレバーを切替えてローラの高さを変えてください。

【6・8】



【6・8】

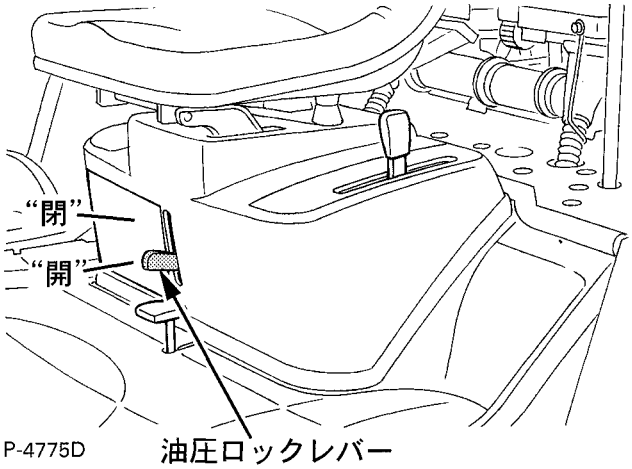
【10・10-8】



【10・10-8】

■油圧ロックレバー

植付部の下降防止を行なう油圧のロックレバーです。ロックレバーを上げる（**“閉”**位置）と，エンジンが始動中に十字ポンパレバーを操作しても植付部は**下降⟷上昇**はしません。解除するときは，ロックレバーを下げて（**“開”**位置）ください。



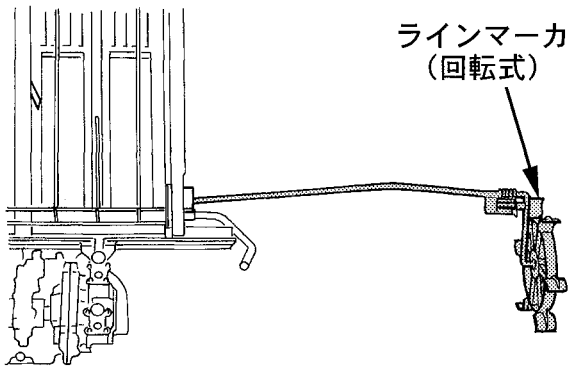
補　足

＊レバーを操作するときは，上又は，下方向いっぱいまで操作してください。

■ラインマーカ

次行程を植付けるとき，適正な隣接条間を保つための目標となる線をほ場面に引きます。

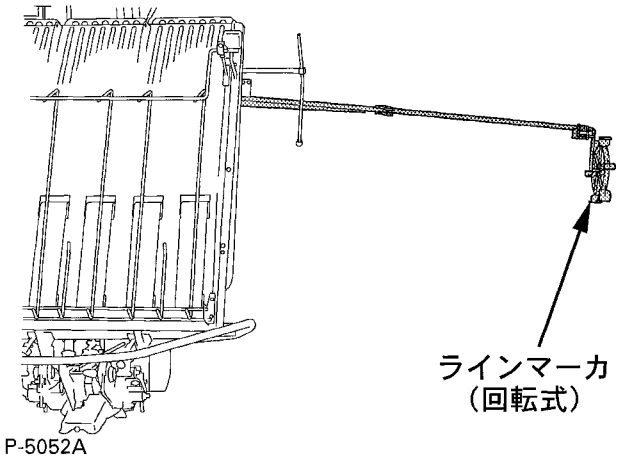
【6・8】



【6・8】

装置の名称と各部のはたらき

【10・10-8】



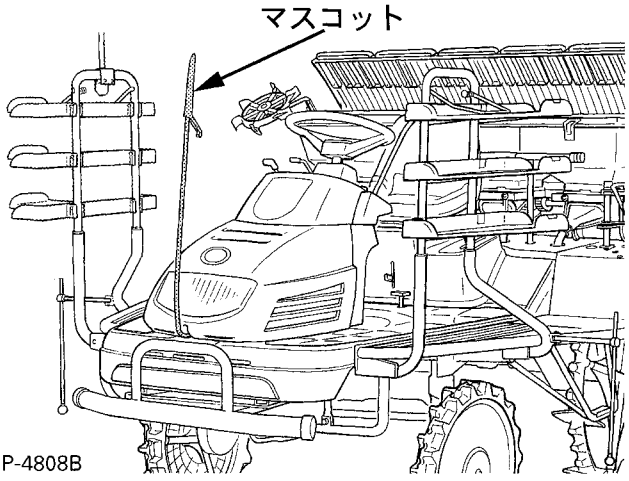
【10・10-8】

補　足

＊植付部を上昇させるとラインマーカは自動的に収納されます。

■マスコット

マスコットは，ラインマーカで引かれた線上を直進していくための目印となるものです。

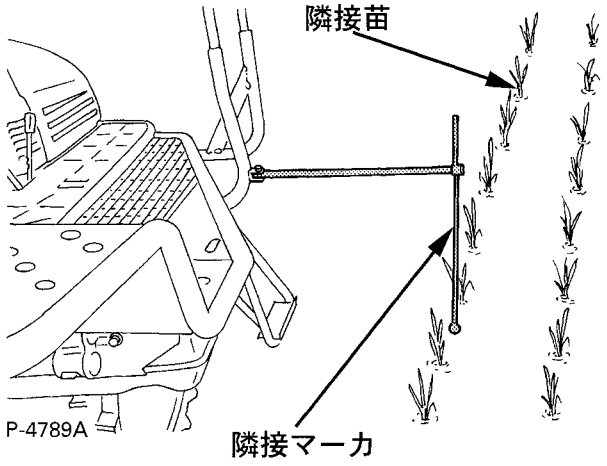


※イラストは【6】

■隣接マーカ

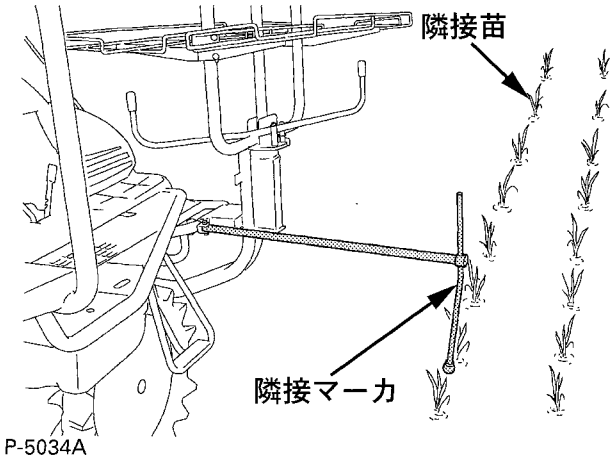
あぜぎわの植付けを行なう場合やラインマーカで引かれた線が見えにくいときは，次行程の植始めに隣接条の苗の真上にマーカを合わせて植付けると適正な隣接条間が保てます。

【6・8】



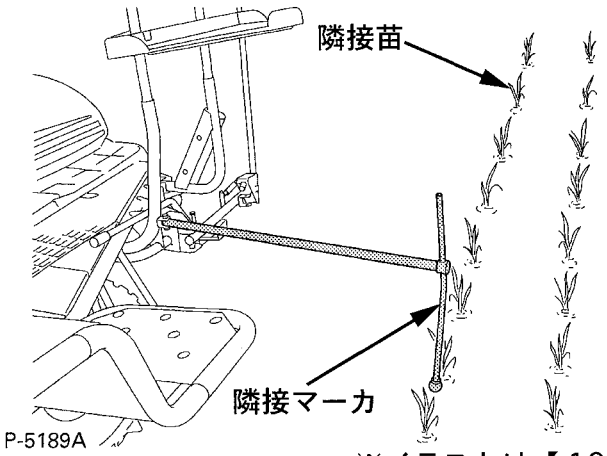
【6・8】

【8CY32仕様】



【8CY32仕様】

【10・10-8】



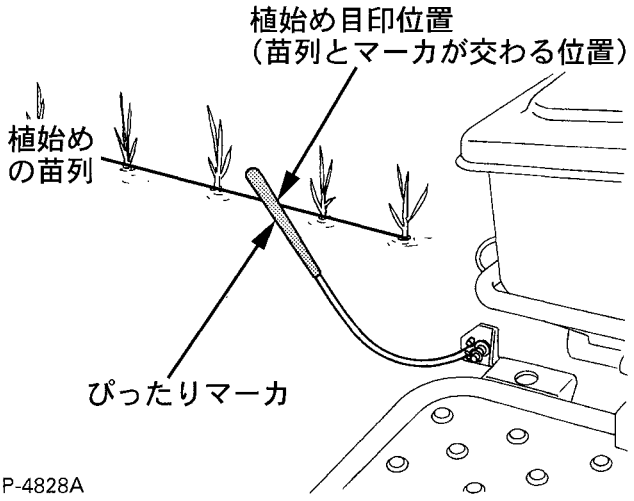
※イラストは【10】

【10・10-8】

■ぴったりマーカ

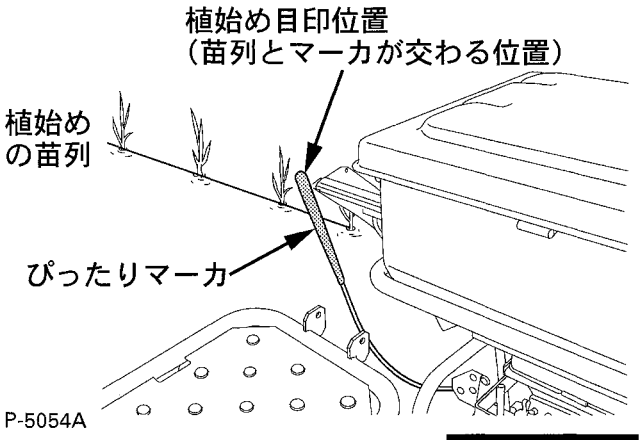
次行程の植始めの位置合わせを，容易に行なうための目印となるマーカです。次行程を植始めるとき，前行程に植えた最終の苗列とぴったりマーカが交差したとき，植付作業を開始する（植付クラッチが入る）と，植始めの位置を揃えることができます。

【6・8】



【6・8】

【10・10-8】

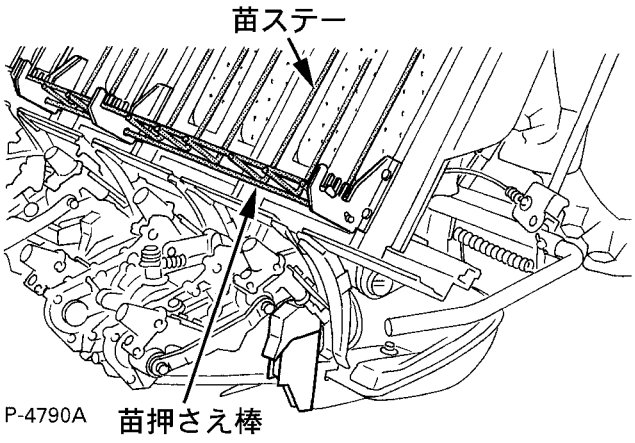


【10・10-8】

■苗ステー

■苗押さえ棒

苗ステーは，薄くて軟弱な苗床や根張りの悪い苗床から，苗がくずれ落ちて発生する欠株を防ぎます。また，苗押さえ棒は，植付時の苗の倒れや欠株を防ぎます。

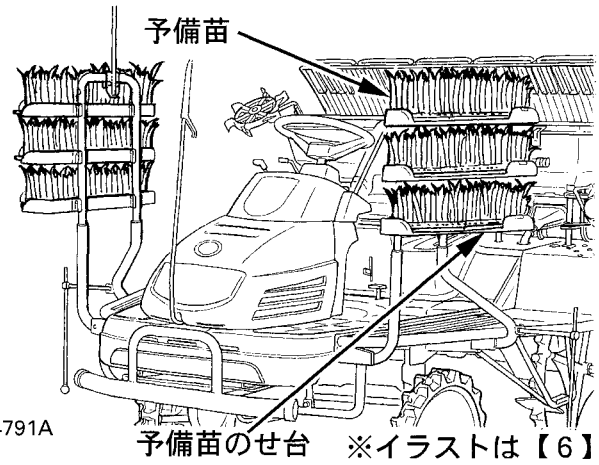


装置の名称と各部のはたらき

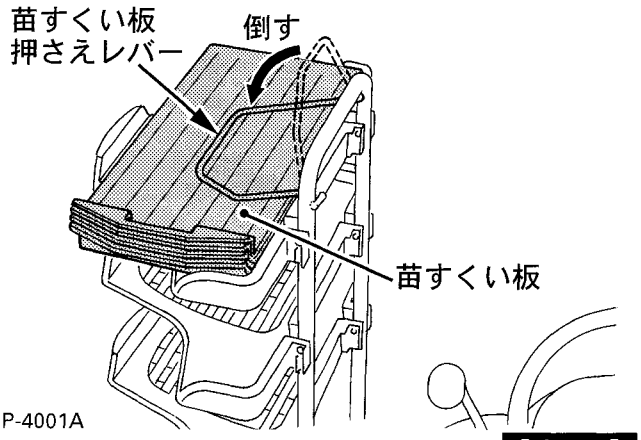
■予備苗のせ台

【6・8】

予備苗を6枚【6】又は，8枚【8】載せることができます。苗すくい板の収納場所は左上段（【8】は左，右上段）です。苗すくい板の押さえレバーで収納してください。



P-4791A

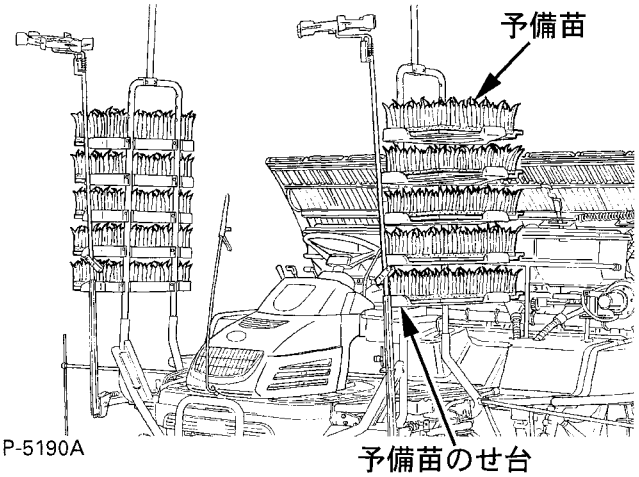


P-4001A

【6・8】

【10】

予備苗を10枚載せることができます。



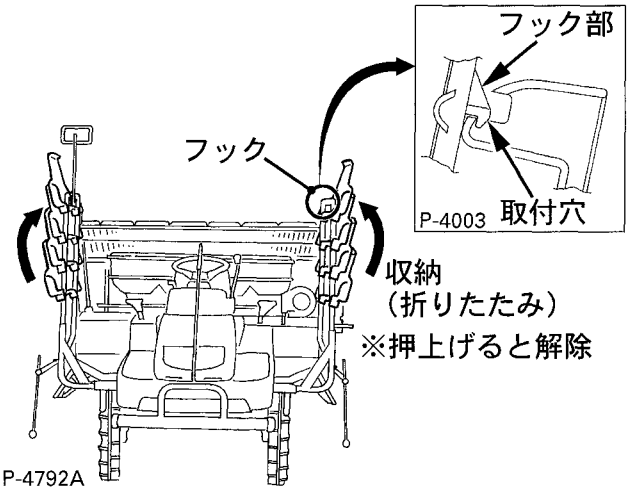
P-5190A

【10】

補　足

＊予備苗のせ台は，上側に収納（折りたたみ）することができます。納屋などに格納するときに収納してください。収納時に各段の予備苗のせ台の上段側のフック部に下段の取付穴を確実に差込んでください。また，ロックを解除するときは，いったん押上げて，取付穴からフック部を外してください。

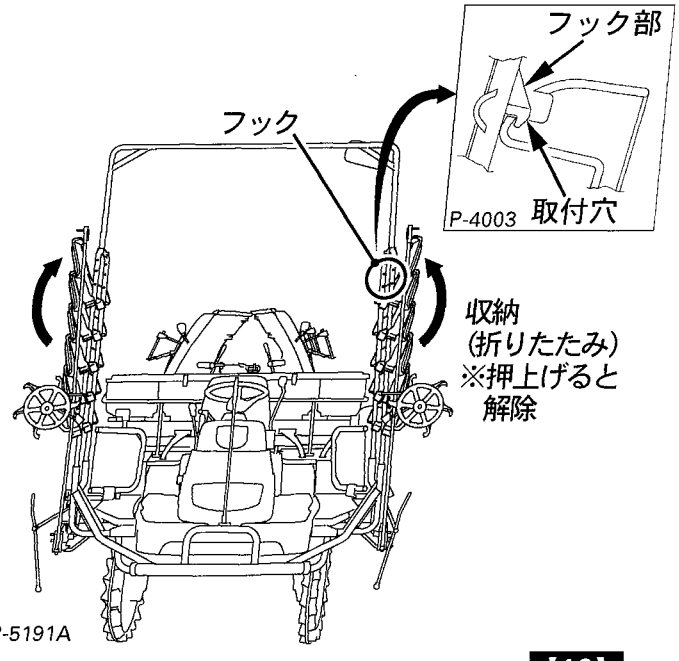
【6・8】



P-4792A

【6・8】

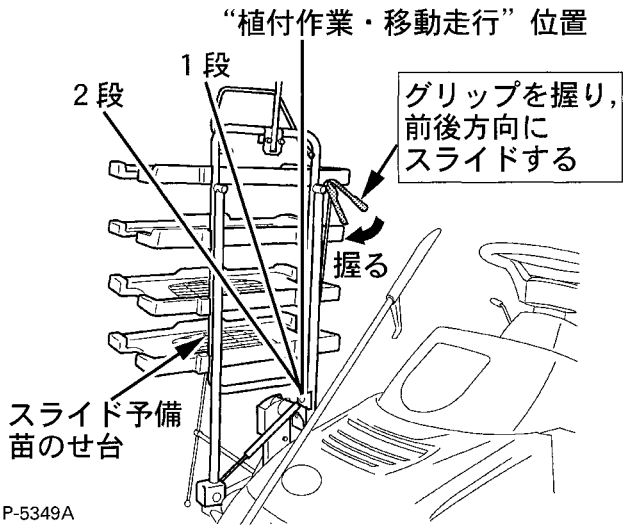
【10】



P-5191A

【10】

【SP仕様】



P-5349A

補　足

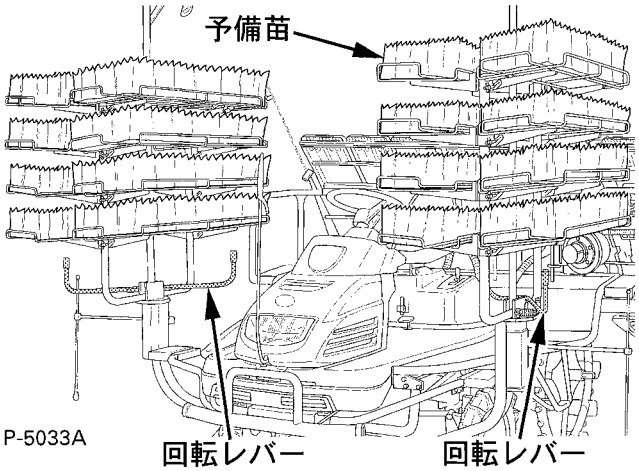
＊予備苗のせ台は，苗補給位置（2段階）・植付作業・移動走行位置の3段階にスライドします。

【SP仕様】

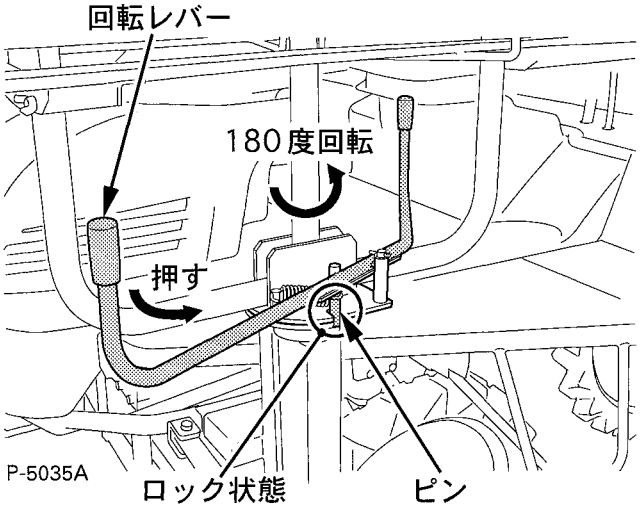
■回転式予備苗のせ台【8CY32仕様】

予備苗を32枚（苗箱）載せることができます。また，回転レバーを操作して予備苗のせ台を回転することができます。

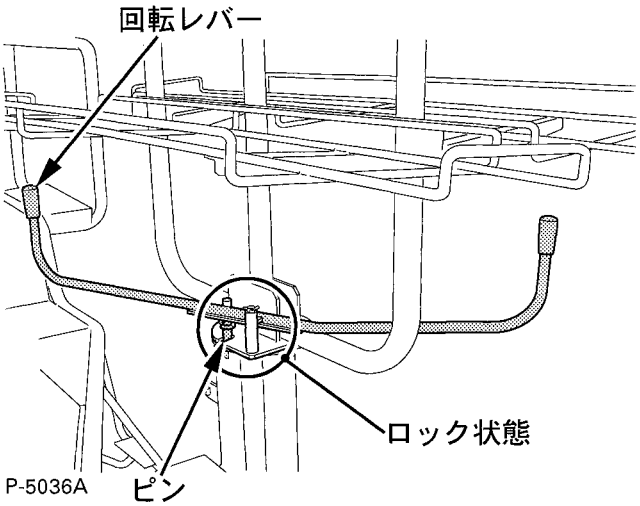
回転するときは，回転レバーを押してピンをロック部の溝から解除して，右方向に180度回転します。180度回転後にロック部の溝にピンをロックします。



P-5033A



P-5035A

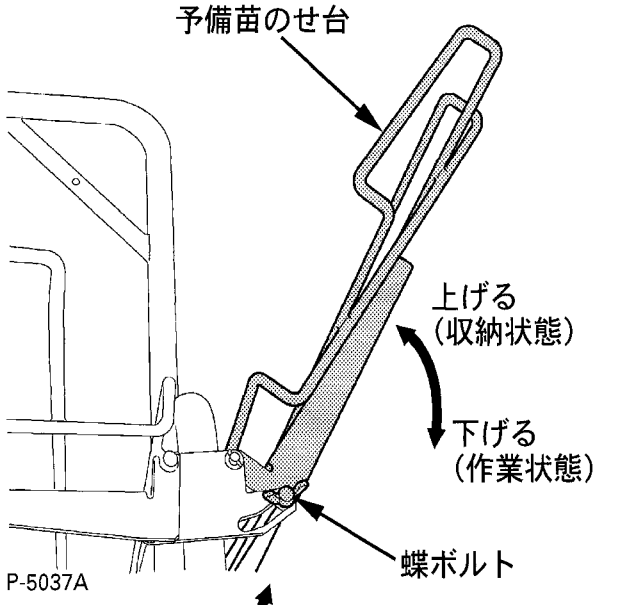


P-5036A

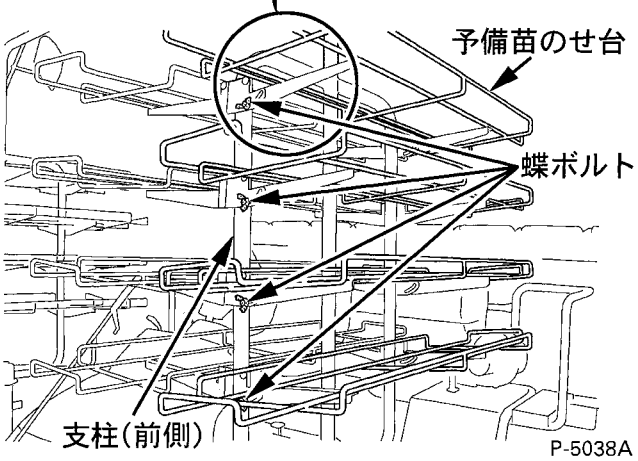
補　足

＊予備苗のせ台は，上側に収納することができます。移動走行時，トラック輸送時や納屋などに格納するときに収納してください。収納するときは，各予備苗のせ台の前側又は，後側の支柱近くにある蝶ボルトをゆるめて，上側に上げて蝶ボルトを締付けてください。予備苗のせ台を収納するときは，上段から下段方向に上げて，作業状態にするときは，下段から上段方向に下げてください。

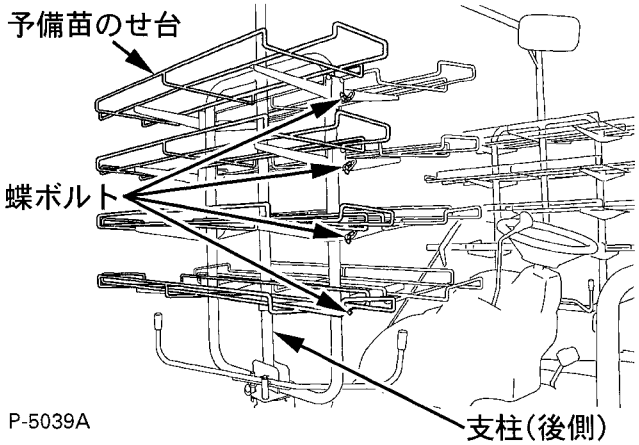
装置の名称と各部のはたらき



P-5037A



P-5038A



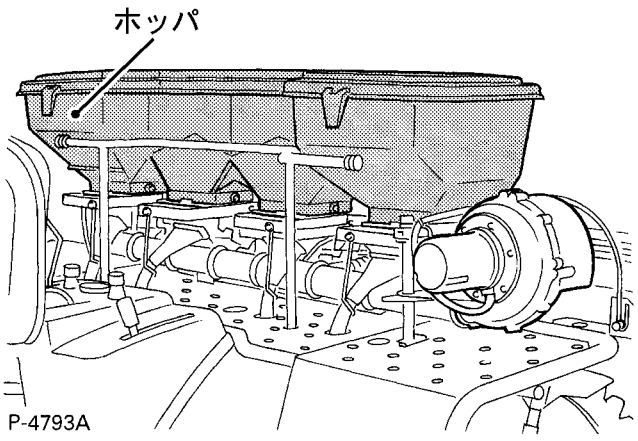
P-5039A

◆施肥装置関係【F仕様】

■ホッパ

粒状の肥料を入れるところです。

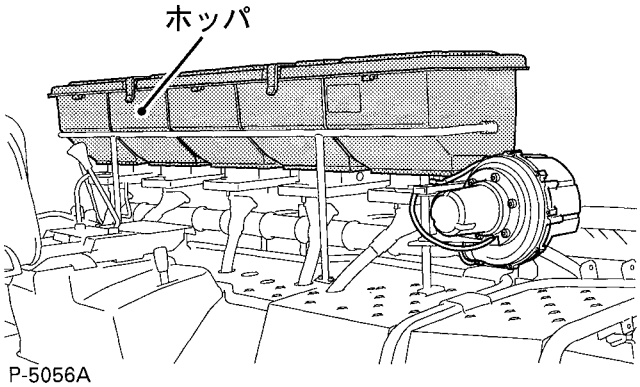
【6・8】



P-4793A

【6・8】

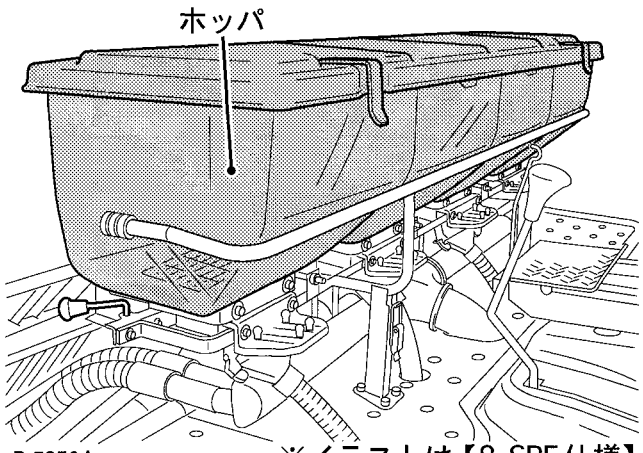
【10】



P-5056A

【10】

【SP仕様】



P-5350A

※イラストは【8-SPF仕様】

【SP仕様】

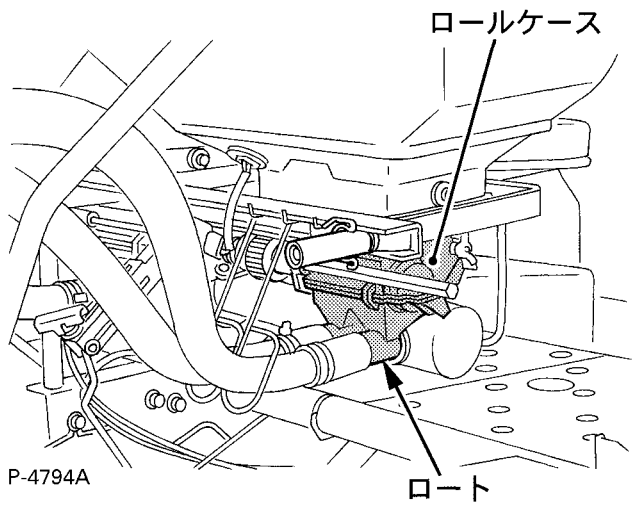
補　足

＊ホッパ容量は１条当り約11L（約10kg）です。

■ロールケース（繰出し部）

ホッパ内の肥料の繰出量を調節し，設定された量を常に一定にして繰出すところです。

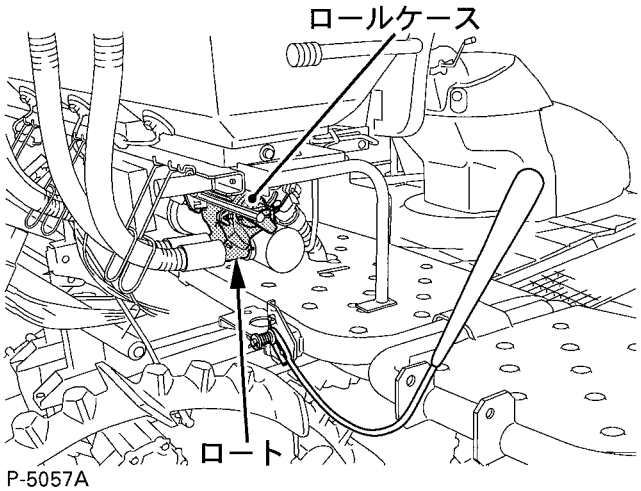
【6・8】



P-4794A

【6・8】

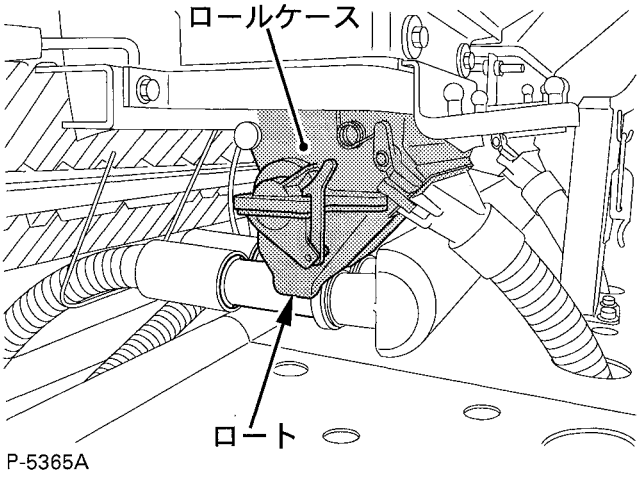
【10】



P-5057A

【10】

【SP仕様】



P-5365A

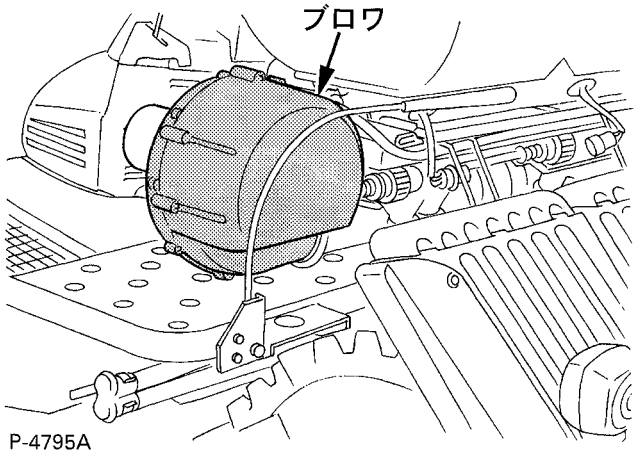
【SP仕様】

装置の名称と各部のはたらき

■ブロワ

ロールケースから繰出された肥料を作溝器へ強制搬送する送風機です。

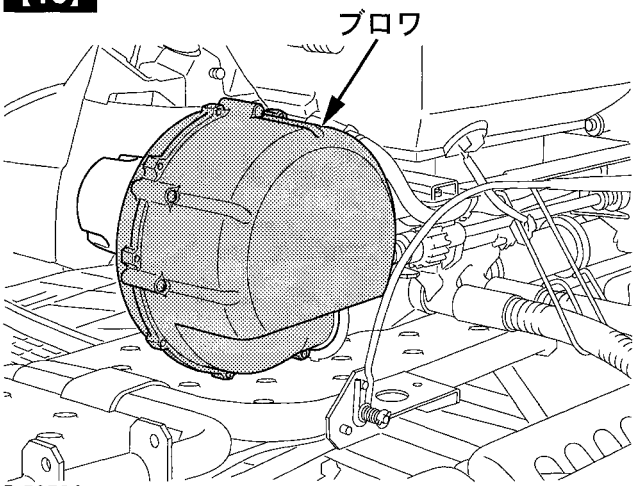
【6・8】



P-4795A

【6・8】

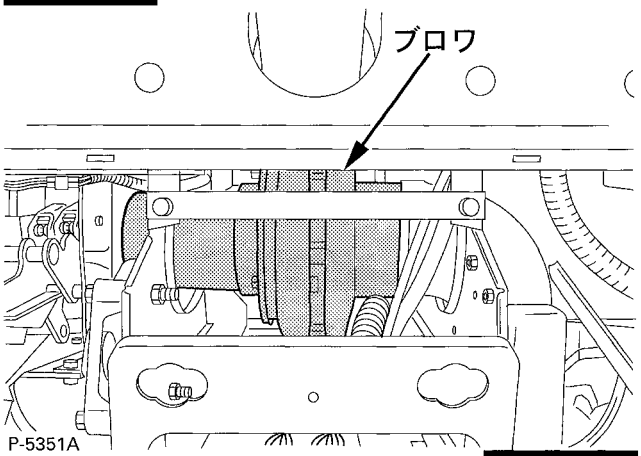
【10】



P-5058A

【10】

【SP仕様】



P-5351A

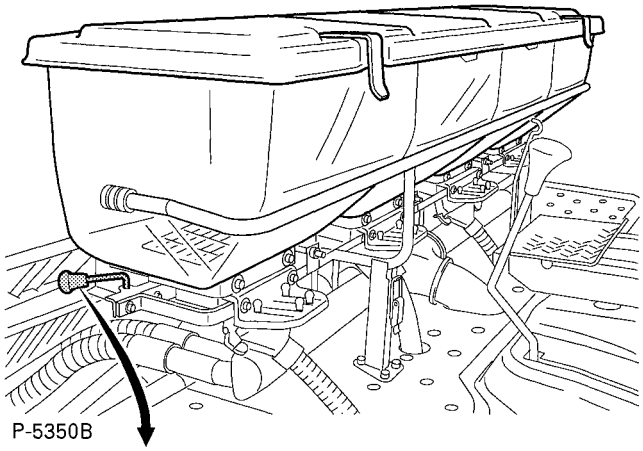
【SP仕様】

補　足

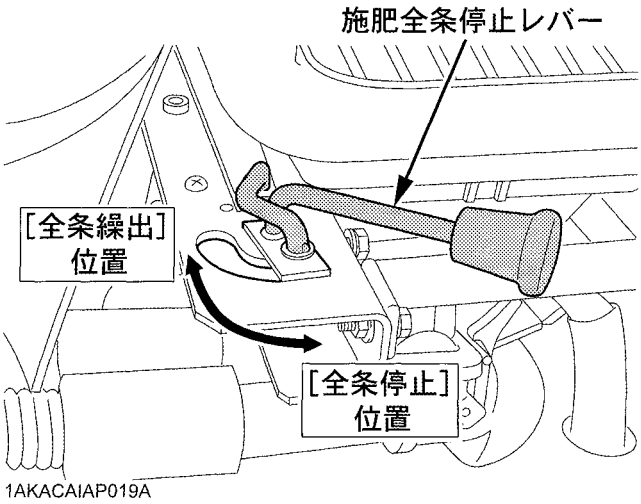
＊ブロワはエンジンを始動するとほぼ同時に回転し，エンジン回転中は常時回転します。ただし，植付部最上昇位置のときと施肥全条停止レバーが**“全条停止”**のときはブロワは回転しません。

■施肥全条停止レバー【SP仕様】

全条同時に肥料の繰出しと停止を切換えるレバーです。



P-5350B

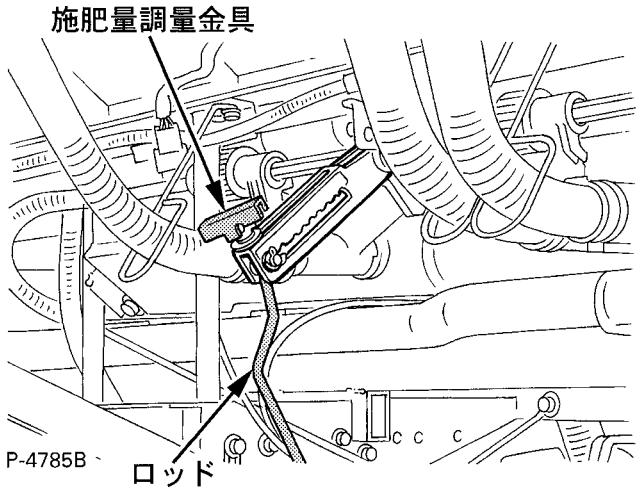


1AKACAIAP019A

■施肥量調量金具

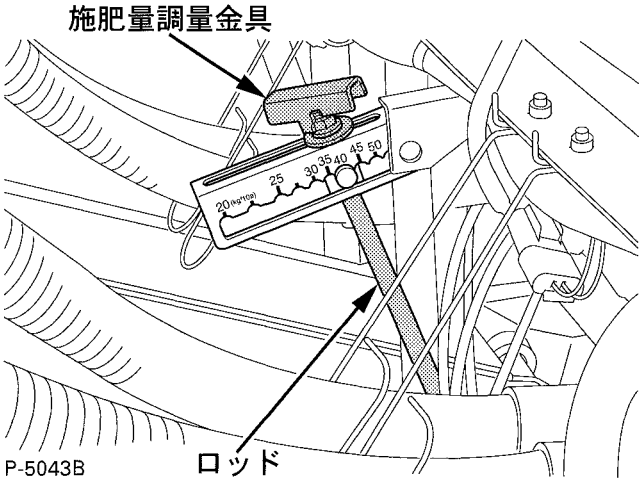
施肥量を調節する金具（ロッド）です。

【6・8】



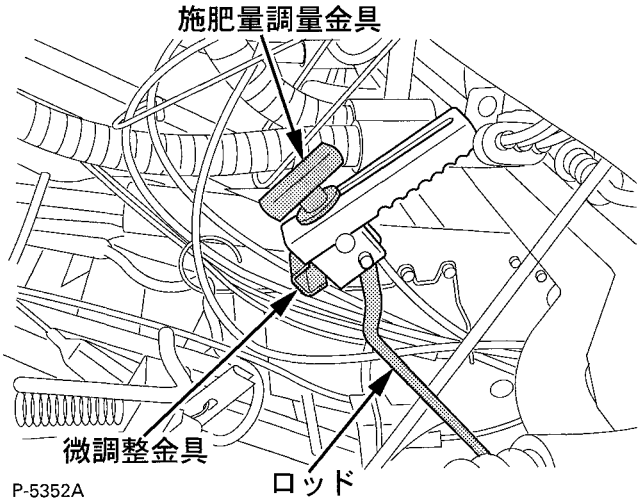
【6・8】

【10】



【10】

【SP仕様】



【SP仕様】

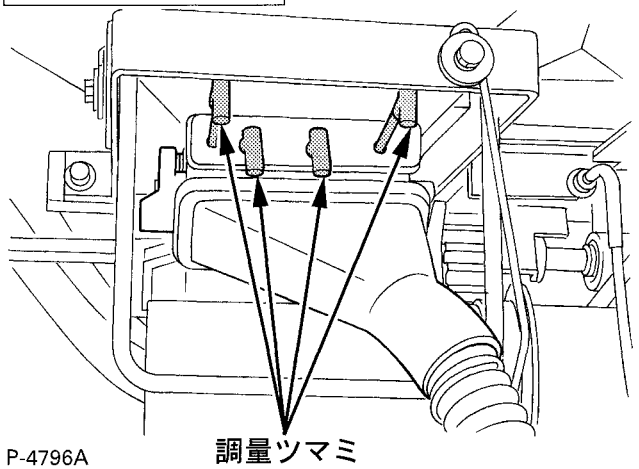
補　足

＊施肥量はロールケースにある調量ツマミ（シャッタ）と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の変更で10～80kg/10aの繰出しが行なえます。また，目標とする施肥量に調節するには，**調量ツマミの調節で2段階**（範囲：20～50kg/10a〔標準〕・50～80kg/10a〔多い〕）と**調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の組替え**（範囲：10～20kg/10a〔少ない〕）で変更できます。

＊調量ツマミの出荷位置は**標準（20～50kg/10a）**位置です。

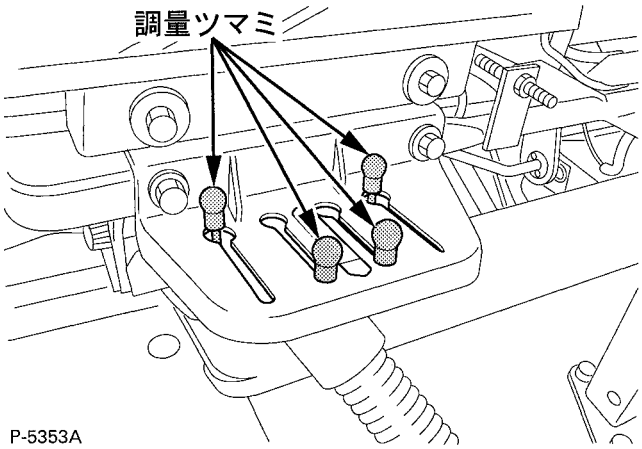
【6・8・10】

【標準（出荷時）位置】



【6・8・10】

【SP仕様】



P-5353A

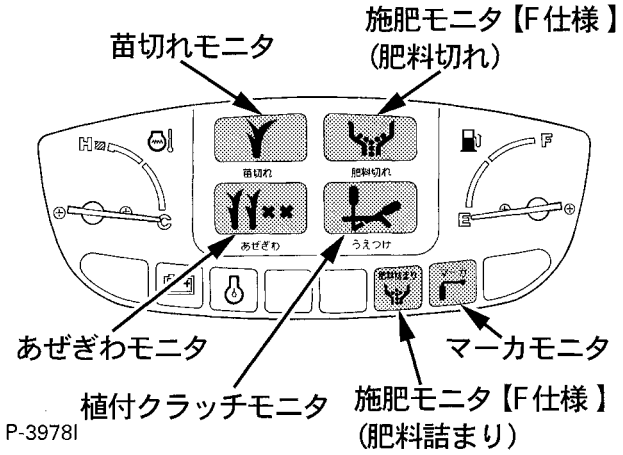
補　足

＊微調整金具で施肥量の微調整ができます。
（121ページ参照）

【SP仕様】

◆電装関係

■メインパネル



P-3978I

● 各モニタ(警報ランプ，警報ブザー)

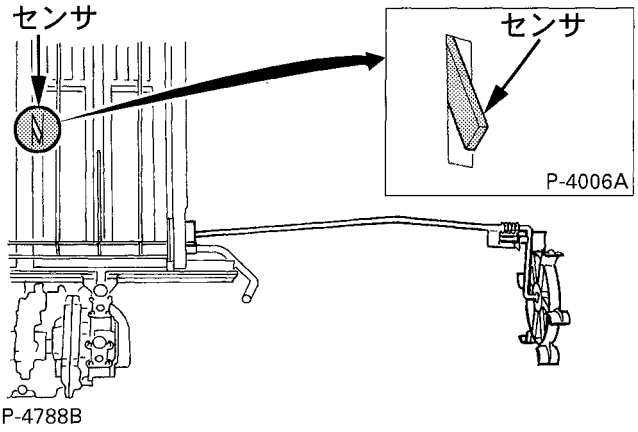
苗切れモニタ(苗切れ警報)

苗の残量が少なくなったとき，ランプが点滅しブザーが鳴ります。

補　足

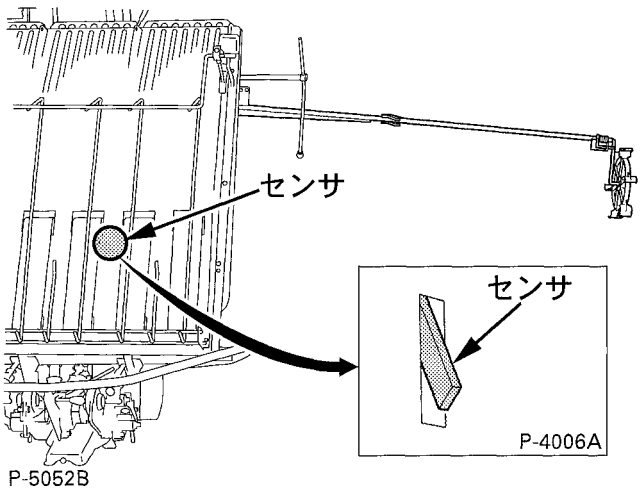
＊苗切れ警報は，苗がなくなってきたとき，苗のせ台の各条にあるセンサが感知してはたらきます。

【6・8】



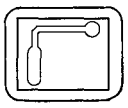
【6・8】

【10・10-8】



【10・10-8】

マーカモニタ(マーカ出し忘れ警報)



ラインマーカがセットされていないときに，ランプが点滅します。ラインマーカ出し忘れに注意してください。

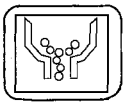
植付クラッチモニタ(植付クラッチ入忘れ警報)

植付クラッチが**切**の状態のときにランプが点滅します。十字ポンパレバーの操作による植付クラッチの入忘れに注意してください。

あぜぎわクラッチモニタ

(あぜぎわクラッチ入忘れ警報)
あぜぎわクラッチを切ったときに，ランプが点滅しブザーが鳴ります。クラッチの入忘れに注意してください。

施肥モニタ(肥料切れ警報)【F仕様】

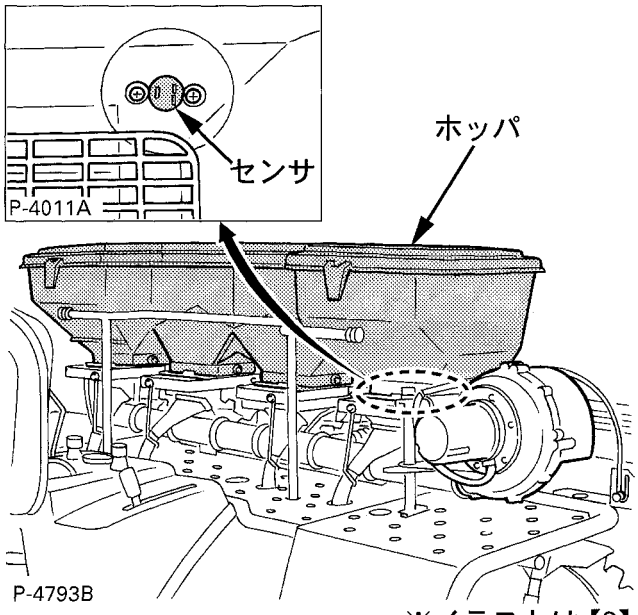


施肥作業中に肥料が残り少なくなったときに，ランプが点滅しブザーが鳴ります。

補　足

＊肥料切れ警報は，肥料がなくなってきたとき，各ホッパ内にあるセンサが感知してはたらきます。

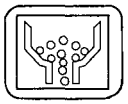
＊マーカと植付クラッチの警報では，ブザーは鳴りません。



※イラストは【8】

装置の名称と各部のはたらき

施肥モニタ(肥料詰まり)【F仕様】

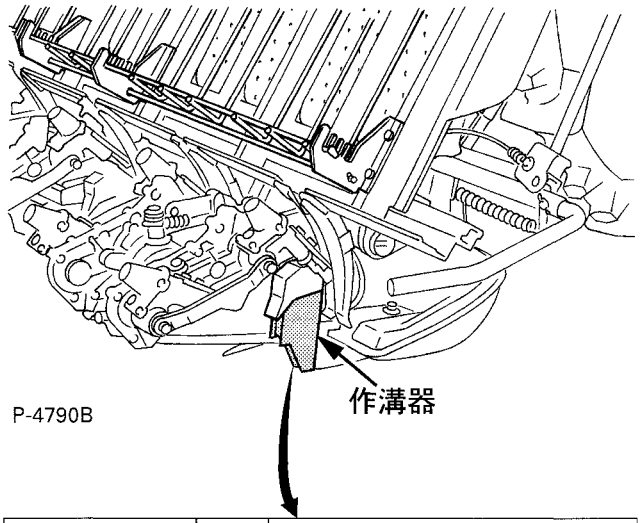


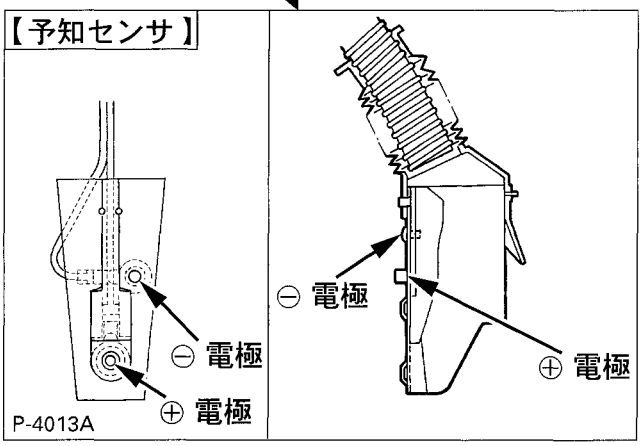
施肥作業中に肥料が詰まったときに，ランプが点滅しブザーが鳴ります。

補　足

＊肥料詰まり警報は，各作溝器内にある肥料詰まり予知センサに小粒肥料や泥水などが付着したときに，⊕と⊖の電極が導通するとはたらきます。

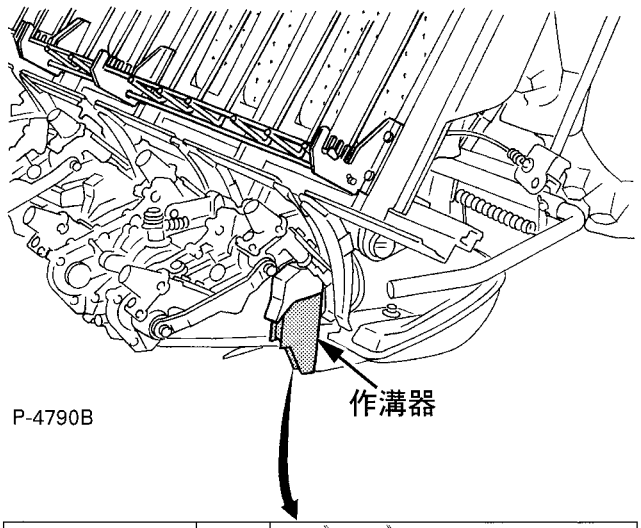
【6・8・10】

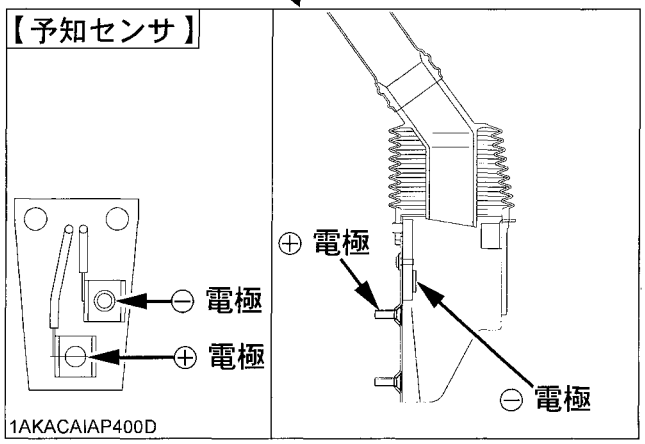




【6・8・10】

【SP仕様】





【SP仕様】

補　足

＊警報発生後の処置については，124ページを参照してください。

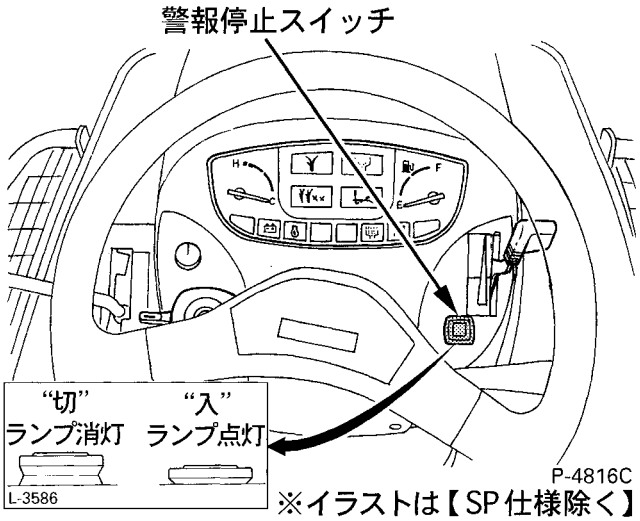
＊エンジンが停止状態のとき，キースイッチを“運転”位置にすると，各モニタのランプがランプチェックのため約2秒間点灯したあと消灯します。ただし，施肥モニタは**【F仕様】**以外は点灯しません。

■警報停止スイッチ

警報ブザーを停止するスイッチです。

“入”（▬ ランプ点灯）… 異常が発生したとき警報ブザーが鳴る位置。

“切”（■ランプ消灯）… 警報ブザーが鳴っているとき警報ブザーが停止する位置。



※イラストは【SP仕様除く】

補　足

＊異常が発生したときは，警報停止スイッチを押すと警報ブザーは停止し，モニタの警報ランプは異常の原因を取除くと消灯します。ただし，苗切れ警報は苗を補給しないと警報ブザーは停止しません。

＊警報ブザーは８回鳴ると停止します。また，警報ブザーが鳴っているときに他の異常が発生すると，そのときから８回鳴ります。

＊あぜぎわワンレバーが **“切”** 位置のとき，警報停止スイッチを **“切”** 位置で使用するときは，肥料切れや肥料詰まりに注意してください。

【F仕様】

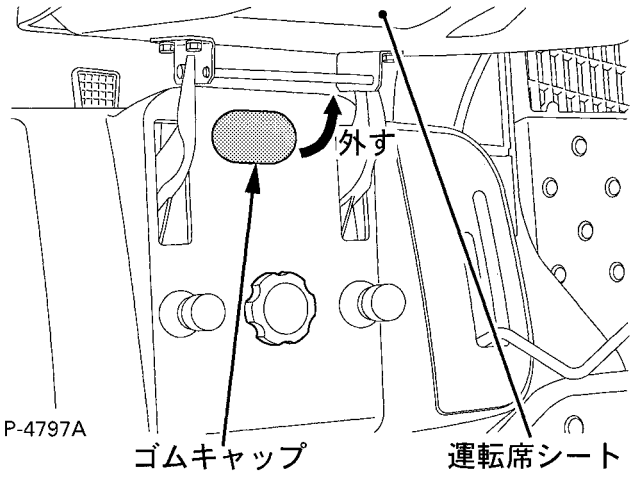
＊下記条件のときに，異常が発生すると警報ブザーが鳴ります。

● 十字ポンパレバーで**下２段目**（素早くレバーを下げたとき）の入力をして，植付部が最上昇位置より下がった状態のとき

■コントローラ

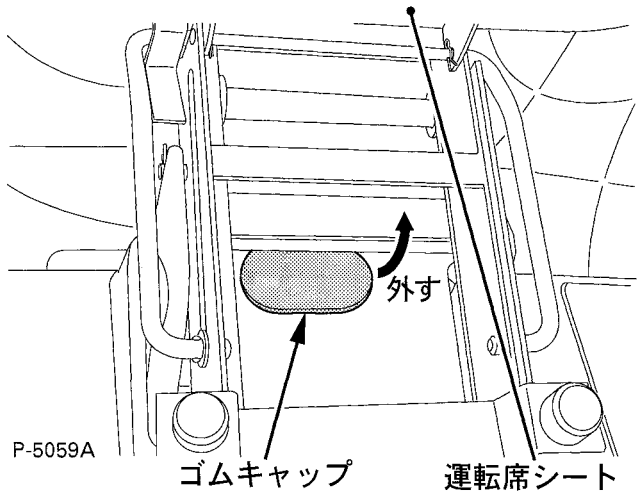
自動装置関係の制御を行なうところです。コントローラは，運転席下前方にあるゴムキャップを外すと見えます。

【6・6F・8・10】



【6・6F・8・10】

【8F・10F・10-8】

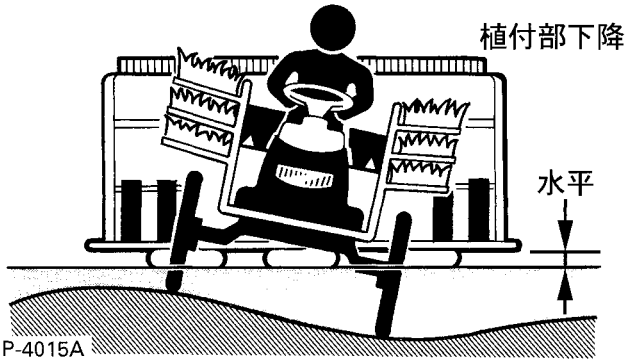


【8F・10F・10-8】

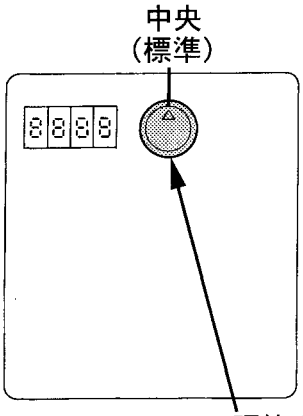
装置の名称と各部のはたらき

● モンロー(植付部自動水平制御)調節ダイヤル

植付部自動水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に植付部（苗のせ台）を水平状態に修正・保持する装置です。モンロー調節ダイヤルは，自動水平制御がはたらいていても，左と右の植付深さが一定にならないとき（特にあぜぎわ）に使用します。（90ページ参照）



P-4015A



P-4017A

● 自己診断について

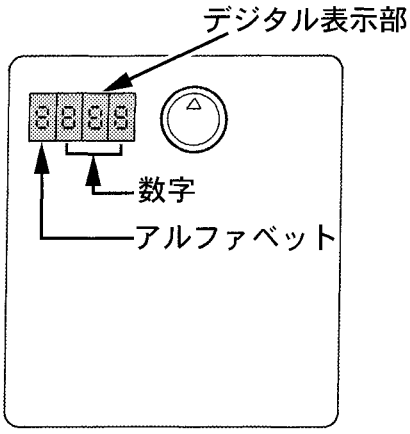
自動制御装置に異常が発生したとき，コントローラが異常内容を表示します。

補　足

＊処置については，126ページを参照してください。

＊異常が発生しても気付かない内容もありますので，定期的に確認を行なってください。

異常が発生すると，４ケタのアルファベットと数字がデジタルの表示部に表示されます。



P-4017B

補　足

＊正常なときは，アワメータとして現在までの積算使用時間を表示します。このとき，４ケタ目（右端）は，数字を６倍して**“分”**単位の表示となります。

【例】 □12.4 ..... 12時間24分

また，999.9時間以上は**“分”**単位の表示がなくなり，1000時間から9999時間までの表示となります。

＊異常箇所が同時に２つ以上発生した場合は，順番に繰返し表示します。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，127ページを参照。）

警 告

＊平坦な場所で駐車ブレーキを掛け，必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがあるので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊オイル補給中は火気厳禁です。
＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊燃料，オイルを補給したときは，キャップや給油栓を確実に締め，こぼれた燃料やオイルは，きれいにふき取ってください。
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**“クボタ純オイル・スペアグリース”**を必ず使用してください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆田植機の回りを歩いて

(1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
(2)車体各部の変形や損傷がないか点検します。
(3)油もれや水もれなどないか点検します。
(4)機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

日常点検項目

〈ここを〉		〈点検し異常があれば〉	〈こうする(処置)〉	参照ページ
機体の周りを歩いて	機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. ゴミや泥などがたまってないか。 5. 安全ラベル(⚠表示ラベル)の損傷やはがれはないか。 6. 反射テープ(リフレクタ)の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換する。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに張替える。 6. 新しいテープに張替える。	— — 156 133,173 ⚠-12 171
	バッテリ	●バッテリ液は規定量(**UPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL(下限)の間**)にあるか。	●精製水を補水する。**【補水タイプ】**	168
	タイヤ	●摩耗や損傷はないか。	●交換する。	159
	各ワイヤ,レバー支点部,しゅう動部	●たるみや損傷はないか。 ●作動状態に異常はないか。	●交換する。 ●注油する。	—
	繰出しホース**【F仕様】**	●破損や外れはないか。	●交換又は，取付けをする。	135,136
	作溝器**【F仕様】**	●肥料や泥が付着していないか。	●掃除する。	134,135
	ロールケース・ロート・ロール・ホッパ**【F仕様】**	●肥料が付着していないか。	●掃除する。	134
	植付爪・押出金具	●摩耗や破損又は，変形していないか。 ●石などの異物がはさまっていないか。	●調整又は，交換する。 ●取除く。	159
ボンネットを開けて	エアクリーナ	●エレメントが汚れたり,ほこりが詰まっていないか。	●掃除する。	155
	エンジンオイル	●油量は規定量(オイルゲージの**上限線と下限線の間**)あるか。	●規定量まで補給する。 …クボタ純オイルD30又は，D10W-30又はAPI分類	148
	オルタネータ駆動ベルト	●たるみはないか。 ●損傷はないか。	●調整する。 ●交換する。	158
	ラジエータ 冷却水	●リザーブタンクの水量は規定量(タンクの**FULL線とLOW線の間**)あるか。	●清水を規定量まで補給する。	151
	ラジエータ フィン	●詰まりはないか。	●掃除する。	153
	ホース，パイプ	●油もれや水もれはないか。	●取付部の締付け又は，交換する。	156
	配線コード	●コネクタの外れはないか。 ●被覆の損傷はないか。	●接続をする。 ●交換する。	169
メインスイッチを入れて運転席に座って	メインパネル 燃料計	●作業に必要な燃料はあるか。	●ディーゼル軽油を補給する。	147
	メインパネル 水温計	●針は動くか。	●ランプ切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。	169
	メインパネル 各モニタランプ・ブザー	●キースイッチを**“運転”**位置にしたとき，約2秒間ランプは点灯するか。 ●ブザーは鳴るか。	●バッテリの充電又は，交換する。 ●ランプ切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。	167 169
	メインパネル 充電ランプ	●ランプは消灯するか。	●購入先に連絡してください。	—
	メインパネル オイルランプ	●ランプは消灯するか。	●エンジンオイルを規定量まで補給する。	148
	ヘッドランプ	●ランプは点灯するか。	●ランプ切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。	171
	ウインカランプ	●ランプは点滅するか。		

日常点検項目

〈ここを〉		〈点検し異常があれば〉	〈こうする(処置)〉	参照ページ
エンジンを始動して・機体を動かしてみて	エンジン	●始動するか。	●バッテリの充電又は，交換する。	167
			●ヒューズ切れがないか点検して交換する。	169
	マフラ	●異音はしないか。 ●排気ガスの色に異常はないか。	●購入先に連絡してください。	—
	ブロワ【F仕様】	●回転しているか。	●スローブローヒューズ切れ，配線コードの外れがないか点検して交換又は，接続をする。	170
		●異音はしないか。	●ブロワが開いていれば閉じる。 ●閉じてる場合には，購入先に連絡してください。	128 —
	各操作レバー	●各操作レバーの作動と各作動部に異常はないか。	●購入先に連絡してください。	—
	主変速レバー	●**“後進”**側に操作するとブザーは鳴るか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。	169
	ブレーキペダル	●踏込むと停止するか。	●購入先に連絡してください。	11

重　要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる田植作業は避けてください。
田植機の性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定田植作業回転数以上に回さないでください。
＊整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

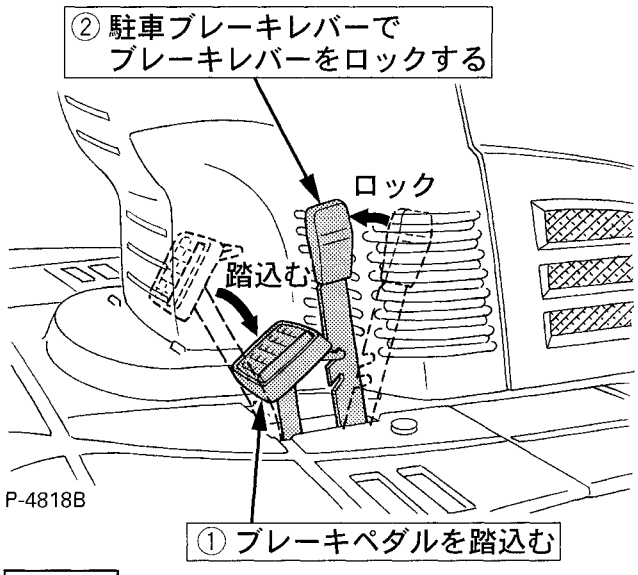
注　意

＊この取扱説明書前編の黄色のページ“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みください。
＊田植機に貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため，換気の不じゅうぶんな納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊周囲の人に始動の合図をして，始動操作は運転座席に必ず座ってから行なってください。
＊運転席への乗り降りするときは，必ずステップ両側より行なってください。転倒してケガをするおそれがあります。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。

ブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキレバーでブレーキペダルをロックします。

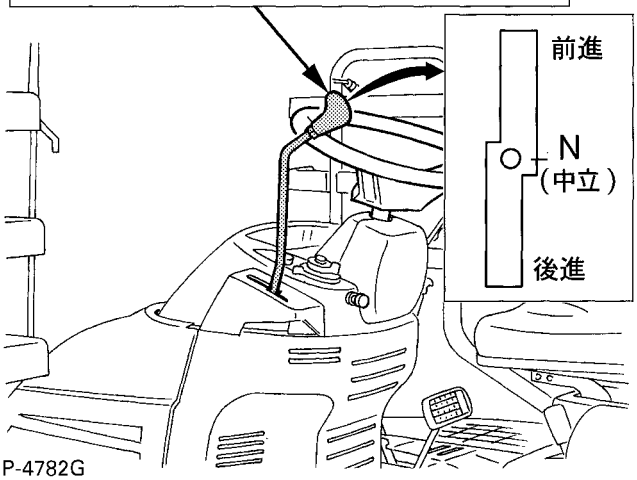


補　足

＊駐車ブレーキを掛けていないときは，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンが始動しません。

2. 各レバー位置の確認をします。

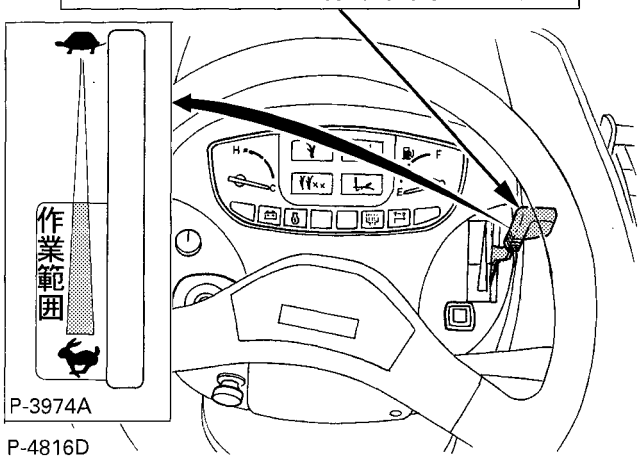
① 主変速レバーを“N”(中立)位置にする



P-4782G

【SP仕様除く】

アクセルレバーを“作業範囲”まで引く

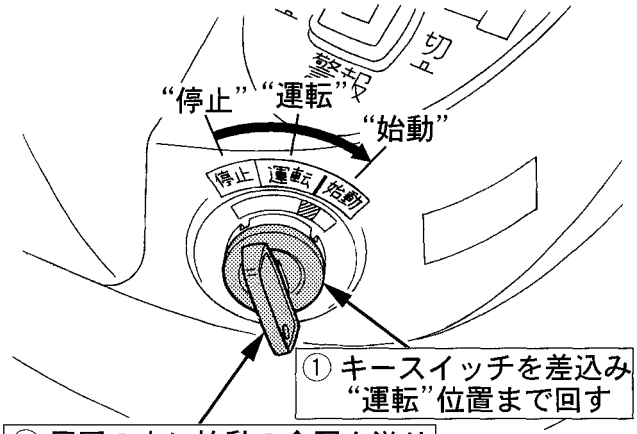


P-3974A

P-4816D

【SP仕様除く】

3. エンジンを始動します。



P-4815B

重 要

＊キースイッチを **“始動”** 位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを **“停止”** 位置にして，キースイッチを **“予熱”** 位置にして約４秒待ってから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。

＊エンジン回転中に，キースイッチを **“始動”** 位置に回すと故障の原因になります。

＊エンジン始動後，オイルランプ，充電ランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

◆暖機運転について

エンジン始動後，エンジン回転数をアイドリング状態で約５分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

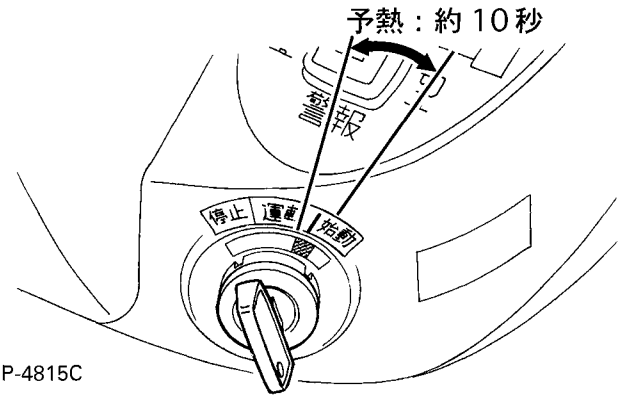
重 要

＊オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にキースイッチを **“予熱”** 位置で10秒間予熱したあと **“始動”** 位置に回してください。

エンジンの始動と停止のしかた



P-4815C

重　要

＊寒冷時は暖機運転を怠たるとパワーステアリングハンドルの操作ができなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
0℃～－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. キースイッチを**“切”**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかたの1～3**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊キースイッチを**“入”**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，⊕端子と⊖端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。（165ページ参照）
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

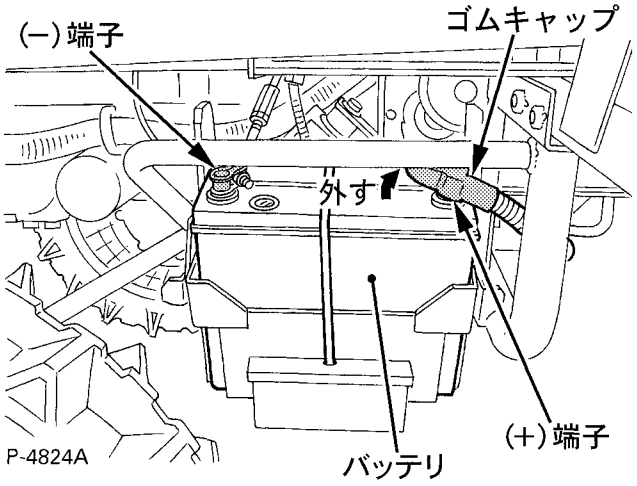
重　要

＊接続するバッテリは，必ず12Vのものを利用してください。故障の原因となります。
＊バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

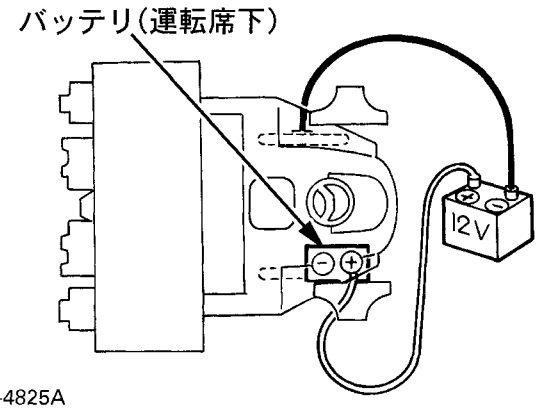
＊ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. エンジン右側にあるバッテリを，スライド下降（166ページ参照）したあと，（＋）側のゴムキャップを外します。
2. ブースタケーブル（赤）を田植機側と救援車側のバッテリの**（＋）端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**（－）端子**に接続し，田植機側は金属部で塗装がされていないところ（前・後輪の取付ボルトなど）に接続します。



P-4824A

エンジンの始動と停止のしかた



P-4825A

3. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
4. 田植機のエンジンを始動します。
5. ブースタケーブルを取付の逆の手順で取外します。

■停止のしかた

【SP仕様除く】

1. アクセルレバーを“🐢”（低回転）位置にします。

【SP仕様除く】

【SP仕様】

1. 主変速レバーを“N”（中立）位置にします。

【SP仕様】

2. キースイッチを“停止”位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊エンジン停止中でキースイッチが“運転”位置の状態のまま長時間放置するとバッテリ上りの原因となります。

＊キースイッチを“切”位置にしてもエンジンが停止しないときは非常エンジン停止レバーを引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

移動走行について

この田植機は，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

注　意

＊安全のためヘルメットを着用してください。
＊周りが暗いときは，ヘッドランプを点灯してください。
＊苗ステーは，後方に倒れないようにラックの取付部に取付けてください。
＊10cm以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊機械には運転者以外は乗らないでください。また，苗のせ台及び予備苗のせ台の苗やホッパ内の肥料【F仕様】は取出し，ステップなどには障害物となるような物は置かないでください。
＊植付部は上昇位置で油圧をロックし下降防止を行なってください。また，ラインマーカや収納式苗のせ台【8】は収納状態に，及び折りたたみ式苗のせ台【10・10-8】は折りたたんでください。
＊暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので，あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは，下記事項に注意してください。
- 走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）
- 主変速レバーで走行と停止を行なう。（ブレーキペダルは操作しない。）
- あぜや斜面に対して直角に走行する。
- あぜや斜面に対して上り方向は後進，下り方向は前進で走行し，前輪デフロックペダルを踏込む。
- あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。

＊下記のようなところを走行するときは，暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので注意してください。
- 両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩

移動走行について

- 道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）
- 路肩の弱い道路
- 路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ
- 左又は，右に15度以上傾斜しているところ

重　要

＊植付部を下降した状態で走行すると，フロートや作溝器，溝切板【F仕様】が破損することがあります。

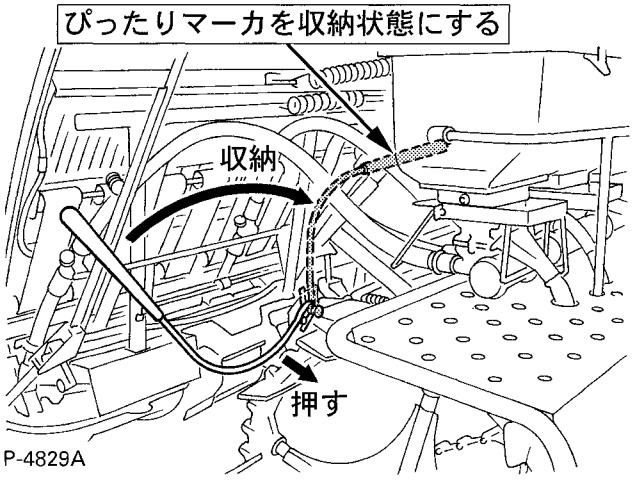
■移動走行前の準備

注　意

＊苗のせ台及び予備苗のせ台にある苗や苗すくい板は，すべて降ろしてください。
＊ホッパ内の肥料はすべて排出して空の状態にしてください。【F仕様】
＊ステップの回りに物は置かないでください。
＊水平で平坦な場所で行なってください。

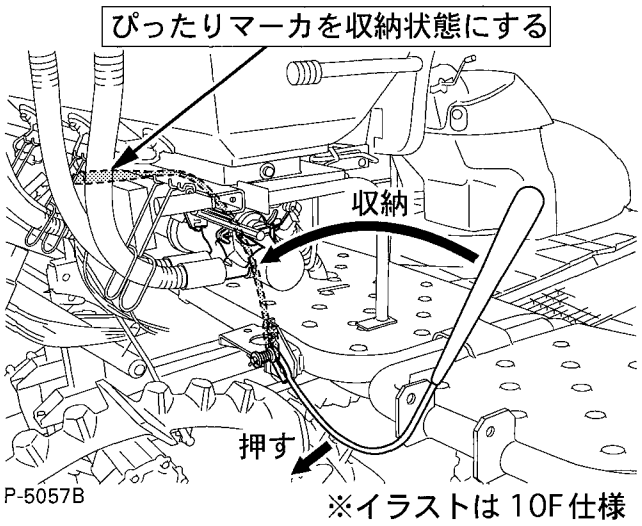
1. 平坦な場所に機体を止め，エンジンを停止します。
2. 左，右のぴったりマーカを矢印方向に押してロックを外し，収納状態にします。

【6・8】



【6・8】

【10・10-8】

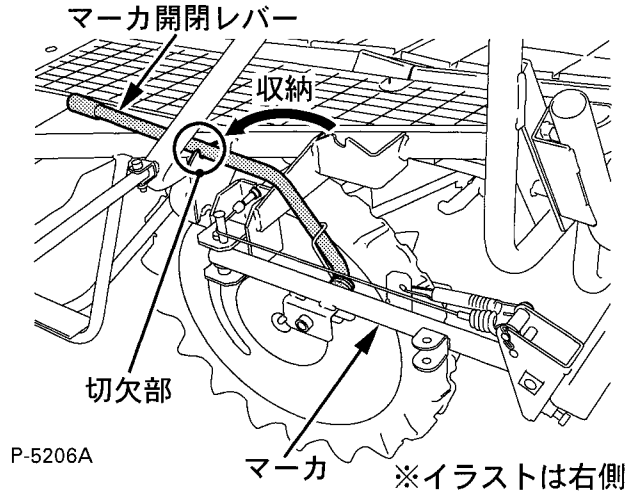


【10・10-8】

3. 左，右のラインマーカを収納し，フックに固定します。

【10・10-8】

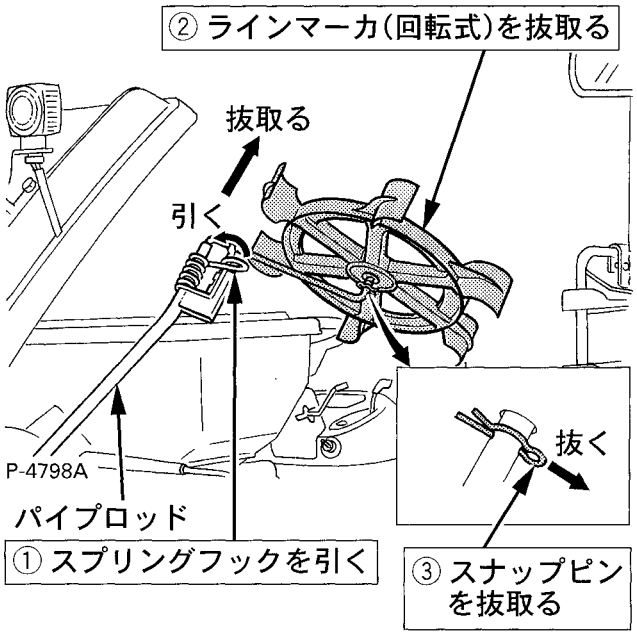
マーカ開閉レバーを収納位置の切欠部に回動して左，右のマーカを収納状態にします。



【10・10-8】

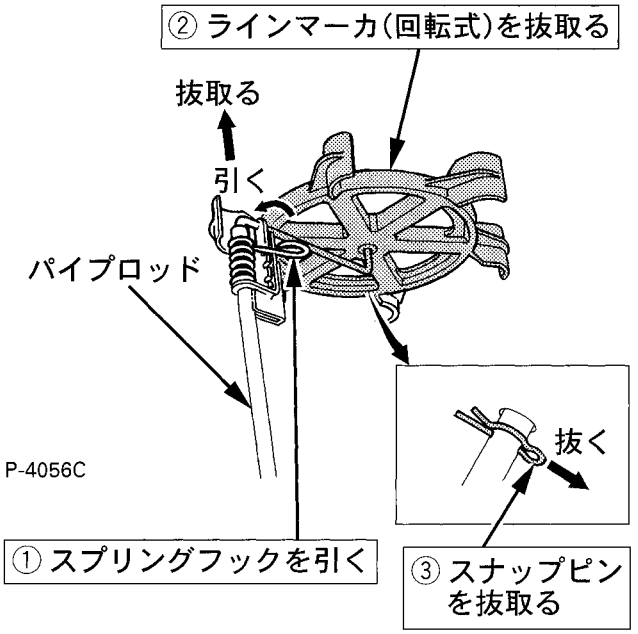
(1) スプリングのフックを引き，マーカ先端部をパイプロッドから抜取ったあとスナップピンを作業時用の穴から抜取ります。

【6・8】



【6・8】

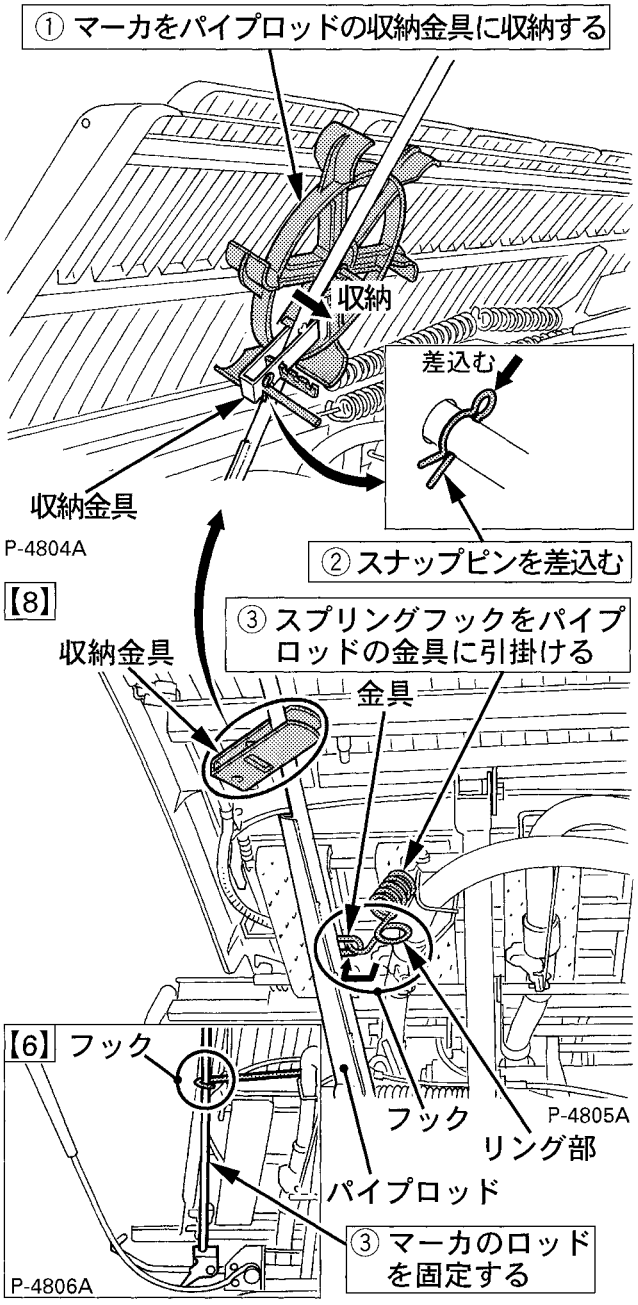
【10・10-8】



【10・10-8】

【6・8】

(2) 【8】はパイプロッドの収納金具にマーカを収納したあと収納時用の穴にスナップピンを差込んでマーカの落下防止をし，スプリングフックのリング部を引きながらパイプロッドの金具に引掛けて固定します。
【6】はフックでマーカのロッドを固定します。

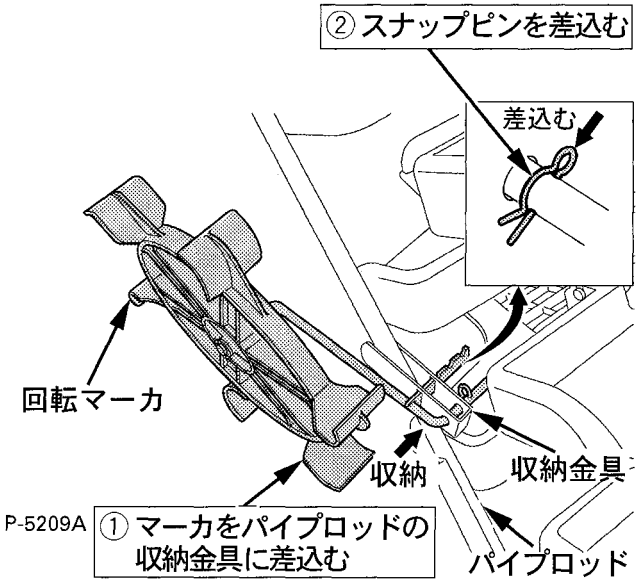


【6・8】

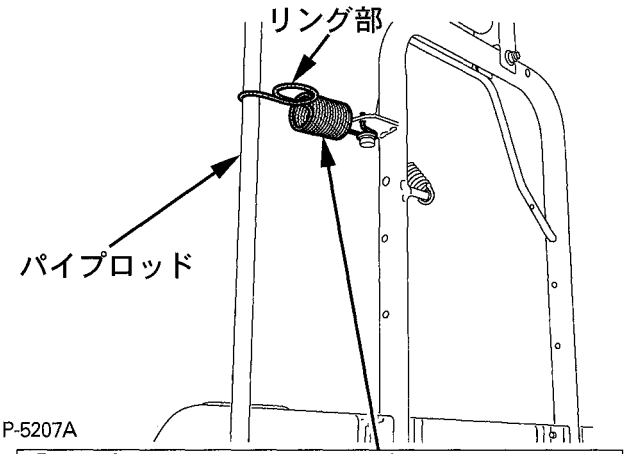
移動走行について

【10・10-8】

(2) パイプロッドの収納金具にマーカを収納したあと収納時用の穴にスナップピンを差込んでマーカの落下防止をし，スプリングフックのリング部を引きながらパイプロッドに引掛けて固定します。



P-5209A ① マーカをパイプロッドの収納金具に差込む



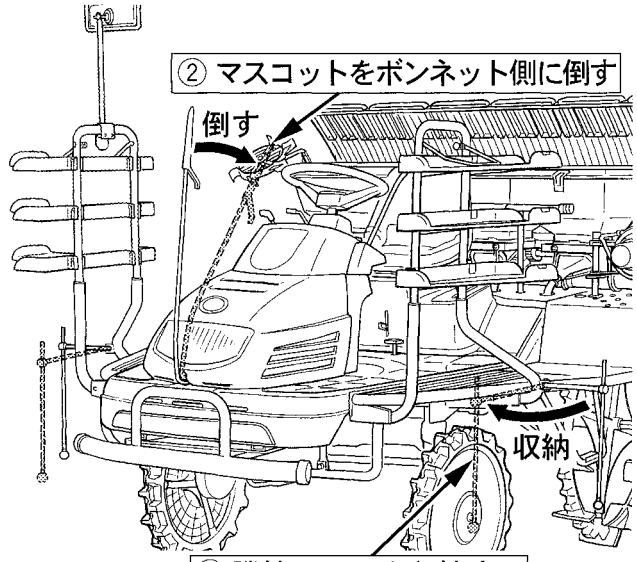
P-5207A

③ スプリングフックをパイプロッドに引掛ける

【10・10-8】

4. 左，右の隣接マーカを前方に収納します。
5. マスコットをボンネット側に倒します。

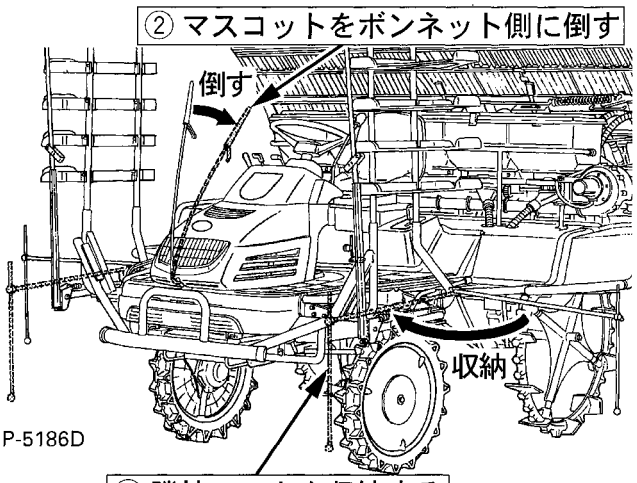
【6・8】



P-4808H ① 隣接マーカを収納する

【6・8】

【10・10-8】

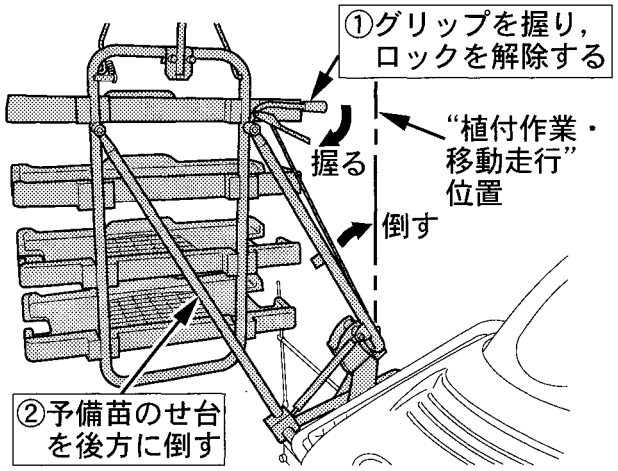


P-5186D ① 隣接マーカを収納する

【10・10-8】

【SP仕様】

左，右のスライド式予備苗のせ台のグリップを握りロックを解除して，後方（植付作業・移動走行位置）に倒します。



P-5354A

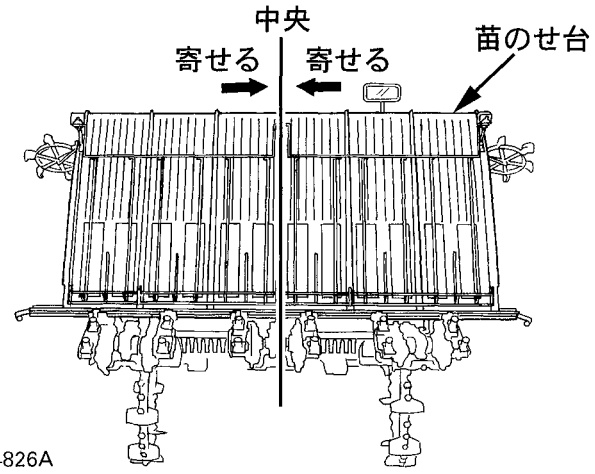
補　足

＊予備苗のせ台に苗がのっていない状態で後方に倒すときは，勢いよく後方に動くため，ゆっくりと倒してください。

【SP仕様】

6. エンジン始動後，苗のせ台を**機体中央**の位置に移動します。

【6】

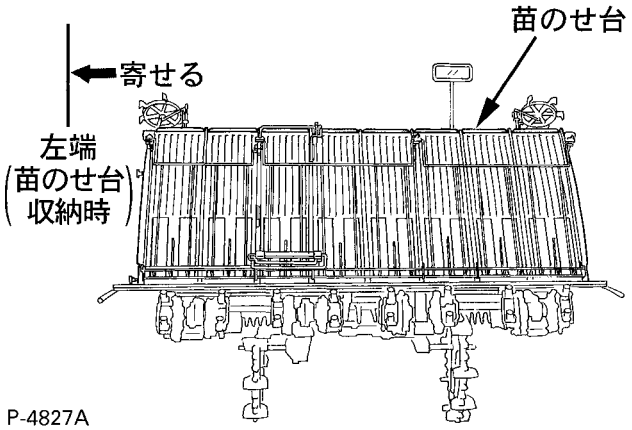


P-4826A

【6】

【8】

苗のせ台を収納する場合は，**左端**まで移動します。



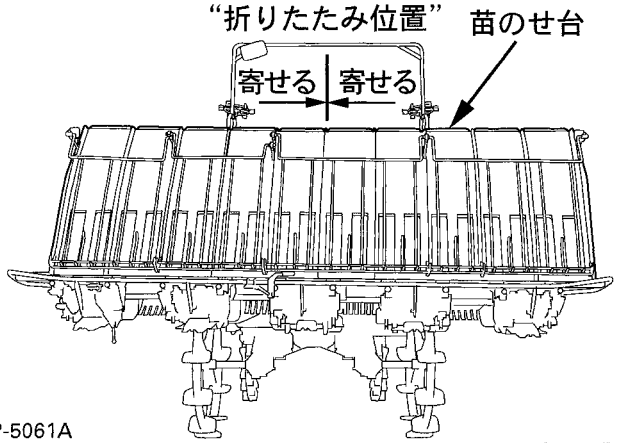
P-4827A

【8】

【10・10-8】

苗のせ台を折りたたむ場合は，**苗のせ台を“折りたたみ位置”**まで移動します。

（72ページ参照）

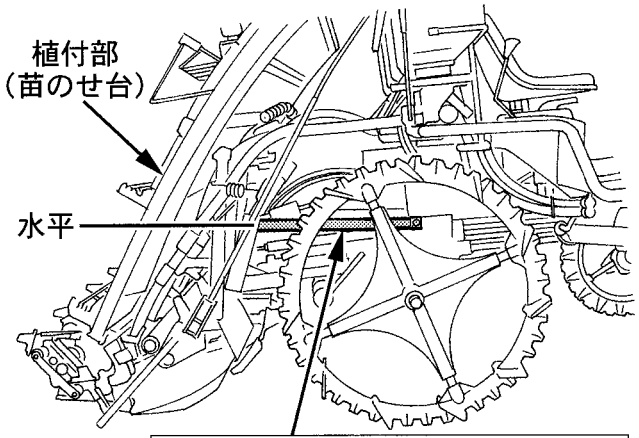


P-5061A

【10・10-8】

移動走行について

(1) 十字ポンパレバーを**“上”（上昇）**側に操作して植付部のリンクが水平状態になる程度まで上昇させます。

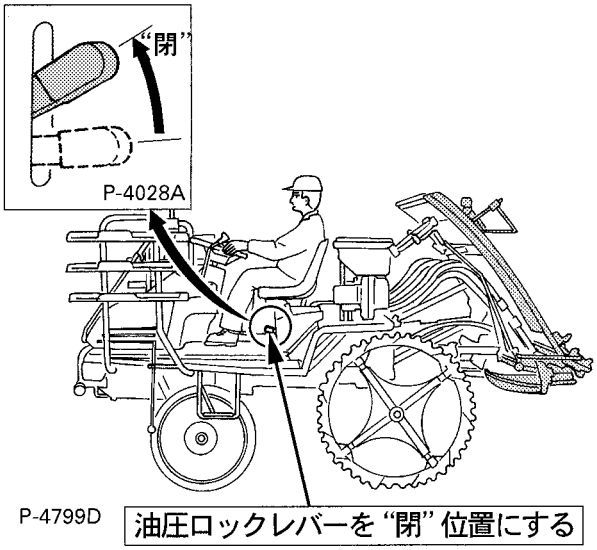


P-4839A

補　足

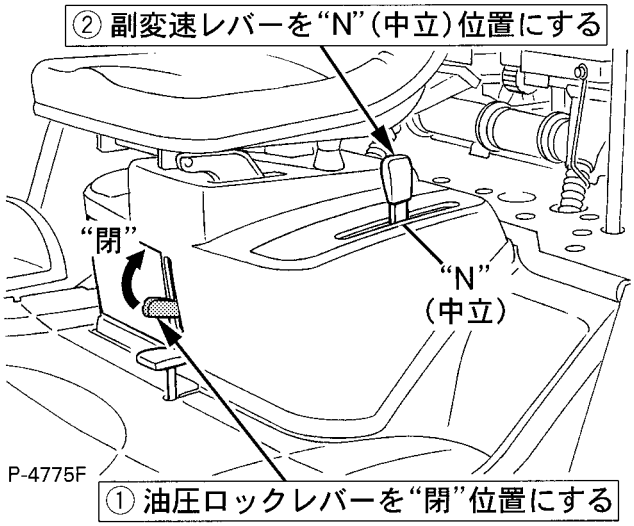
＊植付部が最上昇にあると植付部は横送りしないため，植付部は最上昇位置より下がった位置にしてください。

(2) 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にして下降防止をします。



P-4799D

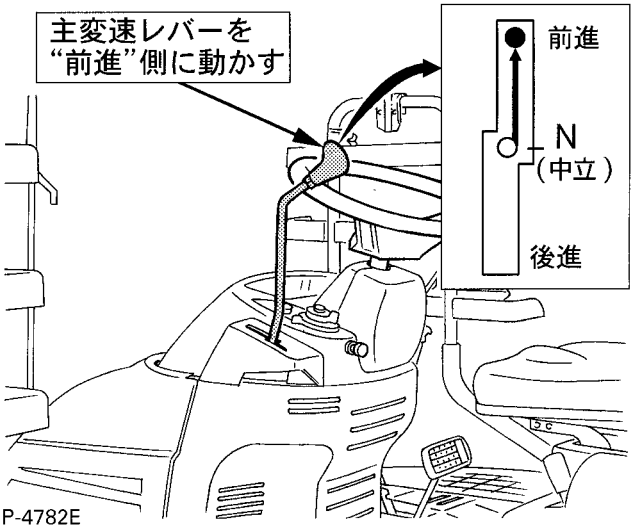
(3) 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**“N”（中立）**位置にします。



P-4775F

(4) 十字ポンパレバーを**“下”（下降）**側にピッと音が鳴るまで操作したあと，もう１度レバーを**“下”（下降）**側にピッピッと連続音が鳴るまで操作して，植付部の駆動の準備をします。

(5) 主変速レバーをゆっくり**“前進”**側に動かします。

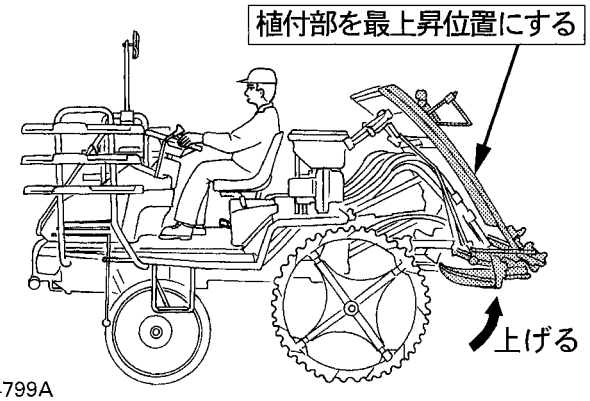


P-4782E

(6) 後方の苗のせ台の動きを確認しながら**機体中央**の位置で主変速レバーを**“N”（中立）**位置に戻します。

(7) 駐車ブレーキを掛けます。

7. 十字ポンパレバーを操作し，植付部を上げて**最上昇位置**にします。



P-4799A

【8】

8. 収納式苗のせ台を収納します。

(67ページ参照)

【8】

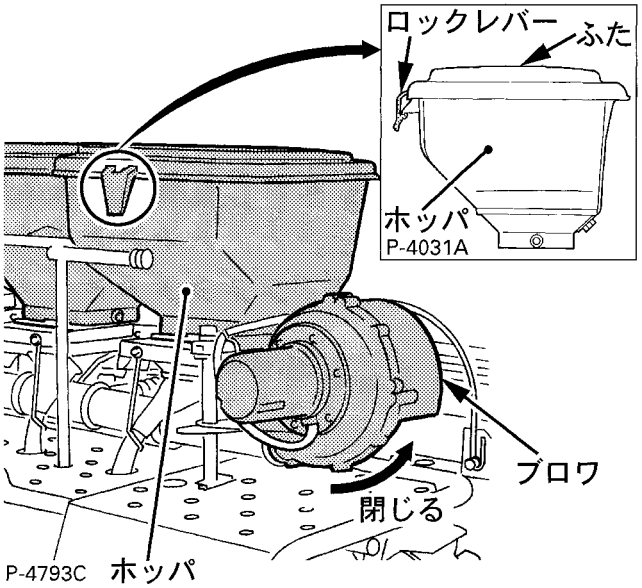
【10・10-8】

8. 折りたたみ式苗のせ台を閉じます。

(72ページ参照)

【10・10-8】

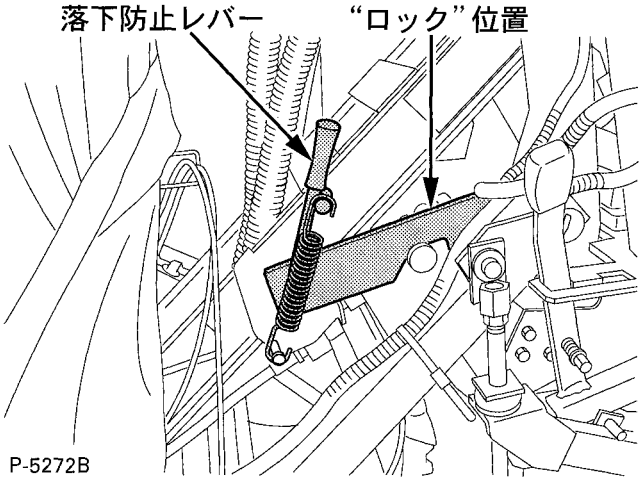
9. ホッパのふたをロックレバーでロックします。**【F仕様】**



10. 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にして下降防止をします。

【10・10-8】

11. 植付部を折りたたんで移動，保管を行なうときは，植付部が下降して後輪と干渉する場合がありますので，以下のとおり植付部の下降防止を行なってください。
植付部を最上昇位置にして，
(1) 油圧ロックレバーを**“閉”**の位置にする。
(2) 落下防止レバーを**“ロック”**位置にする。



P-5272B

重　要

＊作業時は，落下防止レバーは**“解除”**位置にしますが，長期保管時など，植付部がすこし下降して落下防止レバーに荷重が掛かり，**“解除”**できない場合があります。その場合は，駐車ブレーキを掛け，油圧ロックレバーを**“開”**の位置にしてエンジンを始動し，植付部を最上昇位置にして落下防止レバーを**“解除”**してください。

【10・10-8】

移動走行について

■発進のしかた

注 意

＊始動操作は，運転席で必ず行なってください。
＊周囲の人に合図をしてから始動してください。
＊急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。
＊ブレーキペダルを踏込んだあと，再発進するときは主変速レバーを“N”（中立）位置にいったん戻してください。特に後進の場合は急発進するおそれがあります。

1. 運転席の調整をします。

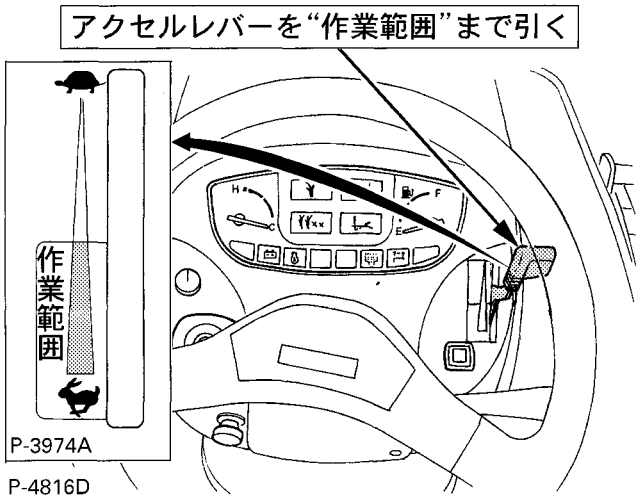
運転席下のスナップピンとロッドを抜いて調整します。（12ページ参照）

2. エンジンを始動します。

（43ページ参照）

【SP仕様除く】

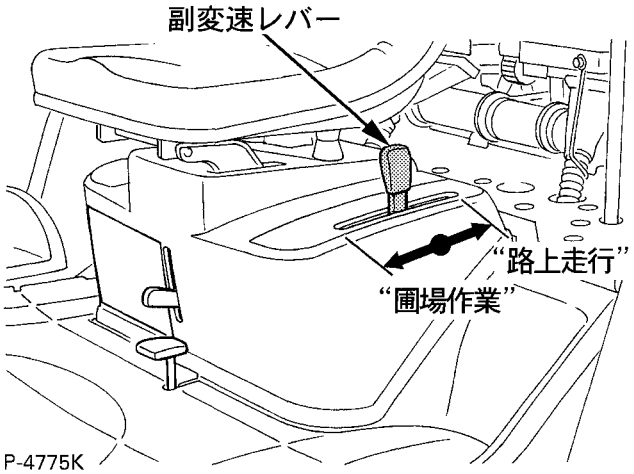
3. アクセルレバーを操作します。



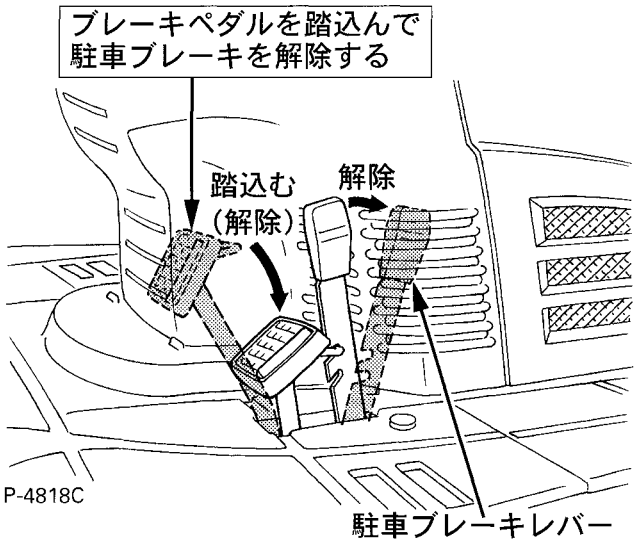
【SP仕様除く】

4. 走行速度を選んで発進します。

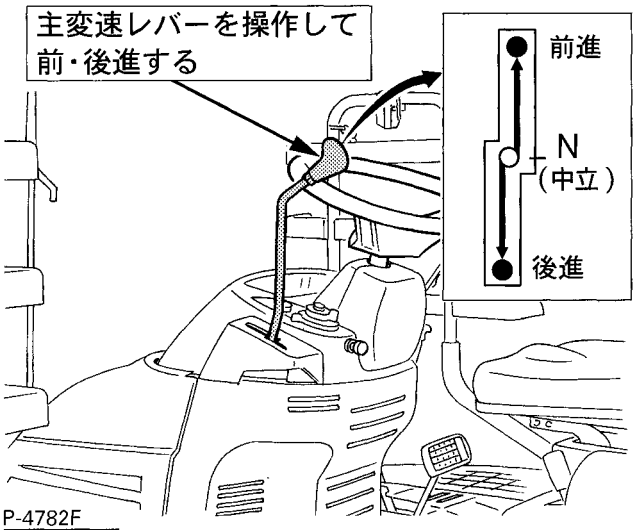
1. 副変速レバーで速度を選びます。



2. ブレーキペダルを離します。駐車ブレーキが掛かっているときは，ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。



3. 主変速レバーを“N”（中立）位置より前に押すと前進し，後に引くと後進します。



P-4782F

重　要

＊副変速レバーの切換えは平坦な場所で主変速レバーを“N”（中立）位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

＊前進中にブレーキペダルを踏込むと，減速すると同時に主変速レバーが強制的に**低速側**に戻ります。また，ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーを**“前進”**の**高速側**へ操作できません。後進中の場合は，ブレーキペダルを踏込んでも主変速レバーの位置はそのままです。

【SP仕様】

＊前進又は，後進中にブレーキペダルを踏込むと，主変速レバーが強制的に**“N”（中立）**位置に戻ります。また，ブレーキペダルを踏込んだ状態では，**“前進”“後進”**への操作はできません。

【SP仕様】

■旋回のしかた

注　意

＊高速走行時，ハンドルを急に操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にハンドルを回します。回す角度に応じて旋回力が変わり，回す角度が大きいほど旋回半径が小さくなります。

重　要

＊砂利道での急旋回は，タイヤが早く摩耗しますので避けてください。

■停車・駐車のしかた

注　意

＊田植機を離れるときは，平坦で安全な場所に置き，植付部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊走行を停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず主変速レバーを操作して停止してください。
＊坂道やあぜ越えなどの斜面では，ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏込んでください。踏込みが足らずクラッチが切れたあと，ブレーキが効く前の中間位置で保持すると，暴走するおそれがあります。
＊坂道で駐車するときは，ブレーキペダルを踏込み，2段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛け，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを**“N”（中立）**位置にします。
2. 停止するときはブレーキペダルを踏込み，駐車するときは駐車ブレーキを掛けます。

【SP仕様除く】

3. アクセルレバーを“🐢”（低回転）位置にします。

【SP仕様除く】

4. エンジンを停止してキースイッチを抜きます。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注 意

＊積込み・積降ろしは平坦地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（30cm以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，田植機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が600kg以上の重量に耐えうる

■田植機の準備

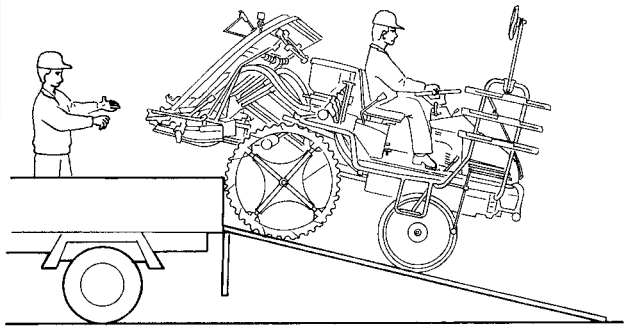
苗のせ台及び予備苗のせ台の苗や苗すくい板はすべて降し，施肥機付きの場合は肥料をすべて排出します。そのあと，ラインマーカ・隣接マーカ・ぴったりマーカ・マスコットを収納し，苗のせ台を機体の中央位置に移動したあと，油圧ロックして下降防止を行ないます。【８】は，苗のせ台を収納し，【10・10-8】は落下防止レバーを“ロック”位置にして苗のせ台を折りたたみます。

■田植機の積込み・積降ろしのしかた

注 意

＊積込みは後進，積降ろしは前進で，エンジン回転を“作業範囲”にして，低速で走行してください。
＊共同作業者は，あゆみ板を走行中の田植機からは離れてください。
＊平坦地を選び，できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なってください。また，田植機の周辺に人を近づけないでください。

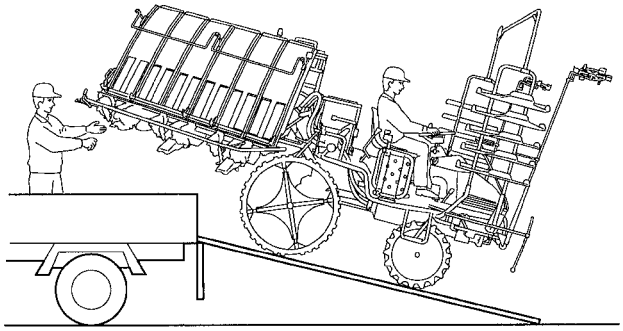
【6・8】



P-4800A

【6・8】

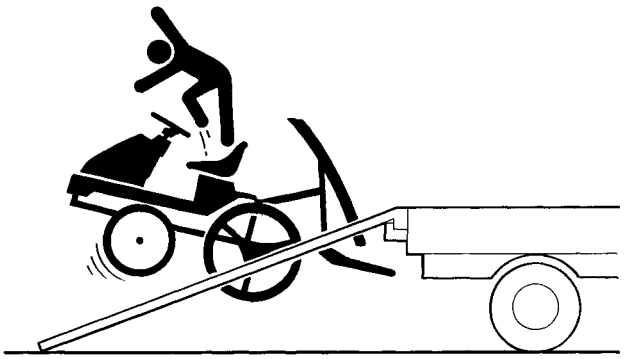
【10・10-8】



P-5192A　※イラストは【10】

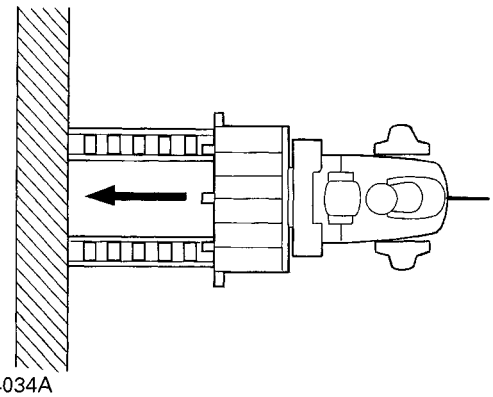
【10・10-8】

＊あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込むと，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



P-4033A

1. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を**“作業範囲”**内に調整し，副変速レバーを**“圃場作業”**位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で走行します。
2. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左，右の前輪と後輪の中心を合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから前輪デフロックペダルを踏込み，斜面に対して直角に積込み・積降ろしをしてください。



P-4034A

3. 荷台に乗り終わると駐車ブレーキを掛けて，走行を停止します。

■トラック上での処置

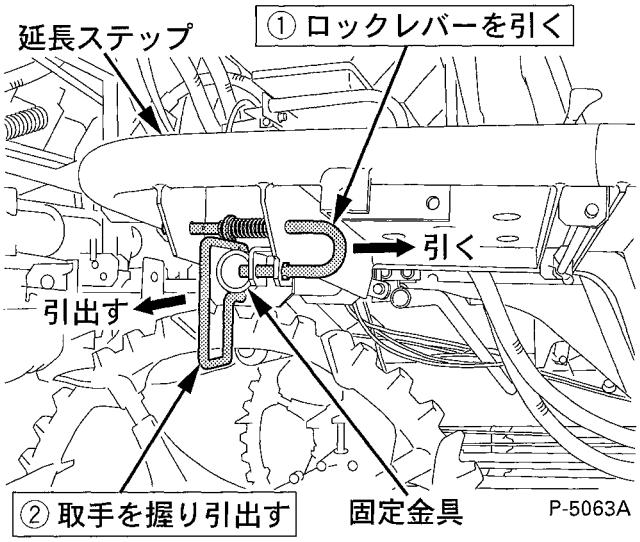
注 意

＊駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

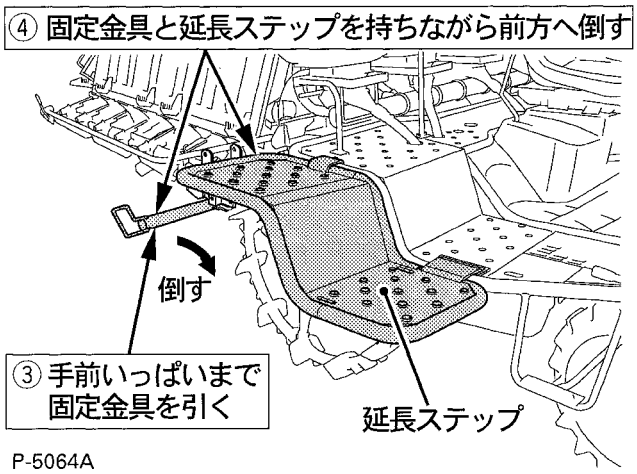
1. エンジンを停止します。
2. 副変速レバーを**“圃場作業”**位置にします。

【10・10-8】

3. 機体から降りて，左・右の延長ステップを収納します。



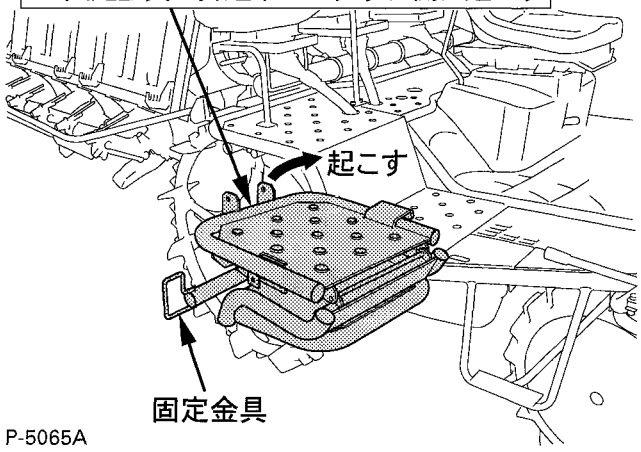
P-5063A



P-5064A

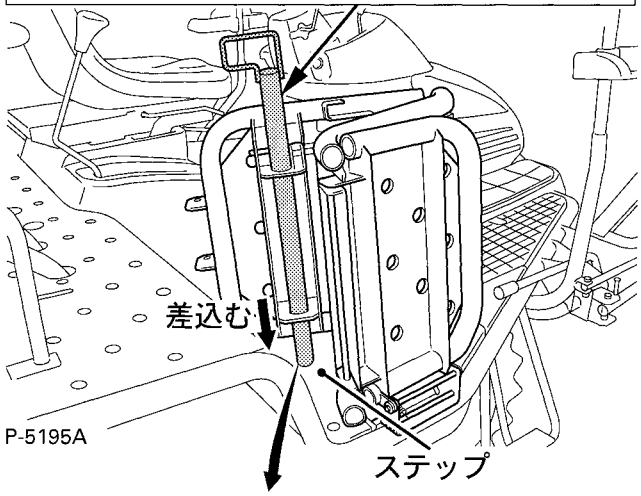
輸送について

⑤ 折りたたんだ延長ステップと
固定金具を持上げてステップ側に起こす

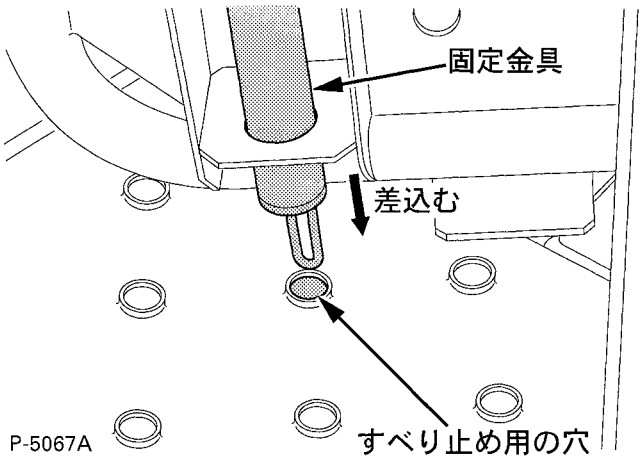


P-5065A

⑥ 固定金具とステップのすべり止め用の穴に差込む



P-5195A



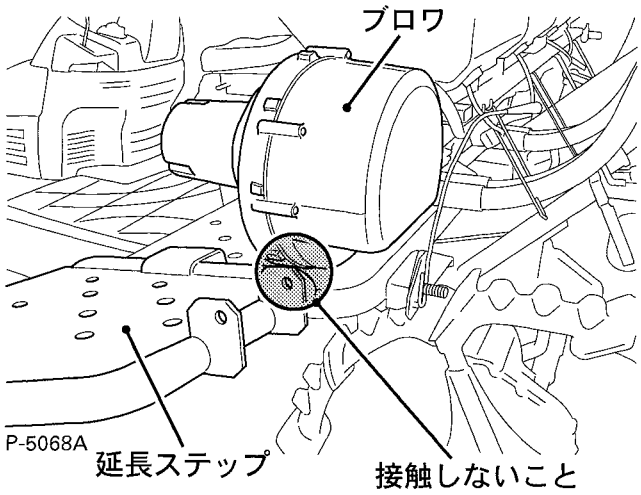
P-5067A

同じ要領で左側の延長ステップも収納します。

【F仕様】

重 要

＊左側の延長ステップを前方へ倒すとき，ブロワに接触しないようにしてください。破損するおそれがあります。



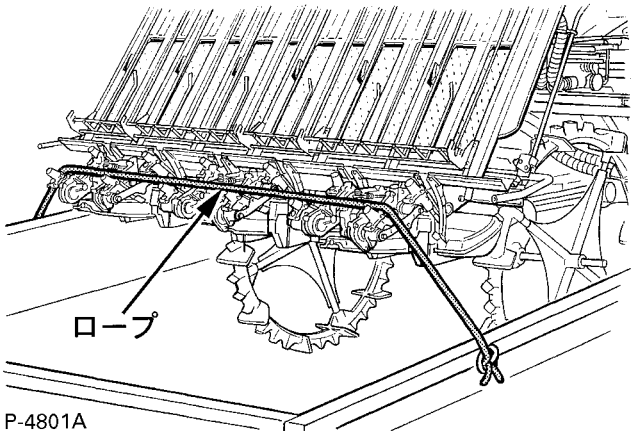
P-5068A

【F仕様】

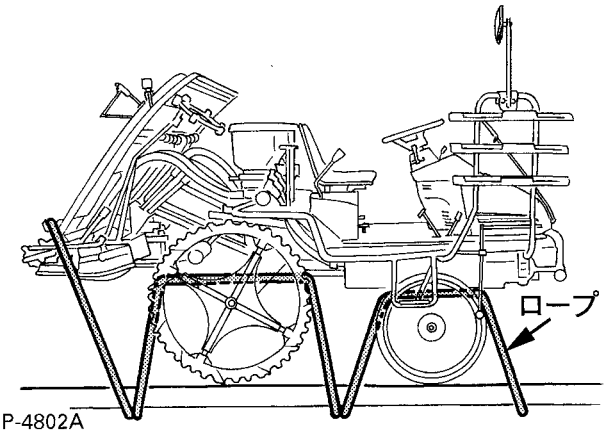
【10・10-8】

4. 植付部を最上昇位置にし，植付部がバウンドしないように，軽くロープ掛けします。
5. 車輪にロープを掛けて固定します。

【6・8】



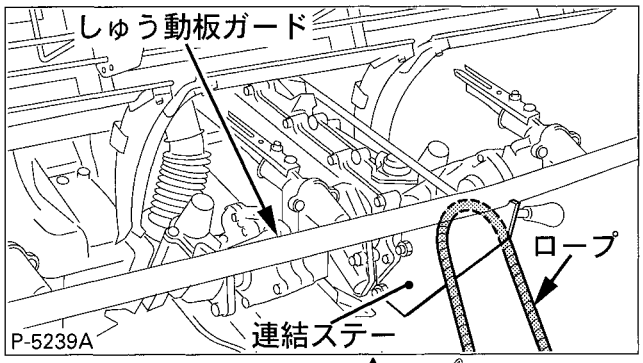
P-4801A



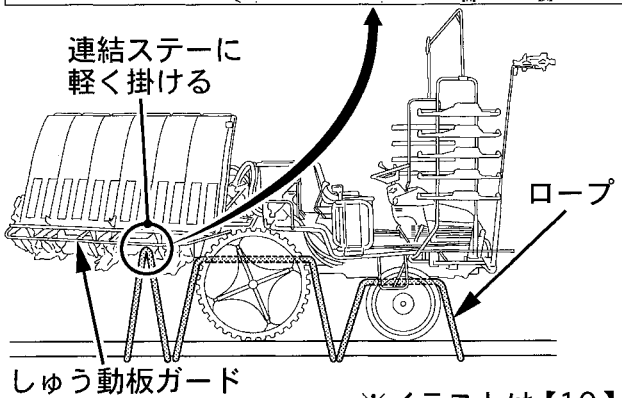
P-4802A

【6・8】

【10・10-8】



P-5239A



P-5238A

※イラストは【10】

重 要

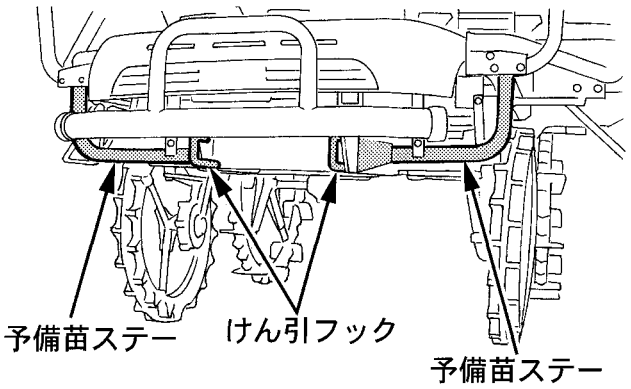
＊しゅう動板ガードにロープを掛けると変形するおそれがあるので，ロープは必ず連絡ステーに掛けてください。

【10・10-8】

重 要

＊機体前部にロープを掛けるときは，けん引フックに必ず掛けてください。また，予備苗ステーにはロープを絶対に掛けないでください。予備苗ステーが破損します。

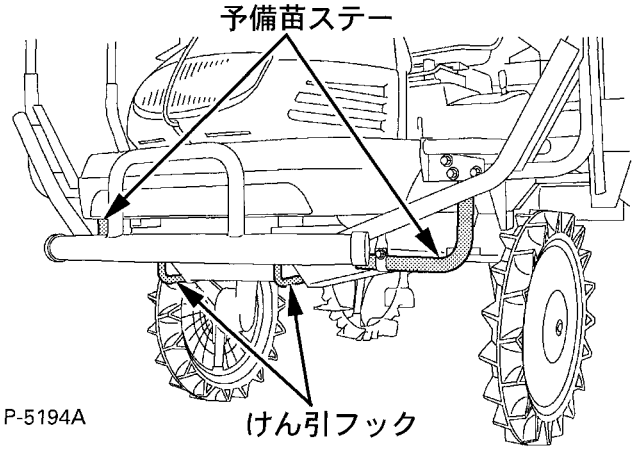
【6・8】



P-4803A

【6・8】

【10・10-8】



P-5194A

【10・10-8】

＊施肥部にロープは掛けないでください。破損の原因となります。【F仕様】

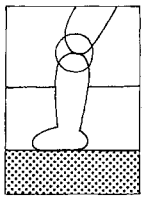
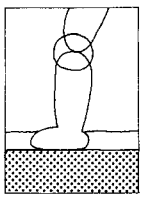
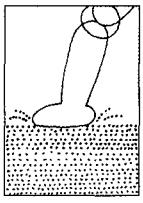
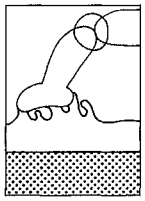
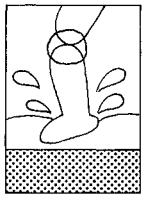
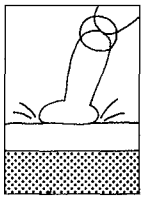
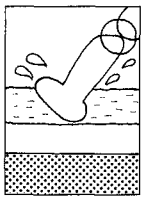
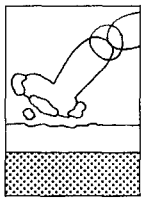
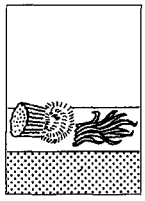
田植作業のしかた

ほ場と苗の条件

ほ場の条件，苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先，又はJA（農協）にご相談ください。

■ほ場条件

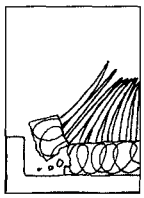
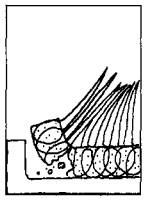
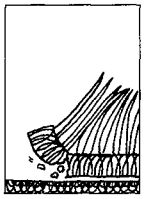
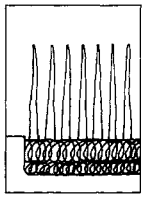
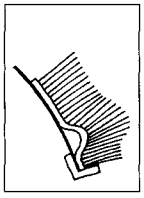
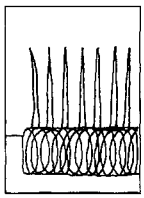
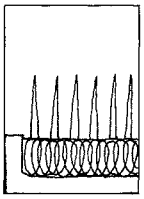
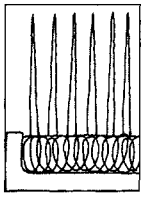
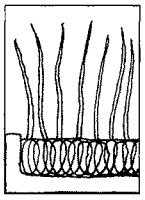
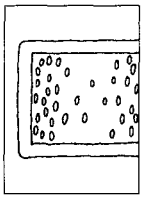
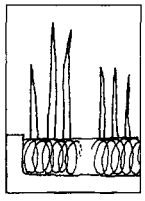
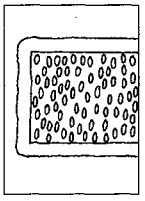
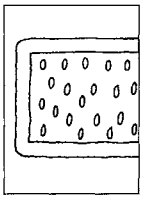
ほ場づくりは，作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので，最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）や経験者に相談して，作物に適したほ場づくりをしてください。

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）	
深　さ	 ①耕盤までの深さが30cm以上ある深いほ場。	 ②耕盤までの深さが10cm以下の浅いほ場。
土　質	 ①砂質の多いほ場(手植えでも植えにくいほどの硬いほ場)。	 ②強粘土質のほ場(歩くのが困難な粘いほ場)。
硬　さ	 ①代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場(歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場)。	 ②代かき後，日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場(手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場)。
水　深	 ①水深の平均が3cmを越える水の多いほ場。	 ②水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 ①裏作跡などで，刈り株・排わら又は雑草がじゅうぶん腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

P-0280

■苗条件

苗づくりは，各地の指導指針や最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）の指導を仰いだり，経験者に相談して，良い苗（健苗）づくりを行なってください。

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）			
苗　床		①砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。		②根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。
		③根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。		④根の張り過ぎた，植付け爪のささりにくい苗。
		⑤苗床厚(マット厚)が2cm以下の，薄い苗。		⑥苗床厚(マット厚)が4cm以上の，厚い苗。
草　丈		①草丈が8cm以下の，短い苗。		②草丈が20cm以上の，長い苗。
素　質		①軟弱徒長苗。		②播種ムラのひどい苗。
		③成育ムラや成育不良のある苗。		
播種量		①催芽もみで，1箱当り250g以上の，厚播きの苗。		②催芽もみで，1箱当り100g以下の，薄播きの苗。

P-0280

田植機の準備

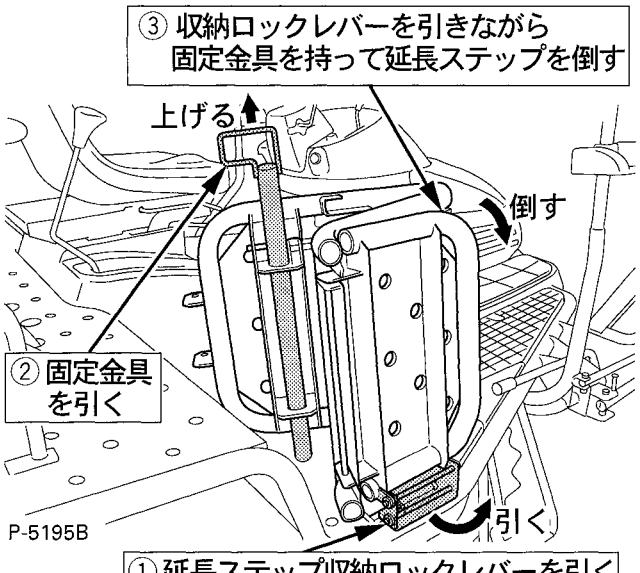
警 告

＊平坦な場所に置き，エンジンは必ず止めてください。
＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

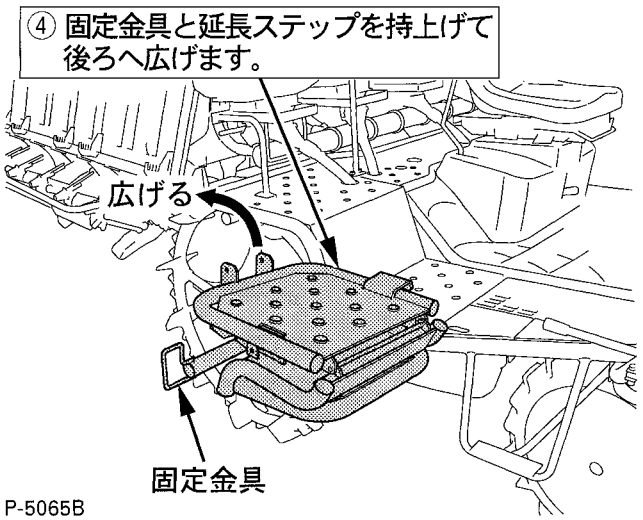
■作業前の準備

1. 延長ステップのセット【10・10-8】

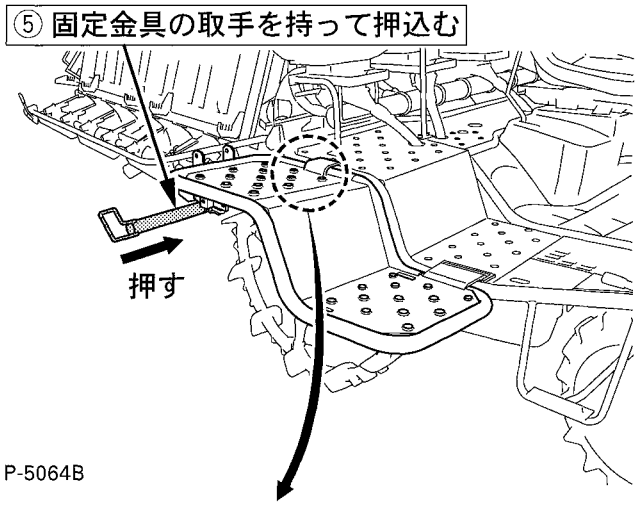
左・右の延長ステップを広げて作業状態にします。



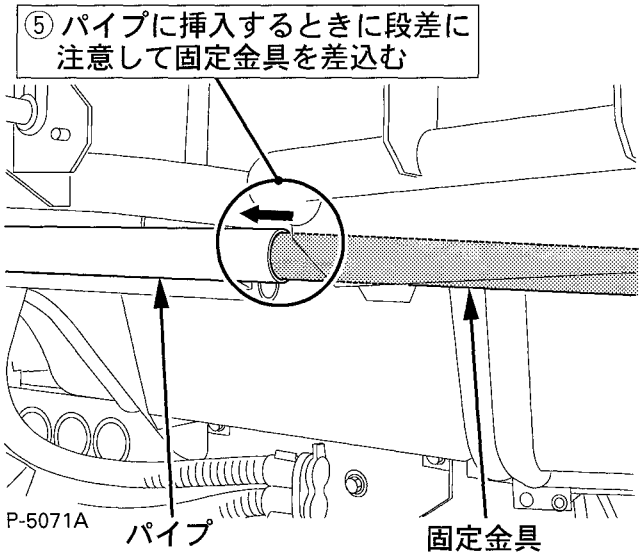
P-5195B



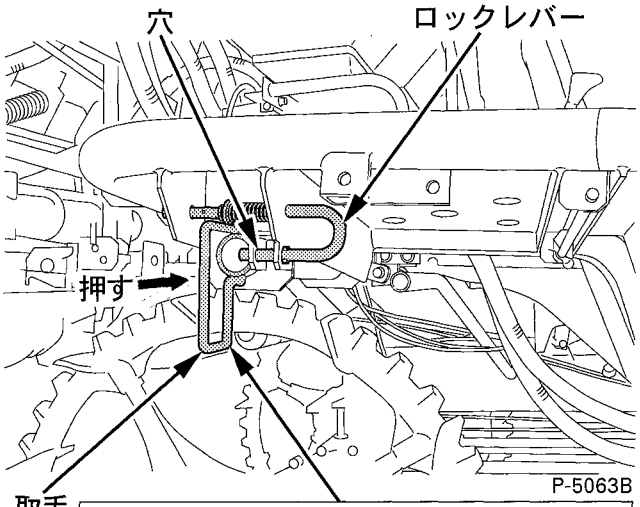
P-5065B



P-5064B



P-5071A



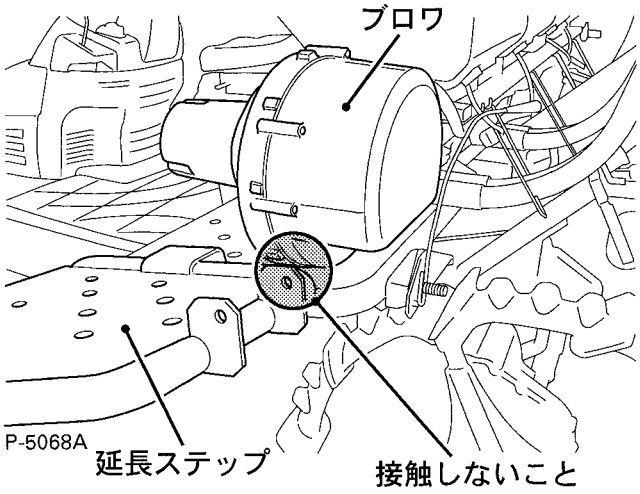
P-5063B

同じ要領で左側の延長ステップを広げます。

【F仕様】

重　要

＊左側の延長ステップを後方に広げるとき，ブロワに接触しないようにしてください。破損するおそれがあります。

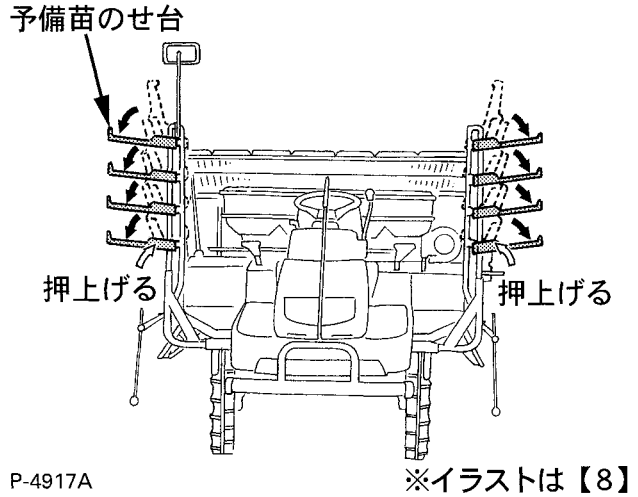


【F仕様】

2. 予備苗のせ台のセット

【6・8】

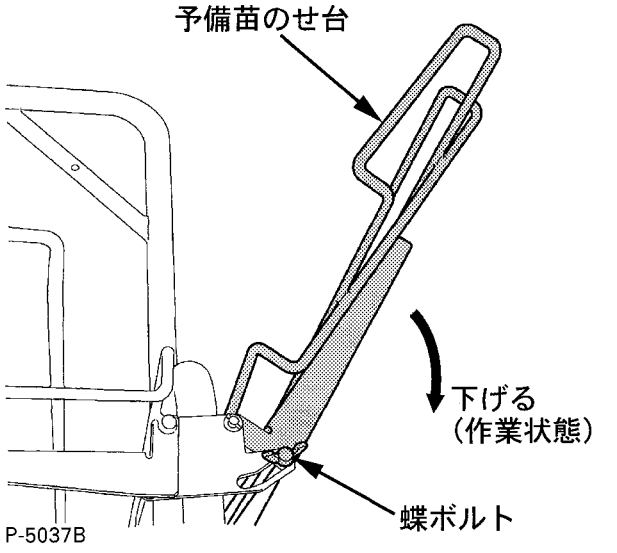
予備苗のせ台をいったん押上げて，取付穴からフック部を外して作業状態にします。

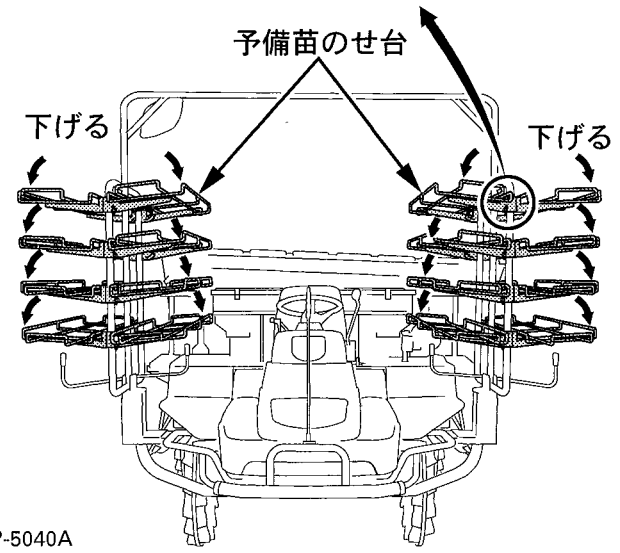


【6・8】

【8CY32仕様】

各予備苗のせ台の蝶ボルトを下段からゆるめて，各予備苗のせ台を下げて作業状態にセットします。（31ページ参照）

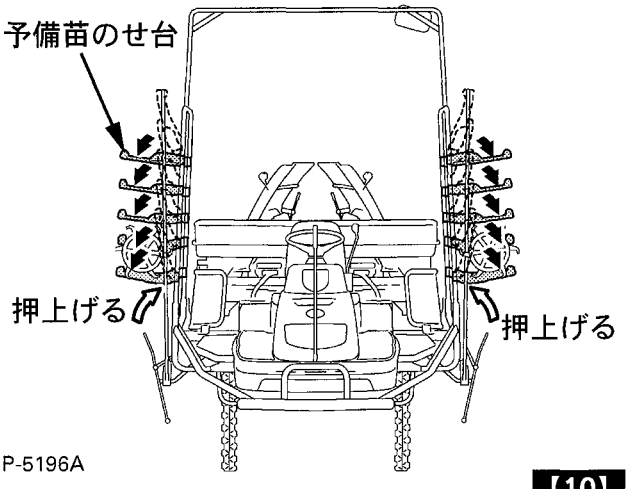




【8CY32仕様】

【10】

各予備苗のせ台をいったん押上げて，取付穴からフック部を外して作業状態にします。



【10】

3. 苗のせ台のセット

【8】

67ページを参照して広げてください。

【8】

【10・10-8】

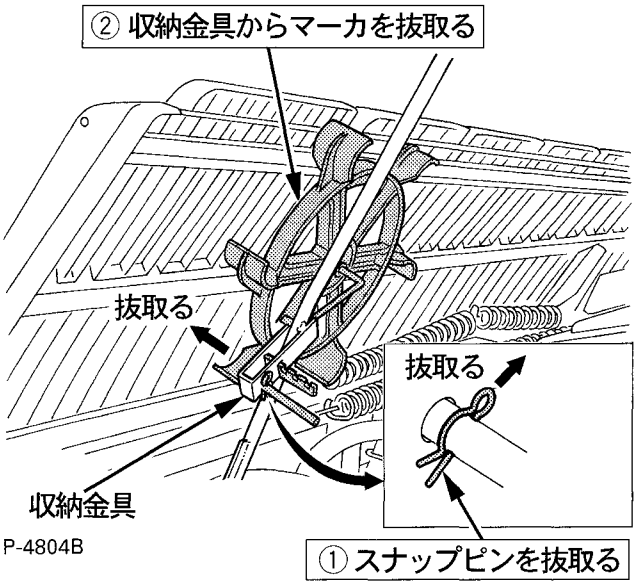
75ページを参照して広げてください。

【10・10-8】

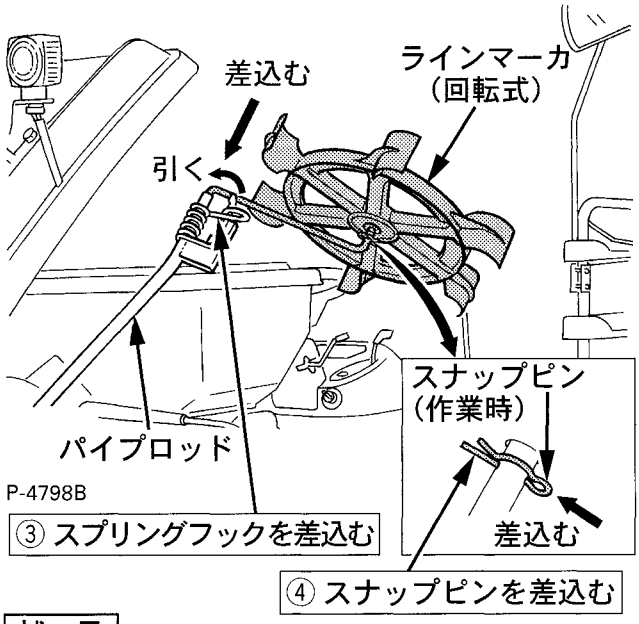
4. ラインマーカのセット

【6・8】

(1)マーカ落下防止のスナップピンを収納時用の穴から抜取り，収納金具からマーカ先端部を抜取り**【8のみ】**，スプリングフックを引きながらパイプロッドに差込んだあと，スナップピンを作業時用の穴に差込みます。



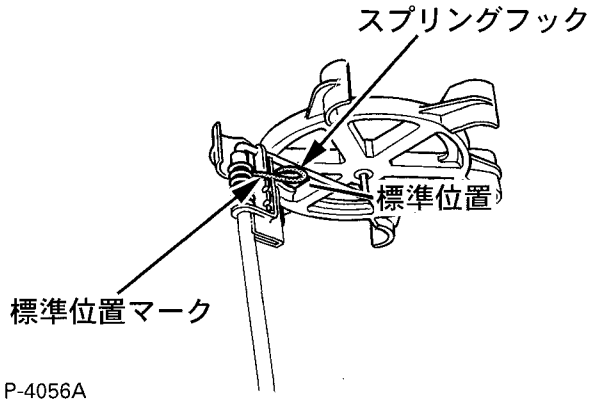
P-4804B



P-4798B

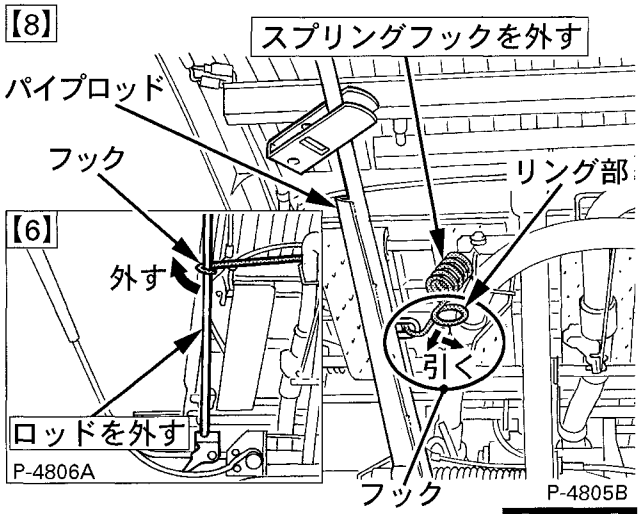
補　足

＊マーカをパイプロッドに差込んだあと，スプリングフックを先端側の切欠溝（標準位置マーク）に左，右共ロックしてください。



P-4056A

(2)【8】はスプリングフックのリング部を引きながら，内側へ引張ってフックを外します。【6】はフックからマーカのロッドを外します。

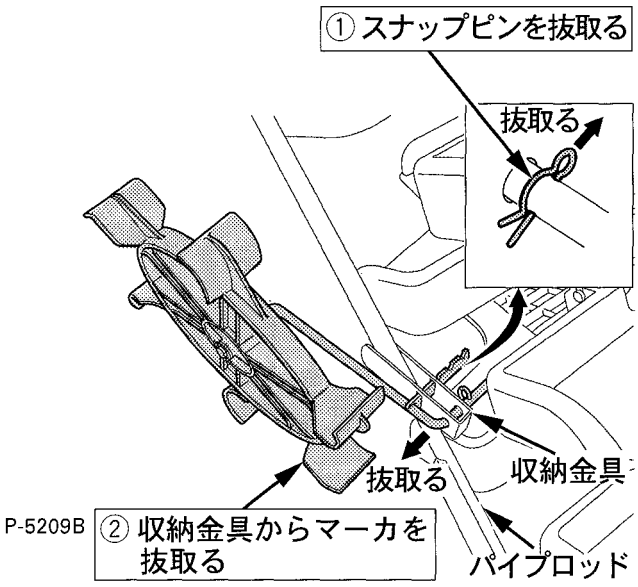


P-4806A　P-4805B

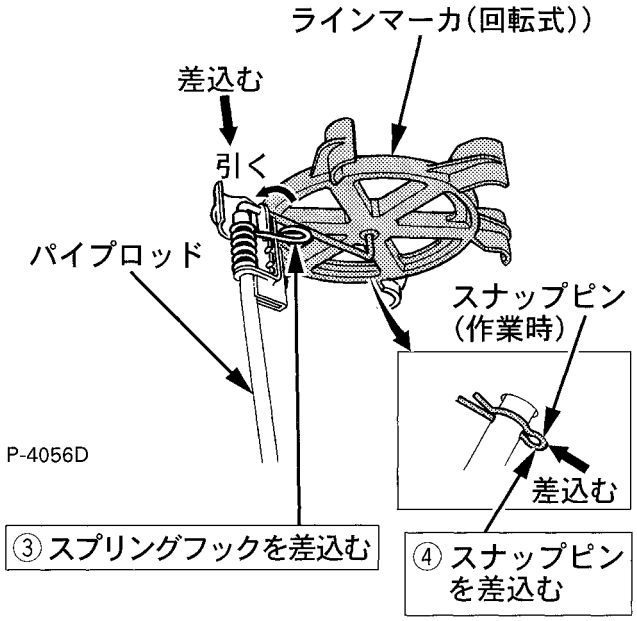
【6・8】

【10・10-8】

(1)マーカ落下防止のスナップピンを収納時用の穴から抜取り，収納金具からマーカ先端部を抜取り，スプリングフックを引きながらパイプロッドに差込んだあと，スナップピンを作業時用の穴に差込みます。



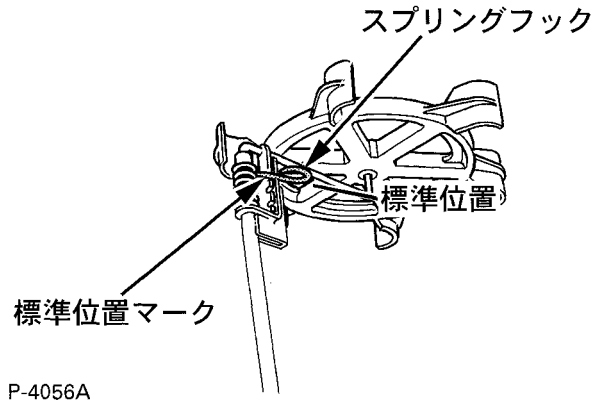
P-5209B



P-4056D

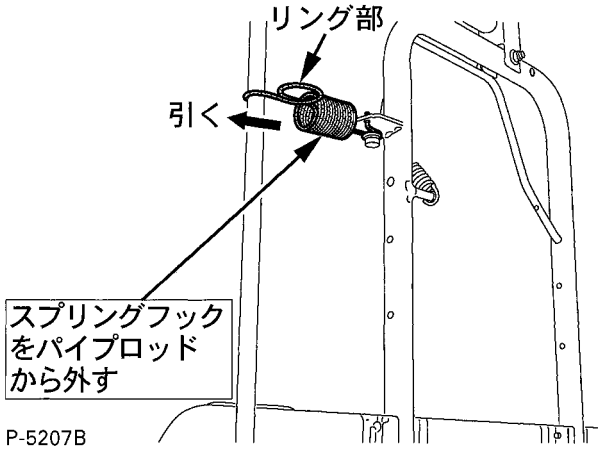
補　足

＊マーカをパイプロッドに差込んだあと，スプリングフックを先端側の切欠溝（標準位置マーク）に左，右共ロックしてください。



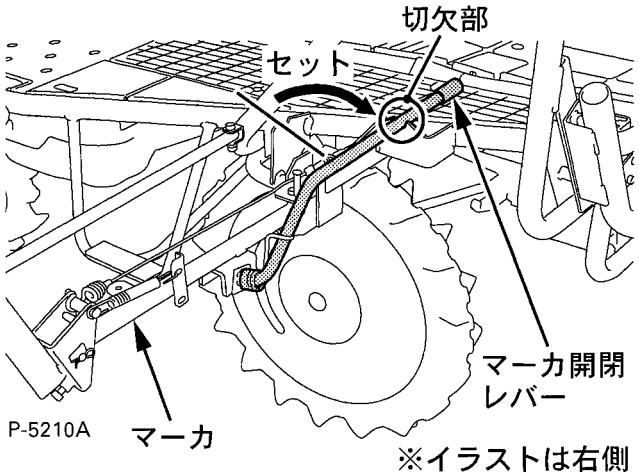
P-4056A

(2) スプリングフックのリング部を引きながら，フックからマーカのパイプロッドを外します。



P-5207B

(3) マーカ開閉レバーを作業位置の切欠部に回動して，左，右のマーカを作業状態にします。



P-5210A

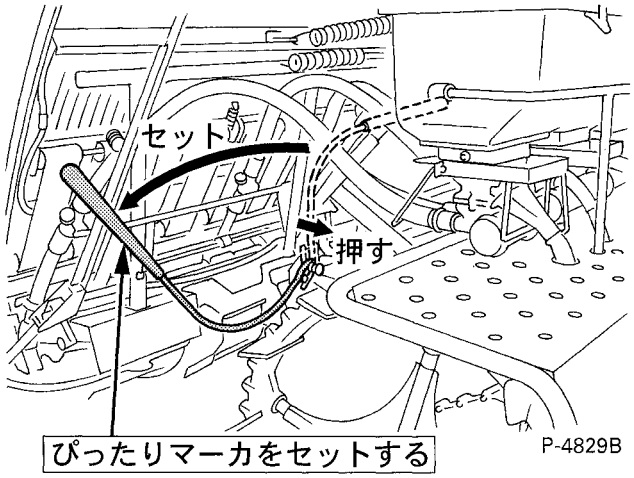
※イラストは右側

【10・10-8】

田植機の準備

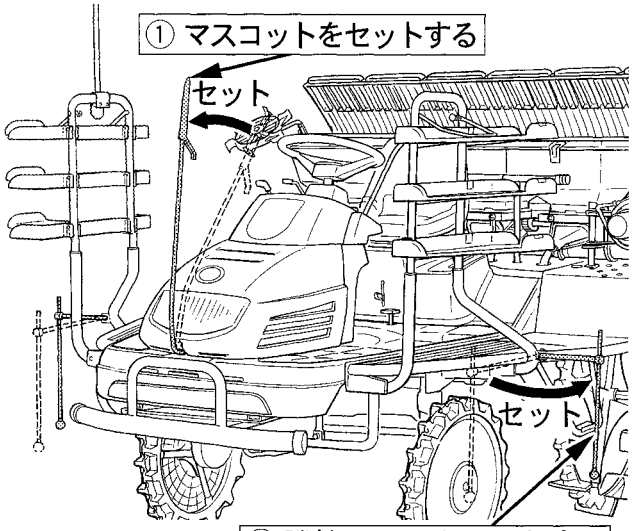
5. ぴったりマーカのセット

必要に応じてぴったりマーカを矢印方向に押してロックを外し，作業状態にセットします。



6. 隣接マーカとマスコットのセット

隣接マーカとマスコットを作業状態にセットします。



※イラストは【6】

7. 各レバー・ダイヤルのセット

各レバー・ダイヤルの設定を行ないます。

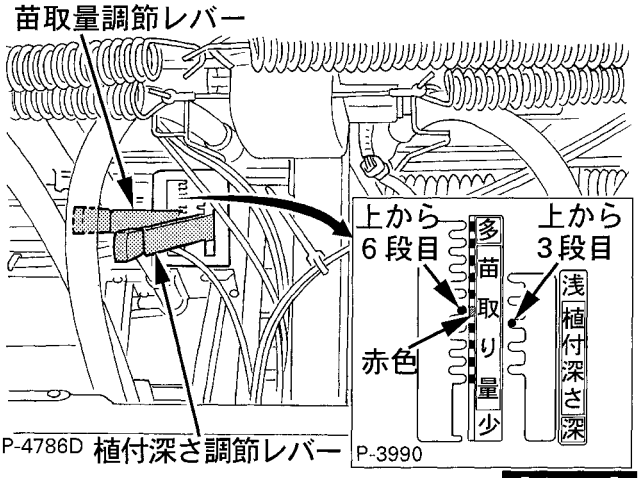
補　足

＊下記各レバー・ダイヤルの設定位置は目安です。

●植付深さ調節レバー，苗取量調節レバー

【6・8】

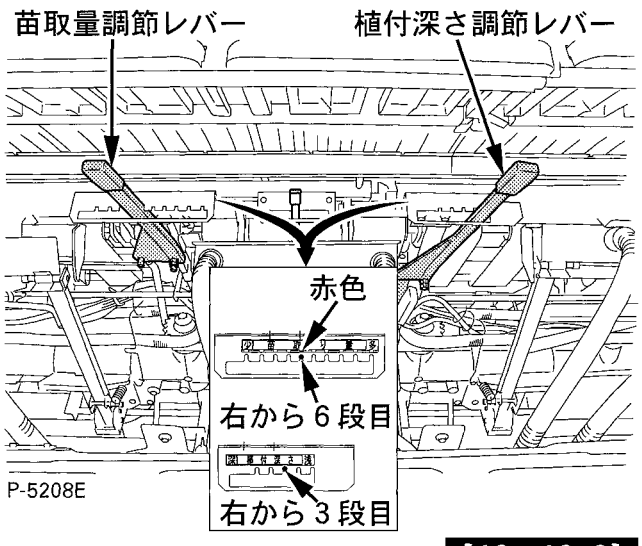
植付深さ調節レバーを上（**“浅”**い）から**3段目**の切欠位置にし，苗取量調節レバーを上（**“多”**い）から**6段目**（ラベルの**赤印**）の切欠位置にします。



【6・8】

【10・10-8】

植付深さ調節レバーを右（**“浅”**い）から**3段目**の切欠位置にし，苗取量調節レバーを右（**“多”**い）から**6段目**（ラベルの**赤印**）の切欠位置にします。

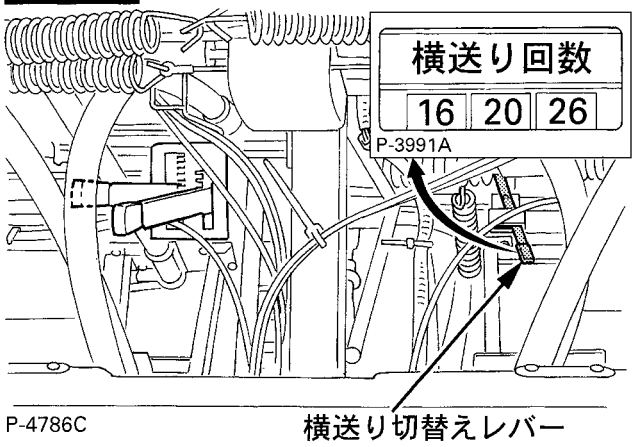


【10・10-8】

●横送り切替えレバー

苗の状態により横送り切替えレバーを動かして横送り回数（16回〔成苗〕・20回〔中苗〕・26回〔稚苗〕）を選択し設定します。

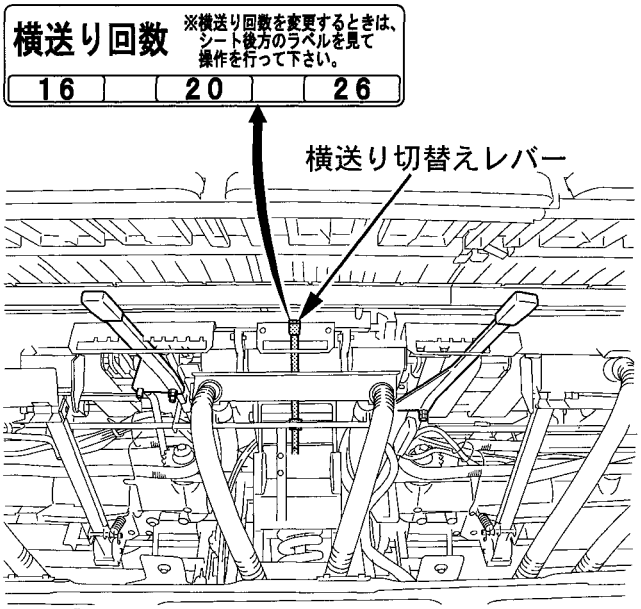
【6・8】



P-4786C

【6・8】

【10・10-8】

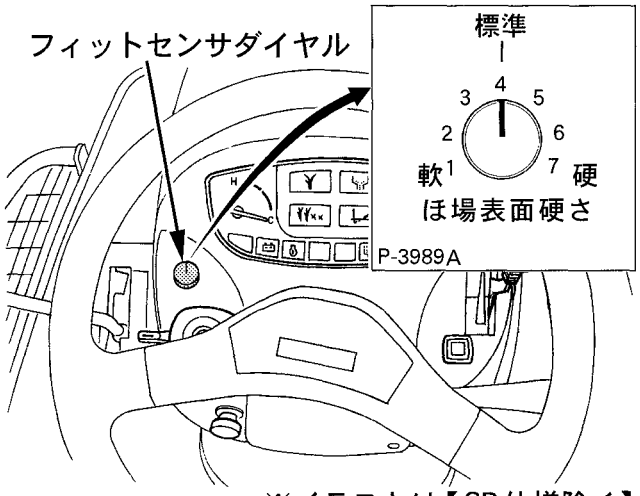


P-5208D

【10・10-8】

●フィットセンサ

フィットセンサダイヤルを“4”の位置にします。

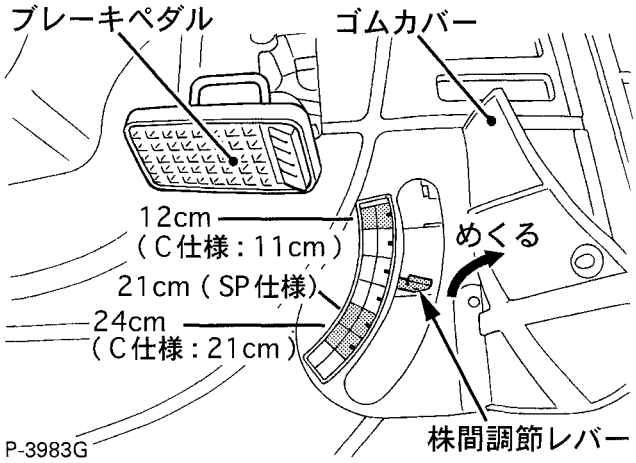


P-4816F

※イラストは【SP仕様除く】

●株間調節レバー

ステップ右側のゴムカバーをめくり株間調節レバーを動かして12cm（C仕様：11cm)から24cm（C仕様，SP仕様：21cm）の間（6段階，SP仕様は5段階）から選択し，株間を設定します。



P-3983G

補　足

＊レバーの位置を切替えるときは，副変速レバーを“N”（中立）位置にし，エンジンを始動したあと，主変速レバーを前進側に少し動かしてください。

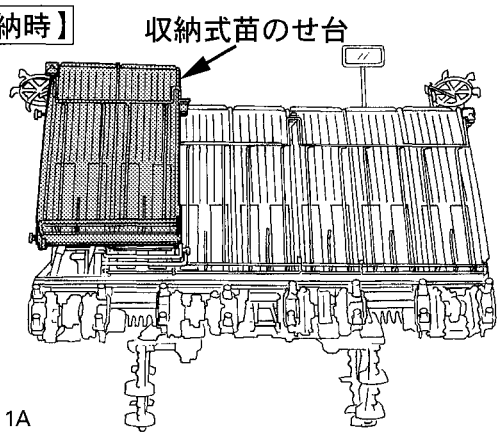
田植機の準備

■苗のせ台の折りたたみ・広げかた

【8, 8CY32仕様】

> **注 意**
> ＊水平な平坦な場所で，駐車ブレーキを掛けて行なってください。

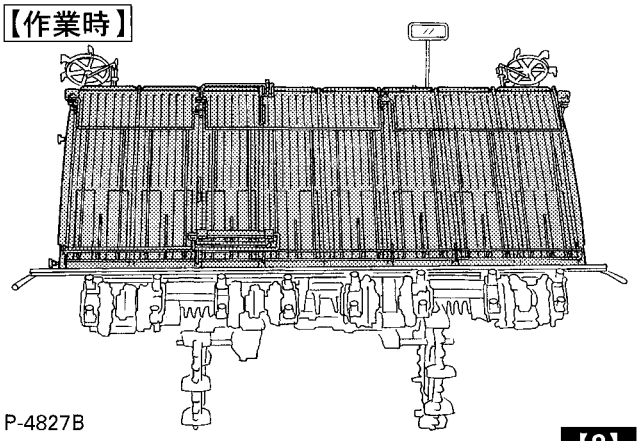
【収納時】



P-5211A

【8】

【作業時】

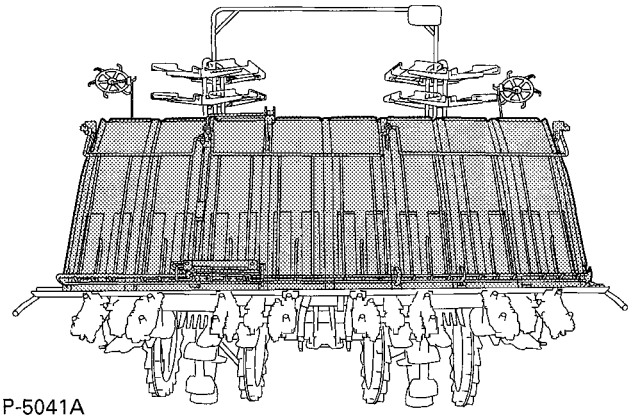


P-4827B

【8】

【8CY32仕様】

【作業時】

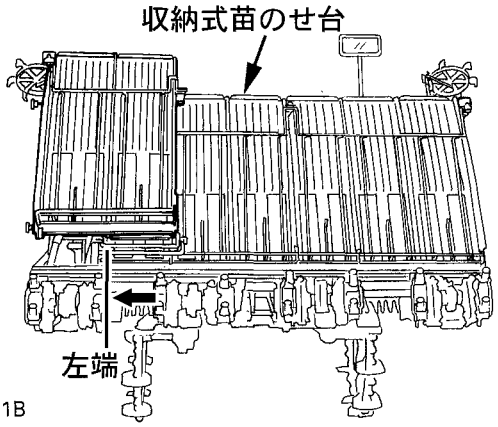


P-5041A

【8CY32仕様】

◆広げかた

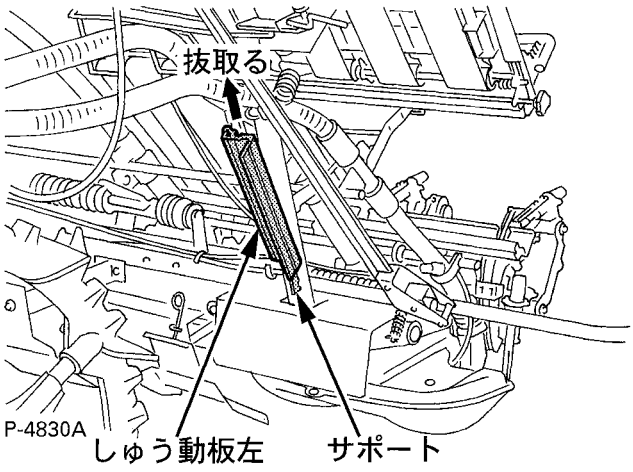
1. 主変速レバーを**“N”（中立）**位置にし，駐車ブレーキを掛けたあと，エンジンを始動します。
2. 十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させたあと，油圧ロックレバーを**“閉”**位置にして植付部の下降防止を行ない，エンジンを停止します。
3. 苗のせ台が機体の**左端**の位置にあることを確認します。



P-5211B

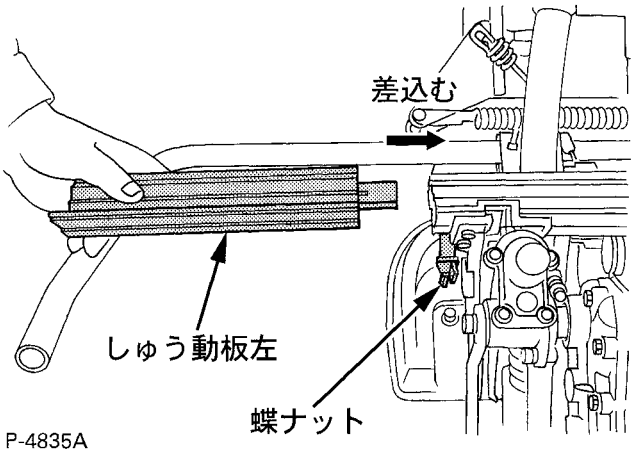
4. 脱着式のしゅう動板左をサポートから抜取って，本体側に取付けます。

(1) しゅう動板左を抜取ります。

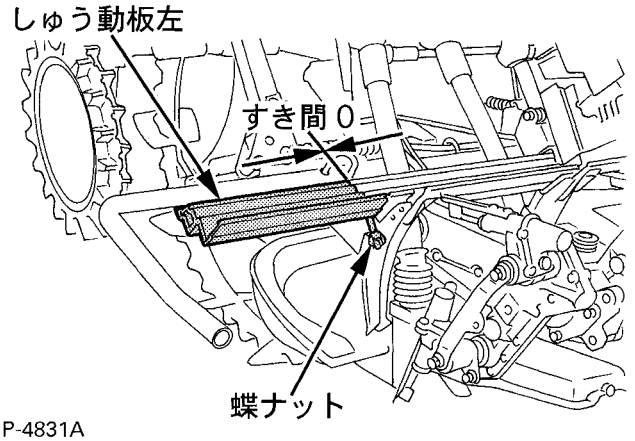


P-4830A

(2) 蝶ナットをゆるめ，下図の方向にすき間のない（すき間０）ように差込み，蝶ナットで締付けます。



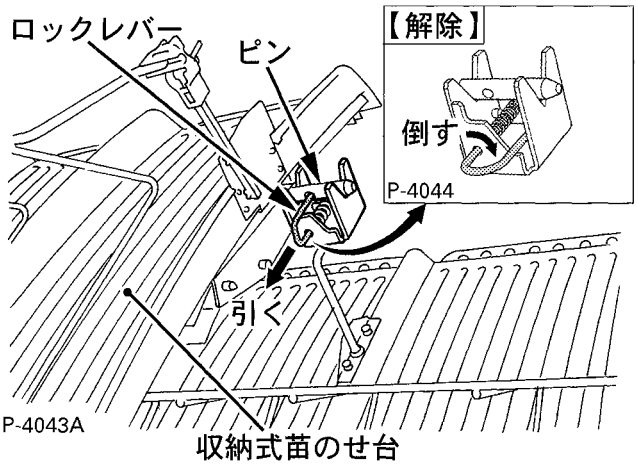
P-4835A



P-4831A

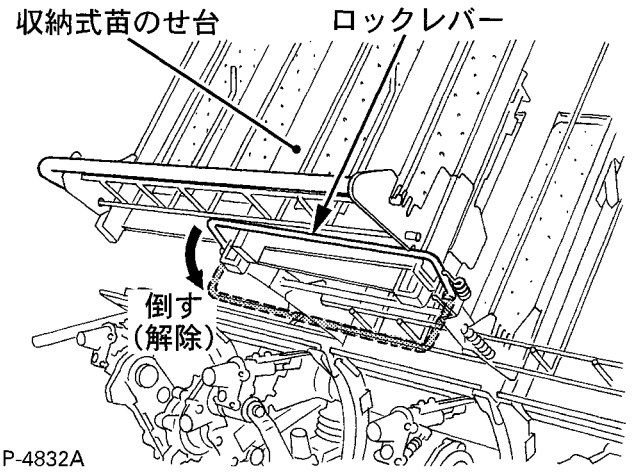
5. 収納式苗のせ台のロックを解除します。

(1) 右上部ピン部を固定しているロックレバーを，下側に引きながら右側に倒して，ロックを解除します。



P-4043A

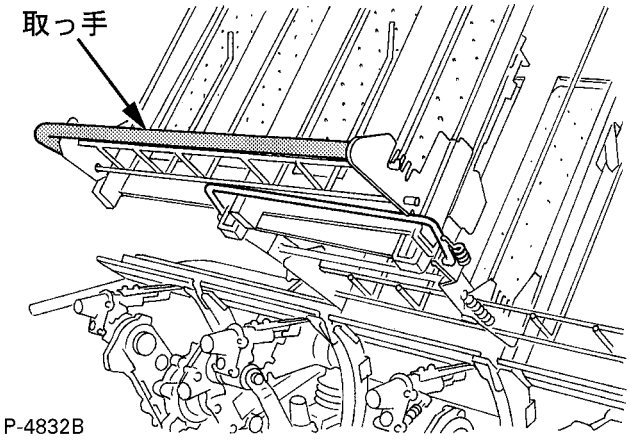
(2) 下部を固定しているロックレバーを下側に倒してロックを解除します。



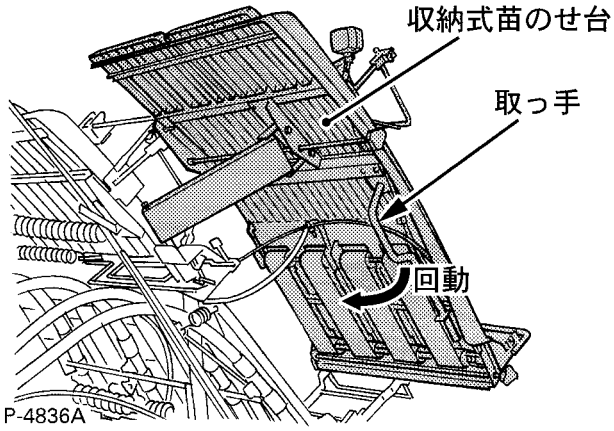
P-4832A

田植機の準備

6. 両手で収納式苗のせ台を持上げて左側に回動します。



P-4832B



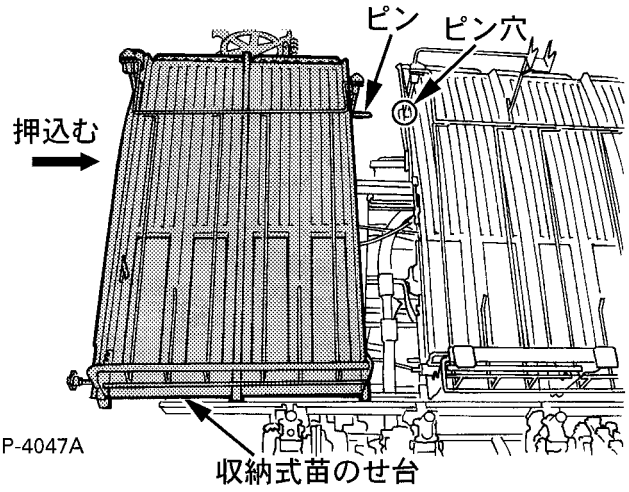
P-4836A

7. レバーグリップを握りながら収納式苗のせ台の外側端部の取っ手を持ち，中央側へ押込みます。このとき，本機側苗のせ台上部にあるピン穴にピンを差込み，苗のせ台上部**“収納位置（▲）”**ラベルに**“収納”**位置が合う位置まで押込みます。

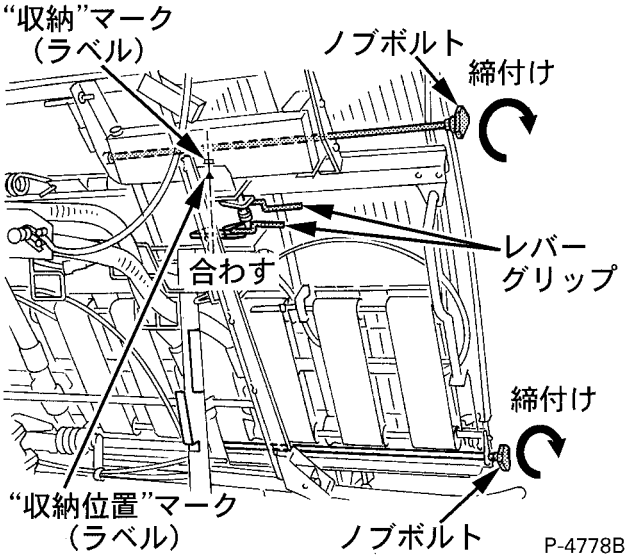
補　足

＊ピン部がピン穴に確実に差込まれることを確認して押込んでください。

8. 左端部にある上，下２箇所のノブボルトを締付けます。



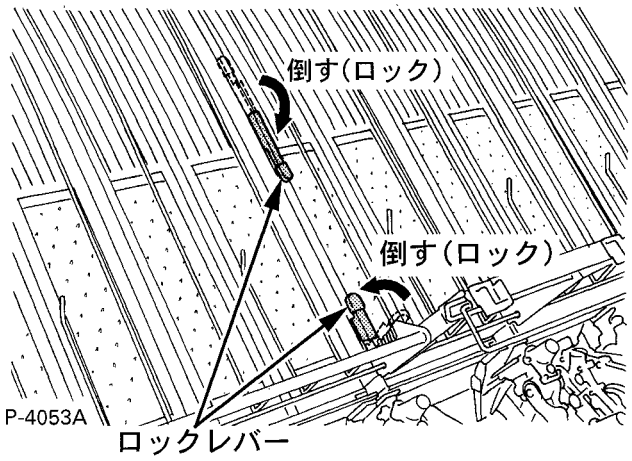
P-4047A



P-4778B

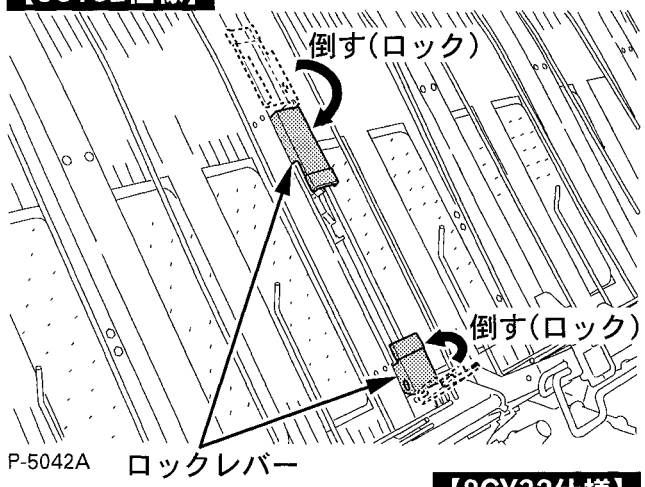
9. 苗のせ台側にある２箇所のロックレバーで本機側と固定するためにそれぞれ倒してロックします。

【8】



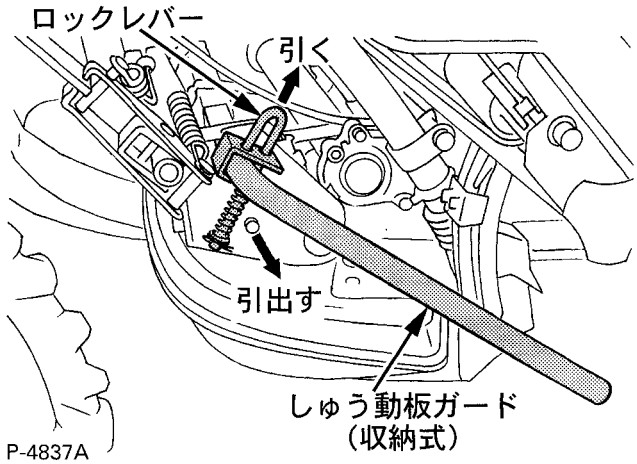
【8】

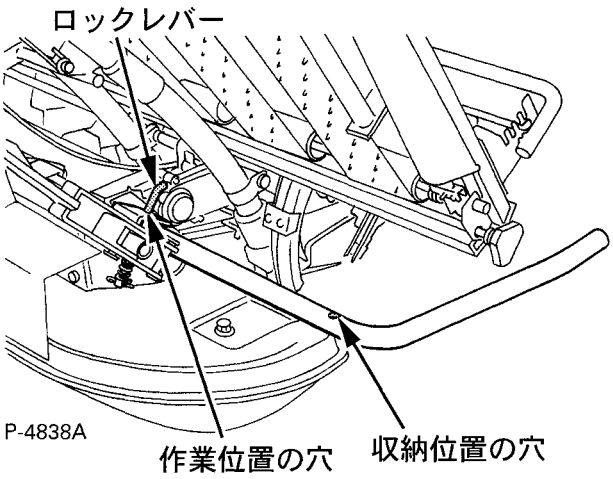
【8CY32仕様】



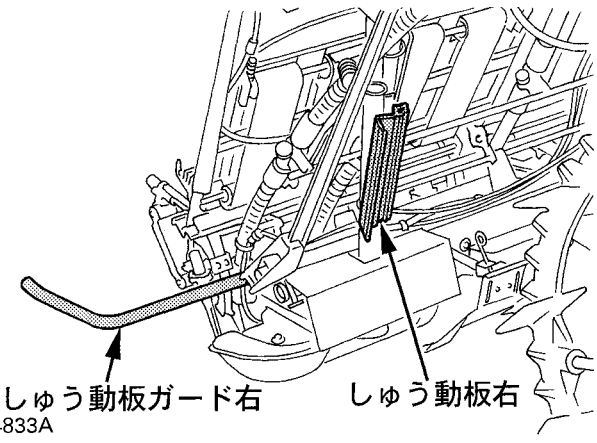
【8CY32仕様】

10. 収納式のしゅう動板ガード左を作業状態の位置にします。
(1) ロックレバーを上側に引きながらしゅう動板ガードを引出します。
(2) しゅう動板ガード左の作業位置の穴にロックレバーを差込みます。





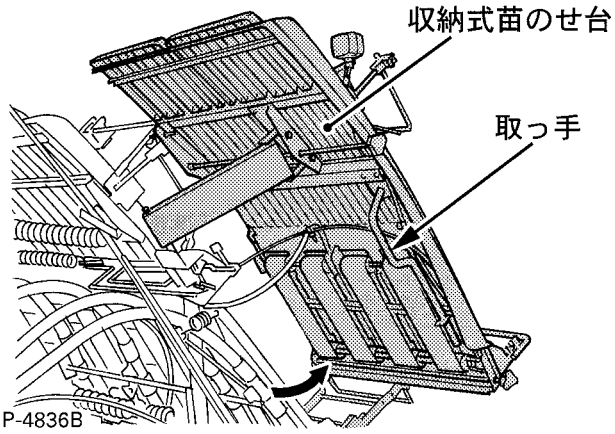
11. 右側のしゅう動板としゅう動板ガードを手順4.と10.と同じ要領でセットします。



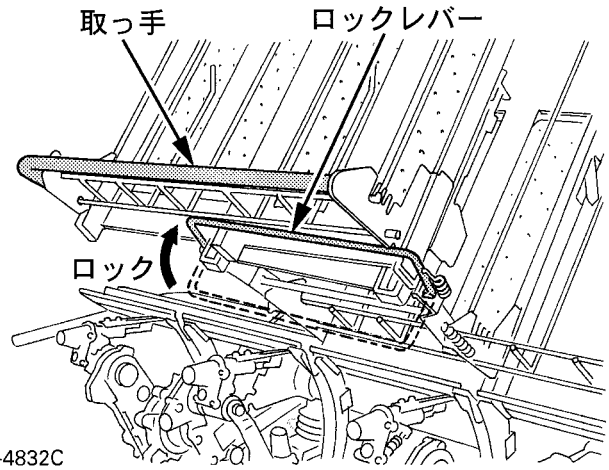
田植機の準備

◆折りたたみかた

1. **広げかた**の手順1., 2.を行ないます。
2. 左端まで苗のせ台を寄せます。(50ページ参照)
3. 苗のせ台側にある２箇所のロックレバーを上げて，ロックを解除します。
4. 収納式のしゅう動板ガード左を収納します。
5. 左端部にある２箇所のノブボルトをゆるめて外します。
6. 収納式苗のせ台の外側端部の取っ手を持ち，ロックする外側いっぱいまで引張ります。
7. 両手で収納式苗のせ台を持上げます。
8. 収納位置にしたあと，収納式苗のせ台の右上部と下部をロックレバーでロックします。



P-4836B



P-4832C

9. 脱着式のしゅう動板左を取外したあと，サポートに収納します。

補　足

＊しゅう動板はなくさないように確実にサポートに収納してください。

10. 右側のしゅう動板ガードとしゅう動板を手順4.と9.と同じ要領で収納します。

【8，8CY32仕様】

【10・10-8】

注　意

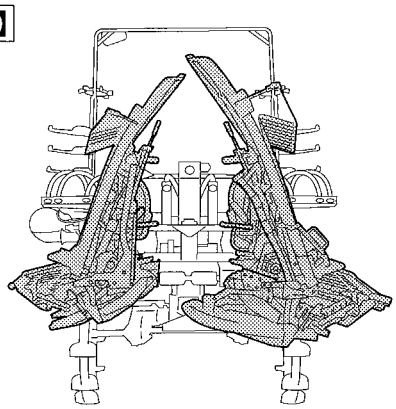
＊水平な平坦な場所で，駐車ブレーキを掛けて行なってください。

＊周囲に人がいないことを確認し，植付部にはさまれないようにしてください。

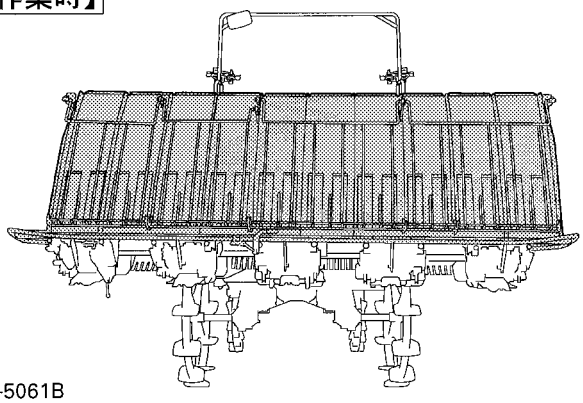
重　要

＊植付作業中に，各ロックレバーを解除（**“折り畳み”位置**）にしないでください。故障の原因となります。

【収納時】

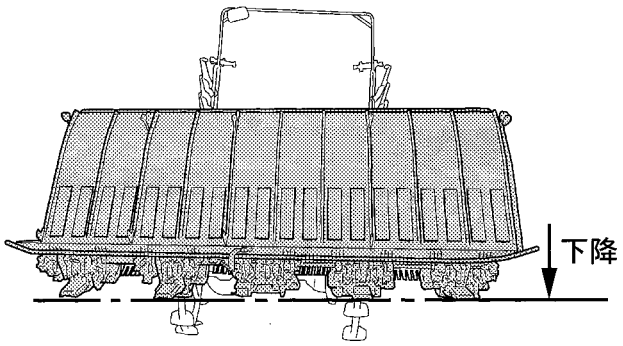

P-5197A

【作業時】


P-5061B

◆折りたたみかた

1. 平坦な場所で走行を停止します。
2. 十字ポンパレバーを“下”（下降）側に操作して植付部のリンクが水平状態になる程度まで下降させます。（21ページ参照）

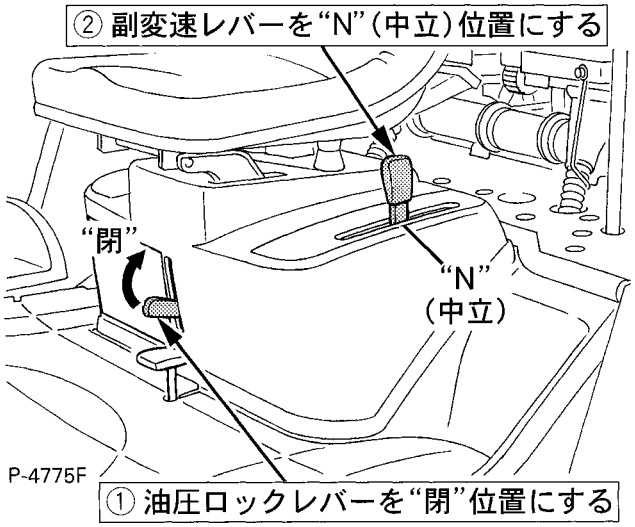


P-5198A

補　足

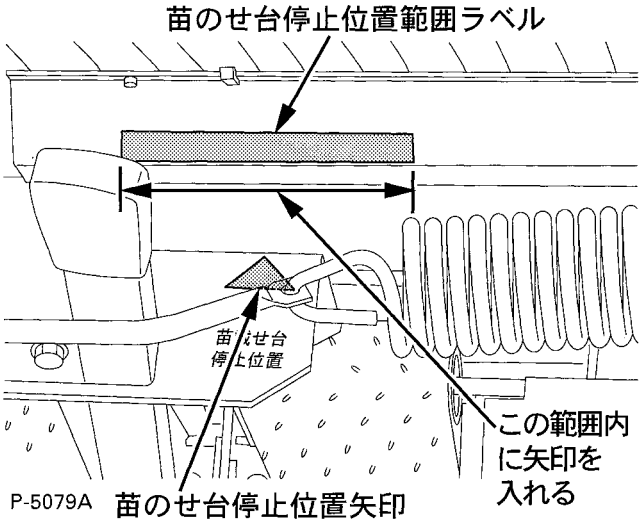
＊植付部が最上昇にあると植付部は横送りしないため，植付部は最上昇位置より下がった位置にしてください。

3. 油圧ロックレバーを“閉”位置にして下降防止をします。
4. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを“N”（中立）位置にします。

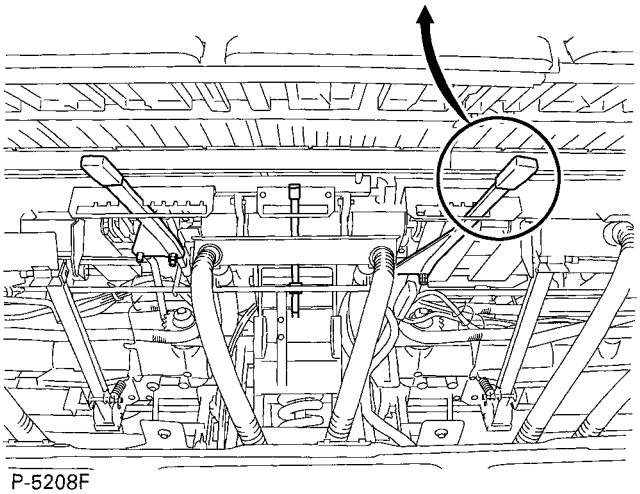


P-4775F

5. 十字ポンパレバーを“下”（下降）側にピッと音が鳴るまで操作したあと，もう1度レバーを“下”（下降）側にピッピッと連続音が鳴るまで操作して，植付部の駆動の準備をします。
6. 主変速レバーをゆっくりと“前進”側に操作して，植付部を駆動させ，苗のせ台が苗のせ台停止位置矢印が“苗のせ台停止位置範囲”ラベルの範囲に入ったことを確認して，十字ポンパレバーを“上”（上昇）側又は，主変速レバーを“N”（中立）位置に操作して植付部の駆動を停止します。



P-5079A

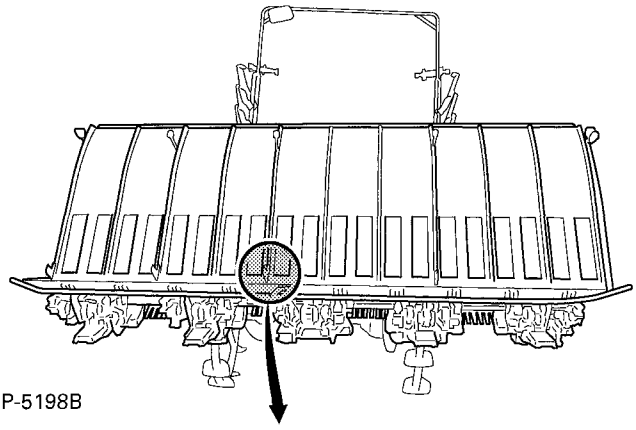


P-5208F

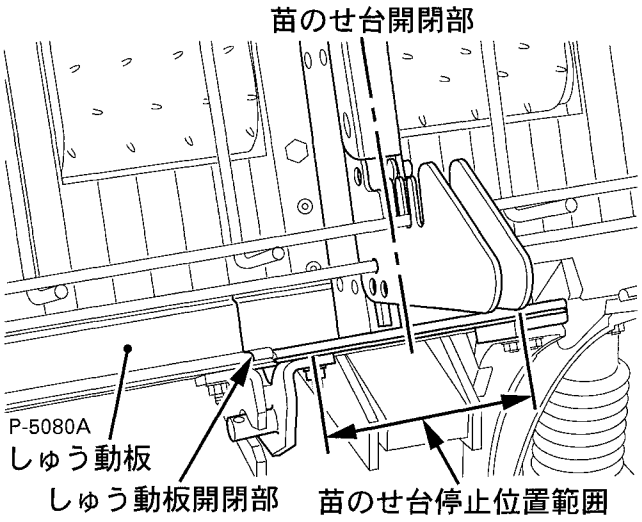
田植機の準備

補　足

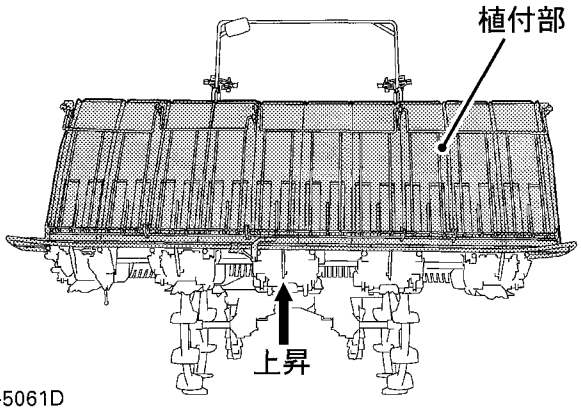
＊苗のせ台を折りたたむときに，苗のせ台開閉部がしゅう動板開閉部より右側で苗のせ台停止位置範囲内の位置にないと，折りたたみができなくなります。



P-5198B

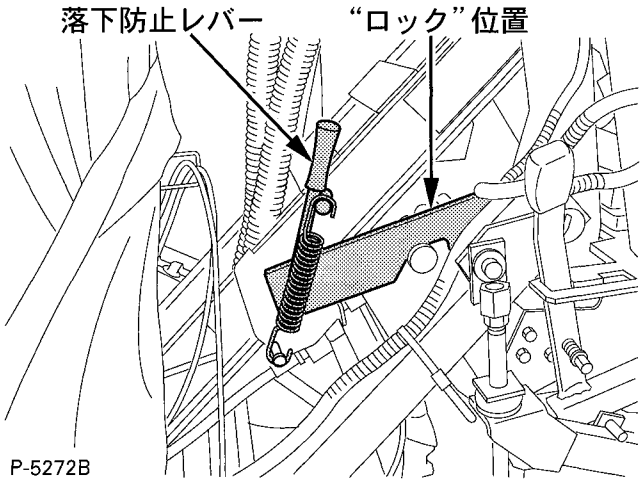


7. 十字ポンパレバーを操作して植付部を**最上昇位置**にしたあと，エンジンを停止し，駐車ブレーキを掛けます。



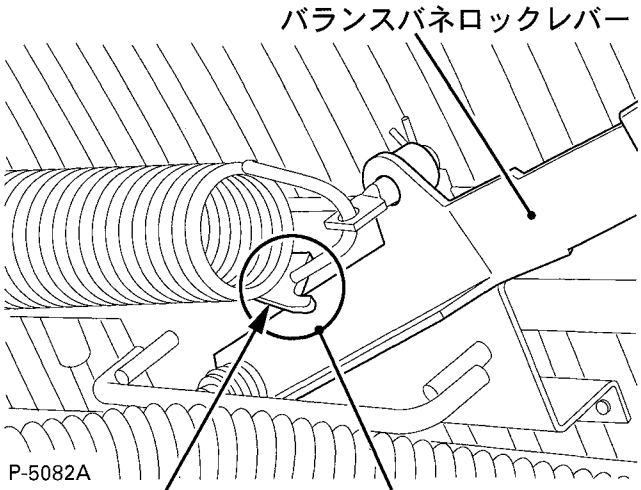
P-5061D

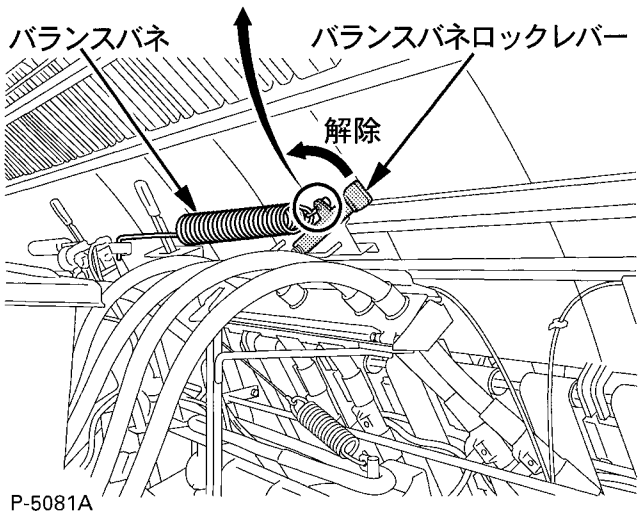
8. 落下防止レバーを**“ロック”**位置にします。



P-5272B

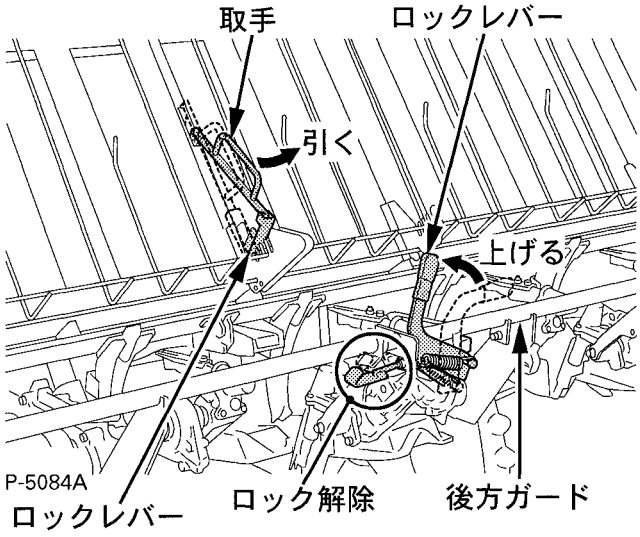
9　バランスバネロックレバーをフック部から外して，ロックを解除（**“折り畳み”位置**）します。



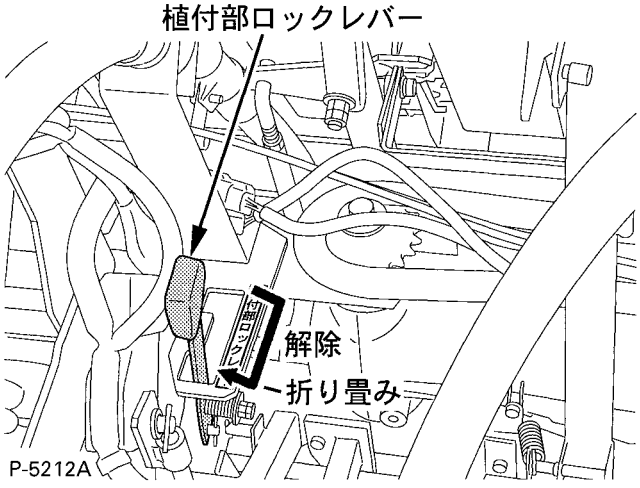


P-5081A

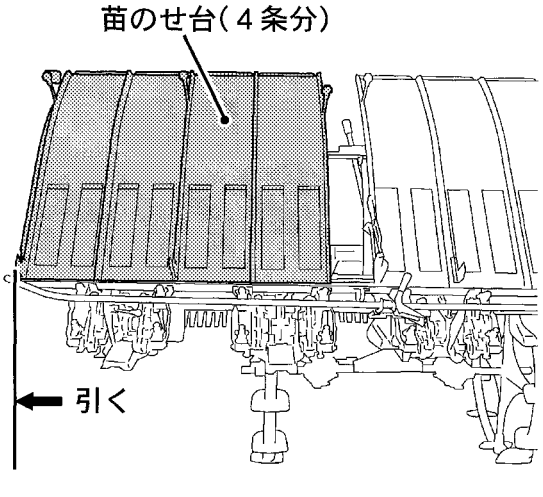
10. 苗のせ台のロックレバーの取手を引き，ロックを解除（**“折り畳み”位置**）します。
11. 後方ガードのロックレバーを上げてロックを解除（**“折り畳み”位置**）します。



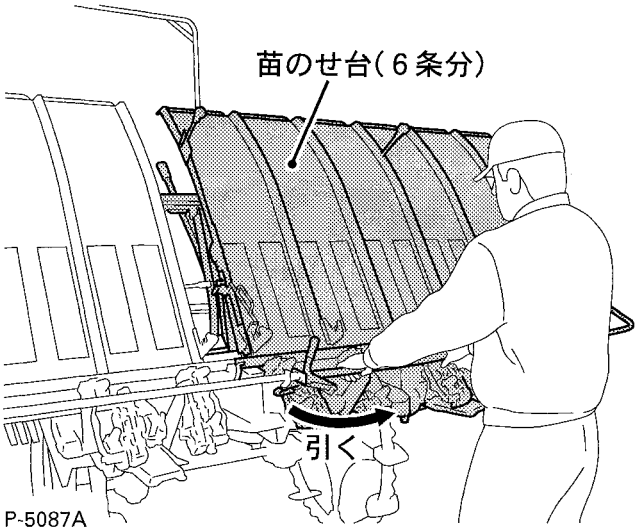
12. 植付部ロックレバーをロック（**“折り畳み”位置**）解除の位置にします。



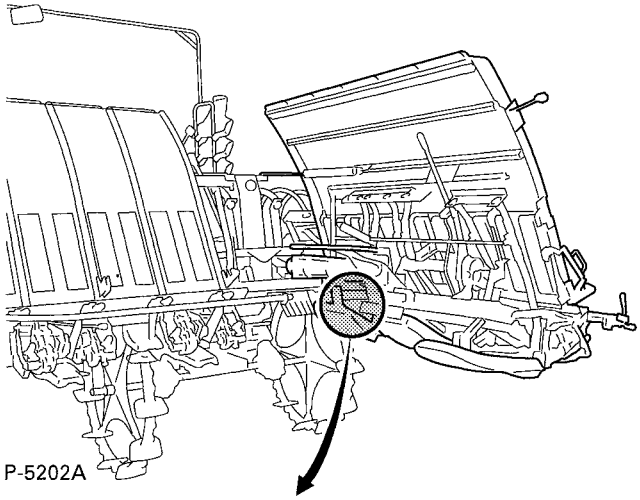
13. 左側の苗のせ台（４条分）を左側いっぱいまで引きます。

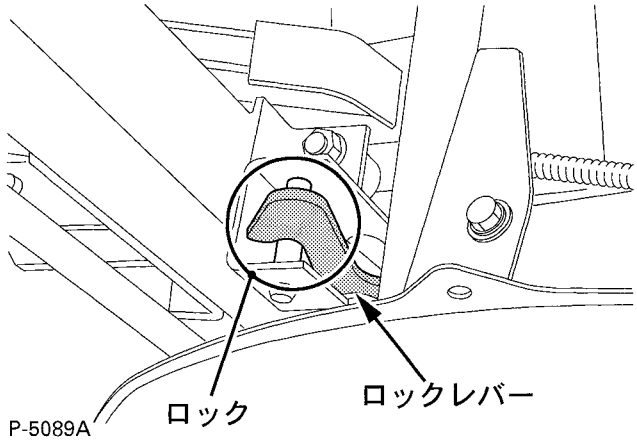


14. 後方ガードを引いて苗のせ台（６条分）を右側いっぱいまで回動します。このとき，回動が終わった状態で強く押すと，ロックレバーがロックされます。



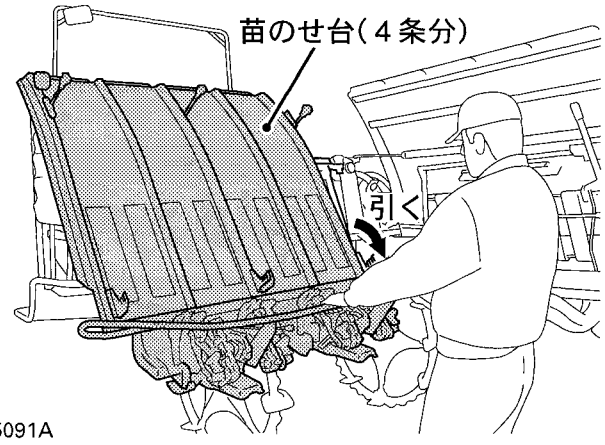
田植機の準備


P-5202A

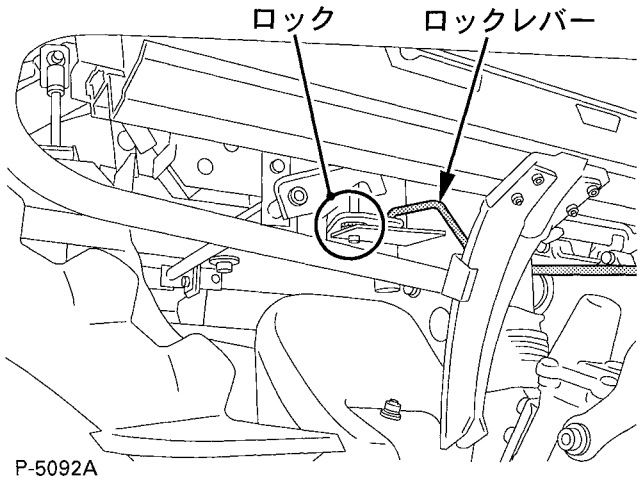


P-5089A

15. 後方ガードを引いて苗のせ台（４条分）を左側いっぱいまで回動します。このとき，回動が終わった状態で強く押すと，ロックレバーがロックされます。



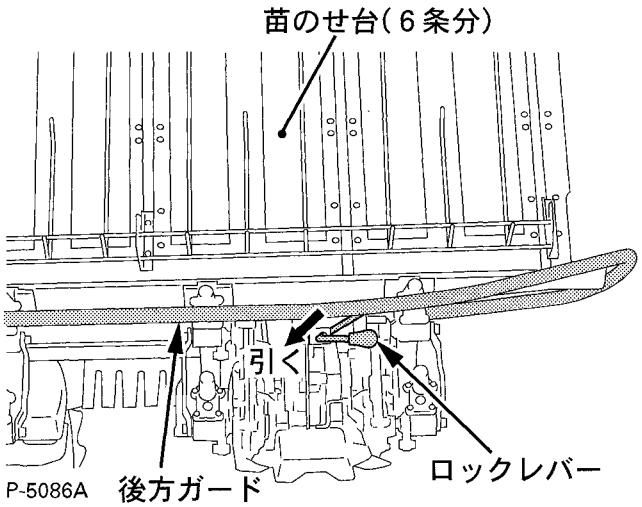
P-5091A



P-5092A

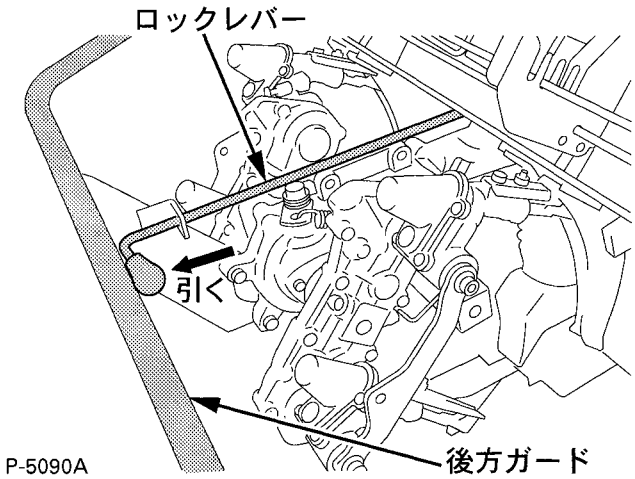
◆広げかた

1. 平坦な場所で走行を停止します。
2. 十字ポンパレバーを**“上”（上昇）**側に操作して植付部を最上昇位置にします。
3. 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にして下降防止をします。
4. エンジンを停止したあと，駐車ブレーキを掛けます。
5. **折りたたみかた**の逆の手順で，まず先に左側の苗のせ台（４条分）のロックレバーを引きロックを解除したあと，後方ガードを引いてロックレバーがロックされるまで右側に回動します。



P-5086A

6. 同じように右側の苗のせ台（６条分）もロックレバーがロックされるまで左側に回動します。

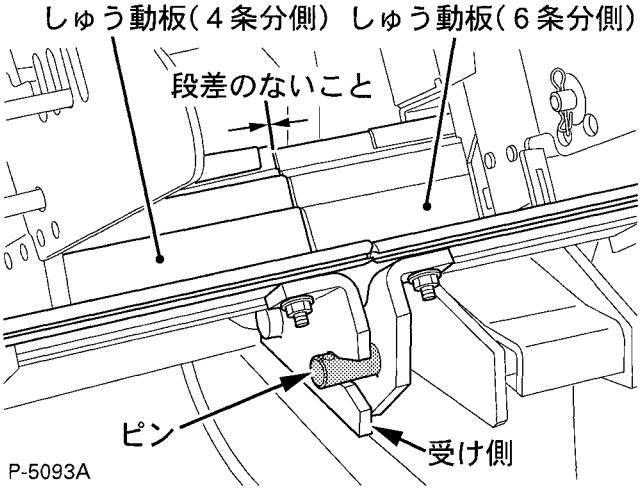


P-5090A

補　足

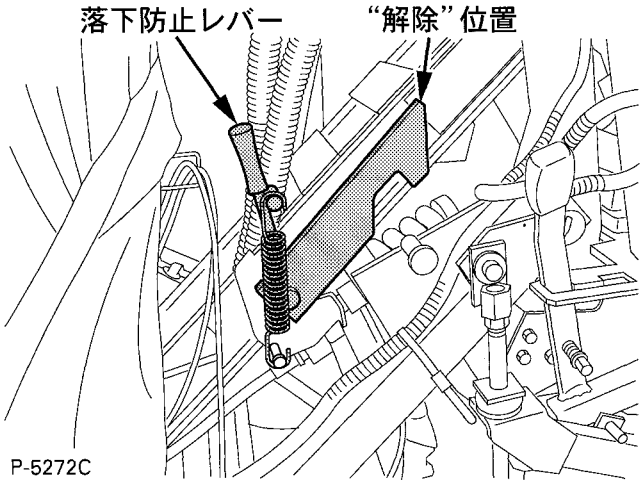
＊左側の苗のせ台（４条分）を必ず先に回動してください。

＊苗のせ台（６条分）の回動が終わったとき，ピンが受け側いっぱいまで入り，しゅう動板に段差があるときは，さらに強く押してください。



P-5093A

7. 落下防止レバーを**“解除”**位置にします。



P-5272C

8. 左側の苗のせ台（４条分）を右側いっぱいまで押します。
9. 後方ガードのロックレバーを押してロックします。
10. 苗のせ台のロックレバーを押して左，右の苗のせ台を連結します。
11. 植付部ロックレバーを**“植付”位置**にします。
12. バランスバネロックレバーを引き，フック部に引っ掛けてロックします。

【10・10-8】

植付作業のしかた

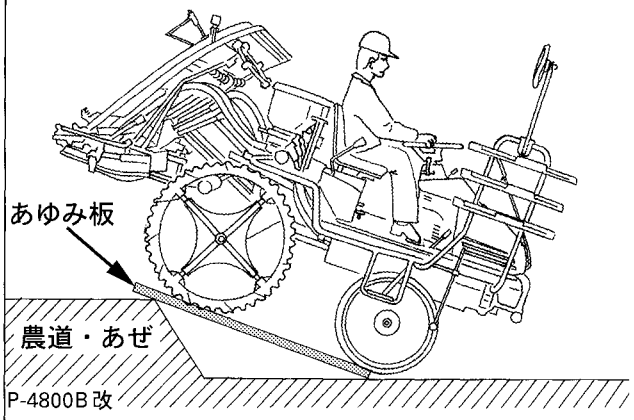
注 意

＊夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。
＊後進する場合，後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないようにじゅうぶん注意してください。
＊機体への乗り降りや機体の上で作業を行なうとき（苗や肥料の補給時など），主変速レバーに体の一部が接触すると，機体が発進するおそれがありますので，必ず駐車ブレーキを掛けてください。

■ほ場の出入りのしかた

注 意

＊10cm以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。



P-4800B改

＊暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので，あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは，下記事項に注意してください。
- 走行速度を落とす。(ゆっくりと走行する。)
- 主変速レバーで走行と停止を行なう。
- あぜや斜面に対して直角に走行する。
- あぜや斜面に対して上り方向は後進，下り方向は前進で走行し，前輪デフロックペダルを踏込む。
- あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。

■植付作業の手順

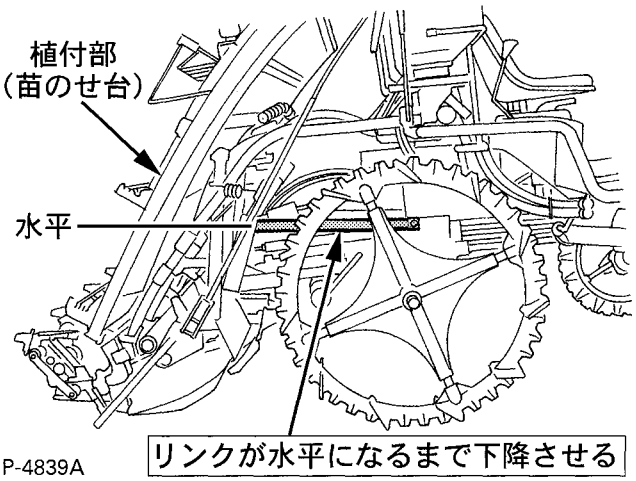
注 意

＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ほ場の外で苗のせ台を移動させているときは，機体が動かないように水平で平坦な場所で必ず行なってください。

重 要

＊副変速レバーを**“路上走行”**位置にして植付作業はしないでください。トラブルの原因になります。

1. ほ場に入ったら平坦な場所で走行を停止します。
2. 十字ポンパレバーを**“下”（下降）**側に操作して植付部のリンクが水平状態になる程度まで下降させます。

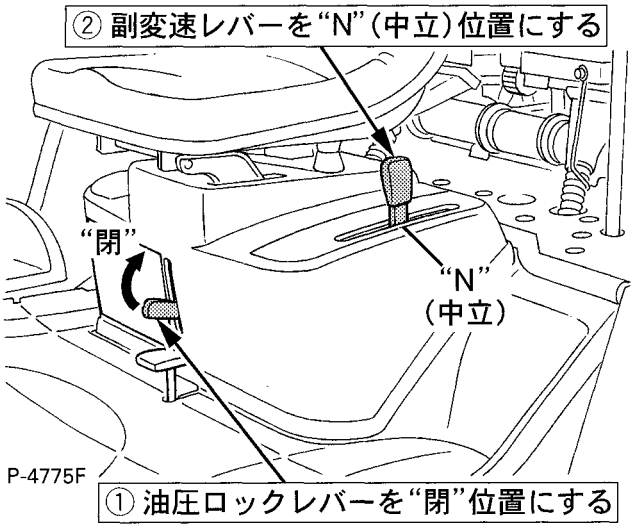


P-4839A

補 足

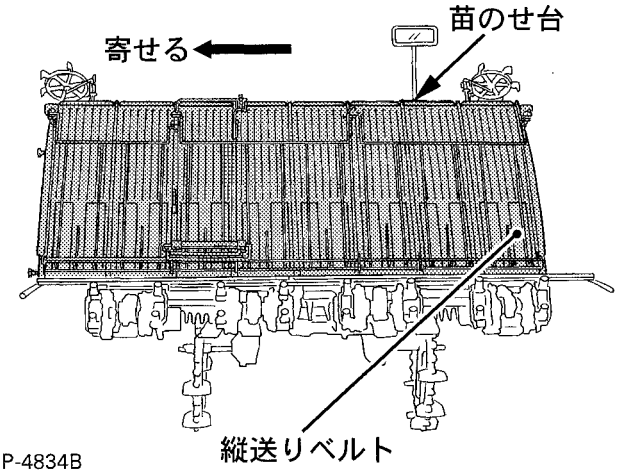
＊植付部が最上昇にあると植付部は横送りしないため，植付部は最上昇位置より下がった位置にしてください。

3. 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にして下降防止をします。
4. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**“N”**（**中立**）位置にします。



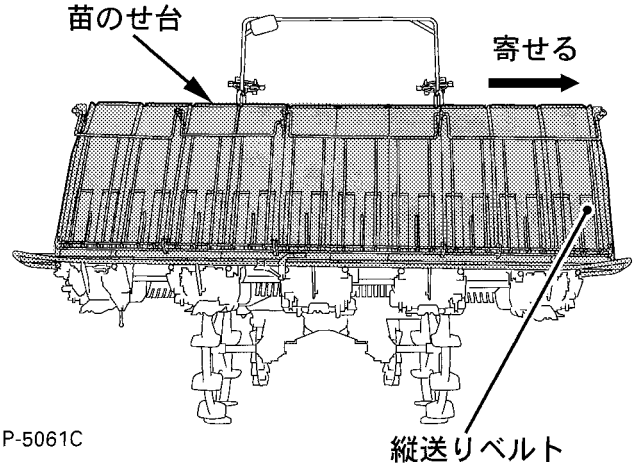
5. 十字ポンパレバーを**“下”**（**下降**）側にピッと音が鳴るまで操作したあと，もう１度レバーを**“下”**（**下降**）側にピッピッと連続音が鳴るまで操作して，植付部の駆動の準備をします。
6. 主変速レバーをゆっくりと**“前進”**側に操作して，植付部を駆動させ，苗のせ台が**右端**又は，**左端**まで移動してシンクロベルト（縦送りベルト）が作動した直後に，十字ポンパレバーを**“上”**（**上昇**）側に操作して植付部の駆動を停止します。

【6・8】



【6・8】

【10・10-8】

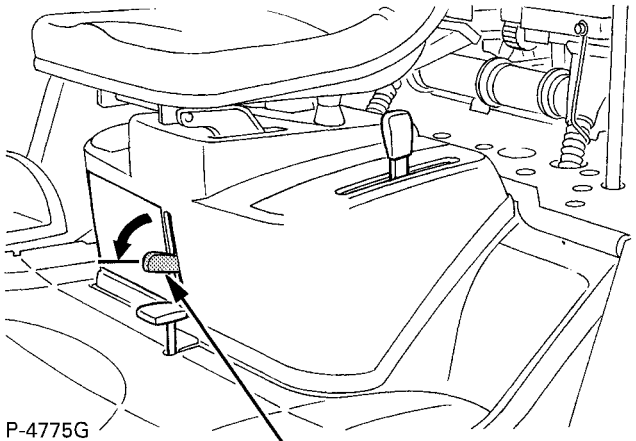


【10・10-8】

補　足

＊苗のせ台を広げた後の作業時は，全条縦送ベルトが動くことを確認してください。欠株になるおそれがあります。

7. 油圧ロックレバーをゆっくりと**“開”**位置にして，植付部を降します。



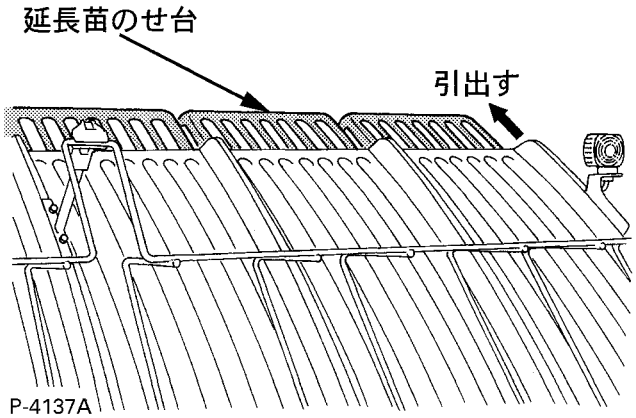
植付作業のしかた

8. エンジンを停止します。
9. 苗のせ台に苗をのせます。

補　足

【10】

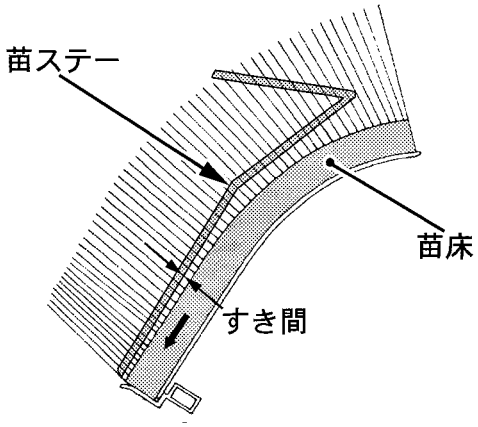
＊必要に応じて延長苗のせ台を全条引出してください。



P-4137A

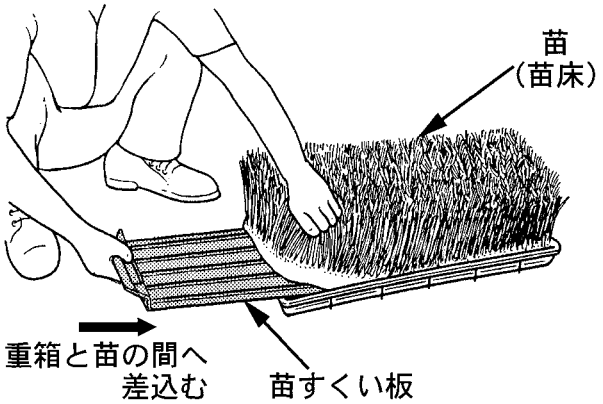
【10】

＊苗がくずれ落ちないように苗ステーとのすき間を確認してください（110ページ参照）



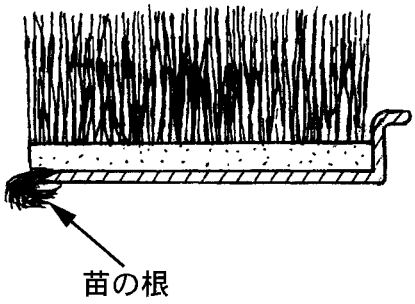
P-0216改

＊苗箱から苗を取出すときは，苗床（苗マット）の端を持上げて，苗すくい板を苗床の下に差込み苗をすくい出してください。



P-0387A

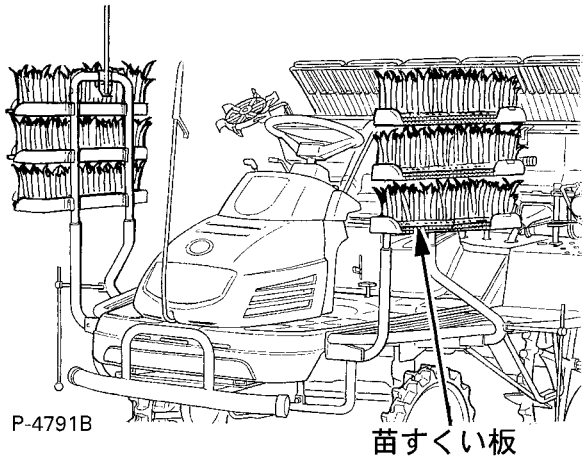
＊苗すくい板の先端に苗の根がからみついて，固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると，欠株の原因になります。



P-0443A

＊苗すくい板のニギリ部を機体の後方にし，予備苗のせ台へのせてください。

【6・8，SP仕様】

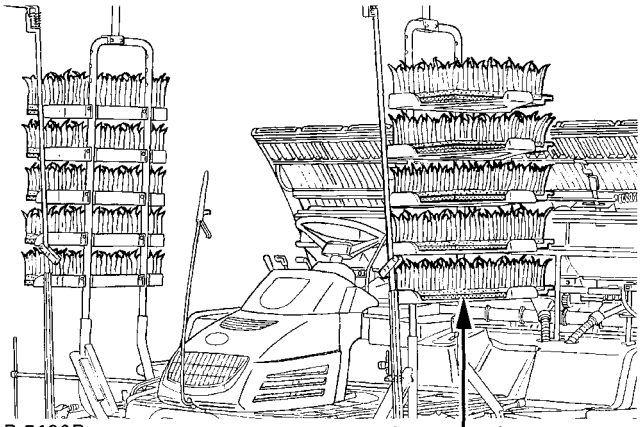


P-4791B

※イラストは【SP仕様除く】

【6・8，SP仕様】

【10】

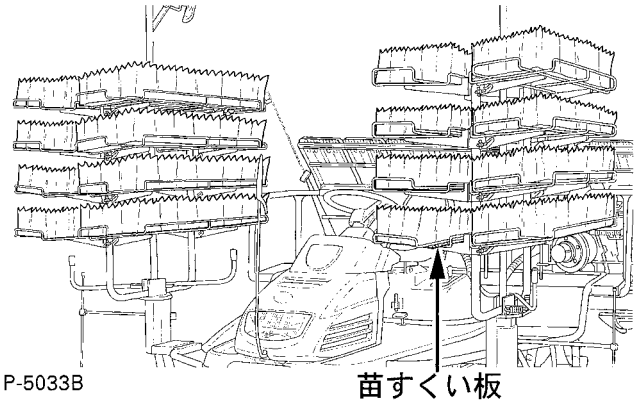


P-5190B

【10】

【8CY32仕様】

＊各予備苗のせ台に苗箱の予備苗を２枚ずつ載せてください。

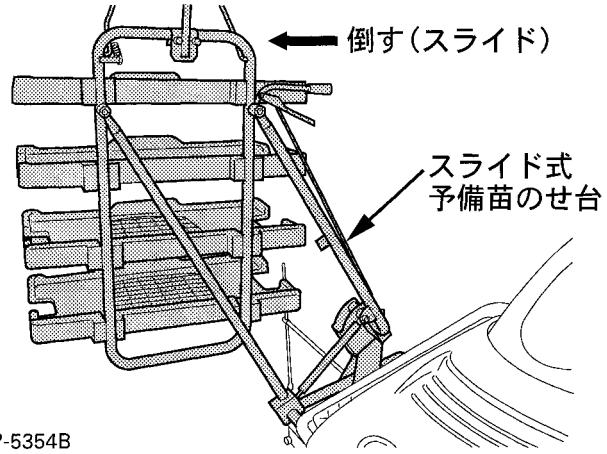


P-5033B

【8CY32仕様】

【SP仕様】

＊植付作業途中で，予備苗のせ台に苗補給を行なうときは，あぜなどの高さやほ場状態に合わせて，予備苗のせ台を前方に倒して（スライド）補給してください。



P-5354B

【SP仕様】

10. ホッパに肥料を入れます。【F仕様】
(95ページ参照)

11. フラット（整地）ローラの調整を行ないます。

補　足

＊出荷時は，フラットローラ切替えレバーを**“硬”**位置で地面よりローラを少し上げた位置にしていますので最初に使うときは，必ず調整してください。

(1)センタフロートの前方にあるフラットローラ切替えレバーが**“軟”**位置になっている場合は，**“硬”（標準）**位置にします。

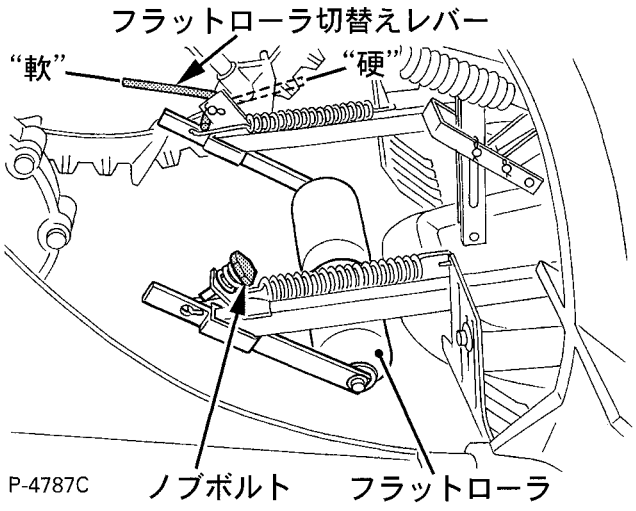
補　足

＊軟らかいトロトロのほ場の場合は，**“軟”**位置に切替えてください。（111ページ参照）

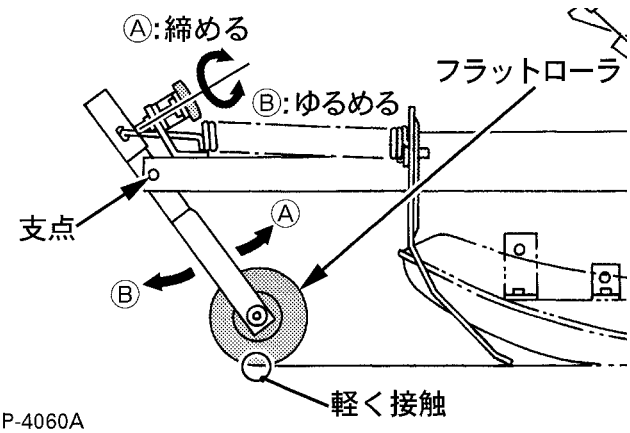
植付作業のしかた

(2)エンジンを始動し，十字ポンパレバーを**“下”（下降）**位置にして植付部を下降させます。

(3)フラットローラがほ場面に接触しているか確認します。接触していない（浮いている）ときは，ノブボルトを左（Ⓑ：ゆるめる方向）に回して，ローラが軽く接触する位置に合わせます。逆に強くローラが当たっているときは，ノブボルトを右（Ⓐ：締める方向）に回してください。



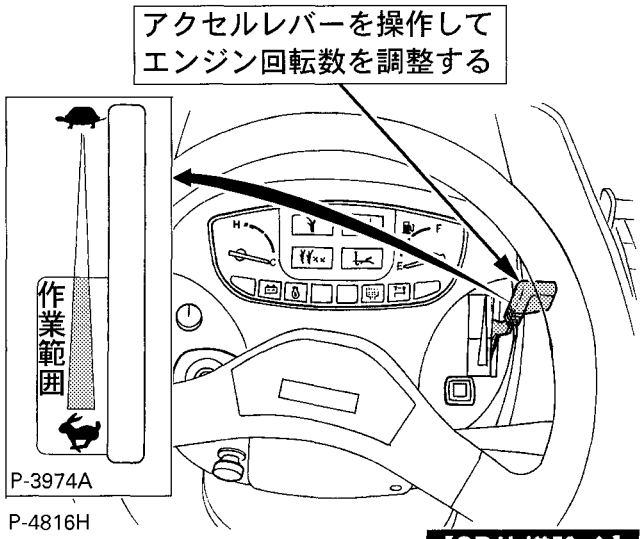
P-4787C



P-4060A

【SP仕様除く】

12. エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作して，エンジンの回転数を**“作業範囲”**内に調整します。

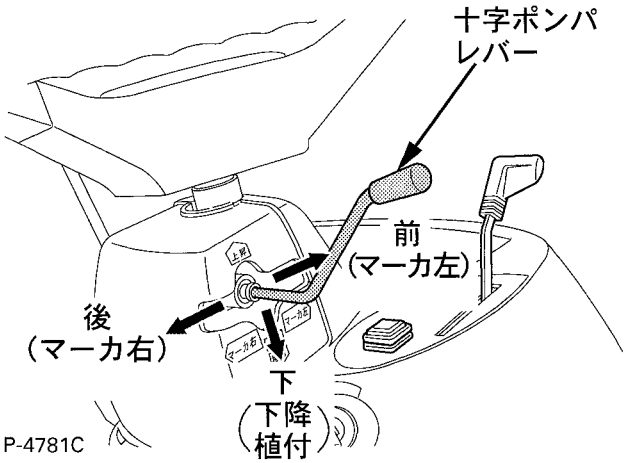


【SP仕様除く】

13. 十字ポンパレバーを操作して植付部の駆動準備とラインマーカのセットを行ないます。

(1)十字ポンパレバーを**上側**に１回押すと植付部が上昇します。

(2)十字ポンパレバーを**下側**にピッと音が鳴るまで１回押すと植付部が下降し，レバーを**前方（“マーカ左”）**又は，**後方（“マーカ右”）**に押すとラインマーカが倒れて植付準備となります。さらに，**下側**にピッピッと音が鳴るまで押すと，植付部が駆動します。

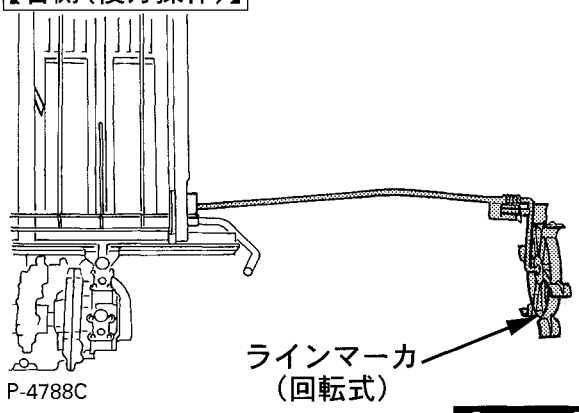


P-4781C

※イラストは【SP仕様除く】

【6・8】

【右側(後方操作)】

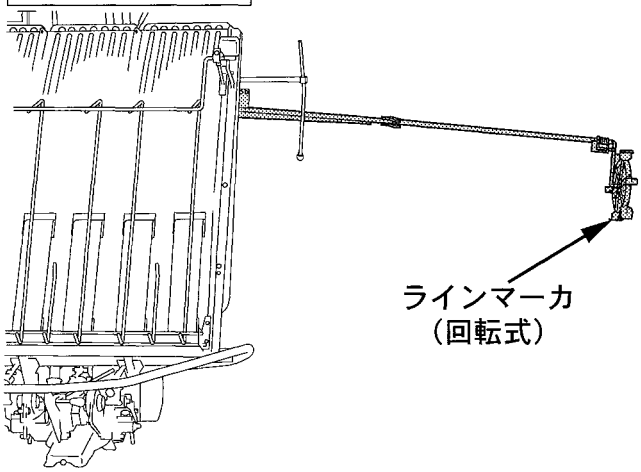


P-4788C

【6・8】

【10・10-8】

【右側(前方操作)】



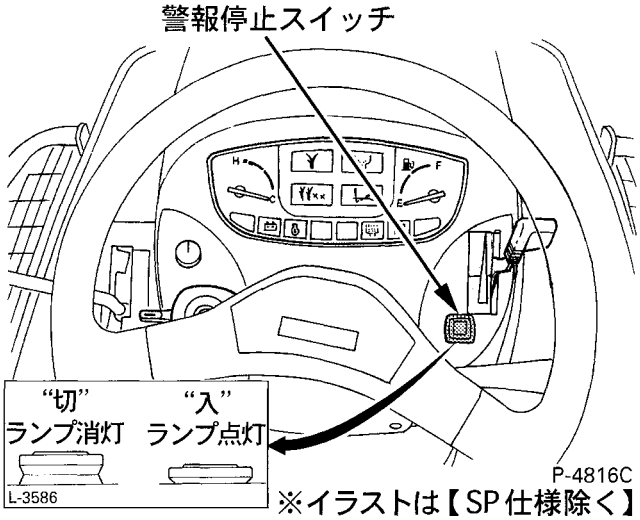
P-5052C

【10・10-8】

重　要

＊十字ポンパレバーを押したあとはすぐに離してください。また，強く押さないでください。故障の原因となります。

14. 警報停止スイッチを**“入”**位置にし，ランプが点灯していることを確認します。



※イラストは【SP仕様除く】

重　要

＊モニタランプが点灯又は，点滅しているときは，124ページを参照して処置を行なってください。

15. 副変速レバーを**“圃場作業”**位置にし，主変速レバーを**“前進”**側へ操作して試し植えを行ないます。
16. 5m前後植付けたあと，主変速レバーを**“N”**（**中立**）位置にして走行を停止し，植付後の確認をします。異常がなければ植付作業を行ないます。

補　足

＊下記事項を確認し，異常があれば104ページを参照して調節や調整を行なってください。

- 1株本数 ..... 苗取量調節レバー，横送り切替えレバー
- 植付深さ ..... 植付深さ調節レバー，フィットセンサ，モンロー調節ダイヤル，フラットローラ
- 植付株間 ..... 株間調節レバー
- 植付姿勢 ..... フィットセンサ，苗ステー
- 欠株 ..... 苗おさえ棒

17. 作業終了後に，機械に異常が発生している場合がありますので運転席下部にあるコントローラの表示の有無を確認してください。

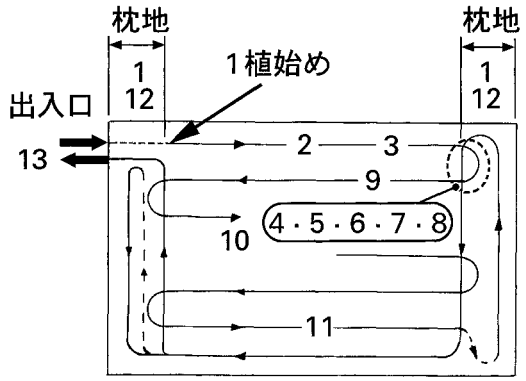
(126ページ参照)

植付作業のしかた

■植付けかたと旋回のしかた

ほ場の大きさや形状によって植付方法は異なりますので作業を始める前に，植付手順を決めてから植付作業を行なってください。

◆【6】(6条植え)の場合



P-3574A改

補　足

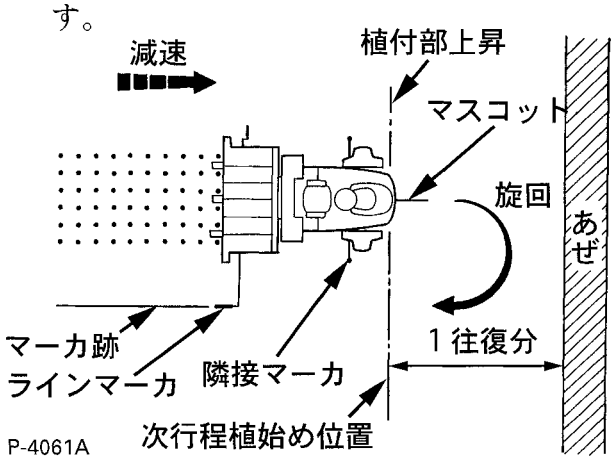
＊上図は，植付手順の一例です。また，上図内と下記の手順の番号1～11を合わせて説明しています。

1. 植始めは，1往復分残した位置から植付けます。また，反対方向の枕地も1往復分残します。

補　足

＊1往復分の目安は，3.6～3.9m（12条～13条分）です。

2. ほ場の長辺方向に植付けます。
3. 枕地が近づくと，主変速レバーを操作して減速します。そのあと，十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させます。
4. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。



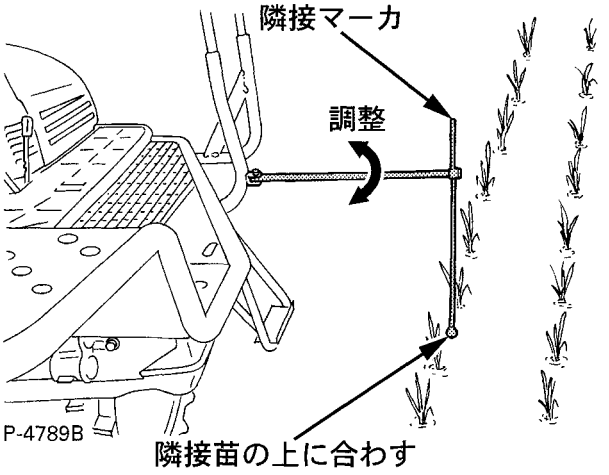
P-4061A

5. 旋回するときにマスコットを目印にして，マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

補　足

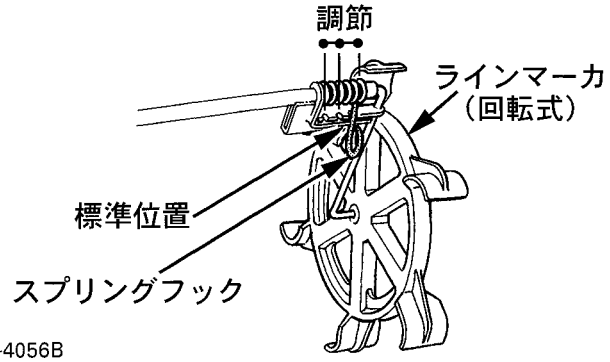
＊マーカ跡の線が見えにくいときは，植終わった隣の苗（隣接苗）に隣接マーカが上になる位置に合わせてください。

＊隣接マーカは必要に応じて角度や長さを調整してください。



P-4789B

＊フロートの泥で苗が倒れているときや補助車輪を取付けているときは，ラインマーカの長さを調節してください。



P-4056B

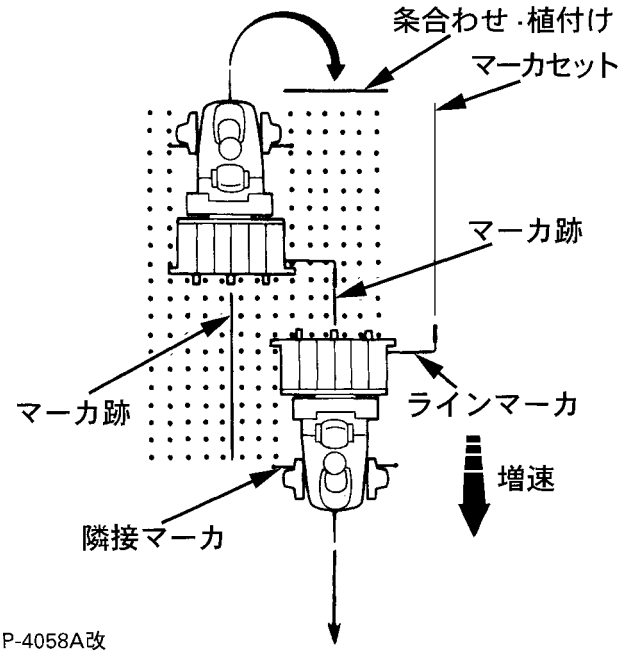
＊ぴったりマーカを使用すると，次行程の植始め列が揃えやすくなります。（28ページ参照）

6. 十字ポンパレバーを**下側**にピッと音が鳴るまで1回押して植付部を下降させます。
7. 植付部が接地したことを確認したあと，ラインマーカを次行程植付側にセットします。さらに，**下側**にピッピッと音が鳴るまで十字ポンパレバーを押して植付クラッチ**入**の状態にします。

補　足

＊植付部が接地していないときに，植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。

8. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



P-4058A改

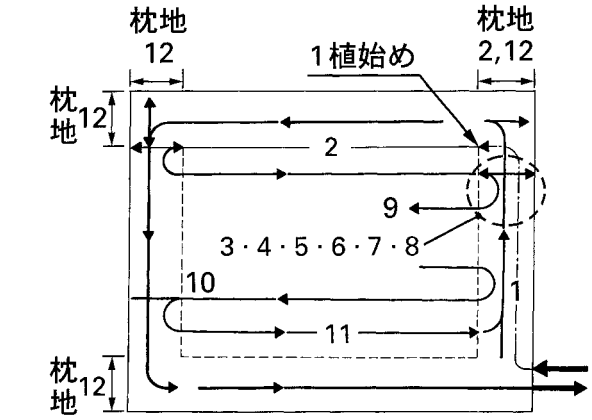
9. 次行程から同じ作業を繰返します。
10. 長辺方向の最終行程で７条～11条分残ったときは，あぜぎわ植えを行ないます。

補　足

＊90ページ参照

11. 枕地を植付けて出入口から出ます。

◆【８】(８条植え)の場合

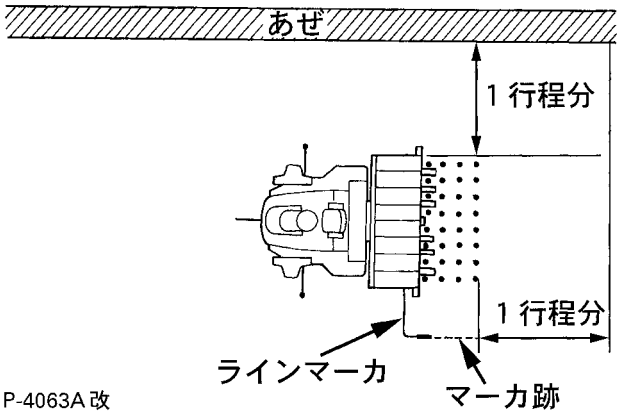


P-4062A

補　足

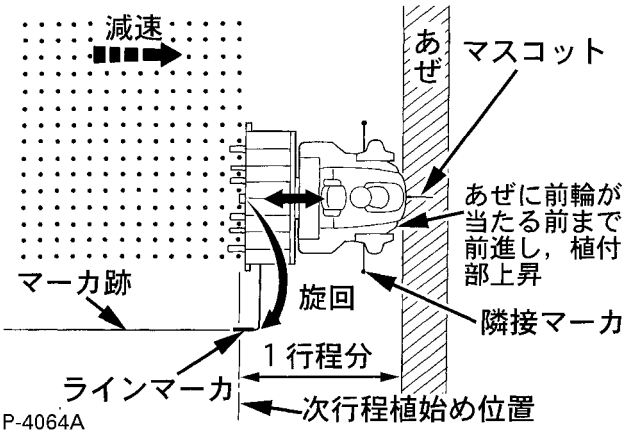
＊上図は，植付手順の一例です。また，上図内と下記手順の番号1～12を合わせて説明しています。

1. 植始めの位置まで植付けを行なわずに走行します。
2. 十字ポンパレバーを**下側**にピッと音が鳴るまで１回押して植付部を下降させ，十字ポンパレバーを**前方又は後方**に操作して，ラインマーカを左又は右にセットし，さらに，**下側**にピッピッと音が鳴るまでレバーを押し，後方と右側を各１行程分残すように植付けます。



P-4063A改

3. あぜが前輪に当たる少し手前で減速し，主変速レバーを操作して停止します。そのあと，十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させます。



P-4064A

4. 旋回しやすい位置まで後退します。
5. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。

補　足

＊あぜにボンネットが当たる場合は，あぜぎわ植えを行なってください。(90ページ参照)

6. 旋回するときにマスコットを目印にして，マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

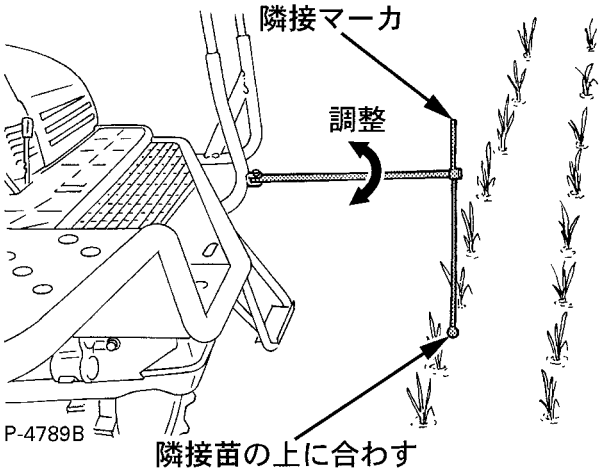
植付作業のしかた

補　足

＊マーカ跡の線が見えにくいときは，植終わった隣の苗（隣接苗）に隣接マーカが上になる位置に合わせてください。

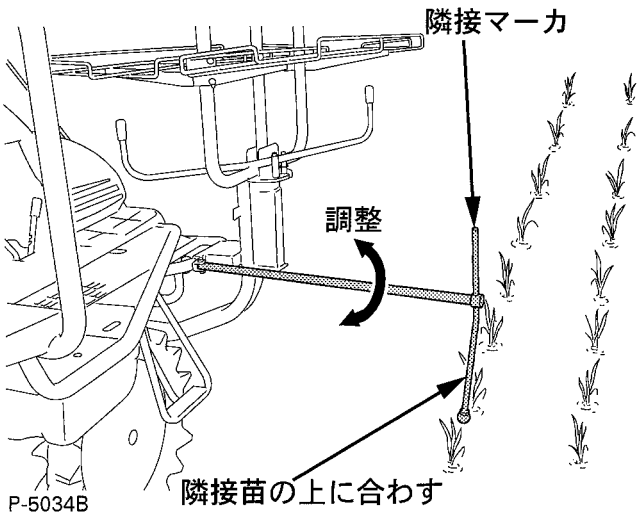
＊隣接マーカは必要に応じて角度や長さを調整してください。

【8】



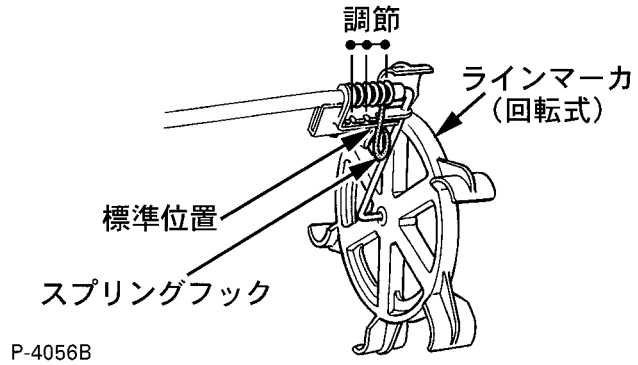
【8】

【8CY32仕様】



【8CY32仕様】

＊フロートの泥で苗が倒れているときや補助車輪を取付けているときは，ラインマーカの長さを調節してください。



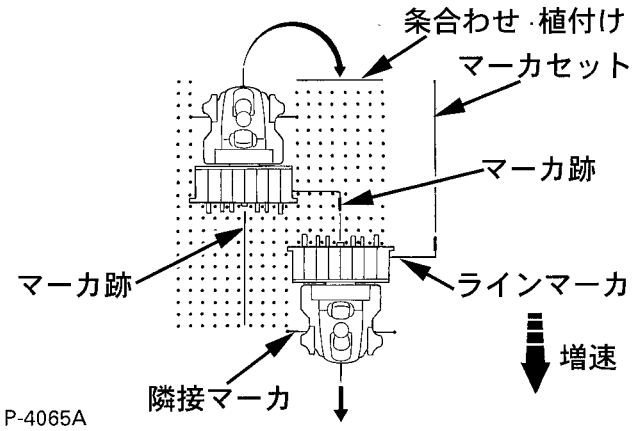
＊ぴったりマーカを使用すると，次行程の植始め列が揃えやすくなります。（28ページ参照）

7. 十字ポンパレバーを**下側**にピッと音が鳴るまで1回押して植付部を下降させます。
8. 植付部が接地したことを確認したあと，ラインマーカを次行程植付側にセットします。さらに，**下側**にピッピッと音が鳴るまで十字ポンパレバーを押して植付クラッチ**入**の状態にします。

補　足

＊植付部が接地していないときに，植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。

9. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



10. 次行程から同じ作業を繰返します。
11. 長辺方向の最終行程の前に条合わせが必要なときは，あぜぎわ植えを行ないます。

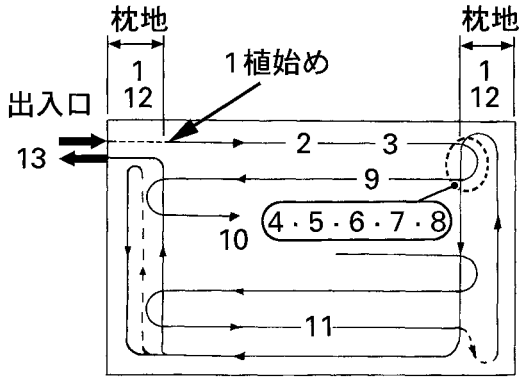
補　足

＊90ページ参照

12. 枕地を1周植付けて出入口から出ます。

植付作業のしかた

◆【8C仕様】(８条植え)，【10・10-8】(10条植え)の場合



P-3574A改

補　足

＊上図は，植付手順の一例です。また，上図内と下記の手順の番号1～11を合わせて説明しています。

1. 植始めは，１往復分残した位置から植付けます。また，反対方向の枕地も１往復分残します。

補　足

【8CY32仕様】

＊１往復分の目安は，5.3～5.6m（16条～17条分）です。

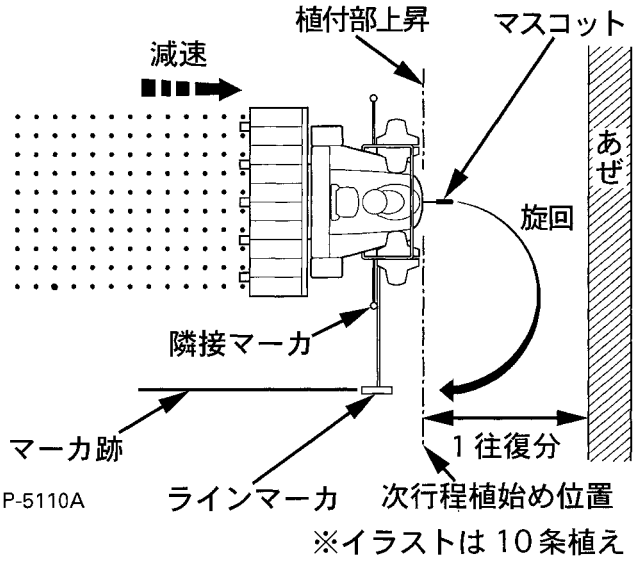
【8CY32仕様】

【10・10-8】

＊１往復分の目安は，6.0～6.3m（20条～21条分）です。

【10・10-8】

2. ほ場の長辺方向に植付けます。
3. 枕地が近づくと，主変速レバーを操作して減速します。そのあと，十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させます。
4. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。



P-5110A

※イラストは10条植え

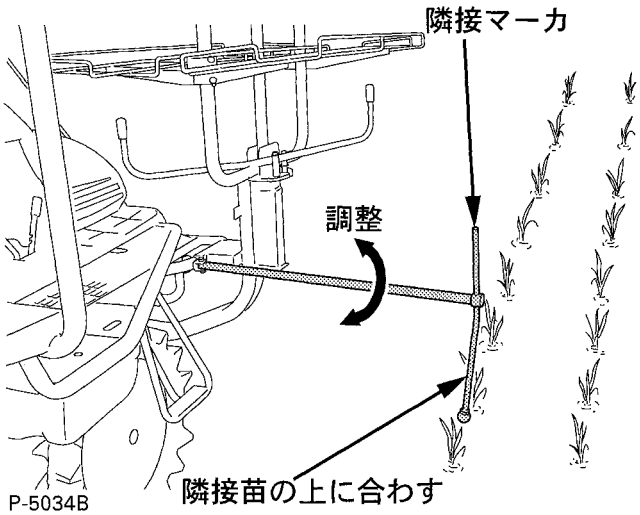
5. 旋回するときにマスコットを目印にして，マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

補　足

＊マーカ跡の線が見えにくいときは，植終わった隣の苗（隣接苗）に隣接マーカが上になる位置に合わせてください。

＊隣接マーカは必要に応じて角度や長さを調整してください。

【8CY32仕様】

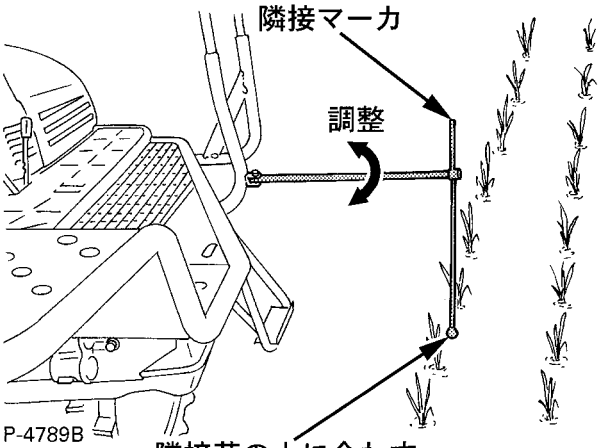


P-5034B

【8CY32仕様】

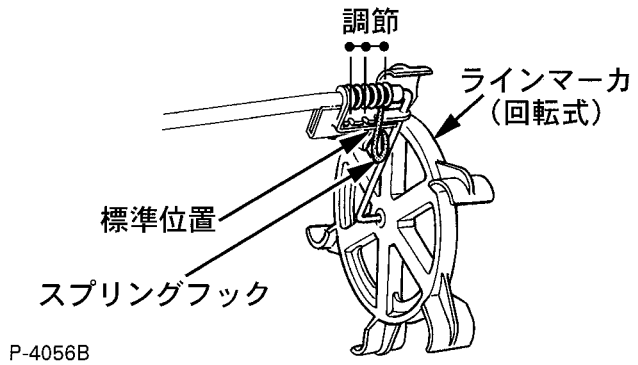
植付作業のしかた

【10・10-8】



【10・10-8】

＊フロートの泥で苗が倒れているときや補助車輪を取付ているときは，ラインマーカの長さを調節してください。



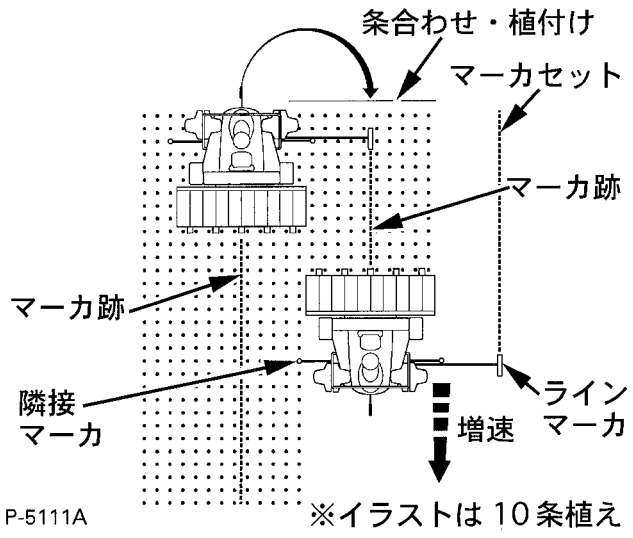
＊ぴったりマーカを使用すると，次行程の植始め列が揃えやすくなります。（28ページ参照）

6. 十字ポンパレバーを**下側**にピッと音が鳴るまで１回押して植付部を下降させます。
7. 植付部が接地したことを確認したあと，ラインマーカを次行程植付側にセットします。さらに，**下側**にピッピッと音が鳴るまで十字ポンパレバーを押して植付クラッチ**入**の状態にします。

補　足

＊植付部が接地していないときに，植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。

8. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



9. 次行程から同じ作業を繰返します。
10. 長辺方向の最終行程で７条～11条分残ったときは，あぜぎわ植えを行ないます。

補　足

＊90ページ参照

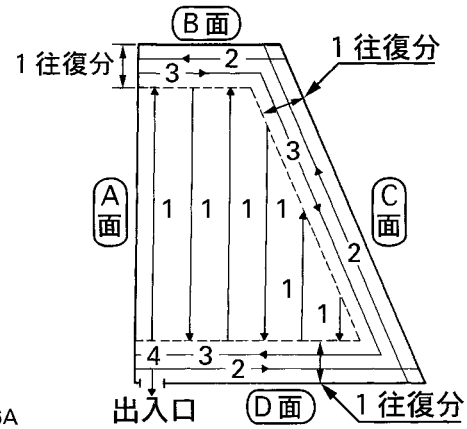
11. 枕地を植付けて出入口から出ます。

植付作業のしかた

◆変形田の植付けかた【参考】

変形田を植付けるときの参考例です。

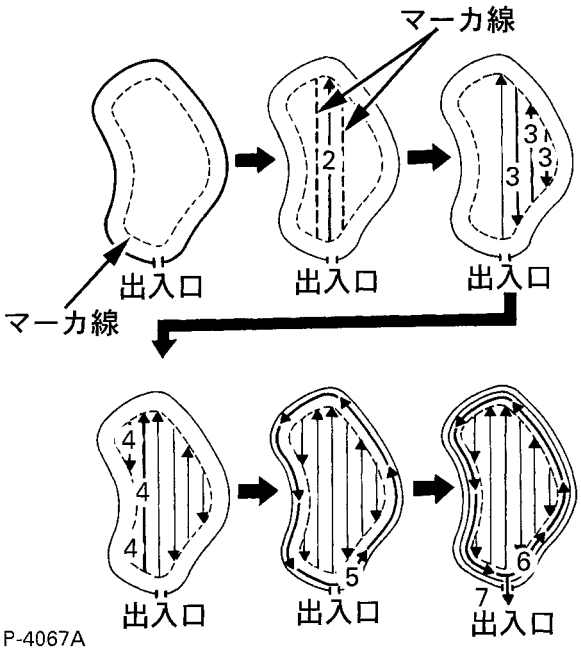
1. 台形田(A面基準)



P-4066A

1. B面，C面，D面に各1往復分の枕地を残してA面（長辺方向）に植付けます。
2. D面，C面，B面の順にあぜ側から植付けます。
3. B面，C面，D面の順に残ったところを植付けます。
4. 出入口から出ます。

2. 変形田



P-4067A

1. あぜにそってマーカ線を引きます。（目安線）
2. 左，右共ラインマーカをセットして長辺部を植付けます。
3. 2.で植付けたところを基準に植付けます。
4. 反対面を植付けます。
5. あぜにそって1周を植付けます。
6. 5.の枕地残り分を植付けます。
7. 出入口から出ます。

◆安全クラッチについて

注 意

＊安全クラッチがはたらいたときは，植付作業を中止してエンジンを停止してください。

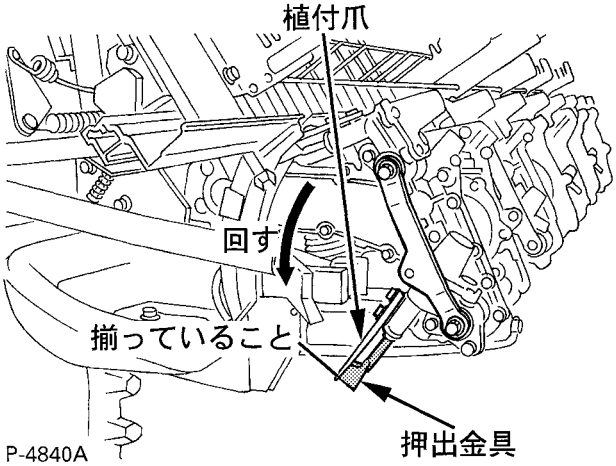
安全クラッチは，植付作業中の植付爪に石など硬い異物がはさまったときに，破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは，作業をすみやかに中止し，エンジンを停止してから異物を取除いてください。

重 要

＊安全クラッチがはたらいている状態を続けると，植付爪や押出金具が破損したり，安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり，植付不良が起こりやすくなります。

補 足

＊安全クラッチがはたらいたとき，他の植付爪と位置ずれを起こすことがあります。位置ずれが起きたときは，植付部を上昇させたあと，油圧ロックレバーで下降防止を行ない，必ずエンジンを停止してから異物を取除き，位置ずれを起した植付爪を手で回して他の植付爪と位置をそろえてください。位置がそろうと手では回らなくなります。



P-4840A

＊異物を取除いたあとの処置

異物を取除いたあと植付爪や押出金具が破損や変形していないか確認し，異常があれば交換や修理を行なってください。（159ページ参照）また，植付爪を手で回したときにしゅう動板に当たったり，重い場合は購入先に連絡してください。

植付作業のしかた

■苗の補給のしかた

苗が残り少なくなると苗のせ台のセンサがはたらいて，苗モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。

補　足

＊警報ブザーは苗を補給しないと８回鳴ったあと停止します。また，苗を補給するとランプは消灯し，ブザーは停止します。

1. 主変速レバーを操作して走行を停止します。

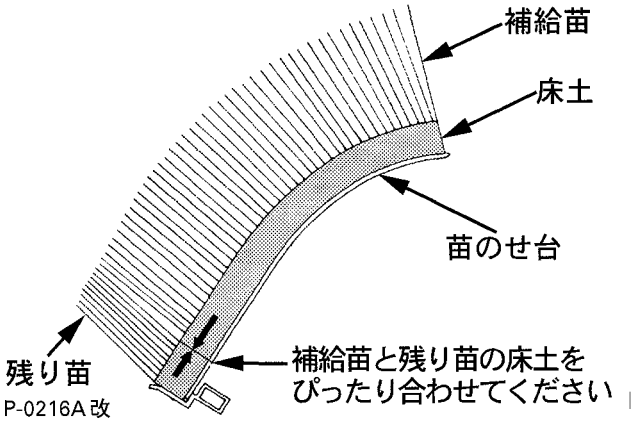
補　足

＊マフラで苗をこがす場合がありますので，あぜぎわで苗のない場所に停止してください。

2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. 予備苗のせ台の苗や準備した苗を補給します。

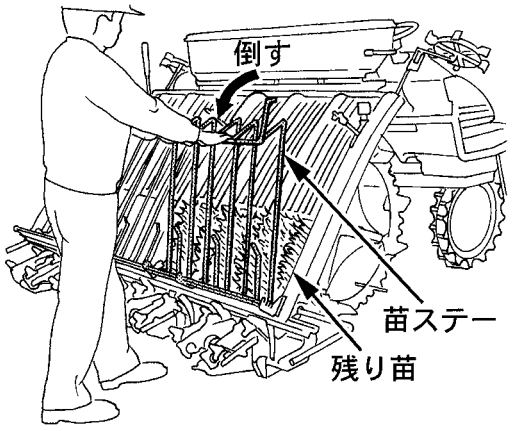
補　足

＊補給苗はていねいに扱い，補給苗と残り苗の床土にすき間のないようにぴったりと合わせてください。



P-0216A改

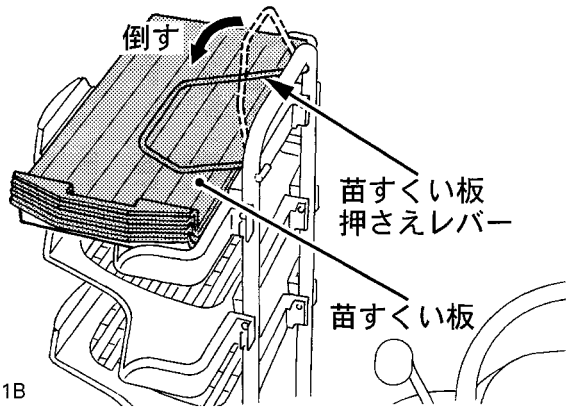
＊残った苗を取出すときは，エンジンを必ず停止して，苗ステーを後方に倒してください。



P-4841A

＊苗すくい板を収納するときは，予備苗のせ台の上段に置いたあと，苗すくい板押さえレバーを倒してください。（【８・10】は左，右）

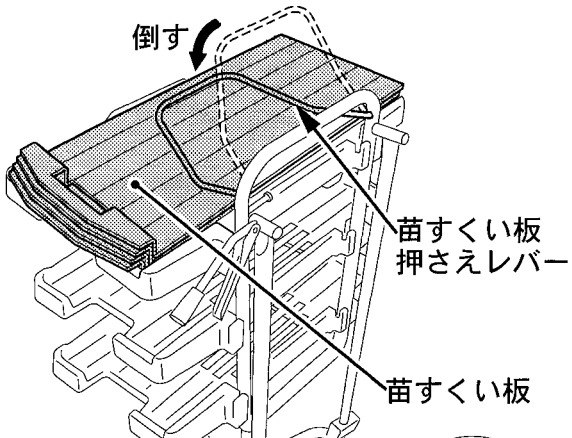
【6・8・10】



P-4001B

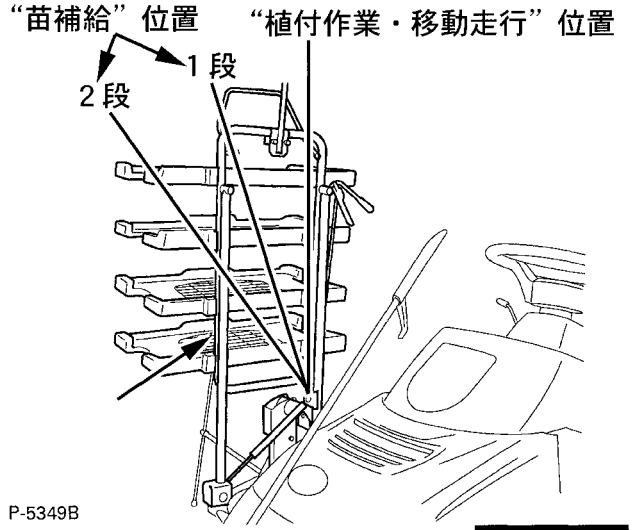
【6・8・10】

【SP仕様】



P-5355A

＊予備苗のせ台をスライドしたときは，苗補給位置（２段階）又は，植付作業・移動走行位置でロックしていることを確認してください。



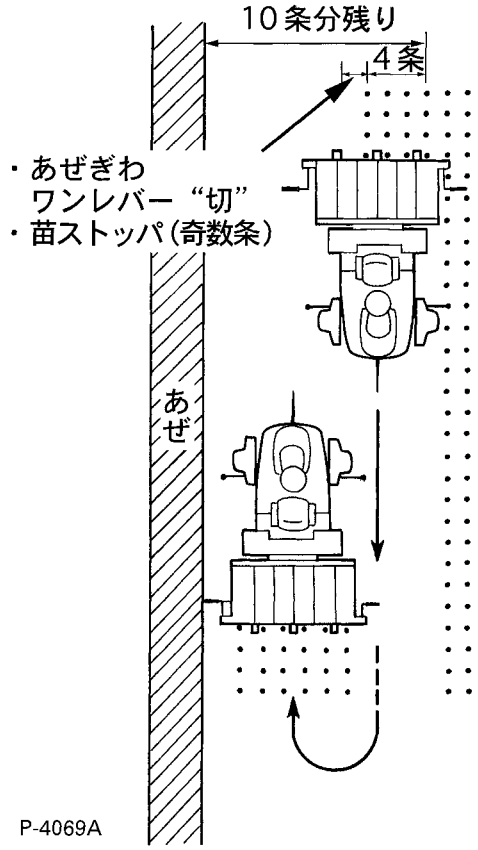
P-5349B

【SP仕様】

■あぜぎわの植付けかた

植付作業の最終段階で，最終の植付けを全条植えで終わらせるため，あぜぎわの調整の植付けを行なってください。

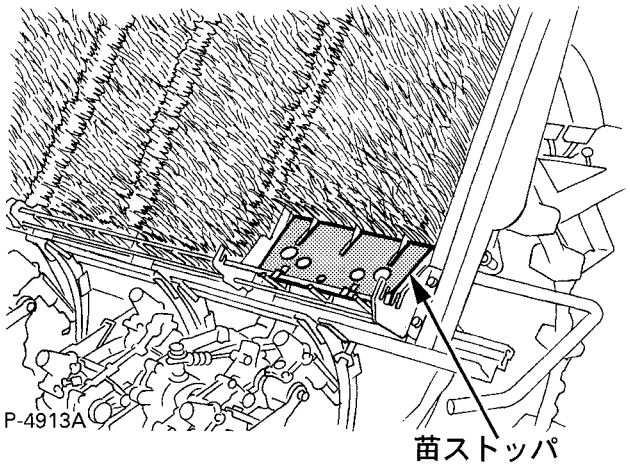
【例】6条植えの場合



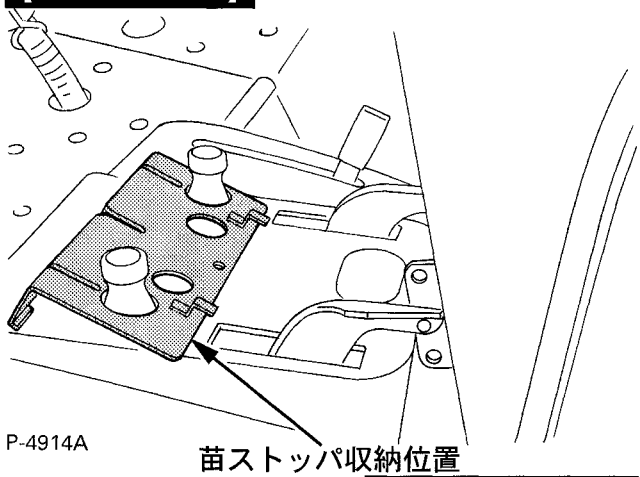
1. あぜぎわから10条分残ったとき，あぜぎわワンレバーで右側2条分の植付けを停止し，4条分植付けをします。

補　足

＊奇数条の調整を行なうときは，苗ストッパ（運転席下部に収納）を使用してください。

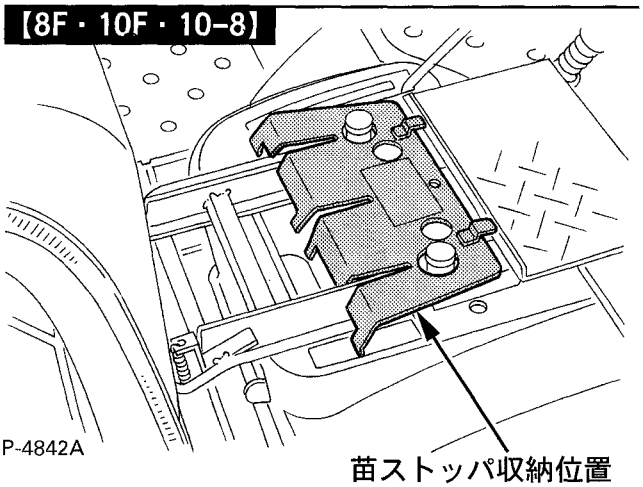


【6・6F・8・10】



【6・6F・8・10】

【8F・10F・10-8】



【8F・10F・10-8】

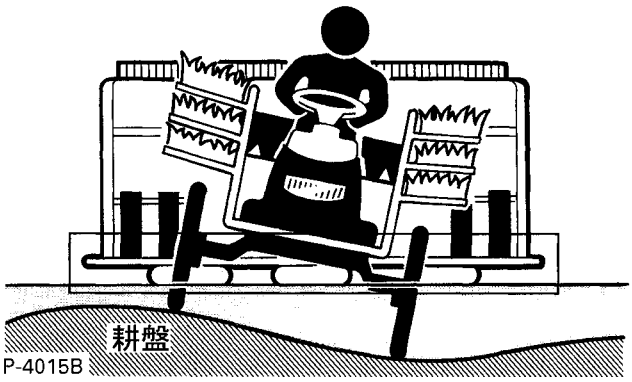
植付作業のしかた

＊苗ストッパを使用するときは，使用する条の肥料の繰出しを停止してください。
（115ページ参照）

2. 最終はラインマーカを出さずに（収納状態）６条で植付けます。
3. ８条植えについても同じ要領で行なってください。
4. 植付作業が終わるとあぜぎわワンレバーを**“入”**位置にし，苗ストッパは運転席下に収納します。

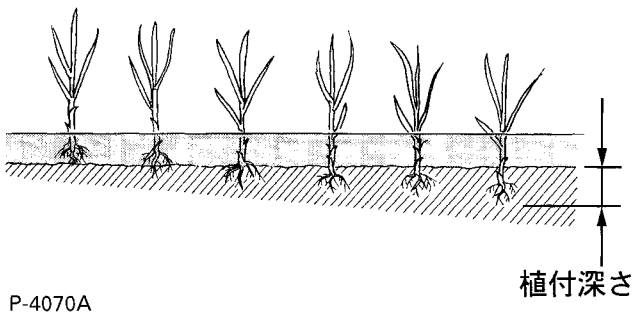
◆モンロー調節ダイヤルについて

あぜぎわなどで大きく傾斜して，自動車体水平制御（モンロー）がはたらいても，左・右の植付深さが異なるときは，モンロー調節ダイヤルで調節してください。



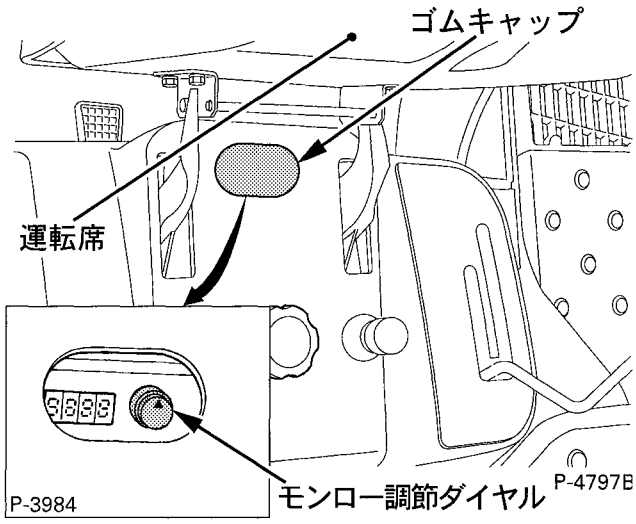
P-4015B

【例】



P-4070A

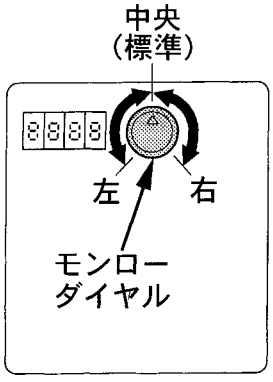
1. 運転席下の前方にある黒いゴムキャップを取外します。
2. モンロー調節ダイヤルを回して植付部の傾きを調節します。（上図の場合は，左にダイヤルを回す。）



P-3984　P-4797B

●機体後方から見たとき

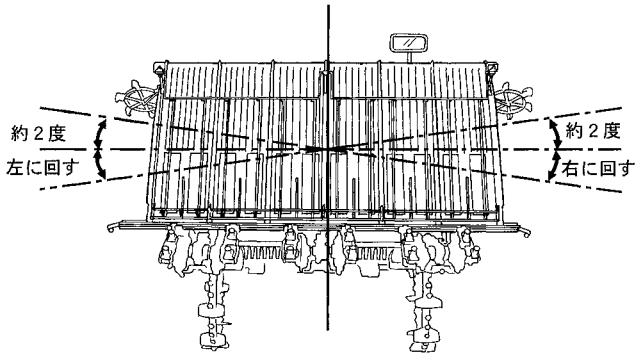
右に回す…植付部が右下がりになります。
左に回す…植付部が左下がりになります。



P-4017C

補　足

＊ダイヤルは，左，右にそれぞれ最大約150度回ります。また，植付部は，左，右にそれぞれ最大約２度傾きます。



P-4826B　※イラストは【６】

3. あぜぎわの植付作業が終わると，モンローダイヤルを**中央**（標準）に戻し，ゴムキャップを取付けます。

施肥作業のしかた【F仕様】

■ほ場と肥料について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ，苗の発育が正常に行なわないことがありますので，施肥機に合ったほ場条件や肥料を使用してください。

◆ほ場条件

施肥作業を行なうとき，田植作業のほ場条件とあわせて下記事項を守ってください。

1. 夾雑物（わら，刈株，堆肥，雑草など）は施肥田植え時の障害になるので，耕うん・代かき時に下層部に埋込むようにしてください。

補　足

＊耕うん・代かき装置は購入先とご相談のうえ，夾雑物を下層に埋込む働きができる機種を選んで使用してください。

＊夾雑物が表層部（地表面～深さ８cm程度の範囲）にあると，溝切板や作溝器に引っかかって，施肥ムラ（生育ムラ）をおこすおそれがあります。

＊収穫時コンバインのカッタで，わらを切断散布したときは，その上に石灰窒素を散布して秋のうちによくスキ込んで，腐らせておくようにしてください。

2. 耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は，絶対にしないでください。

補　足

＊基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行なう場合には，その指定要領に従ってください。

3. 施肥田植機に適したほ場の深さは，10～25cmが適しています。30cm以上（補助車輪の場合は35cm）の深さでは使用できません。

4. 代かき時の均平度をよくして，地表面からの水深が，なるべく一定になるようにしてください。
代かき後，田面に凹凸がある場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので，じゅうぶん湛水して，地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし，田植えの直前にじゅうぶん落水するようにしてください。

補　足

＊土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。

5. 施肥田植作業時の水の深さは，浅水とし0.5～２cm程度が適当です。

(1) 田面の水が皆無（水深０cm）の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には下記のような現象が起こります。
- 車輪スリップが増し，株間が狭くなります。
- 作溝器に泥詰まりを生じ，肥料が詰まって無施肥区ができ，生育ムラの原因となります。
- 車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。

(2) 田面の水が多すぎる（水深２cm以上）場合には，作溝器内の上部やホース内に水が侵入し肥料の落下状態が悪くなり，所定の深さに埋設できなくなります。また肥料詰まりや肥料詰まり予知センサの誤作動も発生しやすくなります。

6. ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて後が少しふさがれる程度が適当です。

(1) ほ場の土壌硬度（125gのサゲフリを地表面上１mの高さから落下させて，地表面から土中に入った深さ）は７～18cmの範囲内とします。

(2) ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく，植付け姿勢も乱れます。

(3) ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し，株間が狭くなるばかりでなく，作溝施肥跡のふく土が不完全となり，肥料溶出のおそれがあります。

補　足

＊特殊な条件のほ場（基盤整備直後の田や湿田など）では，作業に支障をきたすことがありますので，あらかじめ購入先の技術員にご相談ください。

施肥作業のしかた【F仕様】

◆肥料について

肥料は施肥作業に適したものを選んでください。

1. 肥料は市販の粒状肥料の中から下記の条件に合ったものを選んでください。

重　要

＊条件に合わない肥料を使用しなかった場合は，下記のような不具合が発生することがあります。
・肥料詰まりにより施肥機の故障が発生する。
・繰出し精度が不良となり施肥量に誤差が生じる。
・肥料詰まりや施肥ムラが生じる。
＊最近，側条施肥田植機専用肥料が市販されていますので，使用をお薦めしますが，中には適さない物も含まれていますので，注意してください。

※吸湿性について

吸湿性の少ない肥料を選んでください。

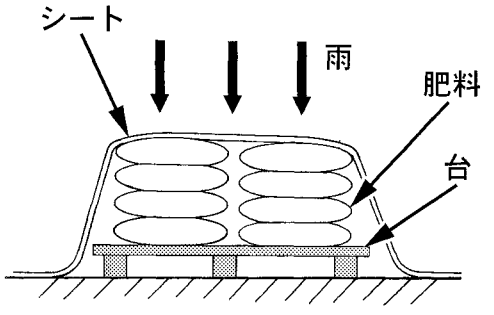
〔参考〕

吸湿性少ない	吸湿性多い
●硫安系化成 ●硫加燐安系高度化成 ●塩加燐安系高度化成 ●IB化成	●尿素系高度普通化成 ●硝安系高度普通化成 ●CDU化成

2. 肥料は開封していない，新しい物を使用してください。
3. 湿気を帯びた肥料や長期保存していた肥料は，使用を避けてください。

補　足

＊雨天時，肥料や肥料袋がぬれないように台の上に肥料を置き，上からシートを掛けてください。



P-1136

4. 光を通し易い透明な肥料（硫安単肥など）は，残量センサが誤作動しますので，使用を避けてください。
5. ホッパに肥料を補給するときは，ふるい網を通してください。

◆一発肥料使用時の注意

一発肥料をご使用の際は，以下の項目をご確認のうえ，あらかじめ農業改良普所などの農業指導機関と良くご相談し，適切な施肥設計に基づいた肥培管理を行なってください。

●繰出し量が調量ツマミの位置の標準値と異なる場合があります。

繰出しテストを行なって目標とする施肥量に調整してください。

●粒形が不揃いなものや砕けやすいものがあります。

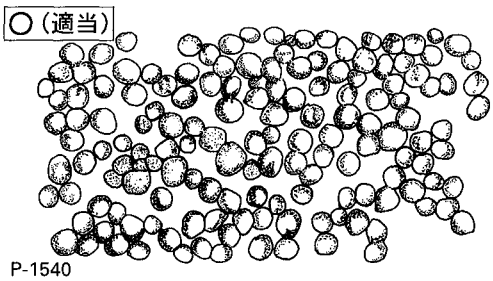
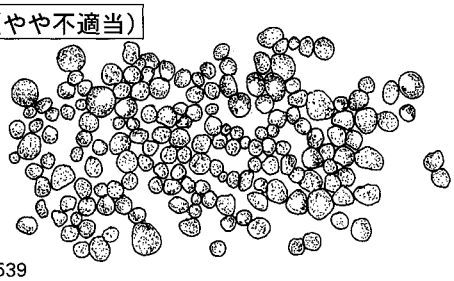
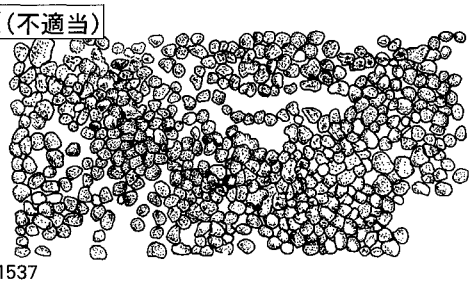
このような肥料は側条施肥機では使用しないでください。

●被覆肥料の溶出は施肥後の気温変化によって大きく左右されます。また，品種，土壌の影響も受けることがあります。

例えば，平年より暑い日が続くと早く溶出が終了するため，過繁茂になったり，肥料切れによって予期せぬ追肥が必要になったりすることがあります。

田植作業のしかた

施肥作業のしかた【F仕様】

使用条件の目安	粒の硬さ	粒の大きさ・形状・ばらつき			
		大きさ	形状	ばらつき	見本（実物大）
○（適当）	※硬い（吸湿性が少なくべとべとしない）	2～4mm	円形	少ない	○（適当）  P-1540
					△（やや不適当）  P-1539
×（不適当）	軟い（吸湿性が多くべとべとする）	2mm以下（粉状含む）	角ばっている	多い	×（不適当）  P-1537

施肥作業のしかた【F仕様】

■作業前の準備

注 意

＊平坦な場所で行なってください。

1. 各部の点検を行ない，汚れや詰まりがあるときは掃除を行ないます。（133ページ参照）また，破損や摩耗があるときは，交換を行なってください。（127ページ参照）

重 要

＊雨天時に作業を行なったあと長時間放置すると肥料が固着し，翌日以降の施肥作業に異常が発生（施肥がされないなど）するおそれがあります。

補 足

＊ロールケースやダクトを取外して掃除やブラシの点検などを行なったときは，エアもれが発生しないように正しく取付けてください。（129ページ参照）

2. 下記項目に異常がないか点検・確認し，異常があれば正しく取付けて各部を作業状態にします。

補 足

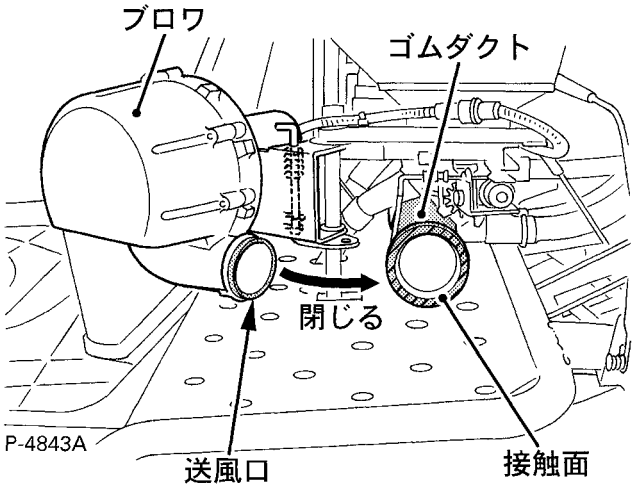
＊エアもれが発生しないように正しく取付けてください。

【6・8・10】

(1) ブロワが閉じているか確認します。（128ページ参照）

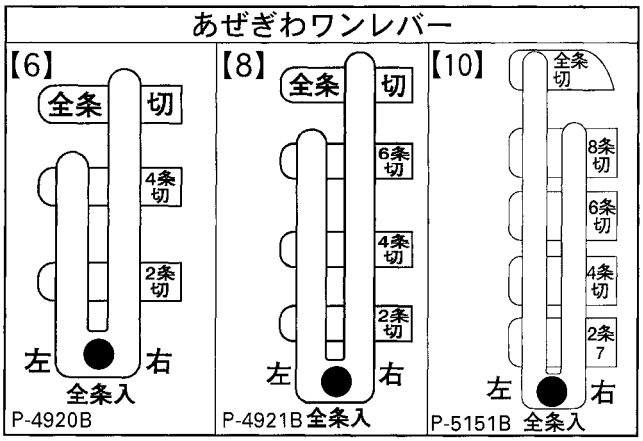
補 足

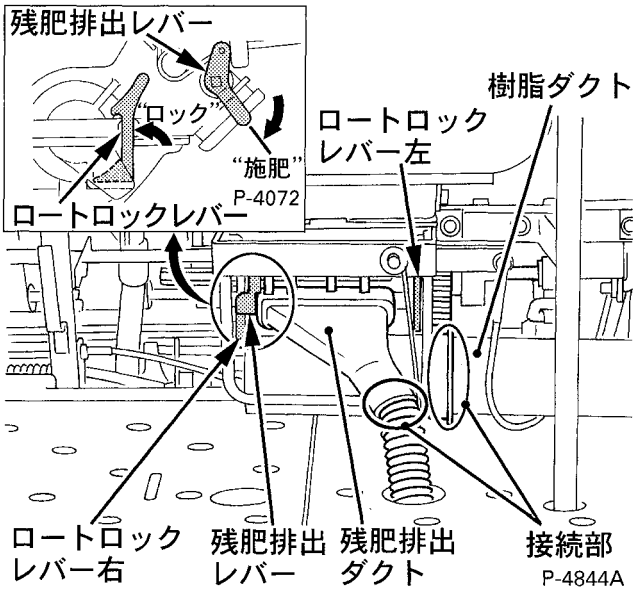
＊ゴムダクトにブロワの送風口を確実に差込んでください。このとき，ゴムダクト側の接触面（斜線部）がめくれていないか確認してください。



(2) 各あぜぎわワンレバーが“全条入”位置になっているか全条確認します。

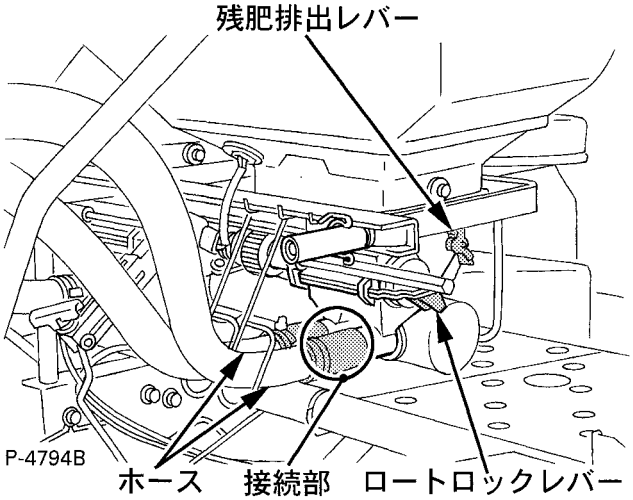
(3) 残肥排出レバーが“施肥”位置，左，右のロートロックレバーが“ロック”位置にあることを確認します。





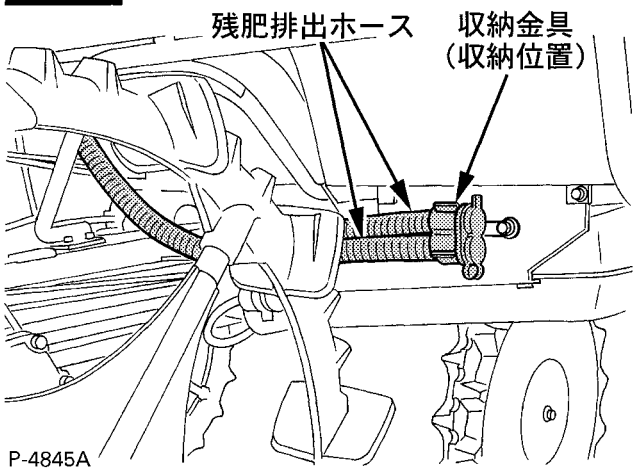
(4) 各ホースや各ダクト，残肥排出ダクトが正しく接続されているか確認します。

(5) 各残肥排出ホースが収納金具に収納されているか確認します。



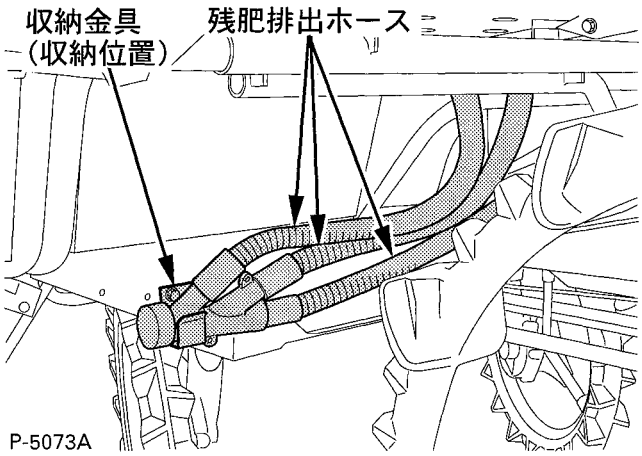
施肥作業のしかた【F仕様】

【右側】



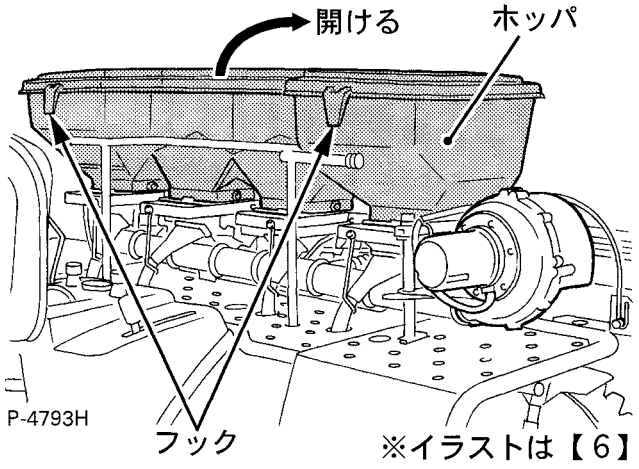
【右側】

【10左側】



【10左側】

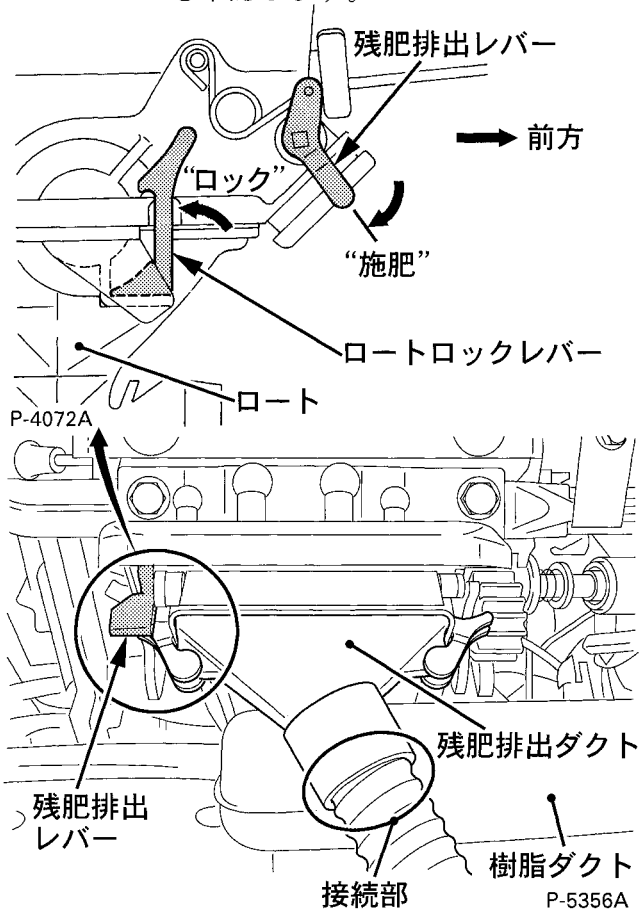
3. 施肥量を決めて，繰出し量を調節します。
(113ページ参照)
4. 左，右２箇所のフックを外し，ホッパのふたを開いて肥料を入れます。



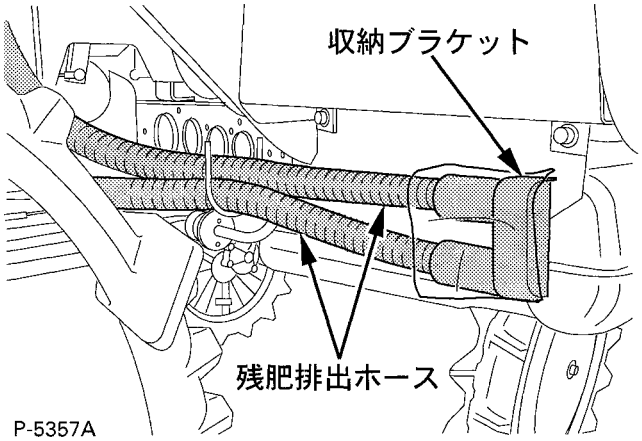
【6・8・10】

【SP仕様】

(1) 施肥全条停止レバーが**“全条繰出”**側になっているか確認します。
(2) 各あぜぎわワンレバーが**“全条入”**位置になっているか全条確認します。
(95ページ参照)
(3) 残肥排出レバーが**“施肥”**位置，左，右のロートロックレバーが**“ロック”**位置にあることを確認します。

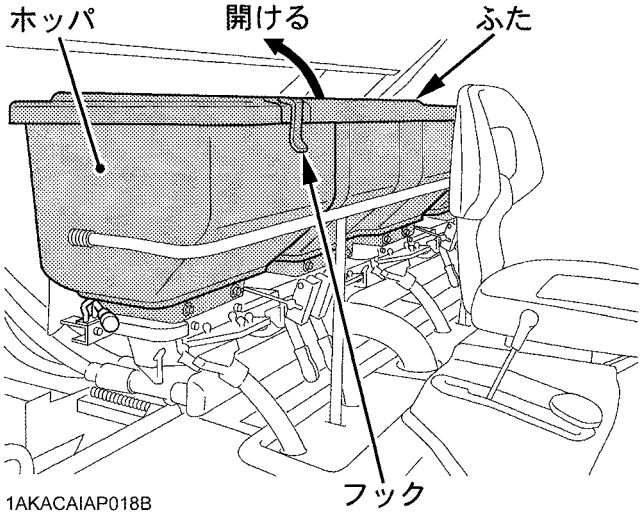


(4) 各ホースや各ダクト，残肥排出ダクトが正しく接続（ロック）されているか確認します。
(5) 各残肥排出ホースが収納ブラケットに収納されているか確認します。



施肥作業のしかた【F仕様】

3. 施肥量を決めて，繰出し量を調節します。（**“作業に合わせた各部の調節・調整”**の項参照）
4. 左，右２箇所のフックを外し，ホッパのふたを開いて肥料を入れます。

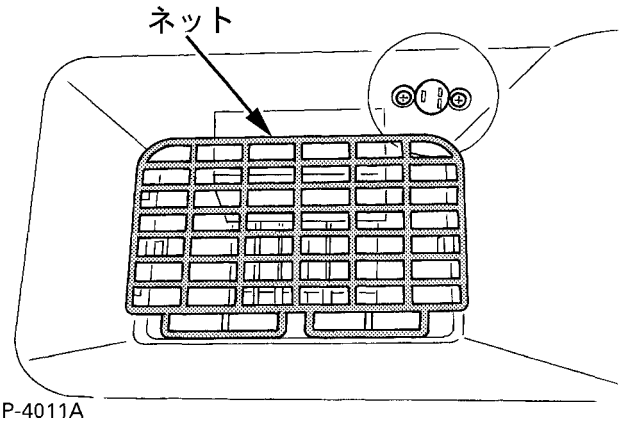


1AKACAIAP018B

【SP仕様】

重　要

＊フックを片方だけ外して無理に開けると，もう片方のフック部やふたが破損することがあります。
＊ホッパ内には肥料以外のものは入れないでください。また，ホッパ，カバー（ホッパ）の上に強い力をかけないでください。破損の原因になります。
＊ネットを取外した状態では肥料を入れないでください。肥料のかたまりがロール溝に入り，詰まりの原因になります。



P-4011A

＊肥料が原因で目詰まりを起こし，成育ムラが生じないようにするため下記の事項に注意してください。

- ネットに残った大きな肥料は取除く。
- ホッパ内に雨水や掃除時に水が入らないようにする。
- 連日の作業を行なうときでも必ず肥料を排出する。
- １晩置いて露が発生したときは，ホッパ内，ネット，ロール部の露を拭取る。
- 開封後しばらくして湿気を吸った肥料で，固まったものは使用しない。
- 運搬時にホッパ内の肥料は空にする。（振動により目詰まりが発生することがあるため）
- ロール溝に肥料粉が付着しているときは，必ず掃除してください。

補　足

＊重さ（kg）は肥料の種類によって異なる場合がありますが，ホッパ容量（L）は下記の通りです。
【６】…… 66L（約60kg）
【８】…… 88L（約80kg）
【10】…… 111L（約100kg）

5. エンジンを始動し，ブロワ，各ダクト，各ホースの接続部からエアもれしていないか確認します。

補　足

＊エアもれしていると，詰まりの原因にもなります。

6. ロール溝，ロート内部に肥料が付着していないか確認してください。

■施肥作業のしかた

エンジンを始動すると同時にブロワが回転し，主変速レバーを**“前進”**側に動かすと苗の植付けと同時に施肥を行ないます。また，ブロワはエンジン回転中は，植付部下降時のみ回転します。

補　足

＊アクセルレバーは必ず**“作業範囲”**内にセットしてください。バッテリ上りの原因となります。
＊植付部最上昇位置のとき，ブロワは停止します。

◆施肥ムラ（成育ムラ）の防止

施肥ムラがあると，苗の成長異常となりますので下記事項に注意してください。

(1) 植付始めは**低速**で行なってください。最初の２～３株に施肥がされない場合があります。
(2) 必ず**減速**してから停止してください。急停止すると多肥になる場合があります。
(3) 植付速度は一定の速さで，まっすぐ行なってください。施肥ムラや覆土異常の原因となります。
(4) 枕地の植付けや変形田での植付け時，交差植えや無植箇所を少なくしてください。多肥になったり，肥料がムダになる場合があります。
(5) 肥料切れのセンサが点灯したら早目に肥料を補給してください。
(6) 肥料は側条施肥専用のものを使用してください。吸湿性の多い肥料，やわらかい肥料は使用しないでください。詰まりの原因となります。
(7) 田面に水気が無く硬くなっている場合は，ふく土がされにくいので，田植作業に適したほ場条件で作業を行なってください。

◆施肥作業中の確認

作業中にふく土状態やホッパ内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し，処置をします。（95ページ参照）

重　要

＊植付部を降した状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり，詰まりの原因となります。

補　足

＊蛇行運転をすると，ふく土が正しくされないことがあります。

◆肥料の補給のしかた

肥料が少なくなると肥料切れのセンサがはたらいて，施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは，早目に肥料を補給してください。

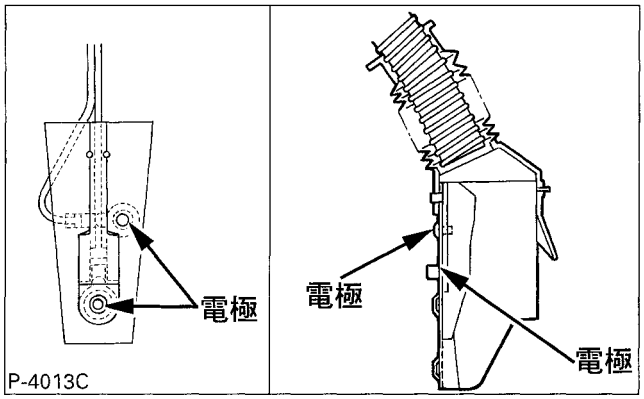
補　足

＊警報停止スイッチを押すと警報ブザーは停止し，肥料を補給するとランプは消灯します。
＊肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し，なるべく枕地で行なってください。

◆肥料詰まり予知センサについて

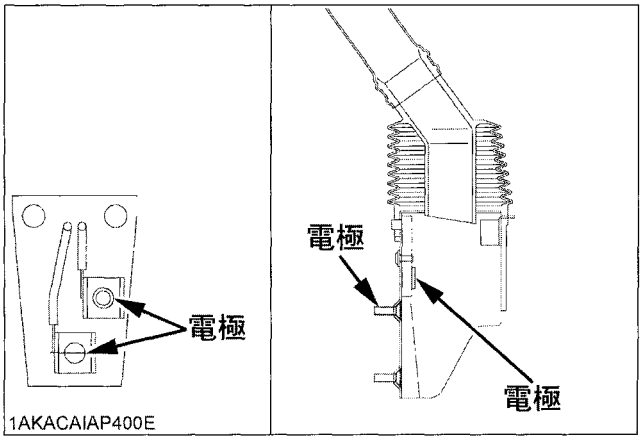
肥料詰まり予知センサは，作溝器内に泥水や小粒肥料，肥料粉などの異物が付着して発生する肥料詰まりを予知するセンサです。センサがはたらくと，施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは，作溝器内の異物を取除き，全条の作溝器の点検と掃除を行なってください。

【6・8・10】



【6・8・10】

【SP仕様】



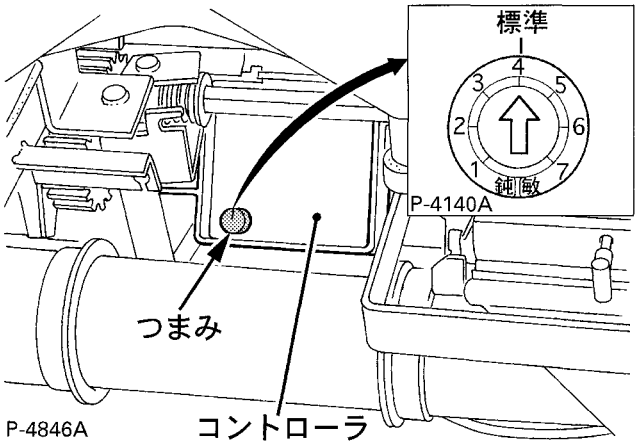
【SP仕様】

施肥作業のしかた【F仕様】

補　足

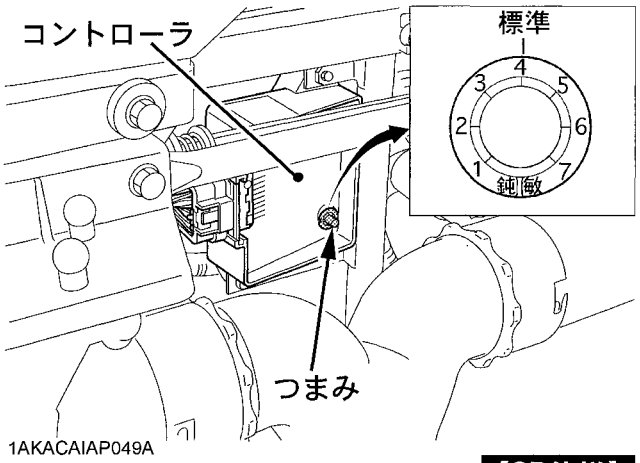
＊深水ほ場で，苗補給や肥料補給などで一時停止したときに，詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して，詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを“鈍”側（鈍感）の方向に調整して作業を続けてください。

【6・8・10】



【6・8・10】

【SP仕様】



【SP仕様】

＊乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき，作溝器内を点検してください。

＊作溝器内の後側（センサと反対側）に肥料が付着しても警報が出ない場合があります。

＊ほ場の水位が高いほど予知センサがはたらきやすくなりますので注意してください。

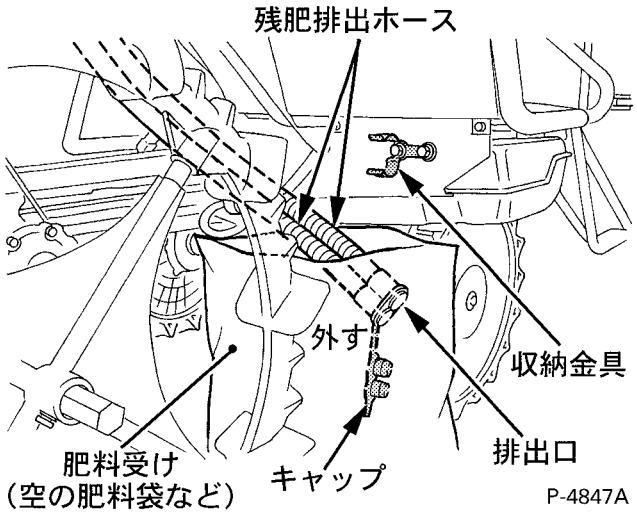
■ホッパ内の肥料の排出のしかた

注　意

＊平坦な場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

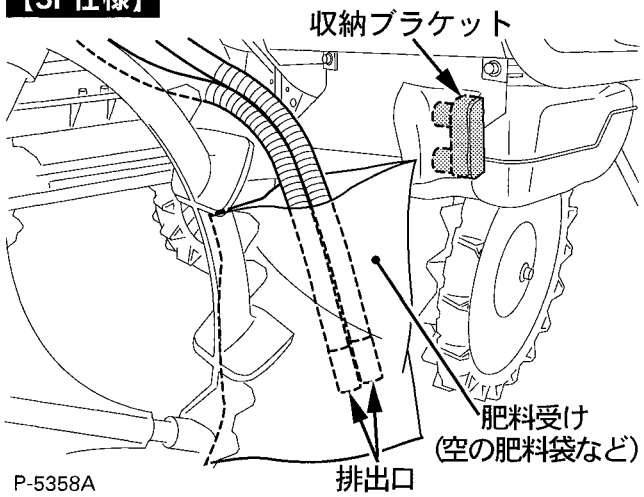
1. エンジンを停止します。
2. 残肥排出ホースを収納金具から取外します。
3. 残肥排出ホース排出口のキャップを外して，肥料受け（空の肥料袋など）を準備してホース1本分（1条又は，2条）ずつ排出します。

【6・8・10】



【6・8・10】

【SP仕様】



【SP仕様】

施肥作業のしかた【F仕様】

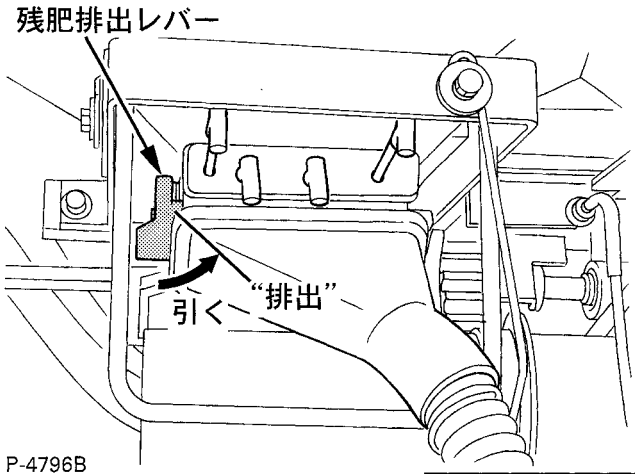
補　足

＊肥料受け（空の肥料袋など）は，残量が入る大きさのものを選んでください。残肥排出ホース１本から排出される最大量は，満杯時の22L（約20kg）です。また，残肥排出ホースは，左，右に各２本あります。

＊洗車後などで排出ホース内に水がたまっていることがありますので注意してください。

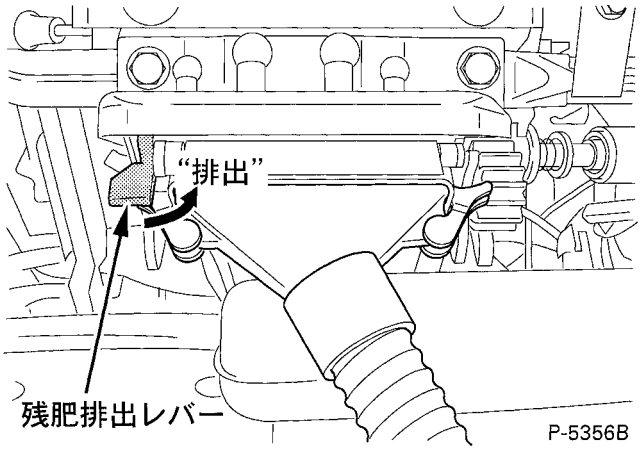
4. 残肥排出レバーを前方に引く（**“排出”**位置）と同時に肥料が排出されます。

【6・8・10】



【6・8・10】

【SP仕様】



【SP仕様】

補　足

＊排出ホースを少し引張ってたるみをなくすと，肥料の流れがよくなります。このとき，ホースを強く引張りすぎるとホースが継ぎ手から外れるおそれがあります。

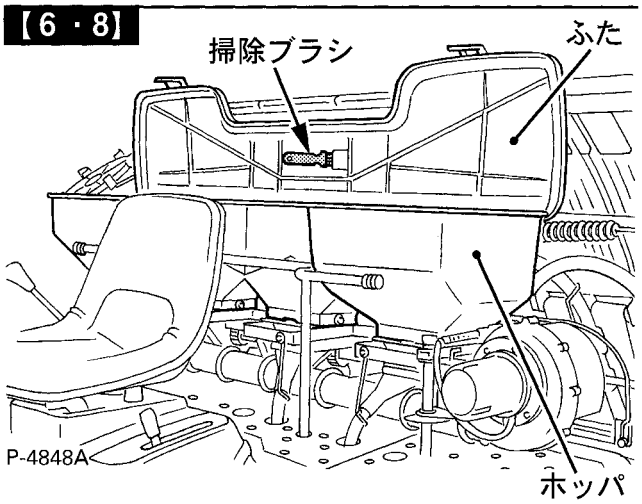
＊一度排出ホース内で肥料が滞留すると，肥料の流れが悪くなります。

5. 排出が終わるとホッパを開き，ネットの上に肥料や異物が残っている場合は取除き，ネットを取外して，付属の掃除ブラシでホッパ，ロールケース内の掃除をします。

補　足

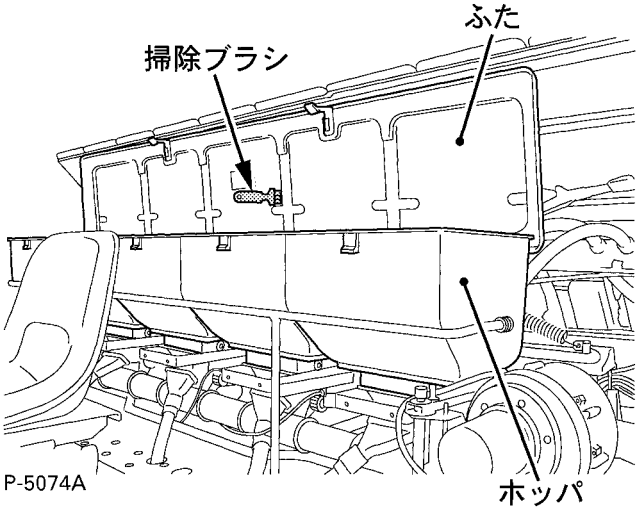
＊掃除ブラシは出荷時，ホッパのふたの裏側に取付けています。失くさないように保管してください。

【6・8】



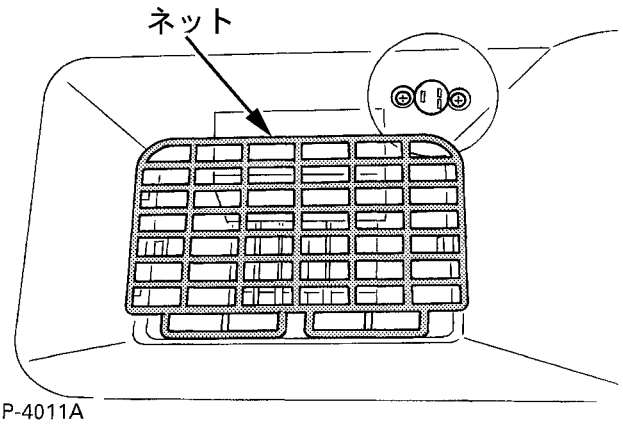
【6・8】

【10】



【10】

施肥作業のしかた【F仕様】

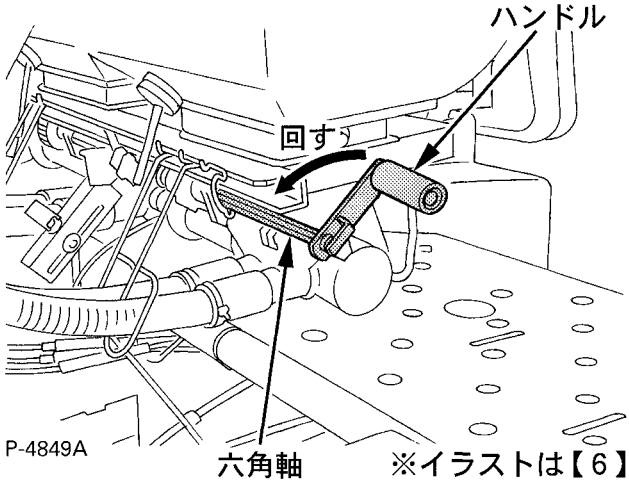


P-4011A

6. ネットを取付けたあと，ホッパを閉じて残肥排出レバーを**“施肥”**位置にします。
7. エンジンを始動します。

【6・8・10】

8. 肥料繰出し用の六角軸に繰出し用ハンドルの六角穴を合わせて左回転方向（矢印方向）に回し，ロールケースを回して（113ページ参照）ロール溝に残った肥料を排出します。



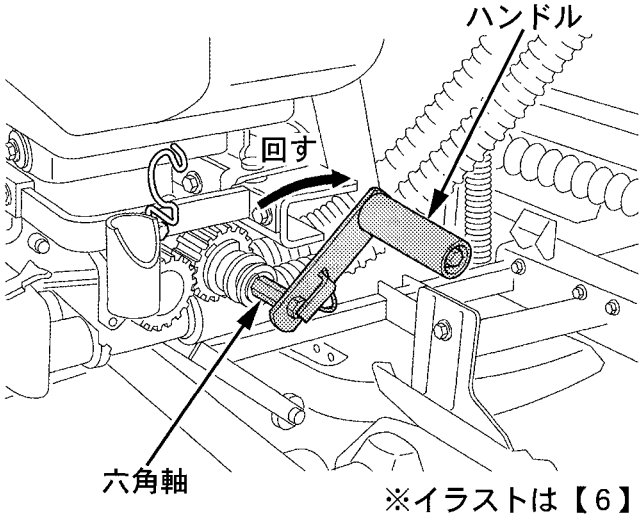
P-4849A

※イラストは【6】

【6・8・10】

【SP仕様】

8. 肥料を繰出し用の六角軸に繰出し用ハンドルの六角穴を合わせて右回転方向（矢印方向）に回し，ロールケースを回して（113ページ参照）ロール溝に残った肥料を排出します。



※イラストは【6】

1AKACAIAP028C

【SP仕様】

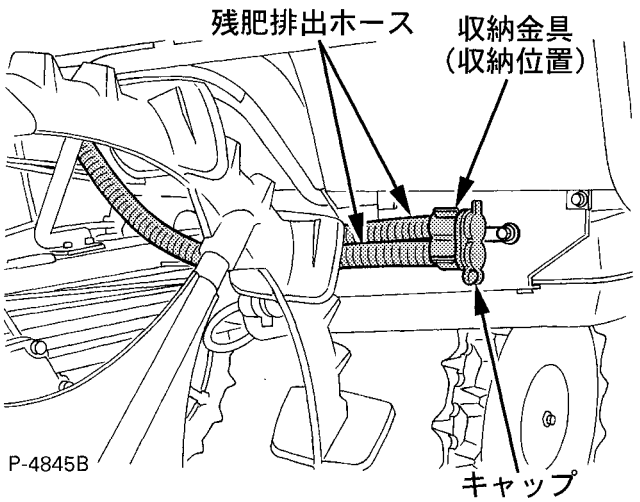
補　足

＊ロール溝内に肥料が残っていると湿気などで固まり，目詰まりの原因となります。
＊ロール溝内やブラシの毛の中に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると，施肥量が変化するなどの異常が発生するおそれがあります。
＊最上昇位置から植付部を少し下降させてください。（ブロワが回転しない為）

施肥作業のしかた【F仕様】

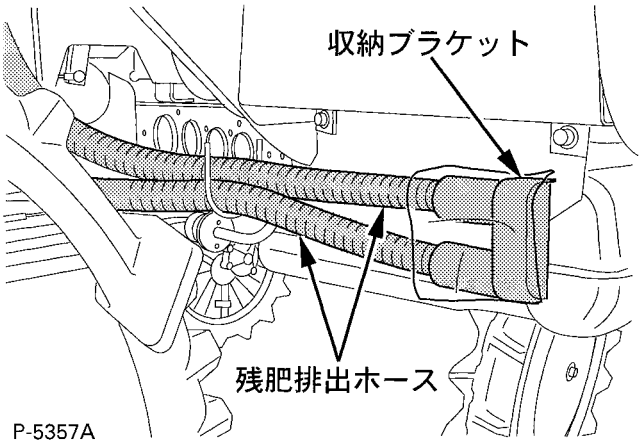
9. 排出した肥料の袋の口を閉じたあと，残肥排出ホースの排出口にキャップをして収納金具に取付けます。

【6・8・10】



【6・8・10】

【SP仕様】



【SP仕様】

重　要

＊肥料にはさびを発生させる成分が含まれているため，１日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行なってください。特にエア抜き，ツールバー，植付けケース各周辺（133～136ページ参照）は必ず行なってください。

補　足

＊ホースガイドにホースをのせてください。

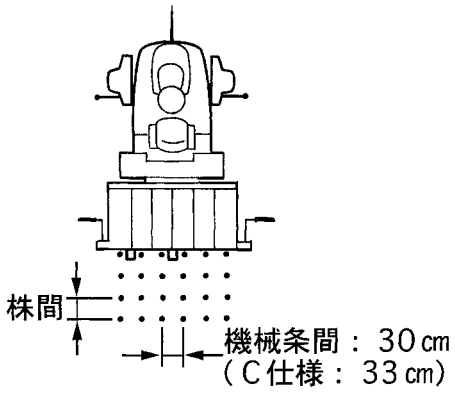
作業に合わせた各部の調節・調整

注　意

＊平坦な場所で行なってください。

1. 植付株数の調節

植付株数は，株間調節レバーを切替えて行なってください。調節は６段階（SP仕様は５段階）行なえます。植付株数は，株間が狭くなると多くなり，株間が広くなると少なくなります。

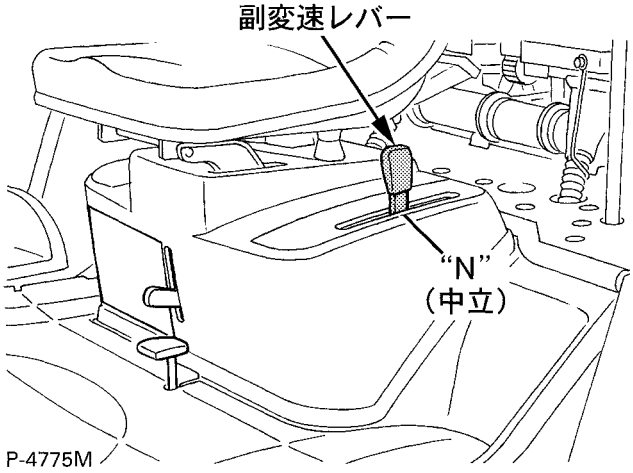


1. 植付作業中のときは，植付けを停止したあと，走行を停止します。エンジンが止まっているときは，エンジンを始動します。

重　要

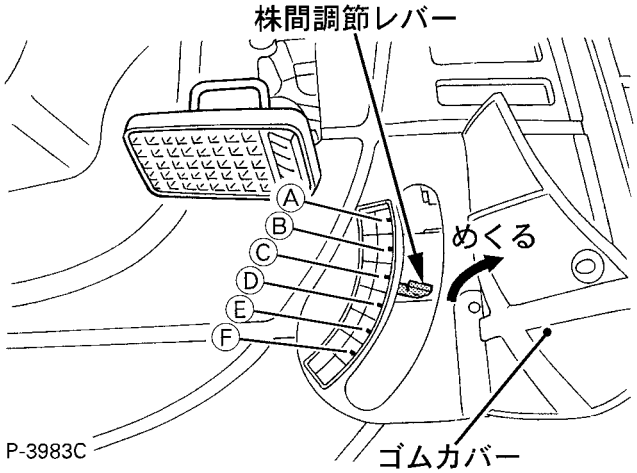
＊植付部が駆動していると，株間を調節するときに機械が損傷するおそれがあります。

2. 副変速レバーを“N”（中立）位置にします。



作業に合わせた各部の調節・調整

3. 主変速レバーを“N”（中立）位置にします。
4. ステップ右側にあるゴムカバーをめくり，株間調節レバーを切替えて調節します。



P-3983C

レバー位置		Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ
株間(cm)	標　準	12	14	16	18	21	24
	C仕様	11	12	14	16	18	21
株　数（株/3.3m²）		90	80	70	60	50	45

※Ⓕレバー位置はSP仕様除く

補　足

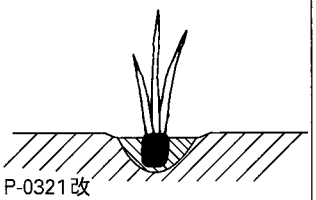
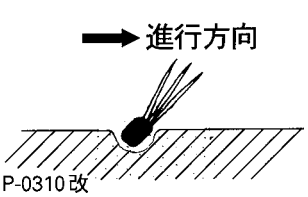
＊レバーが切替わりにくいときは，エンジンを始動させたあと，いったん主変速レバーを“前進”側に操作し，再度“N”（中立）位置に戻してからエンジンを停止してください。

【SP仕様除く】

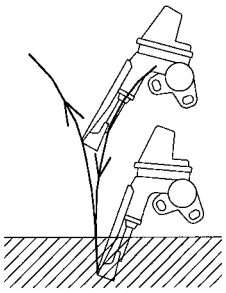
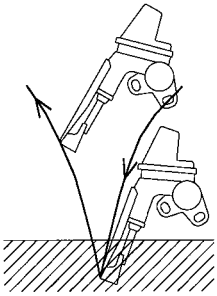
＊株間を24cmに設定して植付作業を行なったとき，ほ場表面の状態により，株間を変更することにより植付けるときの爪の動きが変わるため，苗が倒れたり，植付姿勢が乱れる場合があります。

【SP仕様除く】

● ほ場の状態

○：良い状態	×：悪い状態
表面がやわらかく爪跡がすぐに消える。	爪跡が残る。
	
P-0321改	P-0310改
爪が移動するとき，苗に抵抗が掛かっても泥によって苗が支えられて倒れない状態	爪が移動するとき，苗に抵抗が掛かると苗が倒れる状態

● 爪の動き

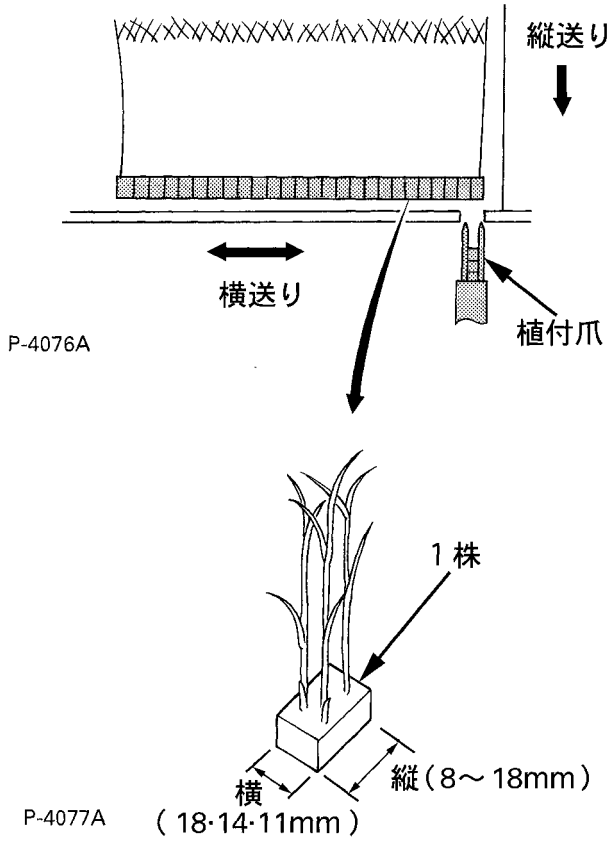
爪の動き：株間18cm	爪の動き：株間24cm
	
P-4915A	P-4916A
爪は真上に上がる	爪は前方に移動しながら上がる。（進行方向に植付後の苗に抵抗が掛かり倒れやすい。）

- 株間を24cmに設定して植付作業を行なうときは，代かきや代かき後の水管理，日数に注意して，ほ場の状態を適切な状態にしてください。また，植付速度を遅くして苗が倒れないように作業を行なってください。
- 上記の対応を行なっても苗が倒れたり，植付姿勢が乱れる場合は，174ページを参照して処置してください。処置しても直らない場合は，株間を狭くしてください。

5. 調節が終わるとゴムカバーを閉じます。
6. 植付作業と植付後の確認を行なって，異常がなければ作業を続けます。

2. 苗取り量(1株本数)の調節

植付爪が取出す1株あたりの本数を，横送り調節レバー（苗取り量）と苗取り量調節レバー（縦取り量）で調節を行なってください。



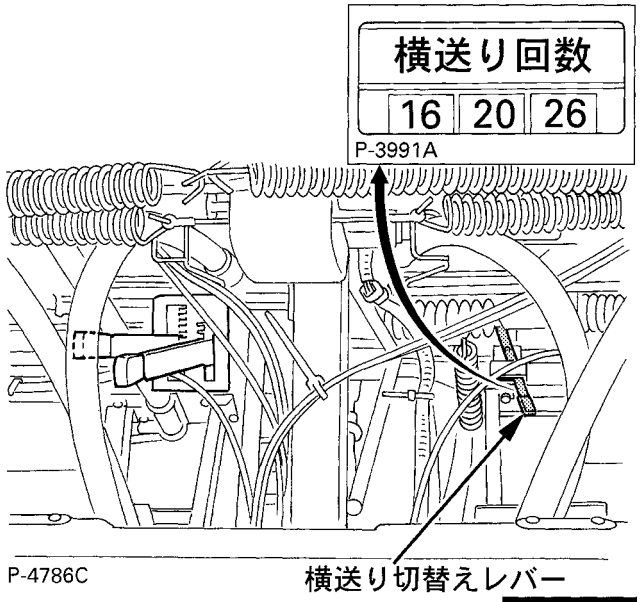
補　足

＊1株あたりの本数は条件によって異なりますが，3～5本が標準です。

◆横送り切替えレバー

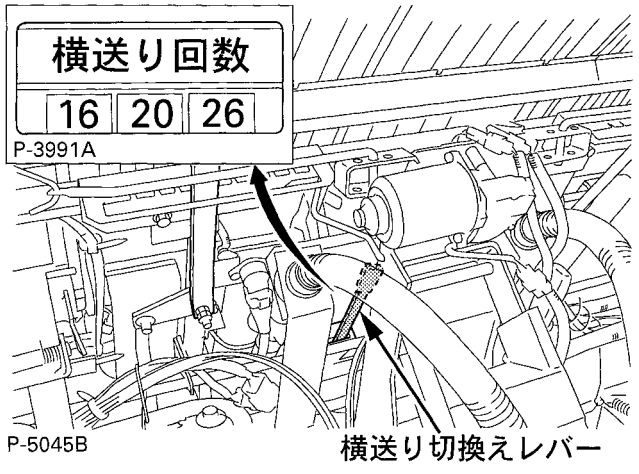
横送り回数は苗の成長状態によって切替えてください。調節は3段階行なえます。

【6・8】



【6・8】

【10・10-8】



【10・10-8】

作業に合わせた各部の調節・調整

16回	20回	26回
成　苗	中　苗	稚　苗

P-4078A

補　足

＊横送り量は，16回で18mm，20回で14mm，26回で11mmです。

【6・8】

1. エンジンを停止又は，アクセルレバー**【SP仕様除く】**，又は主変速レバー**【SP仕様】**を操作して，エンジン回転数を**最低回転**（**“🐢”**）位置（アイドリング状態）にします。
2. 苗の状態に合わせて，レバーを切替えます。
3. エンジンを始動又は，アイドリング状態のままで主変速レバーをゆっくり操作し，植付爪が２～３回転回ったことを確認して植付作業を行なってください。

【6・8】

【10・10-8】

1. **“■植付作業の手順”**（77ページ参照）の工程1.～5.を行ないます。
2. 主変速レバーをゆっくりと**“前進”**側に操作して，植付部を駆動させ，苗のせ台が右端又は，左端まで移動します。
3. 植付部左右にあるタテオクリカムの中心とレバー切替え位置ラベルの中心を合わせた位置にし，主変速レバーを操作して横送りを停止したあと，横送り切替えレバーの切替えを行ないます。

●横送り回数を増やしたい

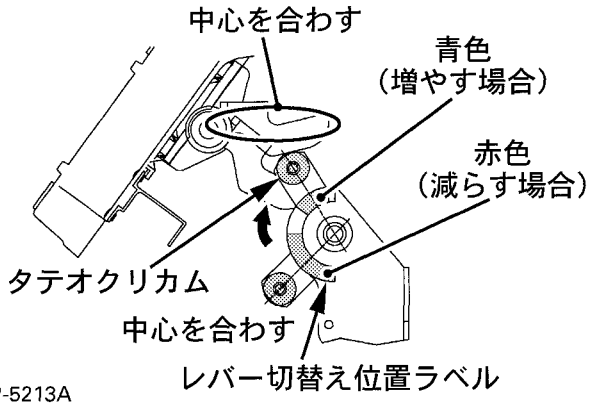
（16回→20回→26回）場合

タテオクリカムの中心とレバー切替え位置ラベルの青色の範囲の中心を合わせた位置でレバーの切替えをおこないます。

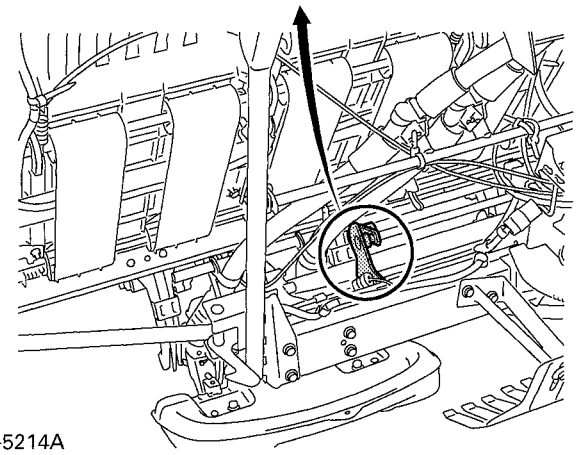
●横送り回数を減らしたい

（26回→20回→16回）場合

タテオクリカムの中心とレバー切替え位置ラベルの赤色の範囲の中心を合わせた位置でレバーの切替えをおこないます。



P-5213A



P-5214A

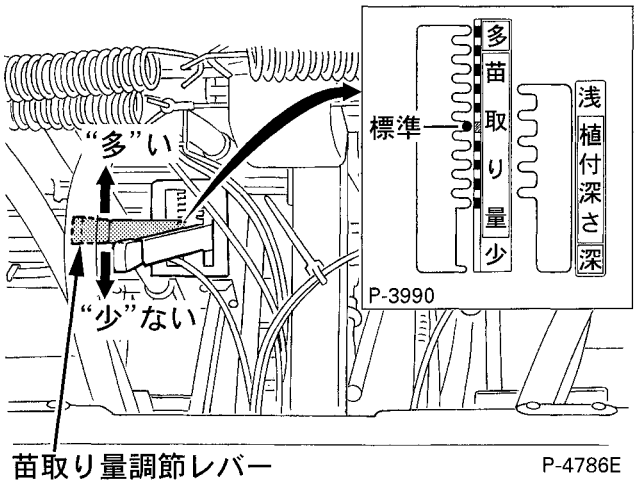
4. 横送り回数を変更したあとの苗のせ台の横送りの確認を行ないます。確認作業は苗のせ台を右端又は，左端まで横送りしたとき，端部で縦送りをしない又は，２度縦送りをするときは，切替えが正しく行なわれていないため，欠株が発生することがありますので，下記手順で再度切替えを行なってください。
   (1) 苗のせ台を再度横送りさせながら横送り切替えレバーをいったん他の横送り回数位置に切替えたあと，素早く元の位置に切替えます。
   (2) 再度横送りの確認を行ない，端部に異常があれば再度(1)と同じ作業を行ないます。

【10・10-8】

◆苗取り量調節レバー

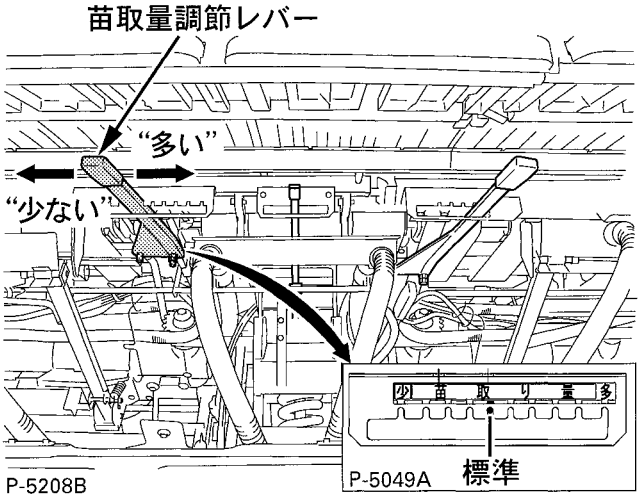
苗や苗床によってレバー調節してください。調節は８～18mmまで10段階行なえます。

【６・８】



【６・８】

【10・10-8】



【10・10-8】

横送り量と合わせて１株本数を，レバーで調節します。レバーは切欠溝に確実にセットしたあと植付作業を行なってください。

◆植付株数と苗の使用量について

10アール（ａ）あたりの苗の使用量は，栽植密度（植付株数）と１株あたりの苗取り量によって決まります。下記の表を参照して，苗箱（箱）の使用量の目安にしてください。

横送り回数（回）	苗の種類	苗取り量レバー位置	3.3m²当り株数（株）					
			45	50	60	70	80	90
16	成苗	３段目	－	27	32	37	42	48
20	中苗	３段目	19	21	26	30	34	38
26	稚苗	６段目	12	13	16	18	21	23

※苗取り量レバー位置は，**上（“多”い）**から数えた位置。

※ □ 枠内は，目安の苗箱（箱）の使用量。

※苗取り量レバー位置［45］は，SP仕様除く。

補　足

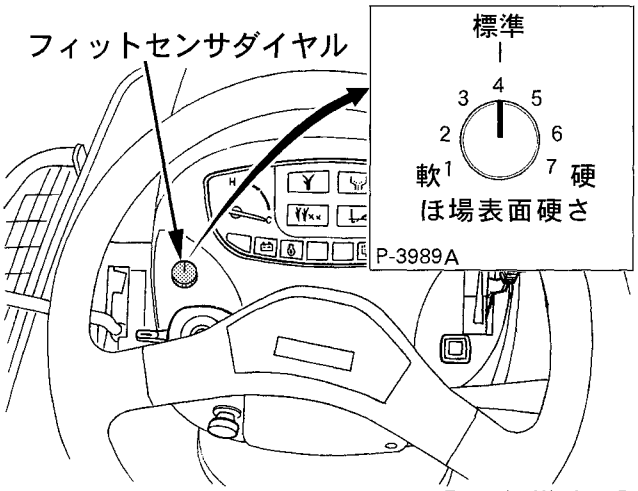
＊苗取り量（縦取り量）のレバーを１段変更すると，苗箱は６～８％増減します。

＊上表はあくまで目安ですから苗箱は多めに準備してください。

作業に合わせた各部の調節・調整

3. フィットセンサダイヤル

植付部の下側にあるフロートが，植付速度に応じて植付深さを一定に保つため，高速作業時にフロートの浮上りによる浅植えのないように制御していますが，ほ場の状態により，泥を押したり，凹凸がじゅうぶん整地されないときは，ダイヤルでフロートの感度調節を行なってください。調節は７段階行なえます。



P-4816F

※イラストは【SP仕様除く】

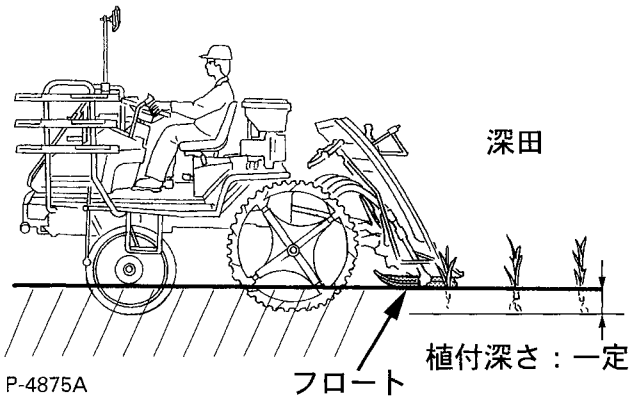
● 設定位置

ほ場状態を確認しながら，ダイヤルで下記の表を目安に感度調節を行なってください。

ほ　場　状　態		設定位置
軟い ⬆ 標準 ⬇ 硬い	● トロトロした状態で，泥押しをする。 ● 整地も良く，泥押しが少ない。 ● 硬くて整地が悪い。 ● 凹凸が激しく，荒れている。（車輪跡や足跡が残る。）	1～3 4 5・6 7

補　足

＊調節を行なったときは，植付け深さの調節も同時に行なってください。



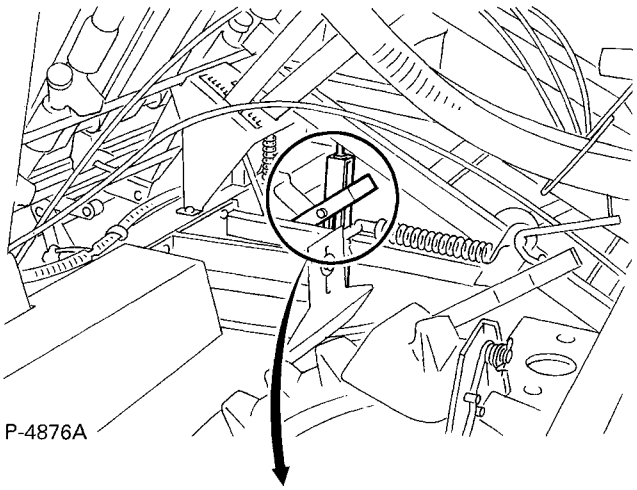
P-4875A

◆センサの感度調節について

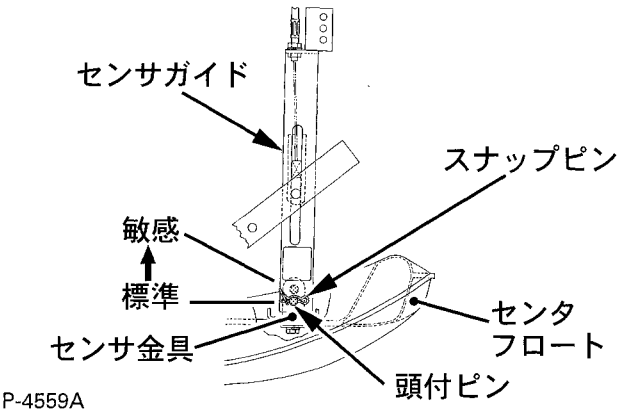
【6・8】

フィットセンサダイヤルを“1”に設定しても，フロートの沈下が大きく泥押しをする**軟いほ場**の場合は，センサ金具を**“敏感”**の位置に変更してください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. センサ金具とガイドセンサを取付けているスナップピンと頭付ピンを取外します。
4. 頭付ピンを**“標準”**位置から**“敏感”**位置に差換えてスナップピンを取付けます。



P-4876A



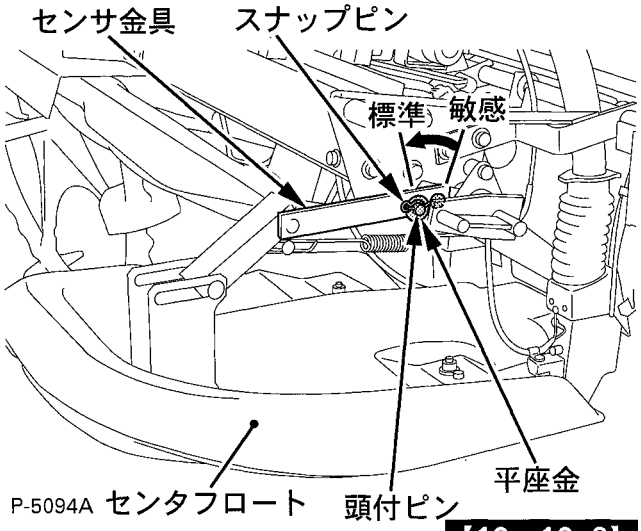
P-4559A

【6・8】

【10・10-8】

フィットセンサダイヤルを“1”に設定しても，フロートの沈下が大きく泥押しをする**軟いほ場**の場合は，センサ金具を**“敏感”**の位置に変更してください。

1. エンジンを始動したあと，苗のせ台を折りたたみます。（72ページ参照）
2. 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. センサ金具とガイドセンサを取付けているスナップピン，平座金と頭付ピンを取外します。
4. 頭付ピンを**“標準”**位置から**“敏感”**位置に差換えて平座金とスナップピンを取付けます。



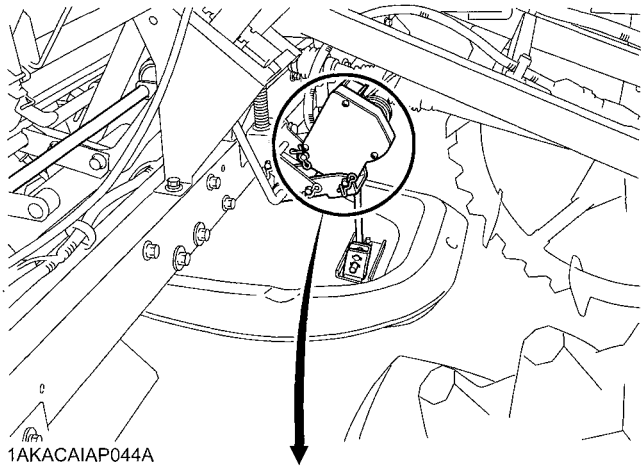
P-5094A

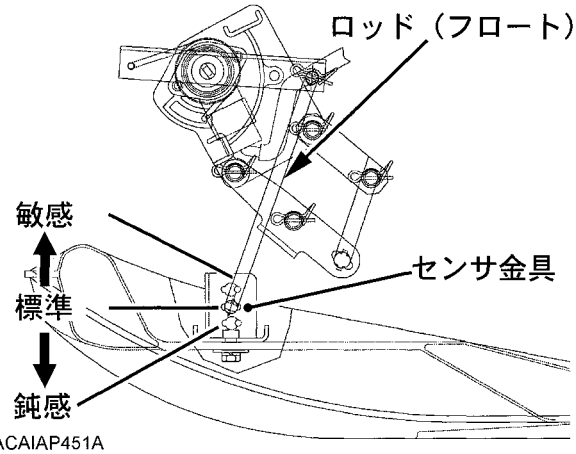
【10・10-8】

【SP仕様】

フィットセンサダイヤルを“1”に設定しても，フロートの沈下が大きく泥押しをする**軟いほ場**の場合は，センサ金具を**“敏感”**の位置に変更してください。また，フィットセンサダイヤルを**“7”**に設定しても整地が不じゅうぶんな場合は，センサ金具を**“鈍感”**位置に変更してください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. センサロッドを取外します。
4. ロッドを**“標準”**位置から**“敏感”**位置に差換えて取付けます。


1AKACAIAP044A



1AKACAIAP451A

【SP仕様】

補　足

＊**“敏感”**側の穴に移すと，感知が敏感になり，浮き苗が出たり植付け深さが浅くなったりするおそれがありますので，できるだけフィットセンサダイヤルをこまめに調節して対応してください。

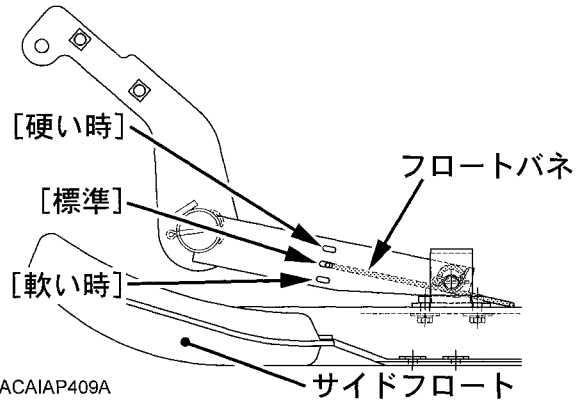
＊出荷時は**“標準”**位置です。

作業に合わせた各部の調節・調整

【SP仕様】

◆フロートバネの調節

サイドフロートのみフロートの沈下が大きく泥押しをする軟いほ場の場合や，逆にほ場が硬く整地が弱い場合はフロートバネの調節を行なってください。

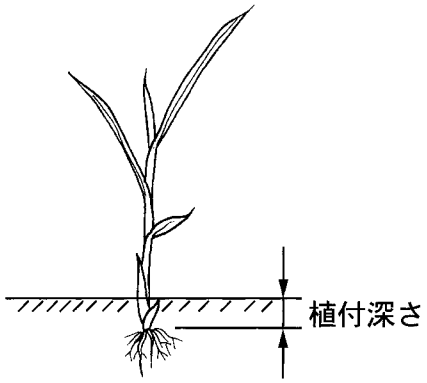


1AKACAIAP409A

【SP仕様】

4. 植付深さ調節

ほ場や苗の条件に合わせて，苗の植付深さの調節をレバーで行なってください。調節は２～５cmまで５段階行なえます。

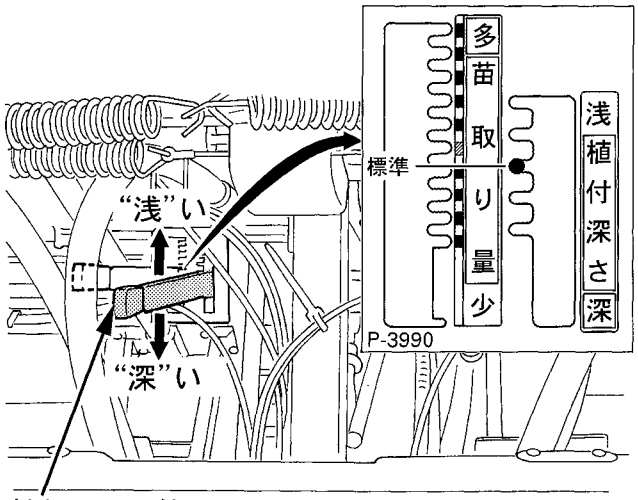


P-4078C改

補　足

＊植付深さは２～３cmが適正です。

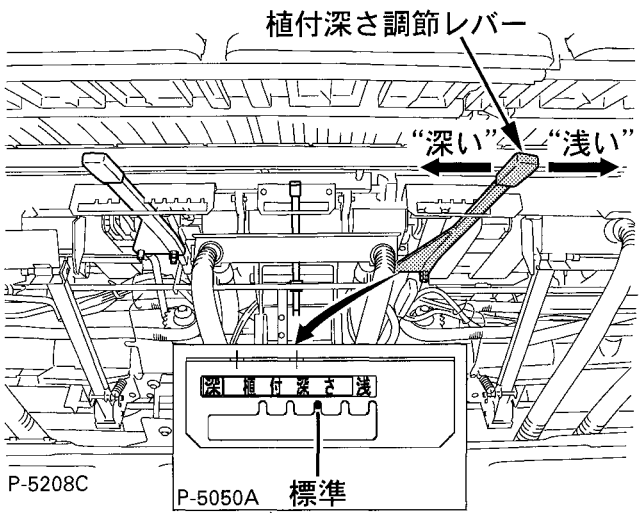
【６・８】



P-4786F

【６・８】

【10・10-8】



【10・10-8】

1. 植付部を上昇します。
2. レバーで調節し，切欠溝に確実にセットします。
3. 植付部を降して植付作業を行なってください。

補　足

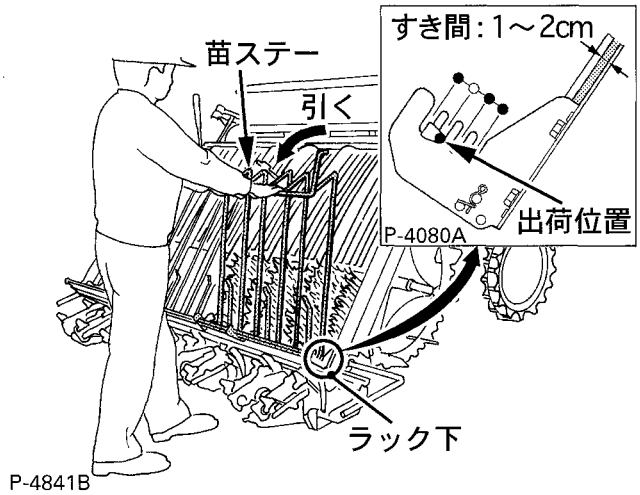
＊調節を行なったあと，ほ場状態を確認し，異常があれば整地板の高さ調節を行なってください。（111ページ参照）

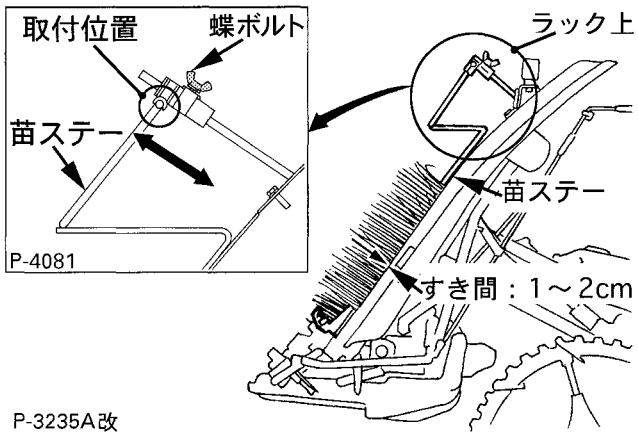
5. 苗ステー・苗押さえ棒の調節

苗のせ台に苗をのせたとき，苗ステーとのすき間が大きかったり，苗床の状態が悪く（薄くて軟弱な苗や根張りの悪い苗など）て，くずれ落ちによる欠株が発生したり，苗が前，後に倒れるときは調節を行なってください。

◆苗ステー

1. 植付部を下降したあと，エンジンを停止します。
2. 苗ステーの上側を横にずらして引張り，上側のラックの取付部から外します。
3. 苗床とのすき間が１～２cmになる位置に下側のラック位置の変更をします。
4. 苗ステーを上側のラックの取付位置に戻します。
5. 上側のラックの左，右両端にある蝶ボルトをゆるめて，苗床と苗ステーのすき間が平均になるように調整します。



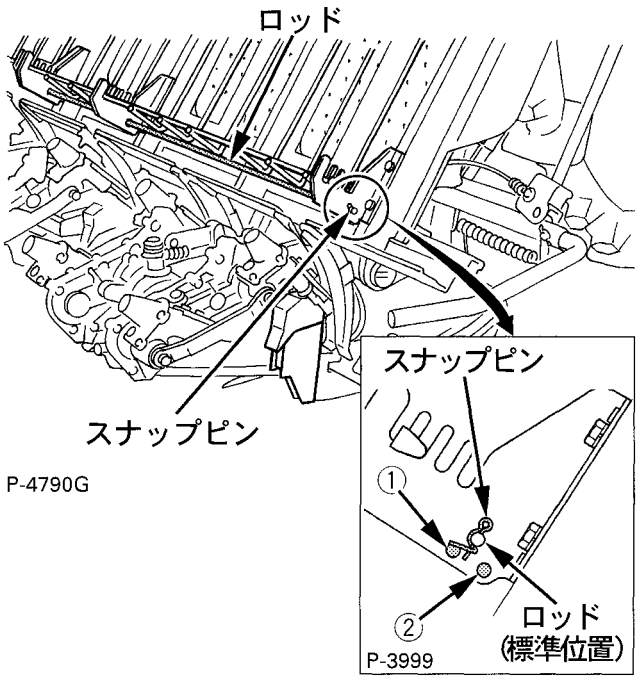


6. 蝶ボルトを締付けます。

作業に合わせた各部の調節・調整

◆苗押さえ棒

1. 植付部を下降したあと，エンジンを停止します。
2. スナップピンを取外したあと，ロッドを抜取ります。
3. 穴の位置を変更してロッドを差込んだあと，スナップピンを取付けます。



●調節位置

現　　象	取付穴位置
• 苗が短い。 • 植付けたとき，苗が後に倒れる。 • 苗床が軟弱で，植付けるとバラケやすい。	標準➡② 又は， ①➡標準
• 苗が長い。 • 植付けたとき，苗が前に倒れる。 • 苗が押さえ棒に引掛かり，しゅう動板まで降りてこない。	標準➡① 又は， ②➡標準

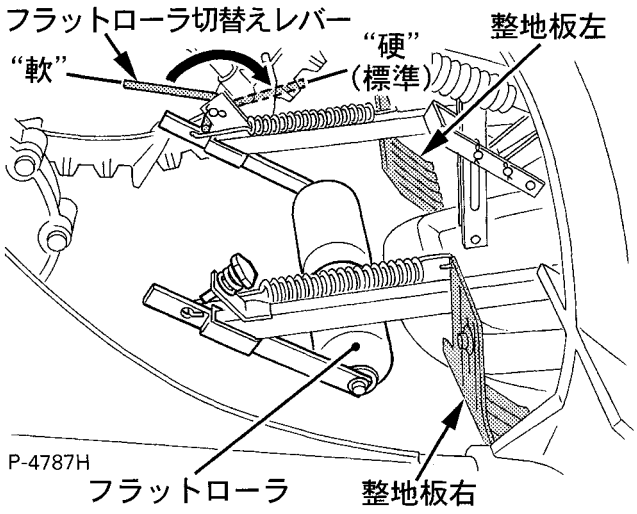
6. フラットローラ・整地板の調節

ほ場状態に合わせて調節を行なってください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。

●フラットローラ切替えレバー

“硬”(硬い) ..... 標準又は，硬いほ場の作業位置。
“軟”(軟い) ..... 夾雑物が多いほ場や，軟かいトロトロのほ場(高速作業時に泥押しをして隣接の苗を倒すなど)の作業位置。



補　足

＊フラットローラの切替えを行なったときは，必ず整地板の高さ調整を行なってください。

●整地板

調節は上，下方向に６段階行なえます。

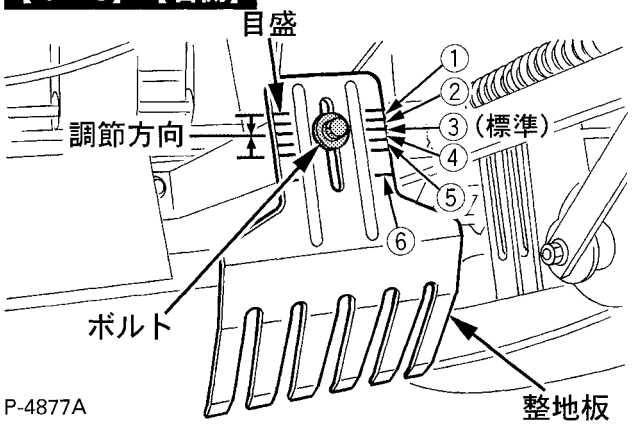
(1) 植付深さレバーを調節したとき，(**“深”植え⟷“浅”植え**)ほ場状態に合わせて，整地板の高さを①～⑤の範囲で調節してください。

※目安

ほ　場　状　態	硬い ⟷ 軟い
整　地　板	① ⟷ ⑤

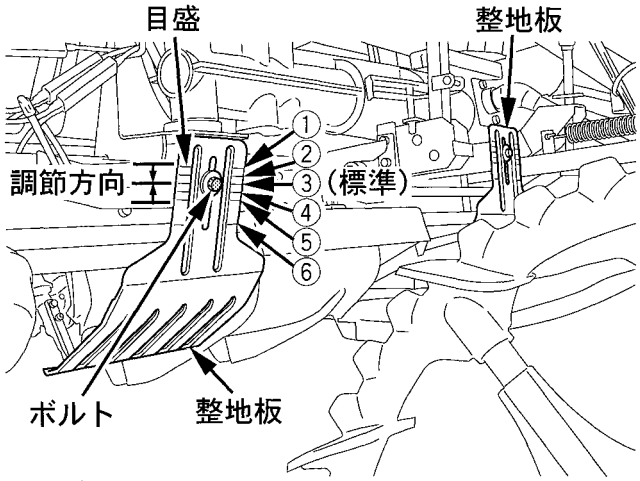
(2) フラットローラ切替えレバーを**“軟”**位置にしたときは，整地板を⑥の位置に変更してください。

【6・8】【右側】



【6・8】【右側】

【10・10-8】【右側】



【10・10-8】【右側】

1. ボルトをゆるめます。
2. 目安の表を参照して，上又は下に調節します。

補　足

＊各目盛の中心とボルトが合うようにしてください。

3. ボルトを締付けます。
4. 同じ要領で他の整地板も同じ高さに調節します。

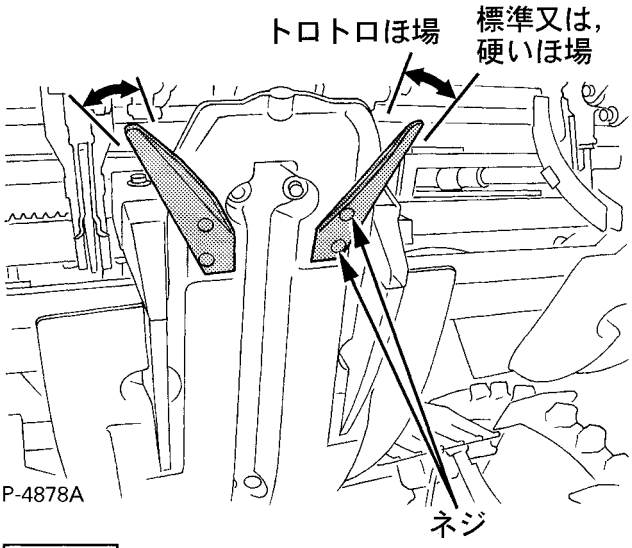
補　足

＊左，右で高さが異なると整地が正しく行なえないことがあります。

7. ふく土板の調節【F仕様】

各フロート下面にあるふく土板をほ場状態に合わせて調節を行なってください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. トロトロとしたほ場で隣接の苗を倒すときは，ネジをゆるめて内側にせまくします。また，標準又は，硬いほ場は外側に広げます。



補　足

＊調節は全箇所共同じ角度になるようにしてください。

4. ネジを締付けます。

作業に合わせた各部の調節・調整

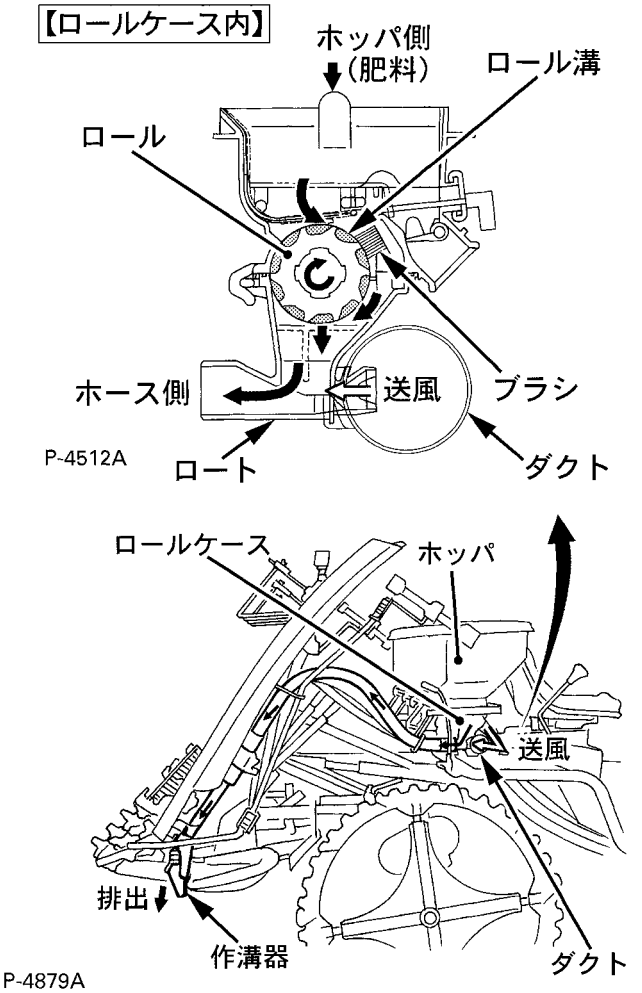
8. 施肥量の調節【F仕様】

使用する肥料により施肥（繰出し）量が異なることがありますので，肥料を入れる前によく確認してから調節を行なってください。

◆肥料の流れ

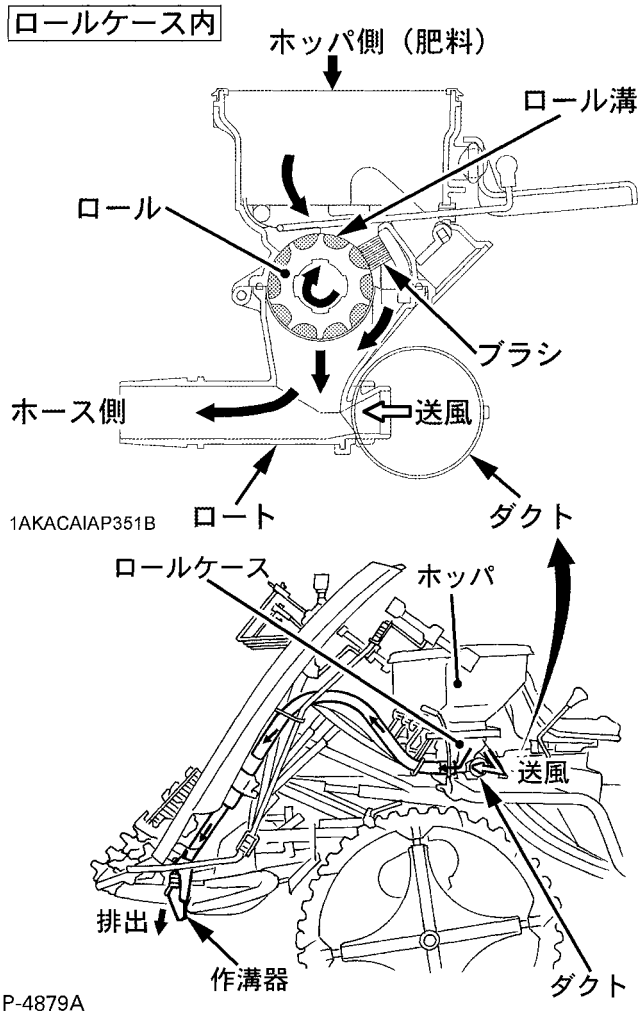
1. ホッパ内の肥料がロールケース内に入ってきます。
2. ロールケース内のロールの溝に肥料が入ります。
3. ロールが回転し，肥料が落ちます。
4. ブロワからの送風により，ロートからホースを通り作溝器から排出されます。

【6・8・10】



【6・8・10】

【SP仕様】

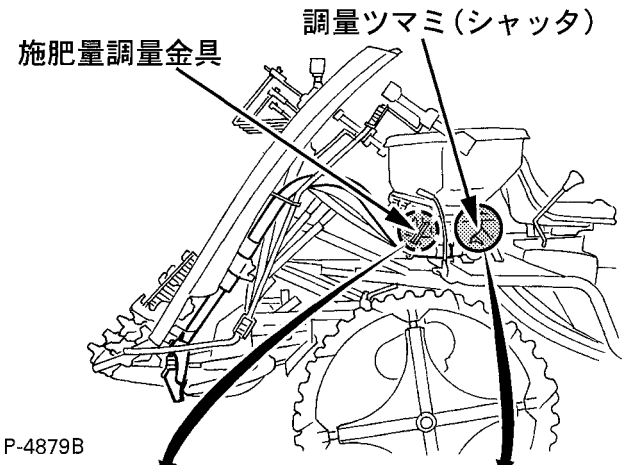


【SP仕様】

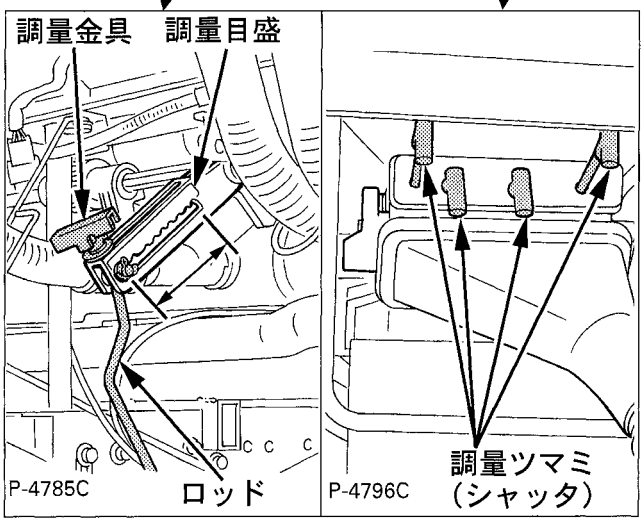
◆調節のしかた

本機で調節できる施肥量（肥料の繰出し量）は，10～80kg/10aです。目標とする施肥量に調節するには，**調量ツマミの調節で２段階**（範囲：20～50kg/10a〔標準〕・50～80kg/10a〔多い〕）と**調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の組替え**（範囲：10～20kg/10a〔少ない〕）でいずれかの範囲内に調節し，繰出しテストを行なったあと，施肥量調量金具の調節を行なってください。

【6・8・10】



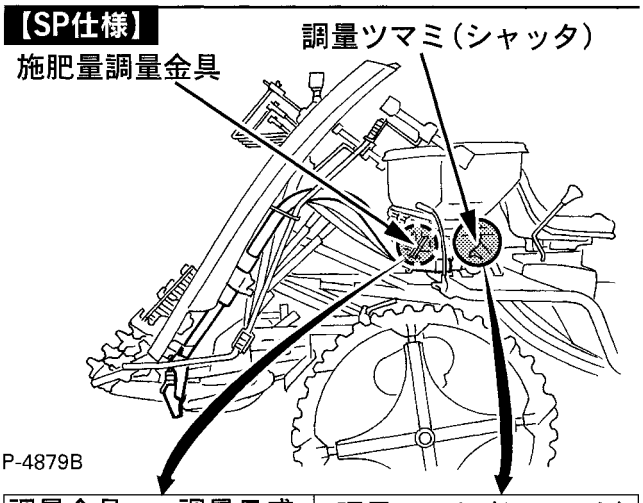
P-4879B



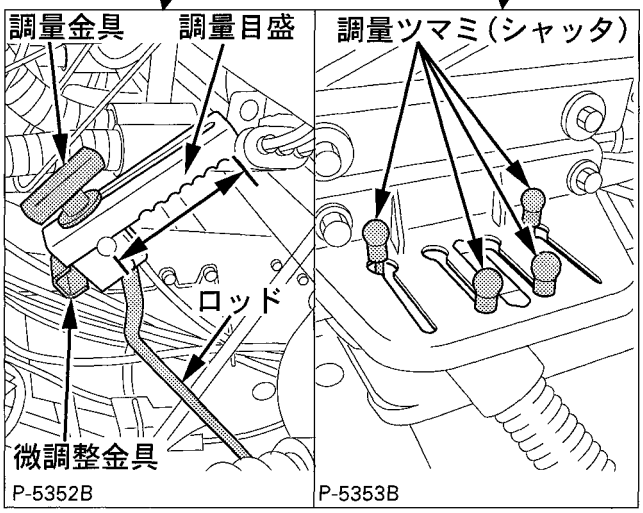
P-4785C　P-4796C

【6・8・10】

【SP仕様】



P-4879B



P-5352B　P-5353B

【SP仕様】

1. 平坦な場所に機械を止めてエンジンを停止します。
2. 施肥量（10ａ当りに播く量）を決めます。

補　足

＊**【例】春風肥料S273の場合**
チッソ成分12%（成分12-17-13）のとき，チッソ成分で3.0kg/10a施肥すると計算では，3.0(kg/10a)÷12(%)×100＝25(kg/10a)となり，施肥量（製品重さ）は10a当り25kgとなります。

3. 調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッドの組替えで目標とする施肥量の範囲に調節します。

補　足

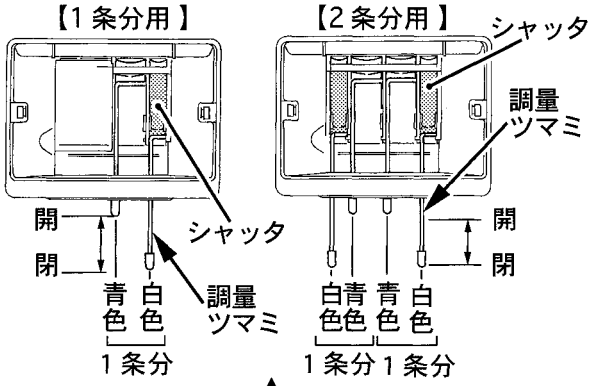
＊出荷時の調量ツマミと肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置は，一般的に多く使用される範囲の20～50kg/10aです。また，調量ツマミの調節は，施肥量が50～80kg/10aのとき又は，１条分の繰出しを停止するときに行なってください。

作業に合わせた各部の調節・調整

●調量ツマミ

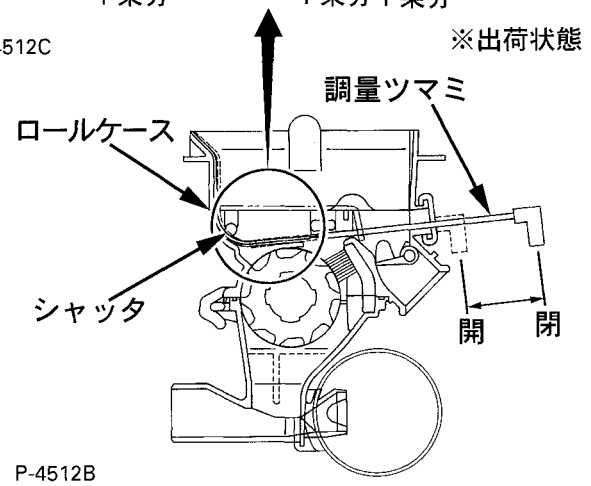
調量ツマミの調節は，ツマミを押し引きすることによりロールケースのシャッタが開閉し，繰出し範囲が決まります。シャッタは調量ツマミを押している状態が**“開”**，引いている状態が**“閉”**です。

【6・8・10】



P-4512C

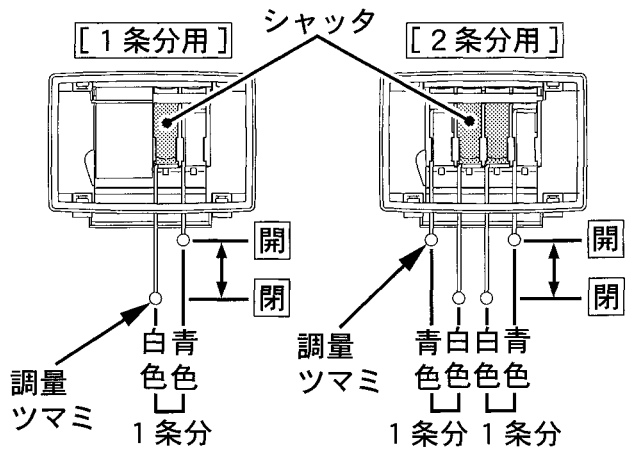
※出荷状態



P-4512B

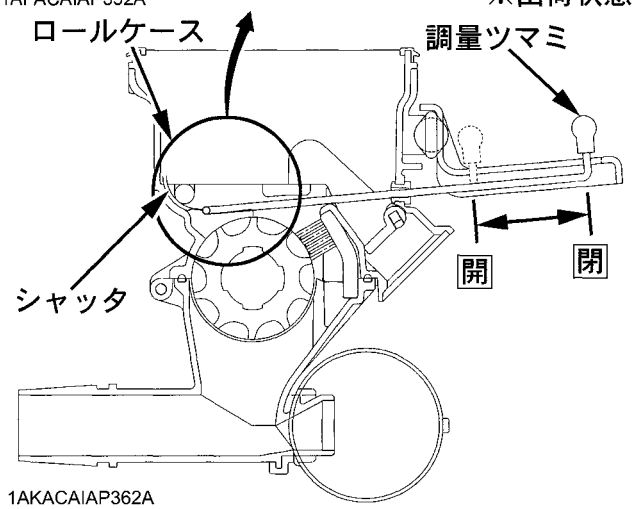
【6・8・10】

【SP仕様】



1APACAIAP352A

※出荷状態

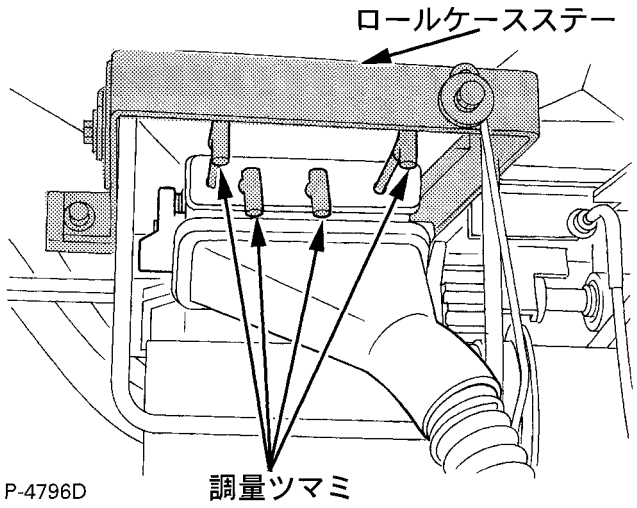


1AKACAIAP362A

【SP仕様】

補　足

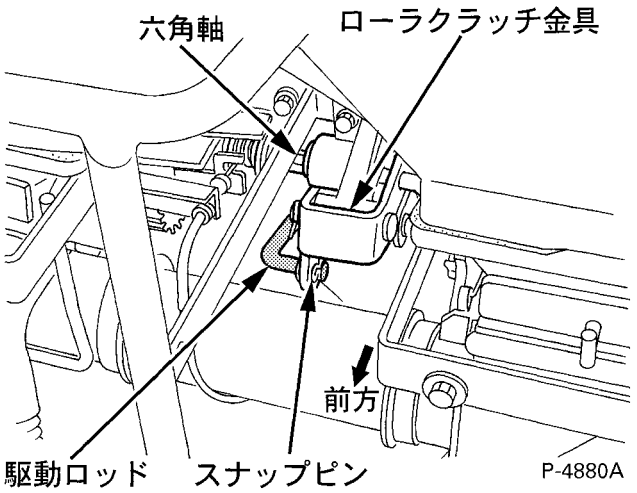
＊調量ツマミは必ずいっぱいまで押し引きしてください。設定した施肥量が出なくなる場合があります。
＊ホッパ内に肥料があるときにツマミを押し引きするとホッパ内が空のときよりも重くなります。
＊調量ツマミは真すぐ押引きしてください。
＊調量ツマミはロールケースステーより外側に引き出さないでください。調量ツマミが押し戻せなくなり，施肥量の調整ができなくなります。
（SP仕様除く）



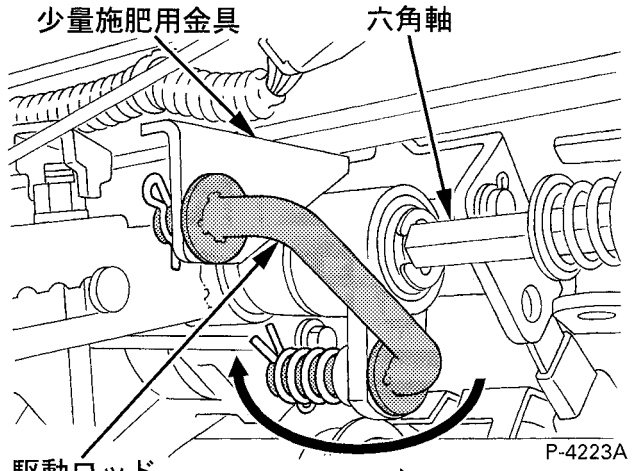
●肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の変更
（10～20kg/10a範囲のみ）

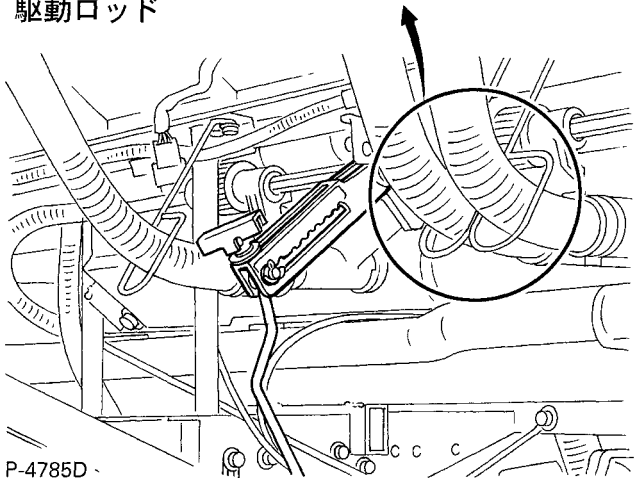
少量施肥（10～20kg/10aの範囲内）のときは，肥料を繰出すときに六角軸を回転させる駆動ロッドの取付位置の変更を行なってください。

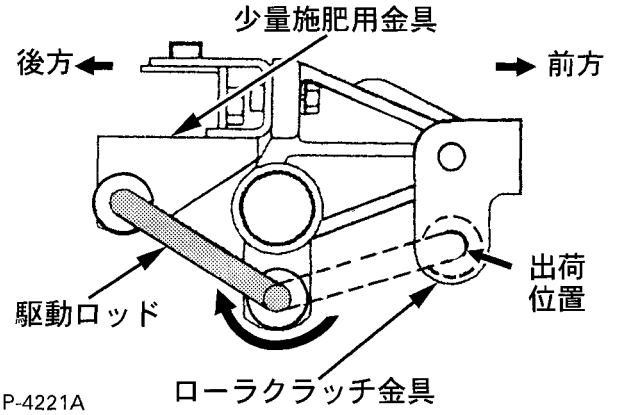
(1) ローラクラッチ金具に取付けている駆動ロッドのスナップピンを取外し，駆動ロッドをローラクラッチ金具から外します。



(2) 取外した駆動ロッドを後方に動かして，少量施肥用の金具に取付けたあと，駆動ロッドにスナップピンを取付けます。





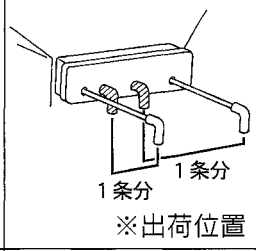
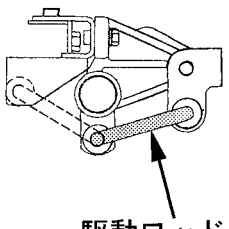
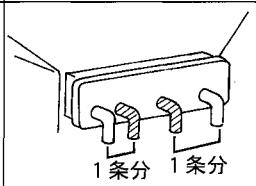
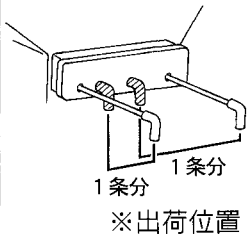
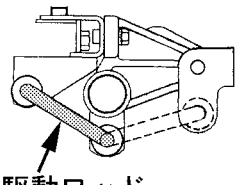
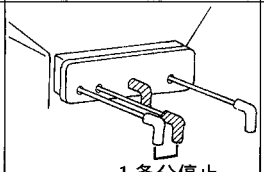


作業に合わせた各部の調節・調整

補　足

＊調量ツマミと駆動ロッドの位置は，下表を参照してください。例えば施肥量が25kg/10aのときは，20～50kg/10a，60kg/10aのときは，50～80kg/10a，15kg/10aのときは，10～20kg/10aに調節してください。

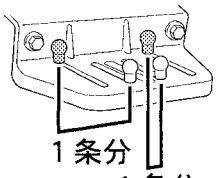
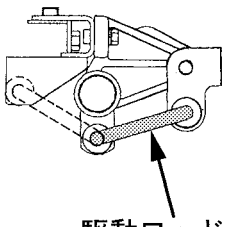
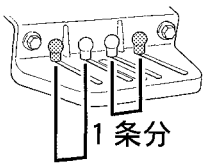
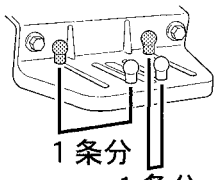
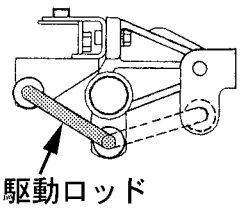
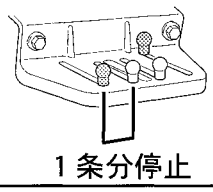
【6・8・10】

範囲 (kg/10a)	調量ツマミ位置	駆動ロッド位置
20～50		
50～80	 ※出荷位置	
10～20		
0（停止）		—

P-4513A　　P-4221B

【6・8・10】

【SP仕様】

範囲 (kg/10a)	調量ツマミ位置	駆動ロッド位置
20～50		
50～80		※出荷位置
10～20		
0（停止）		—

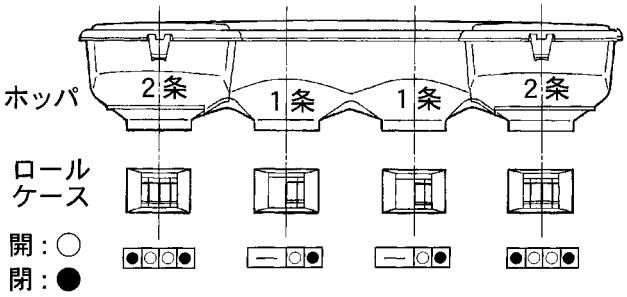
P-4221B

【SP仕様】

作業に合わせた各部の調節・調整

＊全条とも同じ位置に設定してください。
【例】20～50kg/10aのとき（出荷状態）

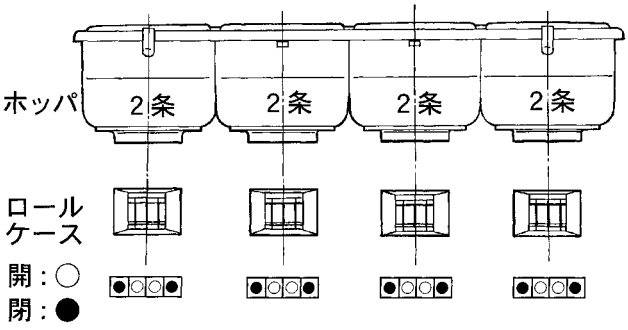
【6】



P-4514改 B

【6】

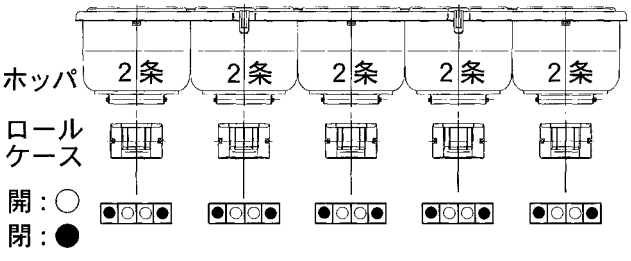
【8】



P-4515改 A

【8】

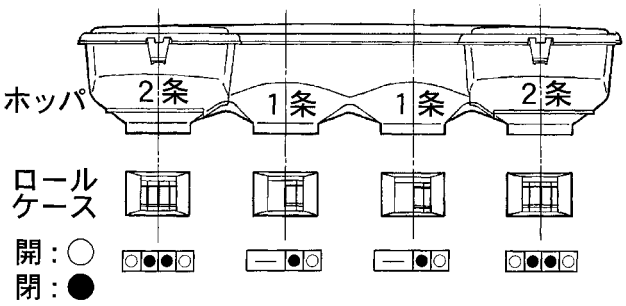
【10】



P-5180A

【10】

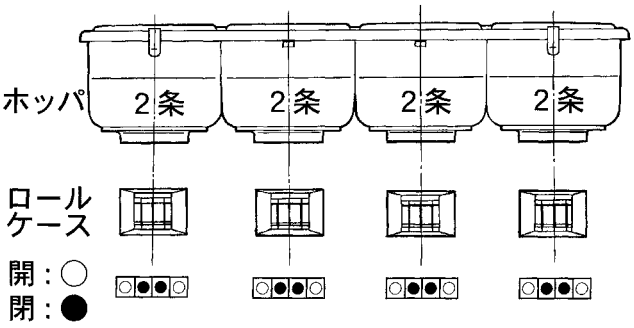
【6-SP】



1AKACAIAP156A

【6-SP】

【8-SP】



1AKACAIAP157A

【8-SP】

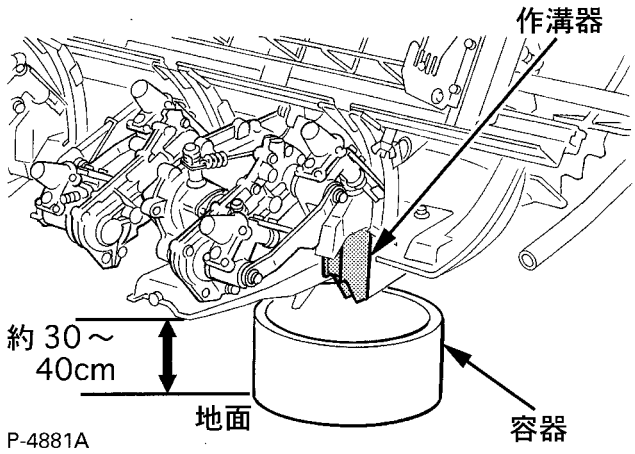
4. 繰出しテストを行ないます。
(1) 肥料を全条のホッパに入れます。
(2) エンジンを始動し，植付部を上昇させます。
(3) 十字ポンパレバーを**下側**に操作し，**下１段目**位置で保持しながら，植付部を地面から約30～40cmの位置まで降ろします。

補　足

＊**下１段目**位置より下側にポンパレバーを下げると，ピッと音が鳴ると同時に，植付部が最下降しますので注意してください。

(4) 油圧ロックレバーを**“閉”**位置にします。
(5) エンジンを停止します。
(6) 肥料を受ける容器の重量を測ったあと，作溝器の下側に全条分置きます。

作業に合わせた各部の調節・調整



P-4881A

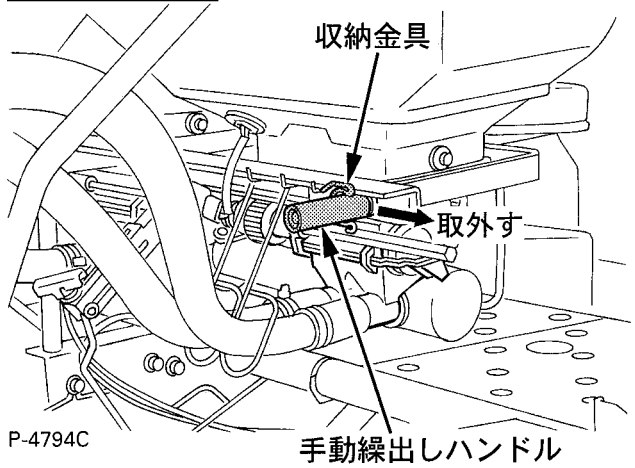
(7) エンジンを始動します。

補 足

＊ブロワが回転していることを確認してください。また，ホースやダクトが正しく組付けられているか確認してください。

(8) 手動繰出し用のハンドルを収納金具から取外します。

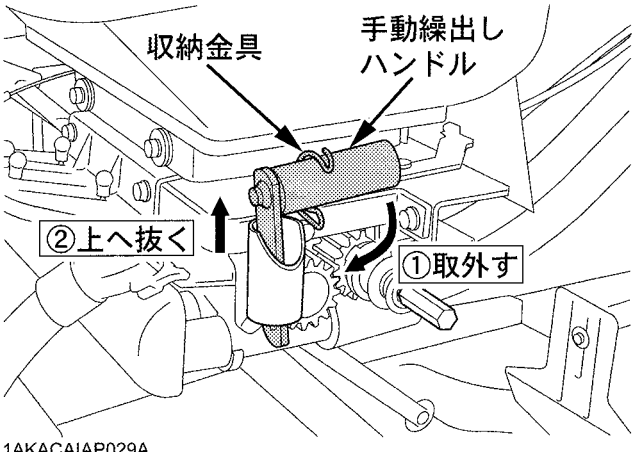
【6・8・10】



P-4794C

【6・8・10】

【SP仕様】



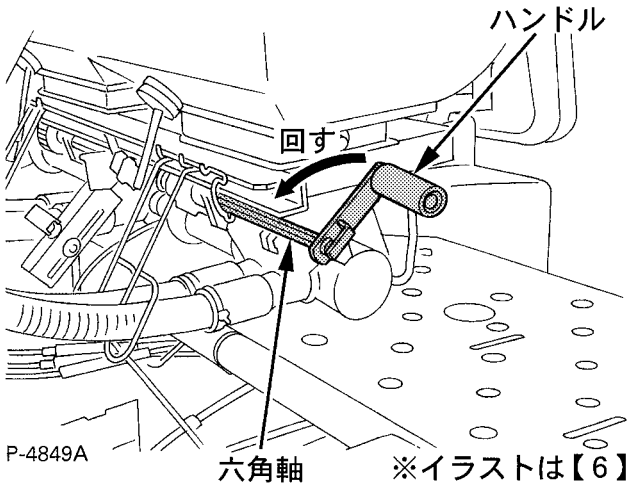
1AKACAIAP029A

【SP仕様】

(9) 繰出し用の六角軸にハンドルの六角穴を合わせます。

【6・8・10】

(10)ハンドルを左回転方向（矢印方向）に10回回転させて，容器に肥料を繰出します。このとき，目安として８～10秒間でハンドルを10回転させます。



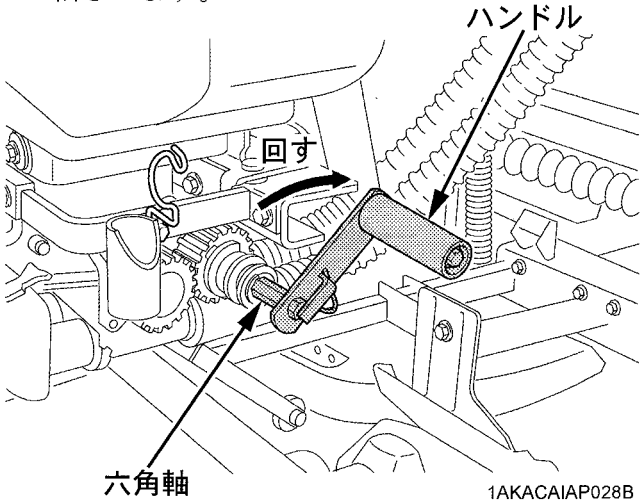
P-4849A

※イラストは【6】

【6・8・10】

【SP仕様】

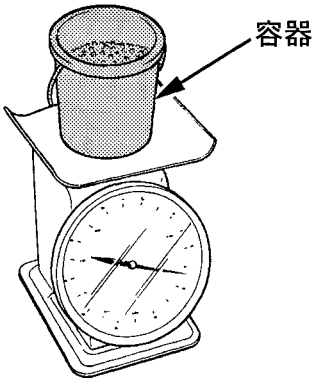
(10)ハンドルを右回転方向（矢印方向）に10回回転させて，容器に肥料を繰出します。このとき，目安として８～10秒間でハンドルを10回転させます。



1AKACAIAP028B

【SP仕様】

(11)重量を測定し，測定した重量から容器の重量を差引くと，繰出した肥料の重量となります。



P-3657A

(12)実際に測った繰出し量と調量ツマミの位置の標準値と比較します。

●10回転繰出し量の標準値

調量ツマミの設定位置	標　準　値
20～50kg/10a（標準）	100g/10回転
10～20kg/10a（少ない）	100g/10回転
50～80kg/10a（多い）	200g/10回転

補　足

＊使用する肥料により標準値と実際の繰出し量に極端に差があるときは，調量金具で調節してください。

＊調量ツマミの設定位置により10回転後の繰出し量は異なります。

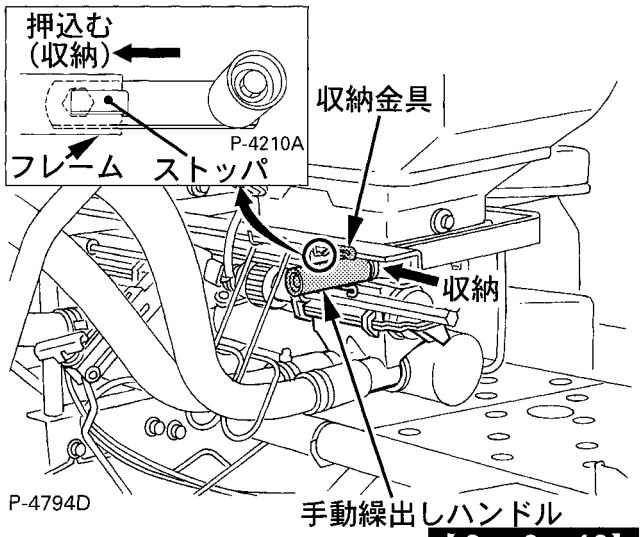
●調量ツマミの設定位置が20～50kg/10aの場合

標準値	実測値	施肥量調量金具で調節
100g	90g (1割少ない)	調量目盛を１目盛分多くする。
	110g (１割多い)	調量目盛を１目盛分少くする。

＊実際の施肥量は，ほ場条件などにより車輪のスリップで変化することがありますので，施肥作業を実際行ない再調整してください。

【6・8・10】

(13)収納金具にハンドルの取っ手をフレーム側に押込みながら，ハンドルとストッパの間をフレームに合わせて押込んで収納します。

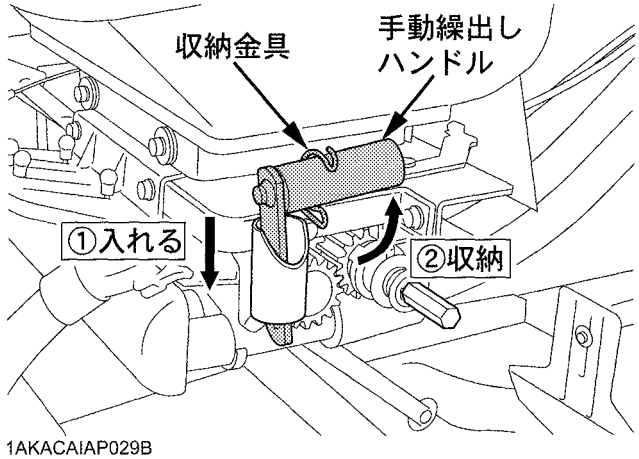


P-4794D

【6・8・10】

【SP仕様】

(13)収納パイプにハンドル先端を入れ，ハンドルのグリップ部をロック金具に押込んで収納します。



1AKACAIAP029B

【SP仕様】

重　要

＊ハンドルが六角軸に取付けられた状態で機械を動かすと，ハンドルが回転して破損の原因になります。

補　足

＊ハンドルは失くさないでください。

作業に合わせた各部の調節・調整

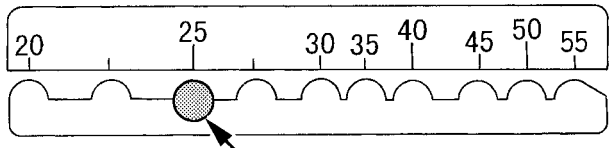
5. 調量金具を調節して施肥量を設定します。

【例】施肥量25kg/10aの場合

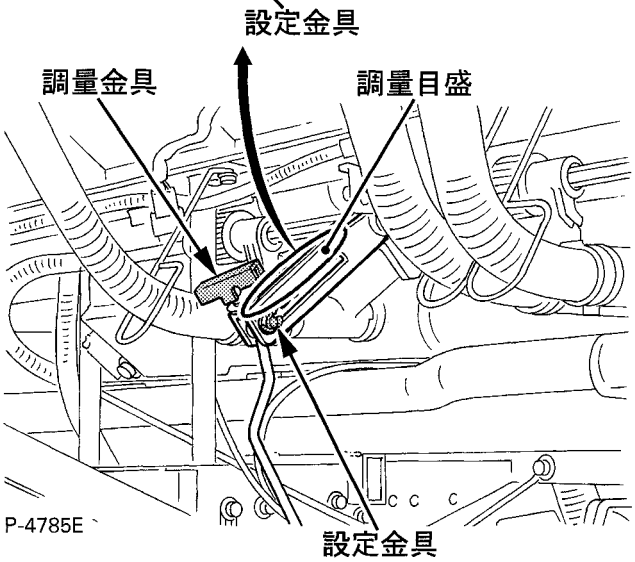
(1) 調量金具をゆるめます。

(2) 調量目盛の **“25”** のところに設定金具を合わせます。

(3) 調量金具を締付けます。



P-4087A 改

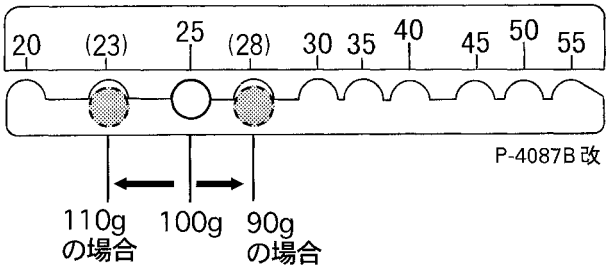


P-4785E

補　足

＊出荷時は，**“20”** 位置です。

＊4.の(12)の工程で，肥料条件により実測値が標準値の100gに対し，1割少ない（90g）ときは，**“25”** の位置から1目盛分多く（**“28”**）し，逆に1割多い（110g）ときは，1目盛分少なく（**“23”**）してください。



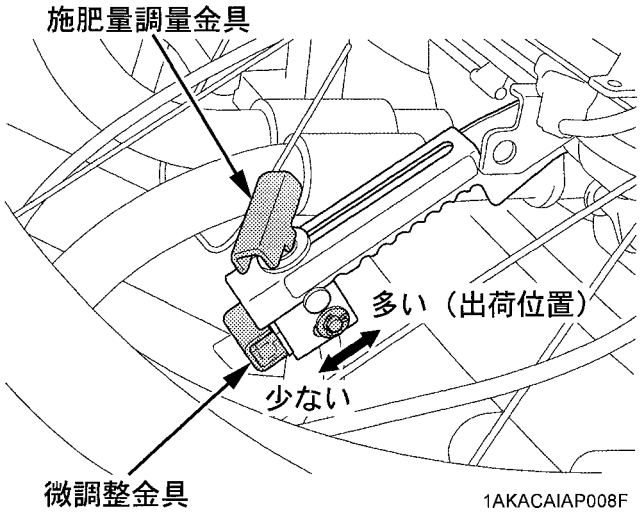
P-4087B 改

＊施肥量が変化するおそれがあるので調量金具をしっかりと締付けてください。

【SP仕様】

● 微調整の方法

＊施肥量を目盛より少なくしたいときは，微調整金具で調整してください。



1AKACAIAP008F

(1) 施肥量調量金具を緩めます。

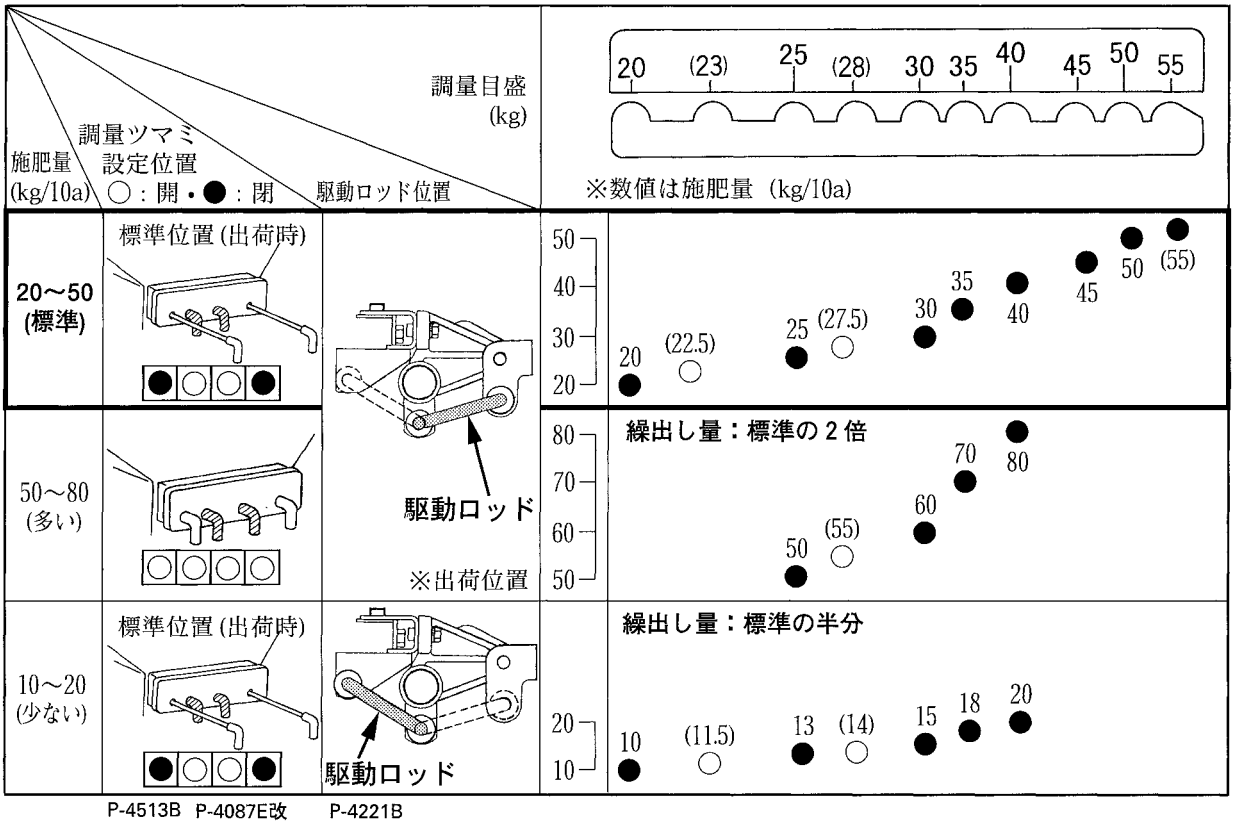
(2) 微調整金具を回し，少ない方へピンの位置をずらしてください。

補　足

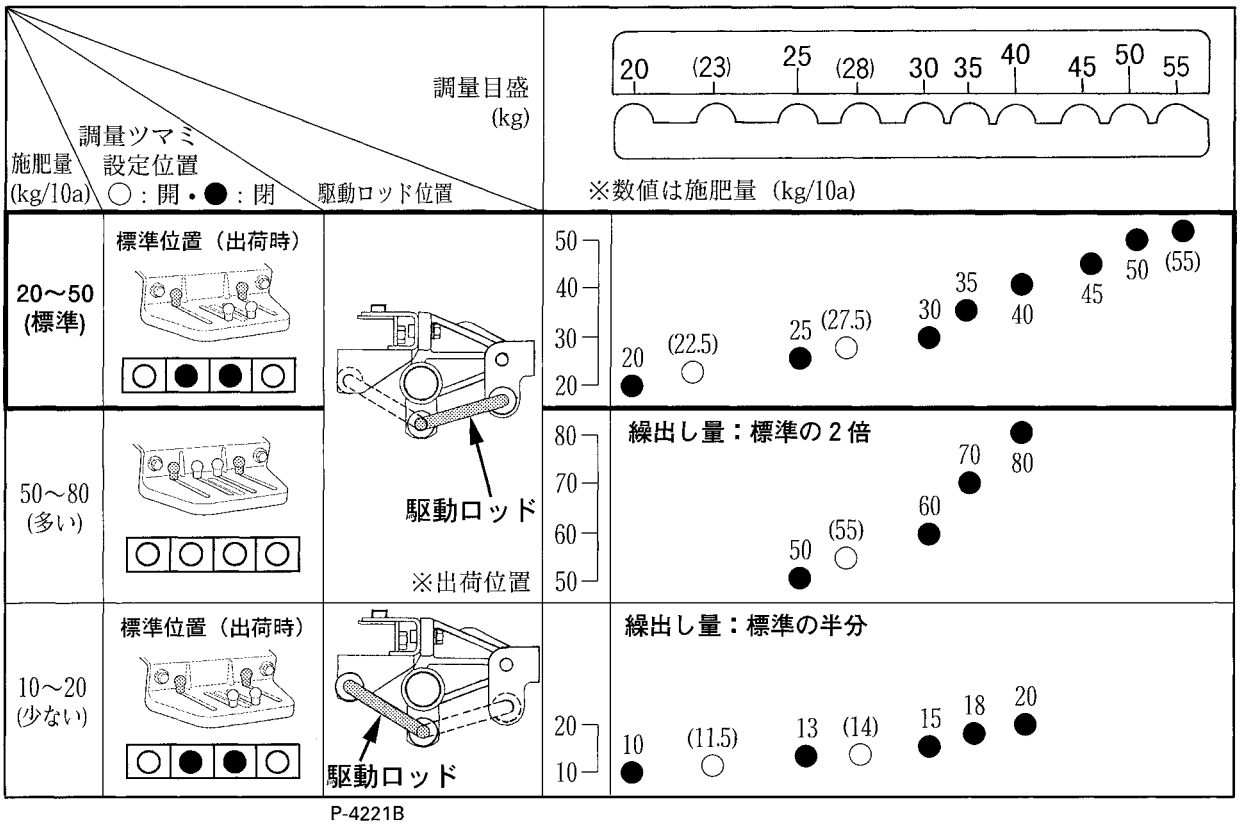
＊設定金具の位置，施肥量範囲によって減り量が異なります。

【SP仕様】

◆繰出し量目安一覧表

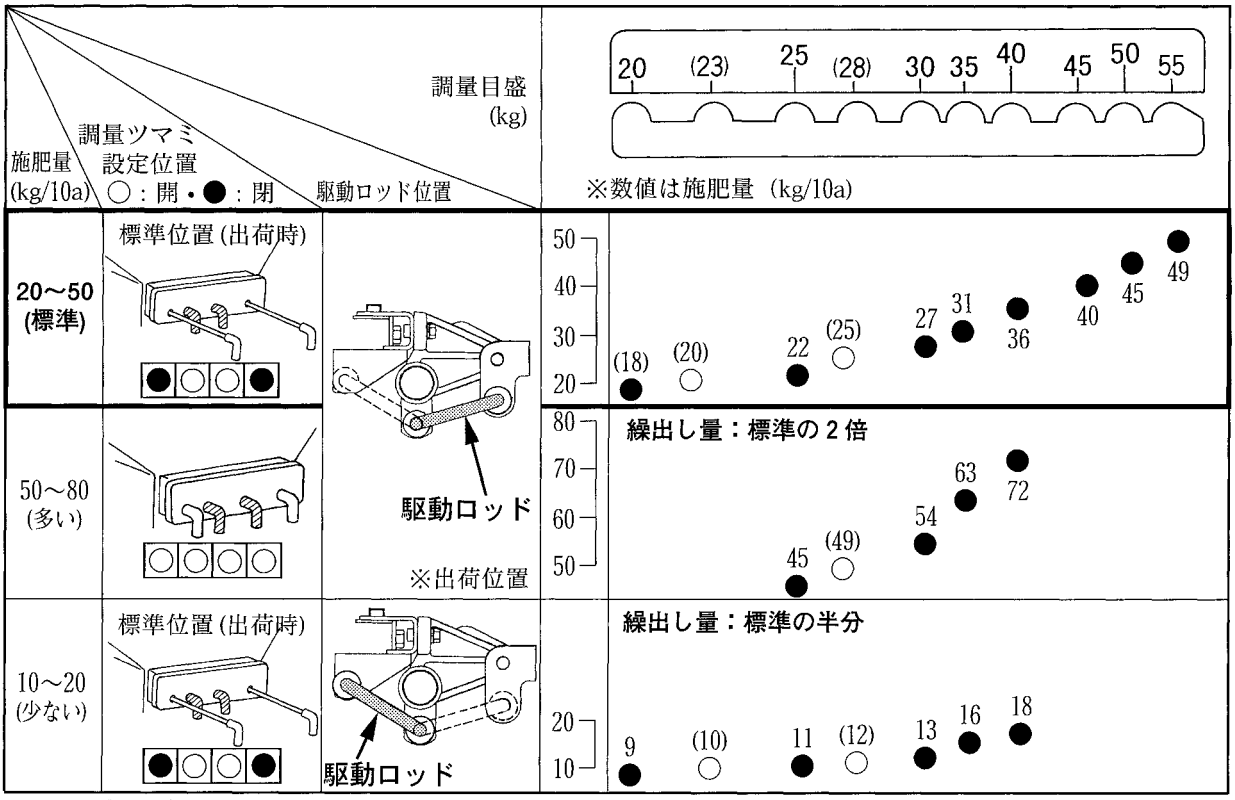


【SP仕様】



作業に合わせた各部の調節・調整

【C仕様】



補　足

＊肥料の種類により繰出し量が異なる場合がありますので，実際に繰出しテスト又は，施肥作業を行なって，目標とする施肥量に調節してください。

メインパネルによる異常と処置

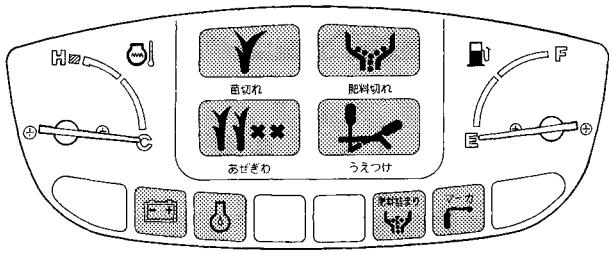
警 告

＊エンジン回りの点検や処置を行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

注 意

＊エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。
＊苗や肥料【F仕様】を補給するときは，走行を停止して行なってください。

ブザーが鳴り，パネル内のランプが点灯又は，点滅したときや計器が異常を示したときは，下表の処置を行なってください。



P-3978B

ランプ・計器	警報 ランプ表示	警報 ブザー	現象	処置	参照ページ
充電ランプ(バッテリ)	点滅	—	●エンジンがアイドリング状態で約10分後に点滅します。	●エンジン回転数を上げてください。	—
	点灯	—	●バッテリに充電されていません。	●オルタネータ駆動ベルト ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整	 158 158
			●そのまま作業を続けると… バッテリ上がりとなり，エンジンの始動ができなくなります。	●購入先へ連絡してください。	—
油圧ランプ(オイル)	点灯	—	●エンジンのオイル圧力が不足しています。	●エンジンを停止後，オイル量の点検と処置をします。	148
			●そのまま作業を続けると… エンジンが動かなくなります。	●エンジンが焼付きを起こしていますので，購入先へ連絡してください。	—
水温計	—	—	指針が上昇し“H”のときは ●水温が上昇しています。 ●そのまま作業を続けると… オーバヒートします。	●エンジンを停止後，30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量 不足……リザーブタンクに清水を補給 水もれ……ラジエータ排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め ②ラジエータフィン 汚れ・詰まり……掃除して取除く	 151 151,156 153
植付クラッチモニタ	点滅	—	●植付クラッチが入っていません。	●十字ポンパレバーを下側に2回操作（ピッピッと連続音が鳴る）します。	21

メインパネルによる異常と処置

ランプ	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示	ブザー			
マーカモニタ	点滅	—	●マーカが出ていません。	●十字ポンパレバーを操作して，マーカを出します。	21
あぜぎわモニタ	点滅	断続(8回)	●あぜぎわクラッチが切れています。	●あぜぎわワンレバーを**“全条入”**位置にします。	24
苗切れモニタ	点滅	断続(8回)	●苗が残り少なくなっています。	●苗を補給します。	89
肥料切れモニタ **【F仕様】**	点滅	断続(8回)	●肥料が残り少なくなっています。	●肥料を補給します。	87
肥料詰まりモニタ **【F仕様】**	点滅	断続(8回)	●肥料が詰まっています。	●作溝器内を確認してセンサに付着している異物を取除きます。また，異物がないときは，コントローラ（感度調整用）を調整します。	98,135

重 要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

補 足

＊警報ブザーは警報停止スイッチを押すと停止します。ただし，苗切れ警報は，苗を補給しないと警報ブザーは停止しません。また，警報ランプは，異常を処置すると消灯します。

＊警報ブザーは断続で８回鳴りますが，警報ブザーが鳴っている最中に他にも異常が発生したときは，そのときから断続で８回ブザーが鳴ります。

＊警報ブザーが鳴り終わったあと，警報モニタのランプが**点滅中**に主変速レバーを**“後進”**位置にすると，バックブザーが鳴ります。そのあと，主変速レバーを**“N”（中立）**位置にすると警報（異常）確認のため，警報ブザーが再度８回鳴ります。

コントローラ(自己診断)による異常と処置

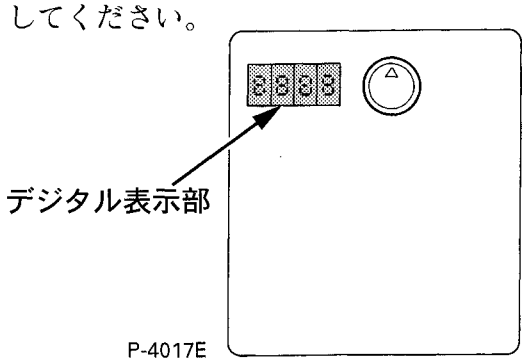
警 告

＊点検や処置を行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

注 意

＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

コントローラは，機体に異常が発生したときに，故障を未然に防ぐためマイコンが判断して自動装置の働きを制御します。自動装置が停止しても作業は行なえますが，作業終了後は，購入先に下記表示内容を連絡して処置してください。
コントローラによる異常に気づかないことがありますので，作業前，後に運転席下部のゴムキャップを外してコントローラのデジタル表示部を確認してください。



デジタル	異常内容	異常箇所	処置
E001	植付部の自動制御がはたらかない。（モンローがはたらかない）	ローリングセンサ又は，配線	購入先に連絡してください。
E002	泥押し又は，植付姿勢の悪い状態が続く。（フィットセンサがはたらかない）	フロートセンサ又は，配線	購入先に連絡してください。
E012	十字ポンパレバーを操作しても植付部が上昇又は，下降しない。	ポンパ上昇，下降スイッチ又は配線	購入先に連絡してください。
E014 E015 E016	十字ポンパレバーでマーカを出そうとしても，マーカが出ない。 注) E014：マーカ右，E015：マーカ左，E016：マーカ左右	マーカスイッチ又は，配線	購入先に連絡してください。
E017	植付部の自動水平制御がはたらかない。（モンローがはたらかない）	モンロー右・左リミットスイッチ	購入先に連絡してください。
E020	モンロー調節ダイヤルを回しても植付部が傾かない。	モンロー角度調節ボリューム	モンロー調整ダイヤル水平セット状態で自動水平制御がはたらいています。植付状態に問題がなければ作業を継続してください。また，作業終了後に購入先に連絡してください。
E021	エンジン回転が低い。	エンジン不調又は，配線	植付状態に問題がなければ作業を継続してください。また，作業終了後に購入先に連絡してください。
E022	バッテリ電圧が下がっている。	バッテリ	充電してください。
E030	植付部が右側に傾かない。	モンロー右スイッチ又は，配線	購入先に連絡してください。
E031	植付部が左側に傾かない。	モンロー左スイッチ又は，配線	購入先に連絡してください。
E032	右マーカが出ない。	マーカ右スイッチ又は，配線	購入先に連絡してください。
E033	左マーカが出ない。	マーカ左スイッチ又は，配線	購入先に連絡してください。
E040	植付部が昇降しない。	配線又は，コントロールバルブ又は，コントローラ	購入先に連絡してください。
E041	植付部が昇降しない。		購入先に連絡してください。
E042	植付爪が回転しない。	配線又は，リレー又は，コントローラ	購入先に連絡してください。
E043	植付爪が回転しない。		購入先に連絡してください。
E044	充電警報ランプが光らない。	配線又は，メータパネル又は，コントローラ	購入先に連絡してください。
E045	充電警報ランプが光らない。	警報ランプ又は，断線又は，メータパネル又は，コントローラ	購入先に連絡してください。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警 告

＊平坦で安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

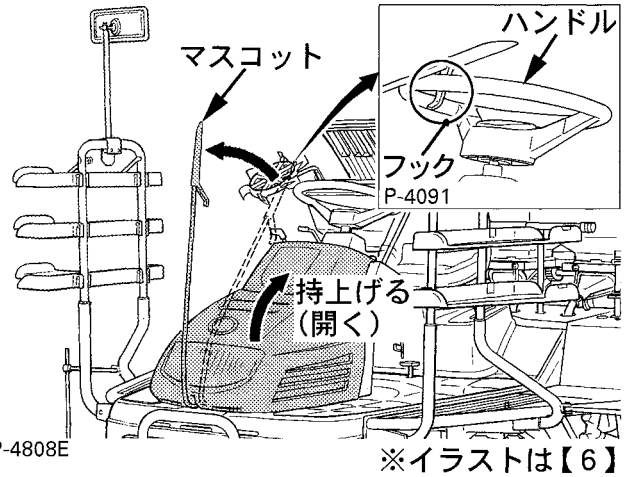
■ボンネットのオープン

注 意

＊オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1)作業を中止する。
(2)エンジンを約５分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3)エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
(4)点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊エンジンが冷えてないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆開きかた

マスコットを前方に倒したあと，持上げると開きます。また，ボンネットを開いた状態で固定するときは，ハンドルにマスコットのフックを引掛けてください。



※イラストは【6】

◆閉じかた

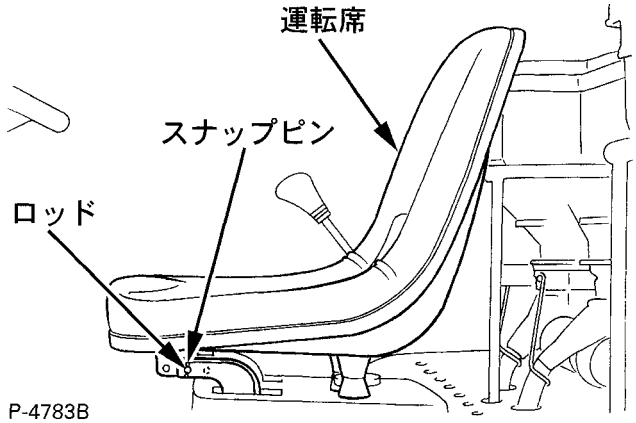
ハンドルからマスコットのフックを取外したあと，閉じます。閉じたときは，カチッと音がします。このとき，ボンネット後のフックをボンネットウシロに差込んでください。

■運転席下カバーの脱着

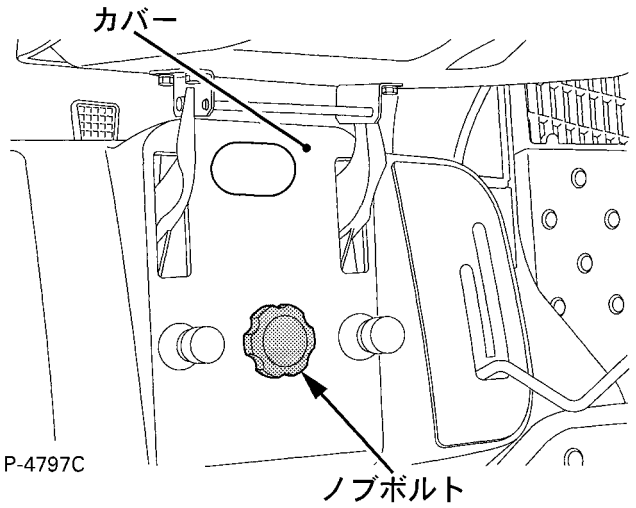
【6・6F・8・10】

◆取外しかた

1. スナップピンを取外し，ロッドを抜いたあと運転席（シート）を取外します。



2. ノブボルトを回して，副変速・油圧ロック・あぜぎわワン各レバーとカバーガイド部の引掛かりに注意しながら，カバーを外します。

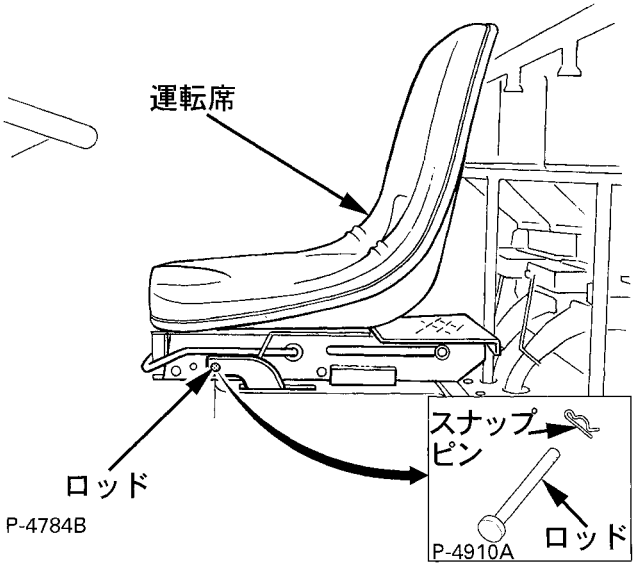


【6・6F・8・10】

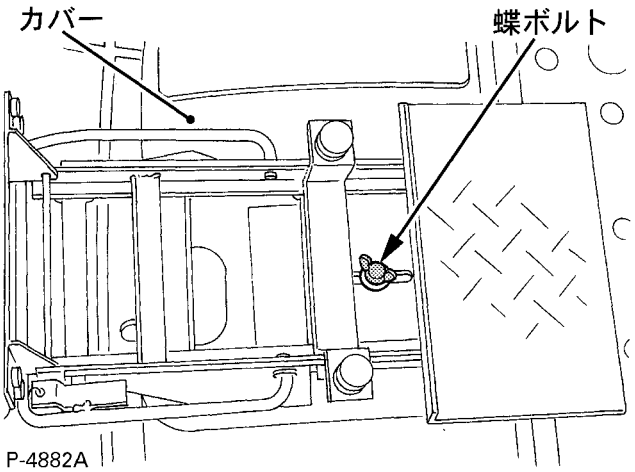
【8F・10F・10-8】

◆取外しかた

1. スナップピンを取外し，ロッドを抜いて取外します。



2. 蝶ボルトを取外し，副変速・油圧ロック・あぜぎわワン各レバーとカバーガイド部の引掛かりに注意しながら，カバーを外します。



【8F・10F・10-8】

◆取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

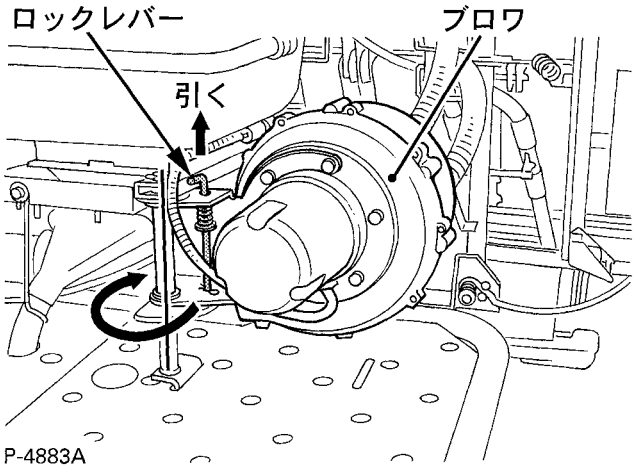
■ブロワの開閉【F仕様】

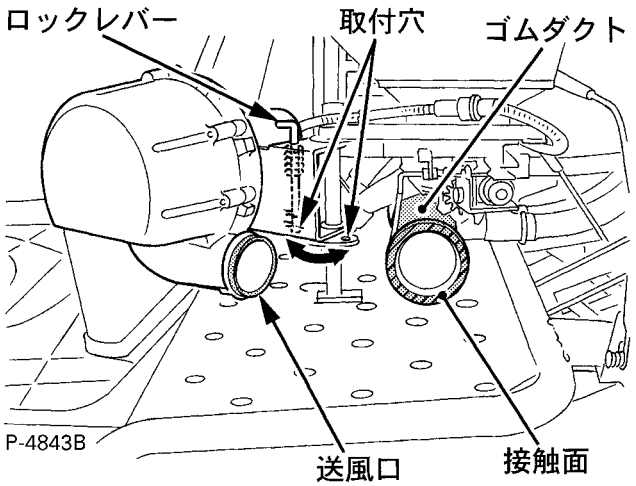
注　意

＊ブロワの開閉時は必ずエンジンを停止させて行なってください。

◆開きかた

ブロワ固定用のロックレバーを引きながら開きます。90度まで開いたあと，ロックレバーを取付穴に差込み固定します。





◆閉じかた

開きかたの逆の手順で閉じます。

補　足

＊ロックレバーを取付穴に確実に差込んでください。

＊ゴムダクトにブロワの送風口を確実に差込んでください。このとき，ゴムダクト側の接触面（**斜線部**）がめくれていないか確認してください。

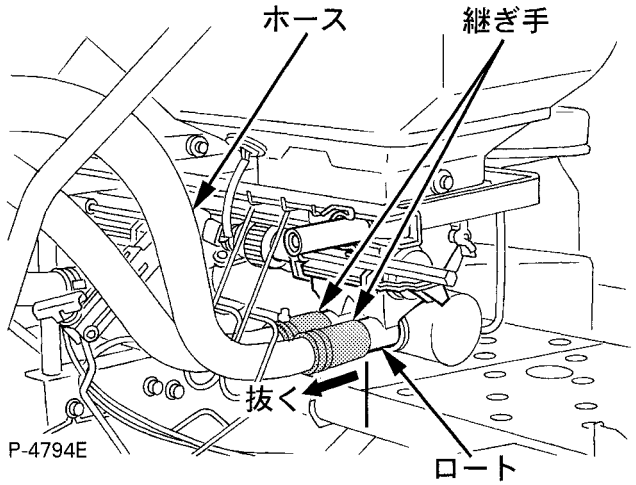
＊水で洗って掃除したあとは，ダクトやブロワ内をよく乾燥してください。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

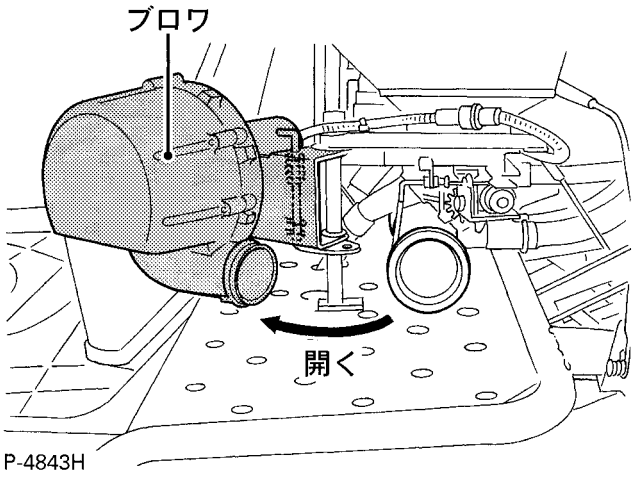
■ロールケース・ダクトの脱着【F仕様】

◆外しかた

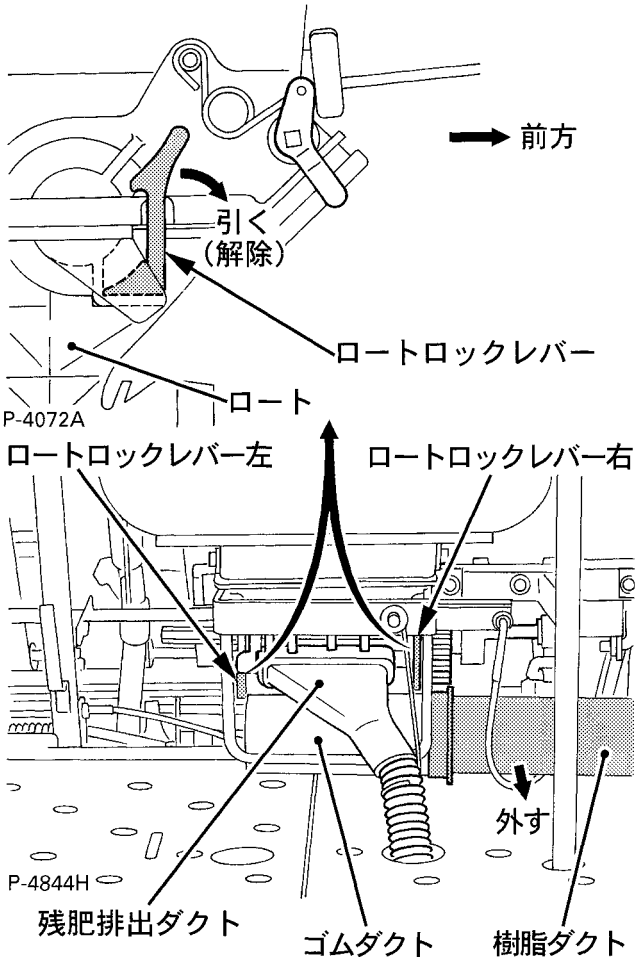
1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。
2. 後方のホースの継手（ロールケース側）をロートから抜取って外します。



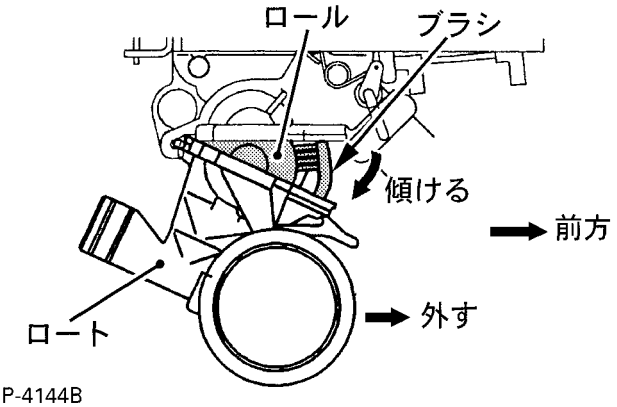
3. ブロワを開きます。



4. 樹脂ダクトをゴムダクトから外します。
5. 左，右２箇所のロートロックレバーを引き，ロックを解除します。



6. ロートを下図のように傾けて，手前（前方）に引出します。



重　要

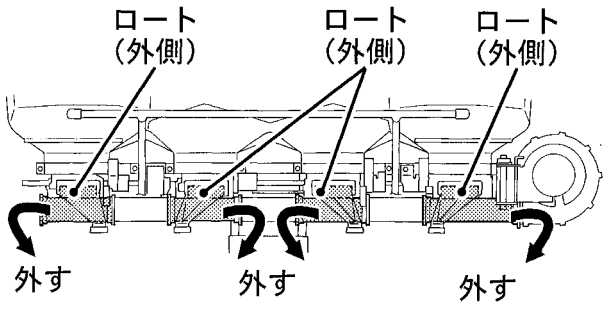
＊残肥排出ダクトが破損しますので，ロールケースから残肥排出ダクトを外さないでください。

補　足

＊ロートを外したとき，ロートの中にブラシ，ロールがあることを確認してください。

＊各ロートを取外すときは，下図のように外側のロートは外側より，内側のロートは内側より，それぞれ外してください。

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた



P-4200A

※イラストは【6条】

◆取付けかた

1. ロートにロールとブラシを取付けます。

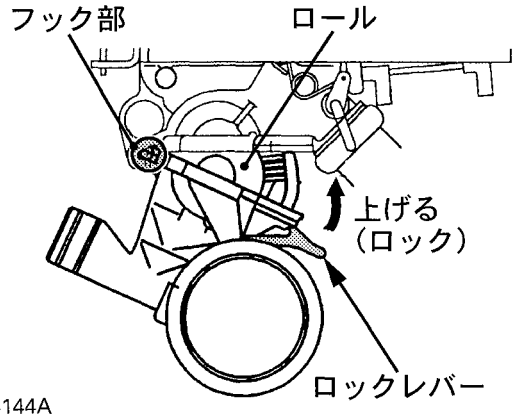
補　足

＊1条用と2条用のロールに注意してください。
（163ページ参照）

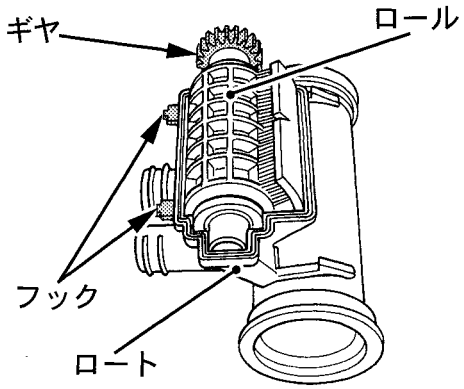
2. ロートをロールケースに取付けます。

(1) 下図のようにロートのフックをロールケースのフック部に引掛けます。

(2) ロートをロールケースに取付けたあと，左，右2箇所のロックレバーを上げてロックします。



P-4144A



P-4086D

補　足

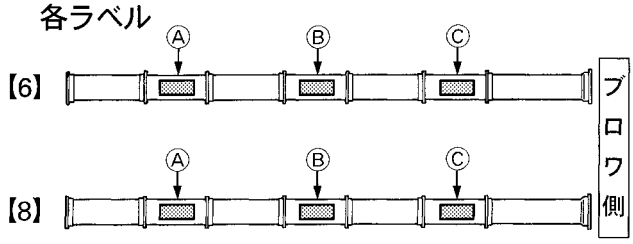
＊ギヤがかみ合わずロールケースがフックできないときは，ロールを少し動かしてギヤをかみ合わせてください。

＊各ロートを取付けるときは，それぞれ取外したところへ必ず取付けてください。

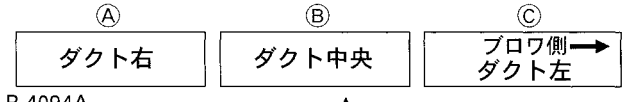
＊送風用のダクトは取付け位置や方向がありますので，各ダクト中央に貼っているラベルに合わせて組付けてください。

【6・8】

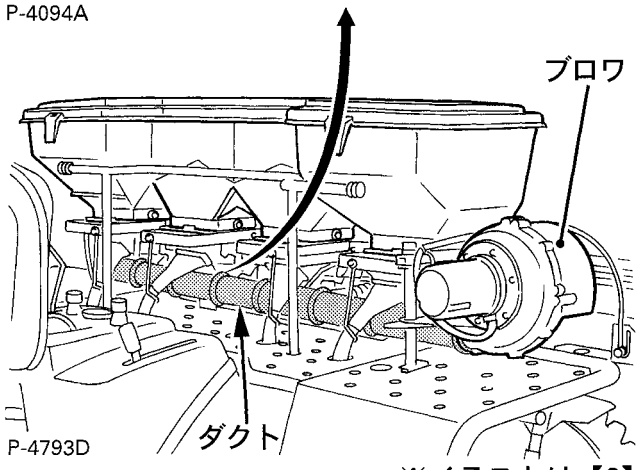
各ラベル



※ラベルの文字を逆にして取付けないこと。



P-4094A



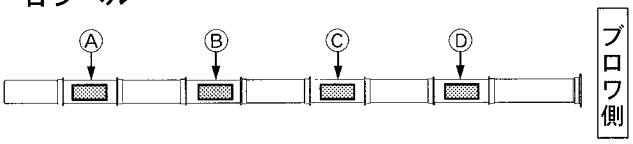
P-4793D

※イラストは【6】

【6・8】

【10】

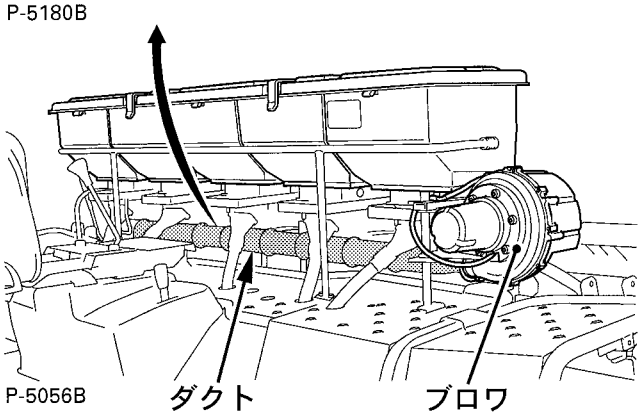
各ラベル



※ラベルの文字を逆にして取付けないこと。

Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ
ダクト右	ダクト右内	ダクト左内	ブロワ側➡ダクト左

P-5180B



P-5056B

【10】

＊ゴムダクトと樹脂ダクトの間にすき間のないように（エアもれしないように）組付けてください。詰まりの原因となります。

3. あぜぎわワンレバーを**“全条入”**位置にし，ブロワを閉じて作業状態にします。

■ロール・ブラシの取付け・取外し方法 【SP-F仕様】

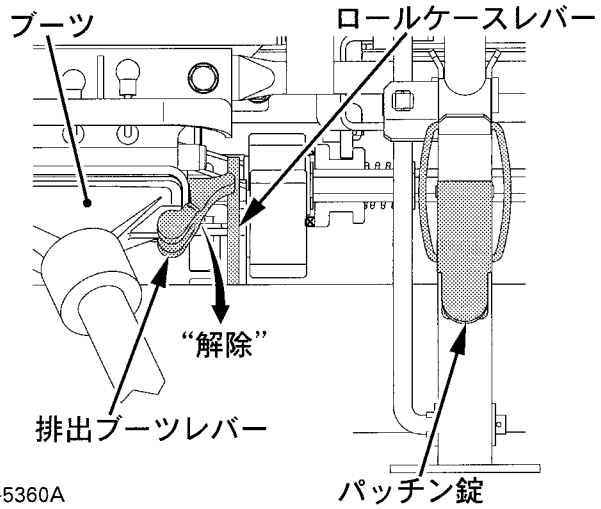
ロートやロールに肥料が固まり詰まったときや，植付作業終了後は，必ず清掃してください。

◆外しかた

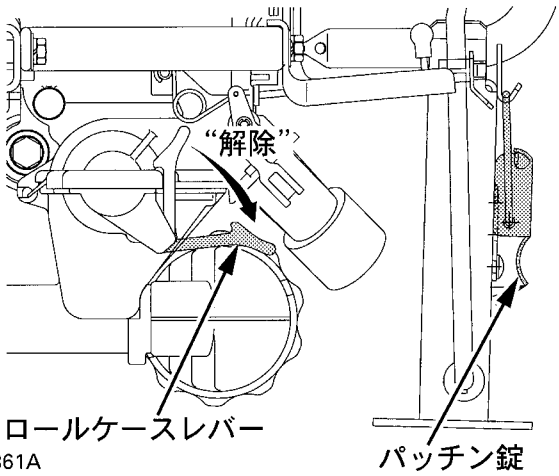
重　要

＊田植機を平坦な場所に置き，エンジンを停止させ，肥料をすべて排出してください。

1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。
2. 排出ブーツのレバー８箇所をロック解除し，ブーツ４箇を外します。
3. ロールケースのレバー８箇所とパッチン錠のロック２箇所を解除します。

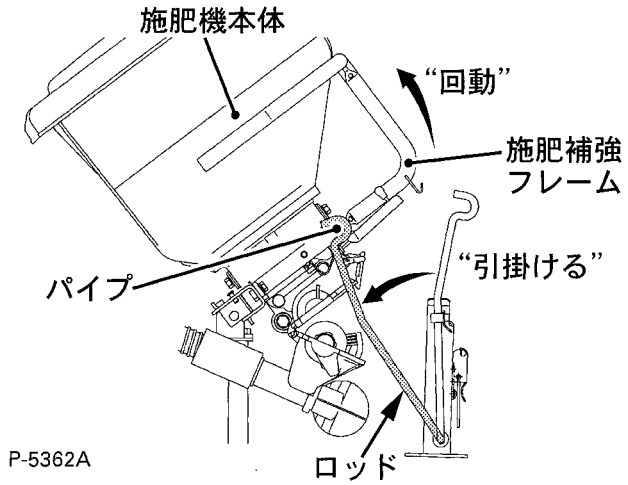


P-5360A



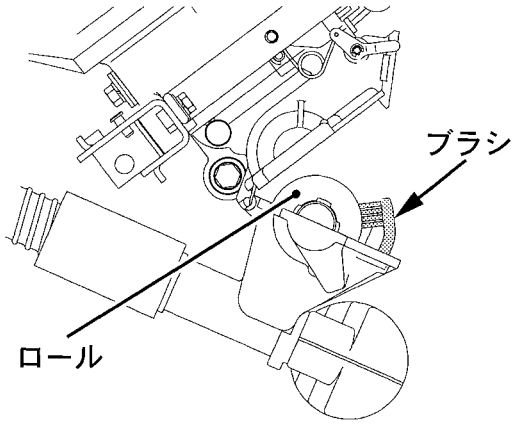
P-5361A

4. 施肥機本体を回動させ，施肥補強フレームのパイプにロッドを引掛け固定します。



P-5362A

5. ブラシを外してからロールを外します。



P-5363A

◆取付けかた

取外しの逆の手順で行なってください。

重　要

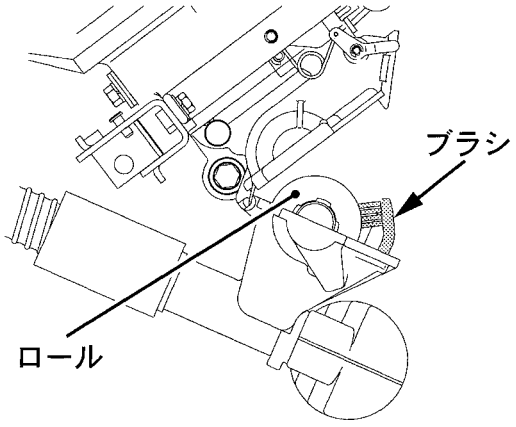
＊肥料詰まりの原因になりますので，以下の順序に従って行なってください。

1. ロートにロールとブラシを取付けます。

補　足

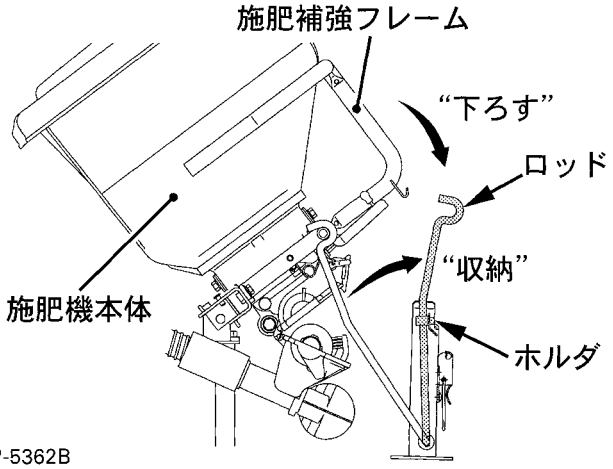
＊１条と２条用のロールに注意してください。（164ページ参照）

2. ロールを組付けてからブラシを組付けます。



P-5363A

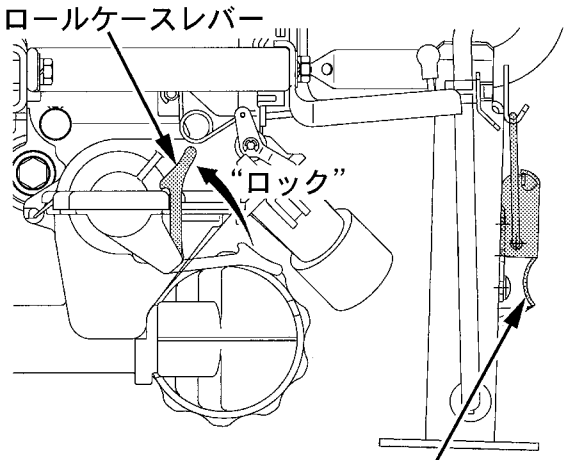
3. 施肥機本体を支え，ロッドをホルダに収納し確実にロックさせてから，施肥機本体をゆっくり下ろします。



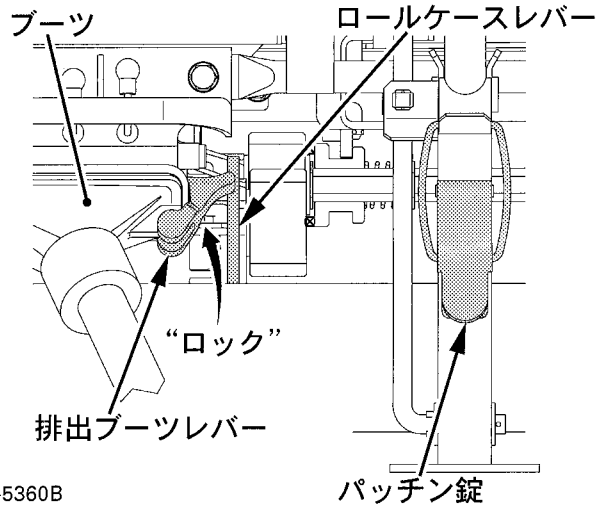
P-5362B

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

4. パッチン錠２箇所とロールケースのレバー８箇所をロックします。
5. 排出ブーツをはめ込みレバーでロックします。

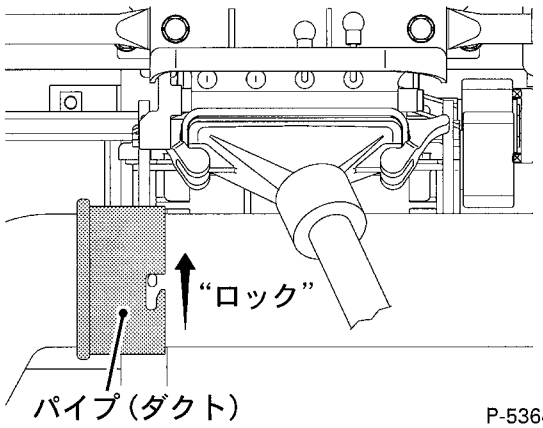


P-5361B



P-5360B

6. 分岐ダクト両側のパイプ（ダクト）がロックしているか確認してください。



P-5364A

7. 作業前に空気のモレがないか確認してください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警 告

＊エンジンを必ず止めてください。
＊取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

注 意

＊植付部を上げた状態で作業するときは，油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。
＊オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊植付爪の爪先には注意してください。

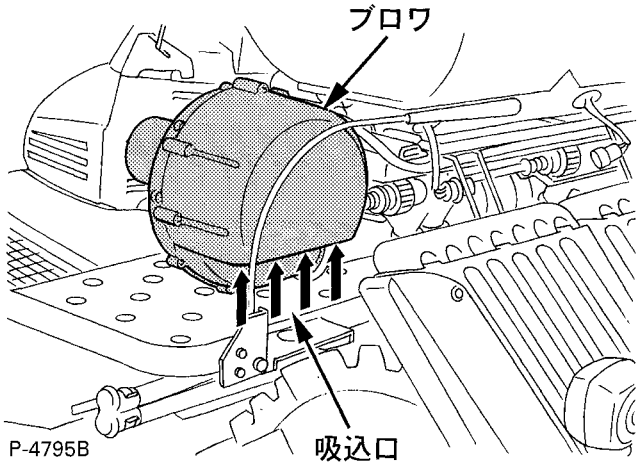
■掃除のしかた

一日の作業が終わったあとは，各部の泥やゴミ，施肥部の掃除【F仕様】を必ず行なってください。

重 要

＊水洗いをするとき下記事項に注意してください。
- ボンネット内部や運転席下部の電装品には水を掛けないでください。故障の原因となります。
- 【F仕様】のホッパは閉じて水を入れないでください。詰まりや施肥異常，ブロワの故障などの原因になります。
- 【F仕様】のブロワ下面の空気吸込み口に水を掛けないでください。また，詰まりや施肥異常の原因になりますのでブロワは必ず閉じた状態で行なってください。

・施肥部【F仕様】を高圧水で洗浄しないでください。ゴム部のすきまから水が入り詰まりの原因になります。



＊取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。
＊肥料にはさびを発生させる成分が含まれているため，1日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行なってください。特にエア抜き，ツールバー，植付けケース各周辺(135ページ参照)は必ず行なってください。

◆施肥部【F仕様】

1. ホッパ内，ロールケース内のロールやブラシ，ロートの肥料を取除き，湿っているときは，乾いた布などでふき取ってください。

重　要

＊シャッタに肥料が付着した状態で長時間放置すると錆が発生したりして破損するおそれがありますのでロールケース内の肥料は必ず排出し，掃除を行なってください。
＊水洗い後すぐに作業しないでください。詰まりや施肥異常の原因になります。
＊施肥部を高圧水で洗浄しないでください。ゴム部のすき間から水が入り,詰まりの原因になります。
＊ホッパ，ロールケース，ロート内部を水洗いするときは必ずロートを開き，ロール，ブラシを取外してブロワ内に水が入らないようにしてください。ブロワ内に水が入ると，モータに錆が発生し故障するおそれがあります。
＊水で洗って掃除したあとは，必ずブロワを開き，ダクトやブロワ内をよく乾燥してください。【SP仕様除く】

●［水洗いの手順と注意点］

【6・8・10】

(1) **“ロールケース・ダクトの脱着【F仕様】”**の項を参照して，ロール・ロート・ブラシを外して，水洗いしてください。
(2) 水洗いを行なったあとは，ロートを必ず分解，清掃し乾燥させたあと，**“ロールケース・ダクトの脱着【F仕様】”**の項を参照して，ロール・ブラシ・ロートを組付けてください。

補　足

＊水洗い後は，必ずホッパ・ロールケース・ダクト・ブロワ内をよく乾燥させてください。

【6・8・10】

【SP仕様】

(1) **“ロール・ブラシの取付け・取外し方法【SP-F仕様】”**の項を参照して，ロール・ロート・ブラシを外してください。
(2) ダクトロックを外してT字ダクトを外し，ダクト（ブロワ）の入口をビニールなどでふたをしてブロワに水が入らないようにしてください。
(3) 水洗いを行なったあとは，ロートも必ず清掃して乾燥させたあと，T字ダクト・ロールブラシを組付けてください。

補　足

＊水洗い後は，必ずホッパ・ロールケース・ダクトをよく乾燥させてください。

【SP仕様】

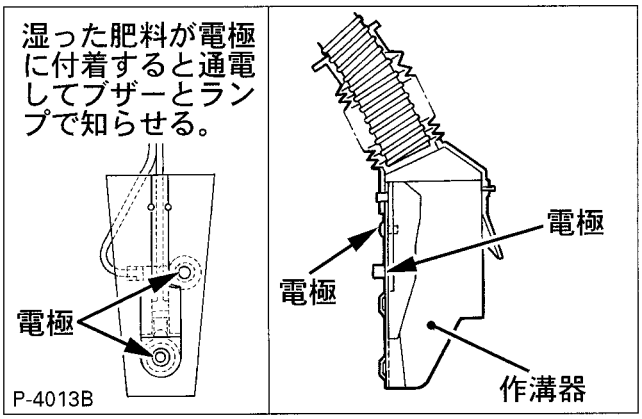
2. ブラシは毛の間にはさまった肥料を取除き，お湯で洗ったあと，水分をふき取り乾燥させてください。
3. 作溝器部の泥や水はよく取除いてください。

補　足

＊水で洗って掃除したあとは，ブロワを開き，ダクト，ブロワ内をよく乾燥させてください。
＊洗剤の空容器などを利用して水を入れ，電極部分などに付着した肥料を洗い流してください。
（ホース内はぬらさないこと）

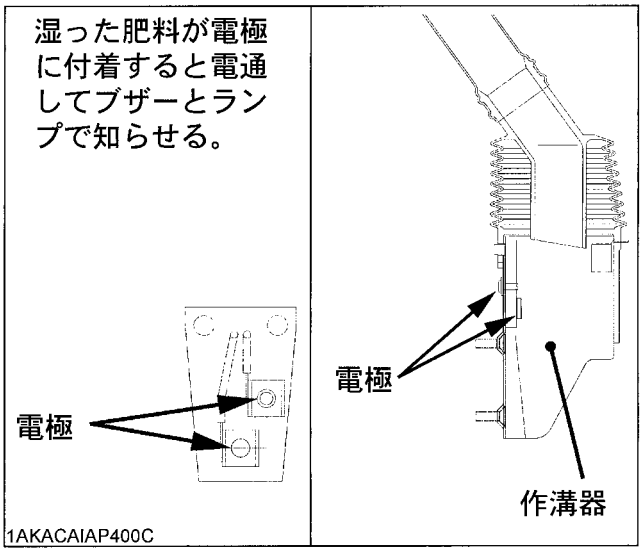
各部の掃除と注油のしかた

【6・8・10】

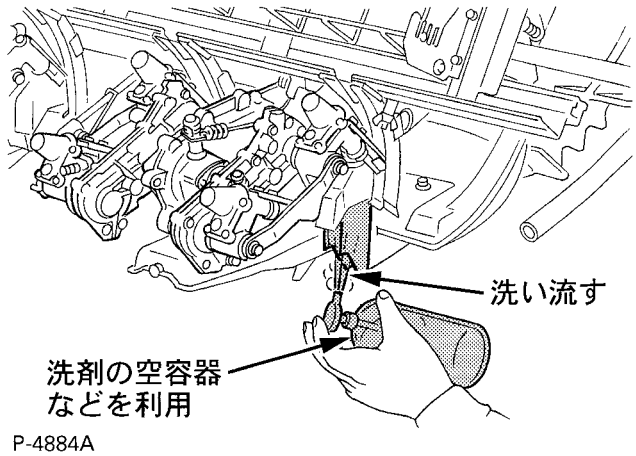


【6・8・10】

【SP仕様】



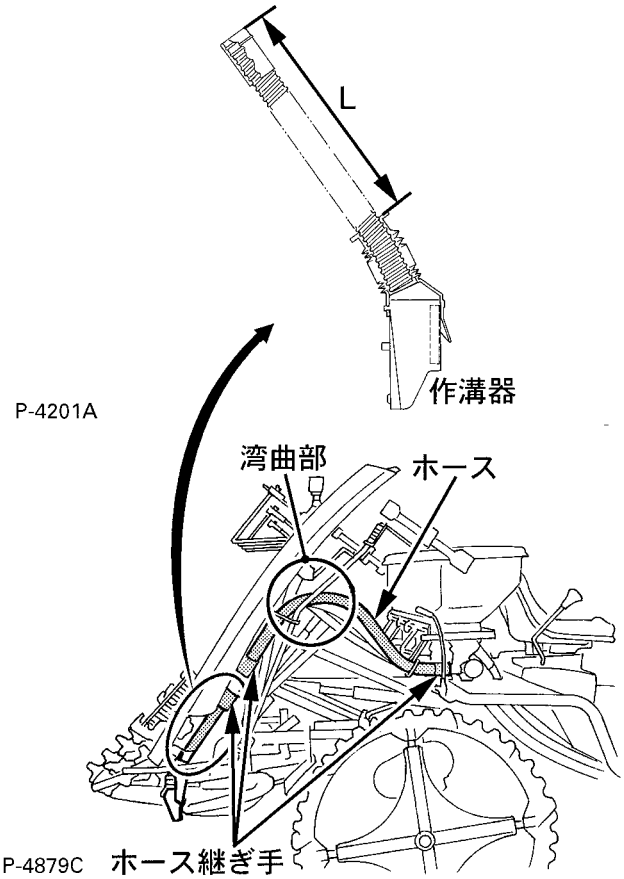
【SP仕様】



＊ホースの中も同時に掃除してください。

【6・8・10】

4. 各ホースの掃除をするときは，各ホースの継ぎ手を外してください。掃除が終わったあとは，必ず継ぎ手を取付けてください。



補　足

＊湾曲部を上側にして取付けてください。

＊作溝器側のホースを取付けるときは，ホースの配置に注意し，上図の寸法**L**を**285～295**mmにしてください。

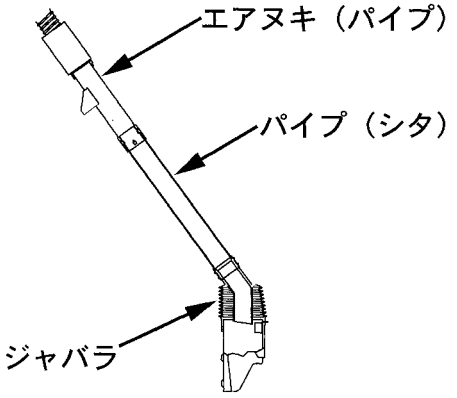
【6・8・10】

【SP仕様】

4. 各パイプ（シタ）の掃除をするときは，エアヌキ（パイプ），パイプ（シタ），ジャバラをセットした状態で外してください。掃除が終わったあとは，必ず取付けてください。

重　要

＊エアヌキ（パイプ），パイプ（シタ），ジャバラを分解しないでください。破損するおそれがあります。



1AKACAIAP410A

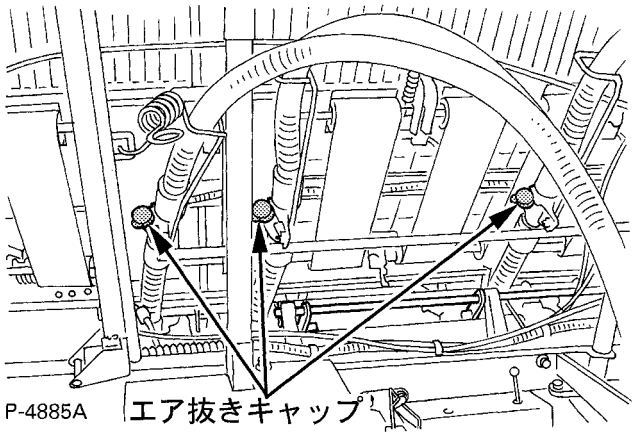
補　足

＊湾曲部を上側にして取付けてください。

【SP仕様】

5. エア抜きキャップ下側の出口に付着している肥料を取除いてください。（全条分）

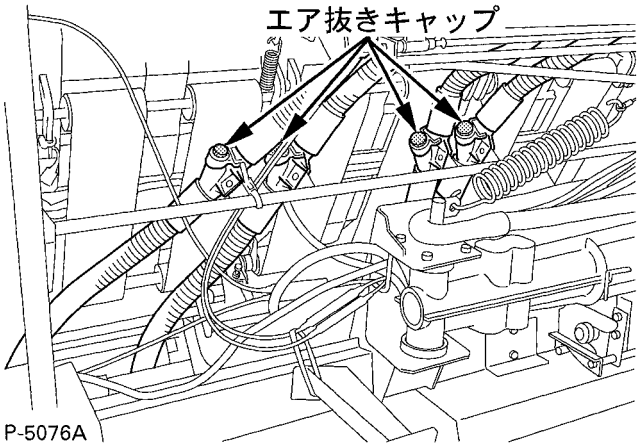
【6・8】



P-4885A

【6・8】

【10・10-8】



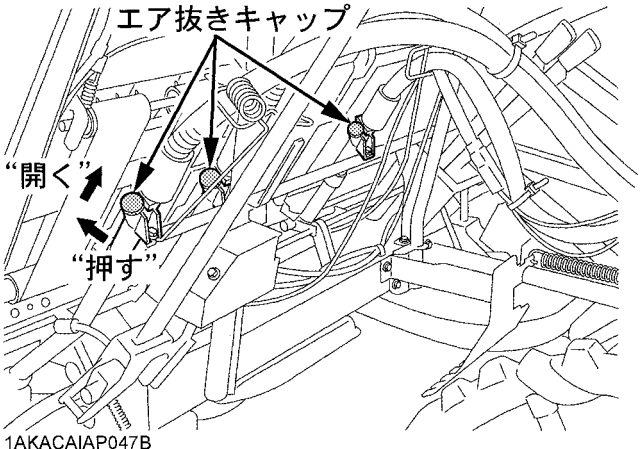
P-5076A

【10・10-8】

【SP仕様】

補　足

＊キャップを奥に押してから開いてください。



1AKACAIAP047B

【SP仕様】

各部の掃除と注油のしかた

■注油のしかた

機体各部の掃除が終わったあと又は，田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

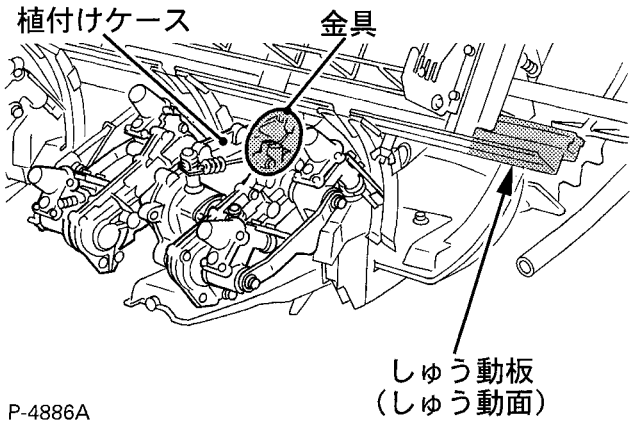
補　足

＊注油やグリース塗布をする前に，水が付着しているときは，ふき取って行なってください。

【6・8, SP仕様】

◆注油・グリース塗布

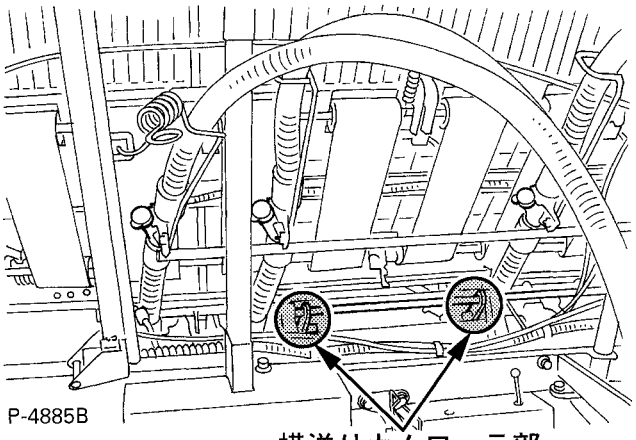
- しゅう動板(グリース塗布)
- 植付けケースと金具(注油)



P-4886A

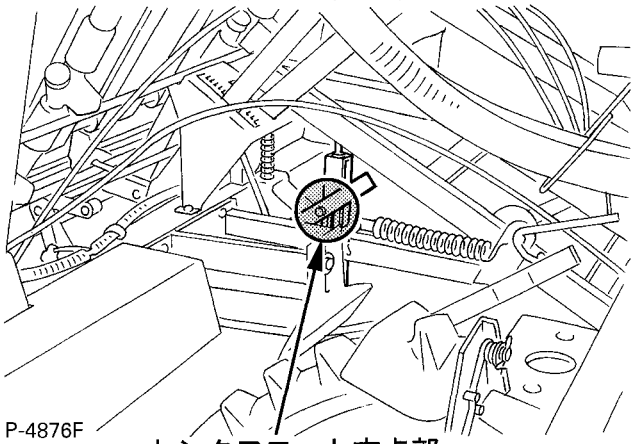
【6・8】

- 横送りカムローラ部(グリース塗布)



P-4885B

- センタフロート支点部(注油)



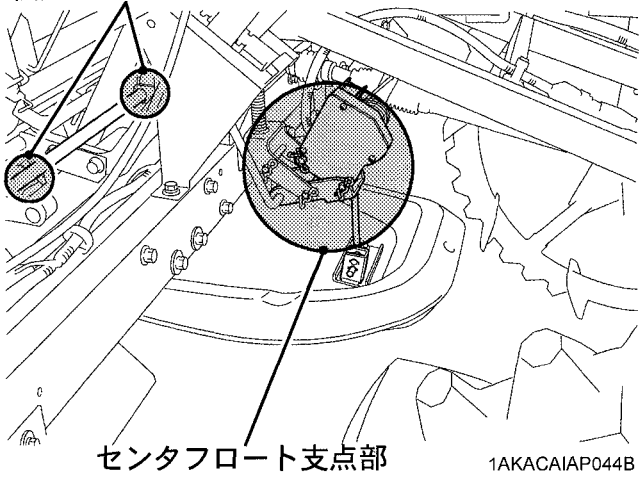
P-4876F

【6・8】

【SP仕様】

- 横送りカムローラ部(グリース塗布)
- センタフロート支点部(グリース塗布)

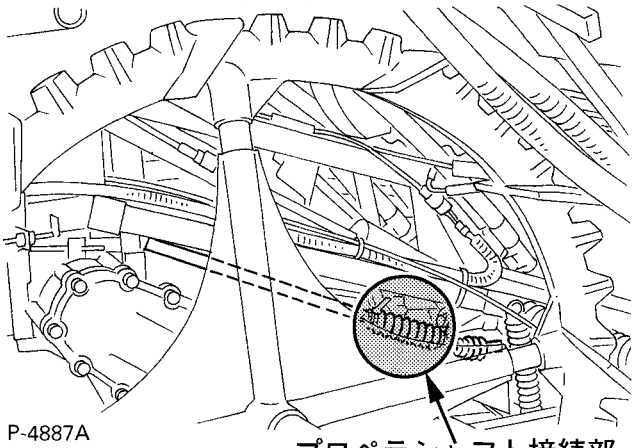
横送りカムローラ部



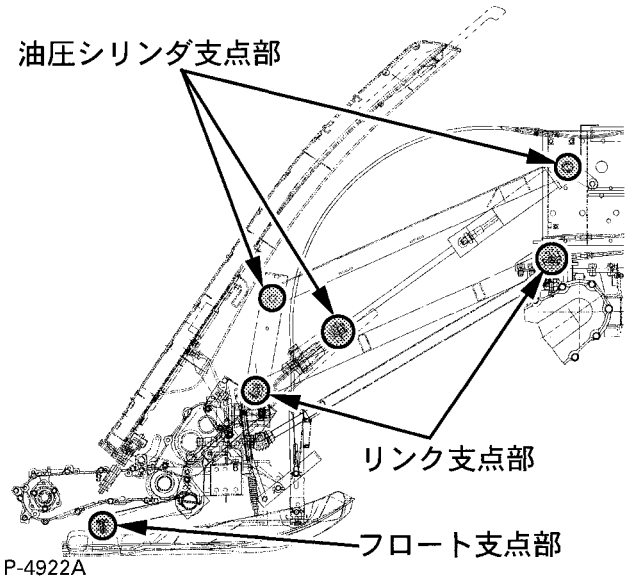
1AKACAIAP044B

【SP仕様】

- 油圧シリンダ支点部(グリース塗布)
- リンク支点部(グリース塗布)
- プロペラシャフト接続部(グリース塗布)
- フロート支点部(注油)

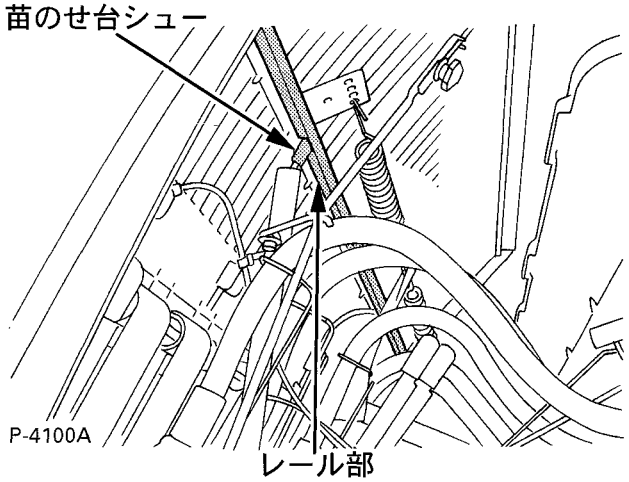


P-4887A



P-4922A

●苗のせ台シュー・レール部(グリース塗布)



P-4100A

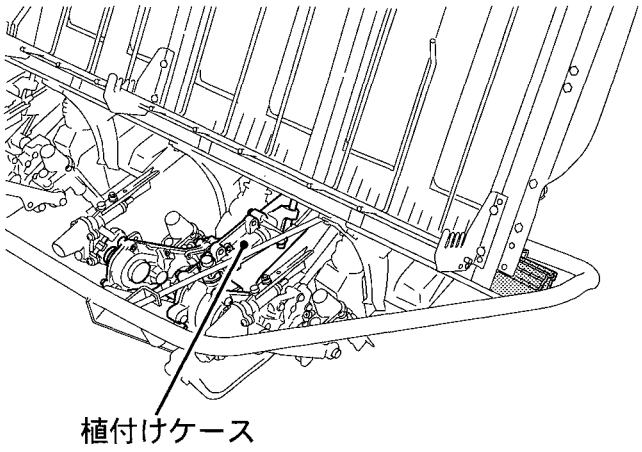
【6・8, SP仕様】

【10・10-8】

◆注油・グリース塗布

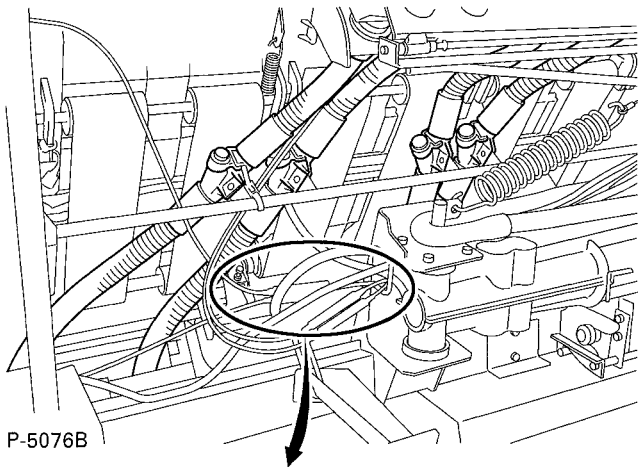
●しゅう動板(グリース塗布)

●植付けケース(注油)

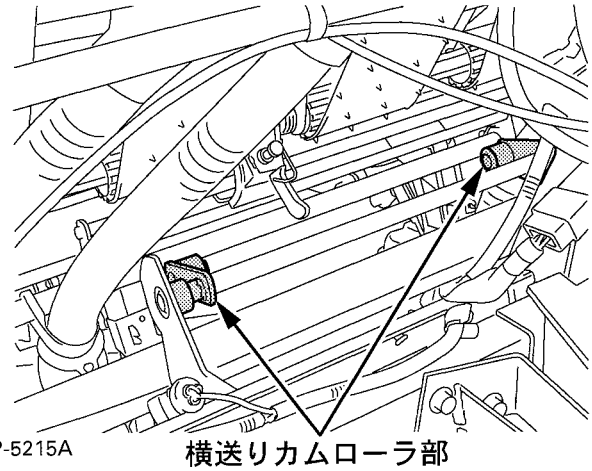


P-5096A

●横送りカムローラ部(グリース塗布)



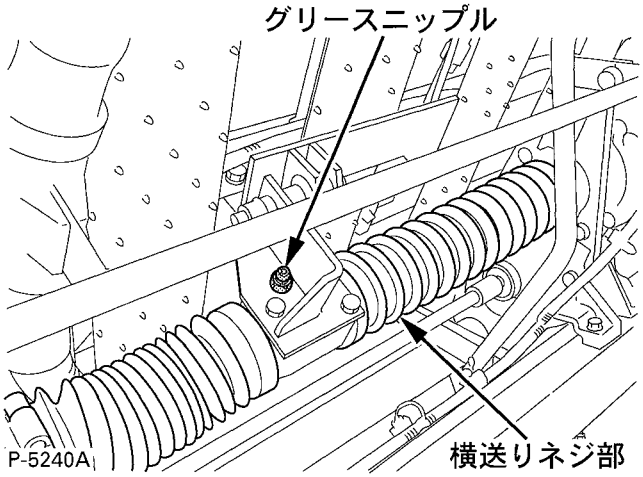
P-5076B



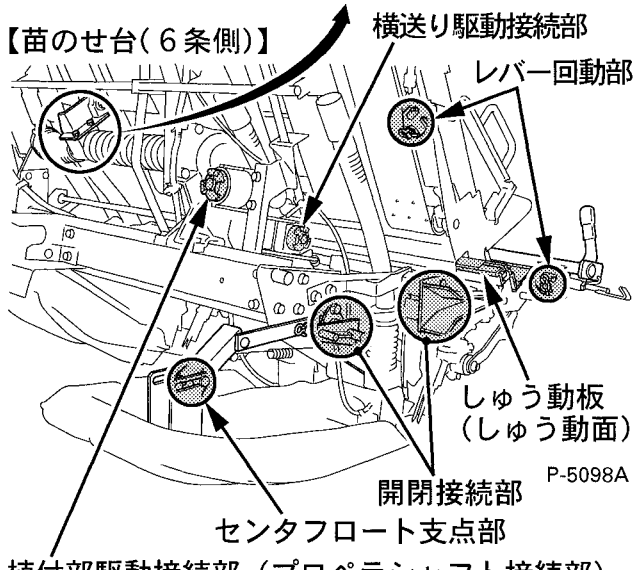
P-5215A

各部の掃除と注油のしかた

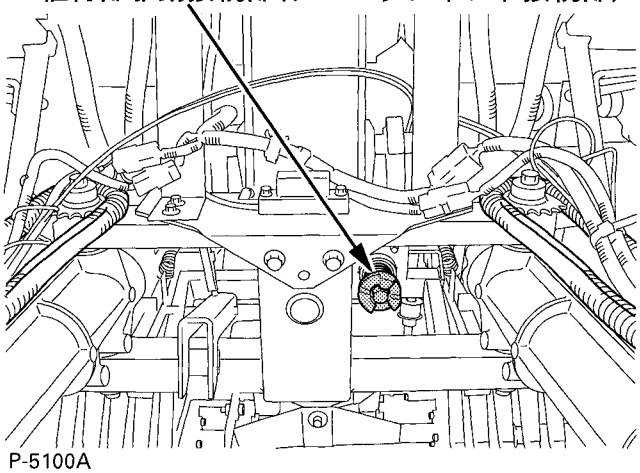
- センタフロート支点部(注油)
- 植付部駆動接続部(注油)
- 横送り駆動接続部(注油)
- 横送りネジ部(グリース注入)
- レバー回動部(注油)
- 開閉接続部(注油)
- しゅう動板(グリース塗布)



【苗のせ台(６条側)】

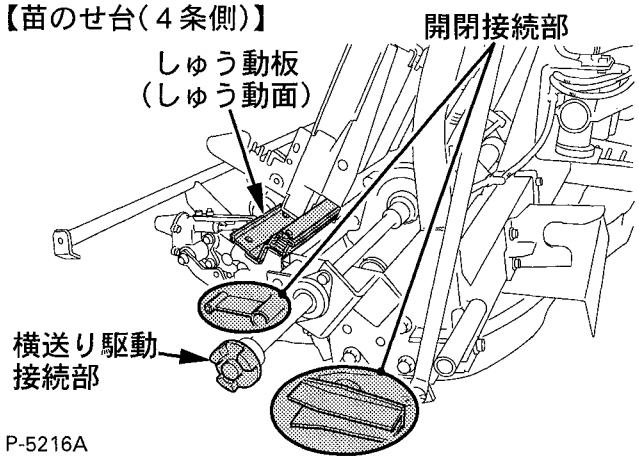


植付部駆動接続部(プロペラシャフト接続部)

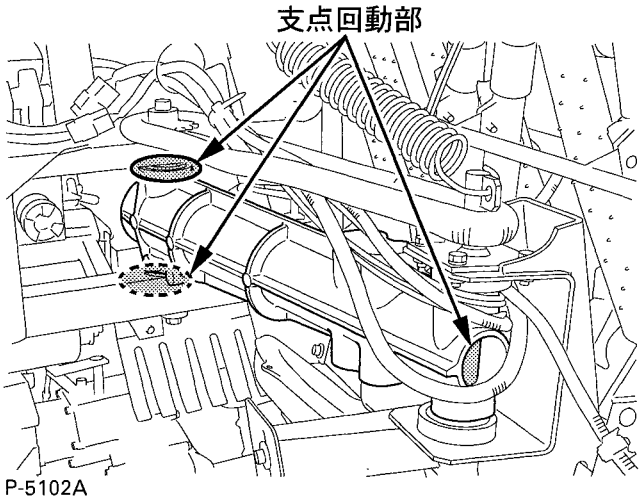


- 横送り駆動接続部(注油)
- 開閉接続部(注油)
- しゅう動板(注油)

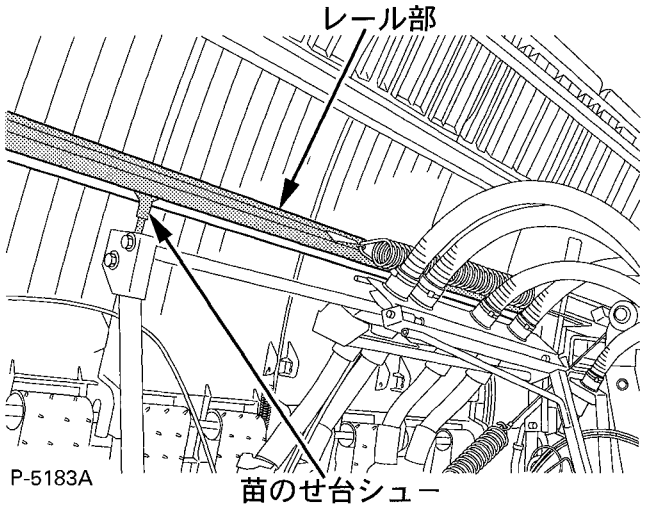
【苗のせ台(４条側)】



- 支点回動部

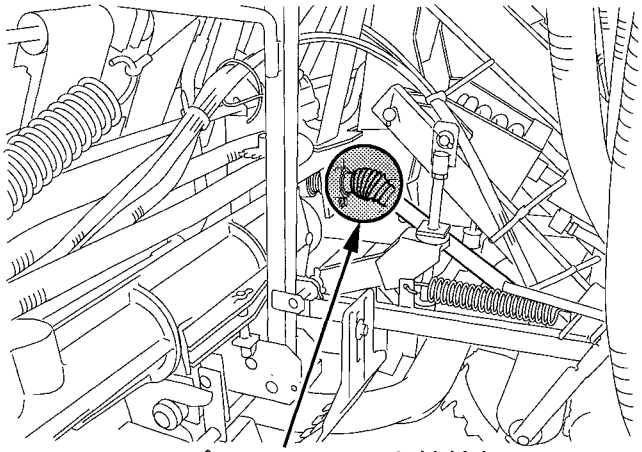


- 苗のせ台シュー・レール部(グリース塗布)

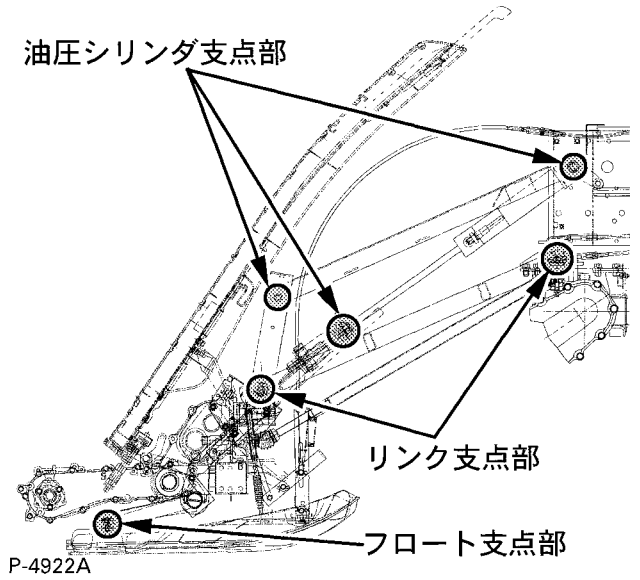


各部の掃除と注油のしかた

- 油圧シリンダ支点部(グリース塗布)
- リンク支点部(グリース塗布)
- プロペラシャフト接続部(グリース塗布)
- フロート支点部(注油)



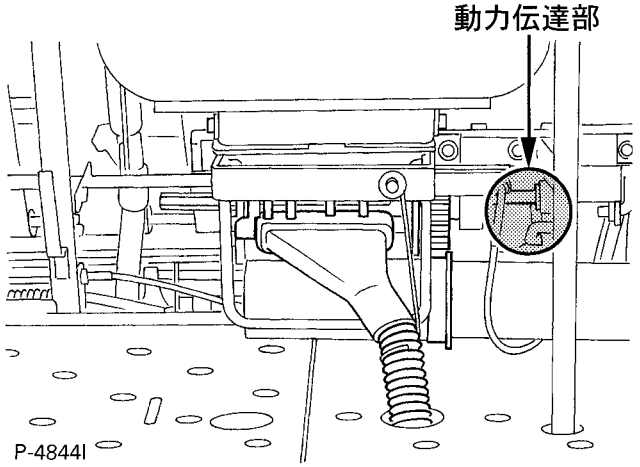
P-5103A



P-4922A

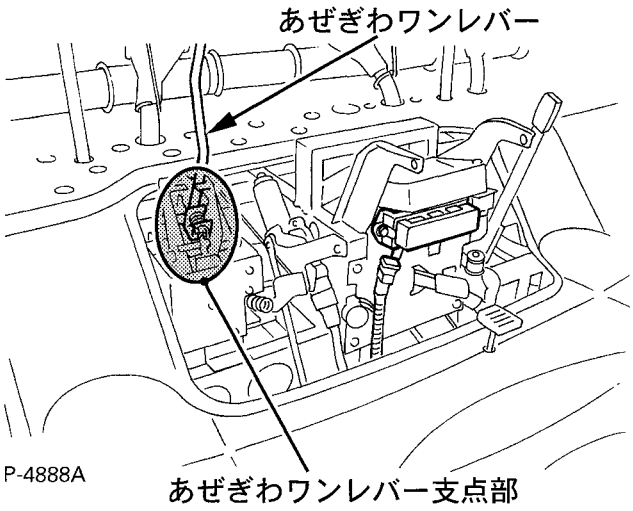
【10・10-8】

- 動力伝導部(グリース塗布)【F仕様】



P-4844I

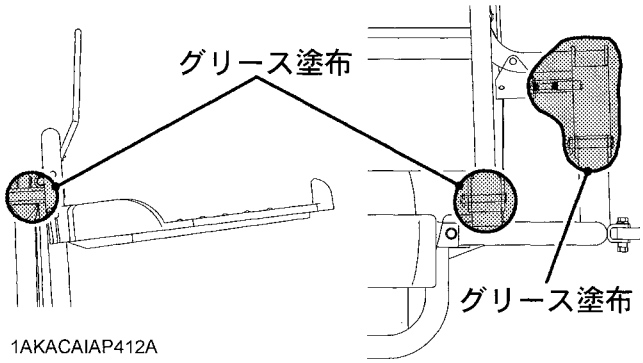
- あぜぎわワンレバー支点部(注油)



P-4888A

【SP仕様】

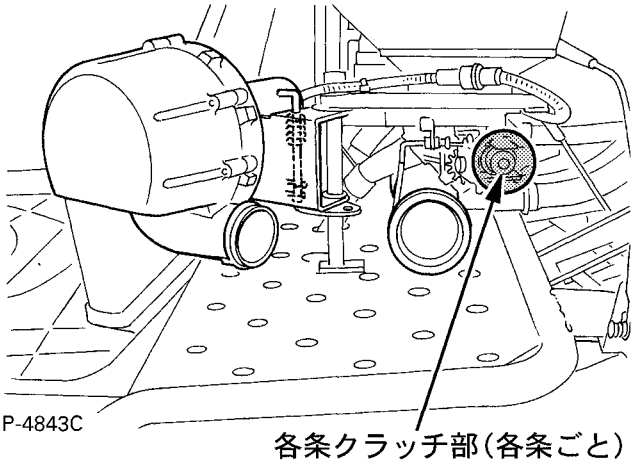
- 予備苗台支点部(グリース塗布)



1AKACAIAP412A

【SP仕様】

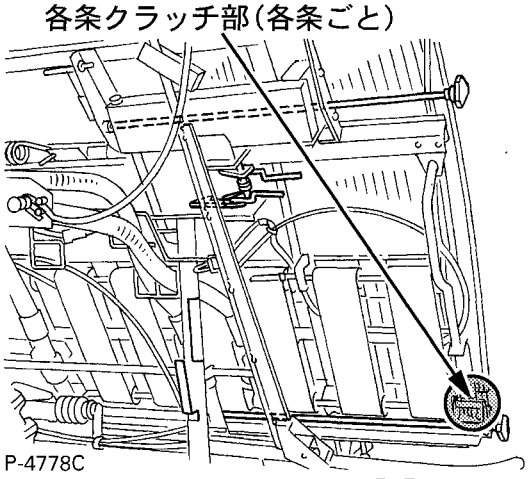
- 各条クラッチ部(グリース塗布)【F仕様】



P-4843C

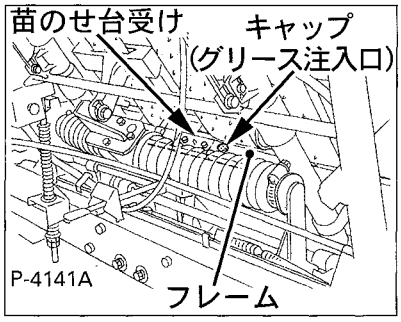
各部の掃除と注油のしかた

●苗のせ台縦送り各条クラッチ部
（各条ごとにグリース塗布）



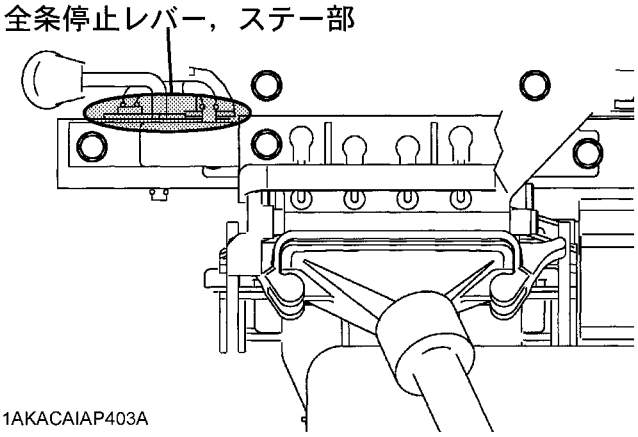
※イラストは【8】

●苗のせ台受け・しゅう動板(グリース注入)
●苗のせ台下面しゅう動部(グリース注入)

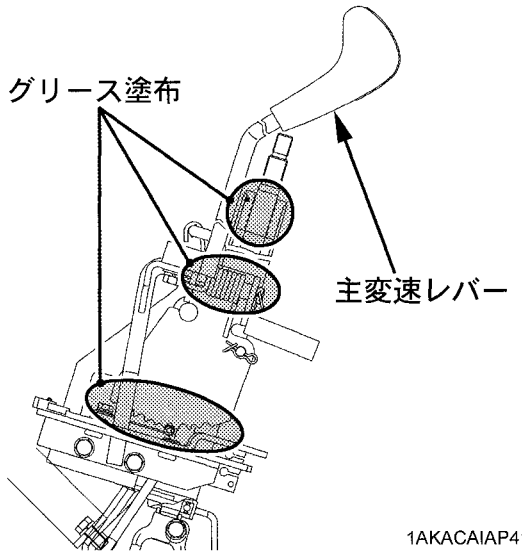


【SP仕様】

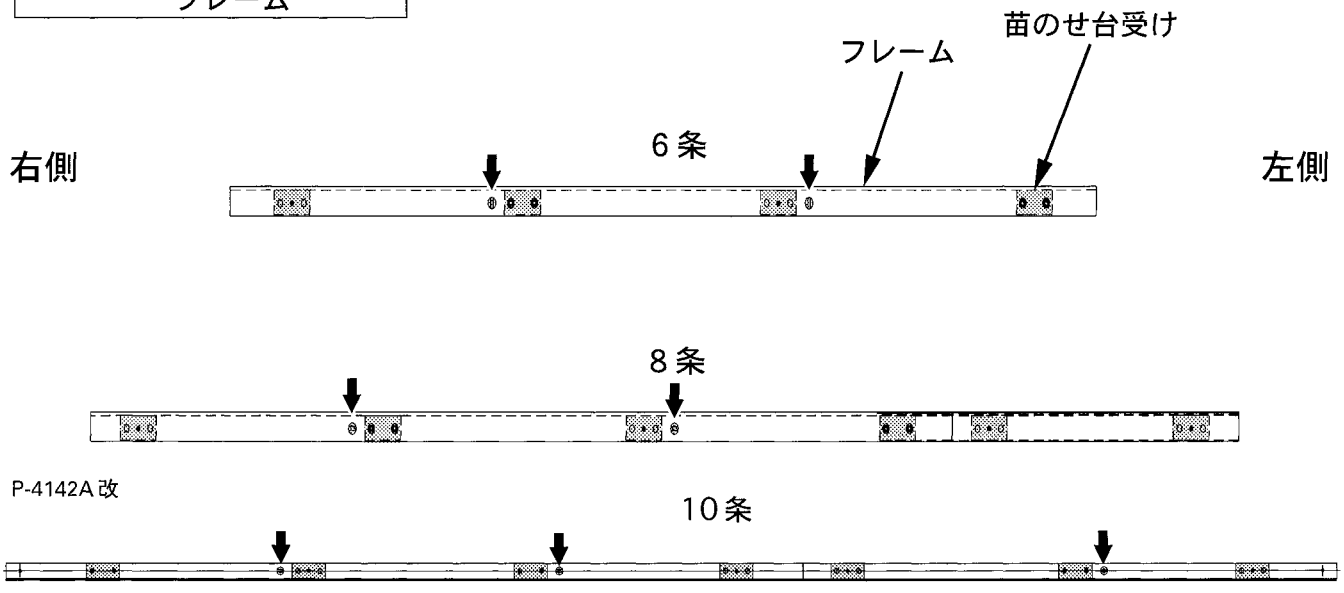
●全条停止レバー，ステー部



●主変速レバー支点部
デテント部(グリース塗布)



【SP仕様】



定期点検

定期点検は，田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植作業は，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平坦な場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて，各レバー類を“切”位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがありますので，点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。
＊燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁。

注 意

＊各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平坦な場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊植付部を上げた状態で作業を行なうときは，油圧昇降ロックレバーで油圧をロックし，植付部の下降防止を行なってください。
＊ボンネットを開けるときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊オイルの補給中は火気厳禁。
＊燃料やオイルがこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

補 足

＊専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早めの点検をお願いします。

■廃棄物の処理について

警 告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

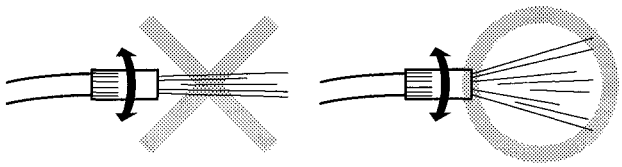
高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注 意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

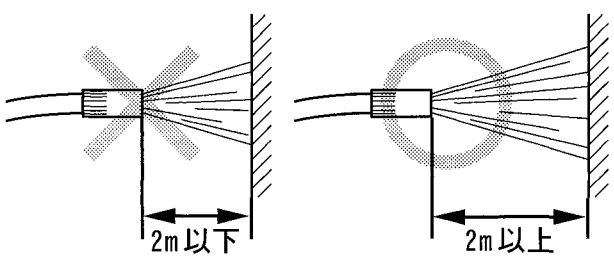
1. **電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**
3. **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
   例）(1) シール・ラベルの剥がれ
   (2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内等への浸入による故障
   (3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂部品，ガラス等の破損
   (4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- コントローラ（マイコン）や電気系統（自動制御関係）の機器や部品
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 植付部の動力系統

定期点検

■定期点検一覧表

○：点検と調整　△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間 点検・処置	点検・交換時期 作業前後	シーズン前後	35時間	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	400時間	1500時間	2年ごと	対象型式・仕様	参照ページ
エンジン部	オルタネータ駆動ベルト	調整 交換					○		△					全型式	158
	エアクリーナエレメント	掃除 交換	○：100時間ごと(日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除) △：1年ごと又は6回清掃後											全型式	155 ☆
	インレットパイプ(エアクリーナ)	点検 交換							○				△	全型式	156
	インレットマニホルド	点検							○						☆
	燃料タンクの燃料こしあみ	掃除		○					○					全型式	147 ☆
	燃料噴射管	点検							○					全型式	☆
	燃料パイプ	点検 交換	(作業前後点検し，燃料もれしているときは締付けバンドの締付け又は，交換)						○				△	全型式	156 ☆
	フューエルフィルタアッシ	交換									△			全型式	154
	燃料噴射ノズル開弁圧	点検										○		全型式	☆
	オイルフィルタカートリッジ	―							△					全型式	154 ☆
	ラジエータホース	○ 点検 交換	(作業前後点検し，水もれしているときは締付けバンドの締付け又は，交換)										△	全型式	156 ☆
	ラジエータフィン	掃除					○							全型式	153
	各バンド	点検 交換							○				△	全型式	156 ☆
走行・操作部	ミッションオイルフィルタカートリッジ	―				▲		△		△				全型式	159 ☆
	ミッション駆動ベルト	―	△：摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れが発生したとき											全型式	157 ☆
	タイヤ	○ 点検	△：8mm以上摩耗したとき											全型式	159 ☆
植付部	植付爪	○ 点検	△：3mm以上摩耗したとき(植付時に苗取りができないとき)											全型式	159
	押出金具	○ 点検	△：破損や変形がひどいとき(うき苗，ころび苗，ばらけ苗が発生)											全型式	159 ☆
	縦送りベルト	○ 掃除	△：破損や摩耗がひどいとき											全型式	17,18 ☆
	しゅう動板・苗乗せ台受け	○ 点検	△：1mm以上摩耗したとき											全型式	163 ☆
	各ワイヤ	調整	○											全型式	☆

＊☆印のある整備項目の交換については，購入先に連絡又は，整備工場で行なってください。

補　足

＊上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって，消耗部品の調整や交換時期は異なります。

＊使用時間については，コントローラのデジタル表示を参照して確認してください。

定期点検

○：点検と調整　△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間 点検・処置	点検・交換時期 作業前後	シーズン前後	35時間	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	400時間	1500時間	2年ごと	対象型式・仕様	参照ページ
施肥部	施肥ブラシ	点検	○	△：摩耗がひどいとき										F仕様	163
	ホース	点検	○	△：破損時										F仕様	136 ☆
	ロート・ロール	掃除	○											F仕様	163
	駆動部(ワンウエイ)	点検	○	△：施肥量が極端に少なくなったとき										F仕様	☆
電装部	バッテリ	充電	○：セルモータが回りにくい，ライトが暗いときなど △：バッテリ上り(セルモータが回らない)とき											全型式	165 ☆
	ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	○	△：破損時										全型式	169 ☆
	ヒューズ・スローブローヒューズ	―	△：破損時(ヒューズ切れ)											全型式	169,170 ☆
	ランプ(電球)	―	△：破損時(球切れ)											全型式	171 ☆

＊☆印のある整備項目の交換については，購入先に連絡又は，整備工場で行なってください。

補　足

＊上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって，消耗部品の調整や交換時期は異なります。

＊使用時間については，コントローラのデジタル表示を参照して確認してください。

■給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	—	●容量 ……20	ディーゼル軽油	147
オイル	エンジン	補給・交換		●初回 ……35時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限と上限の間**	クボタ純オイル D30又は，D10W-30	148
	ミッションケース	補給・交換	—	●初回 ……50時間目 ●2回目以降 ……100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** ●容量 ……8.5	クボタ純オイル スーパーUDT 又は,NEW UDT	149
	後車軸	補給・交換	—	●初回 ……50時間目 ●2回目以降 ……100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** ●容量……4.9		150
水・液	冷却水(リザーブタンク)	補水	作業前又は，作業後	冬季停止時は排出又は，35％不凍液を入れる。（C仕様：50％）	＊規定量 タンク側面の**LOW（下限）とFULL（上限）の間**	清水又は，クボタ不凍液	151
	バッテリ液		作業シーズン前，後	—	＊規定量 バッテリ側面**UPPER LEVEL（下限）とLOWEE RLEVEL（上限）の間**	精製水	168
グリース	植付アーム	補給	分解時	—	適量	日石G574	☆
	植付ケース					クボタ スペアグリース	
	横送りコマのホルダ						
	モンローユニット部						
	ローラクラッチ部【F仕様】						

＊参照ページに☆印のある整備（分解作業）については，購入先に連絡してください。

重要

各部への補給と交換

＊点検するときは，機体を平たんな場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

＊エンジンオイル量の点検は，エンジン停止後，５分以上経過してから行なってください。

＊使用するオイル・グリースは，指定のクボタ純オイル・スペアグリースを使用してください。

＊補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

補足

＊使用時間については，コントローラのデジタル表示を参照して確認してください。

■燃料・オイルの点検・補給・交換

警 告

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

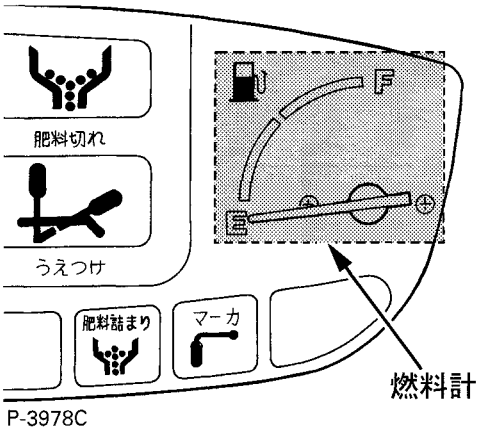
重 要

＊補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイルは**クボタ純オイル**を使用してください。

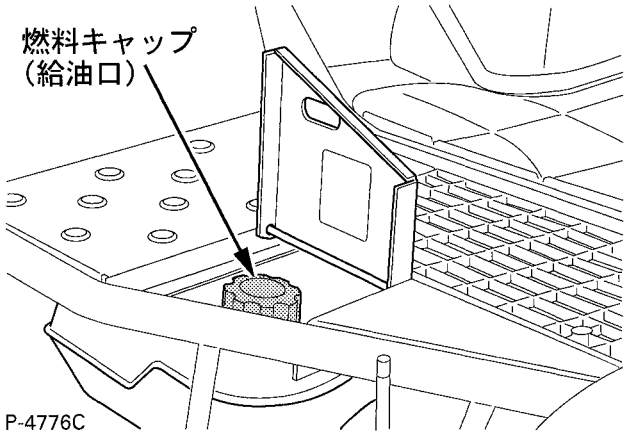
＊点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

1. 燃料

燃料計の指針が**“E”**（空）に近づいたら早めに燃料を補給してください。



P-3978C



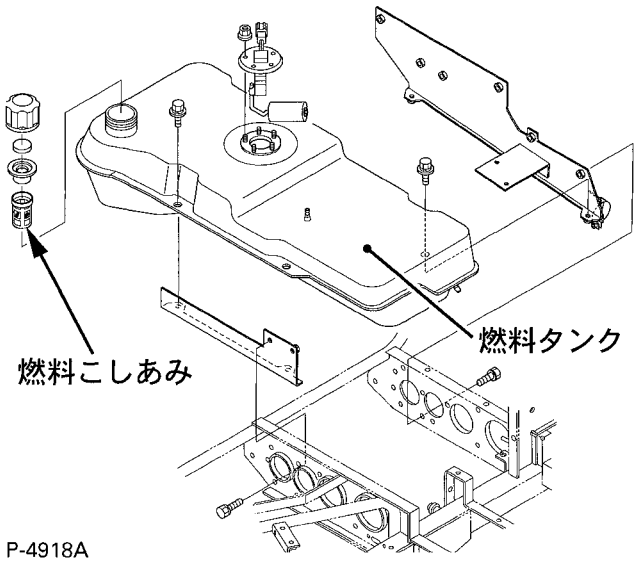
P-4776C

重 要

＊燃料は，ディーゼル軽油を必ず使用してください。また，下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり，エンジンの不調や故障の原因になります。
- 水やごみの混入した燃料
- くさった古い燃料

（昨年使用した燃料はなるべく新しい燃料に交換してください。）

＊給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



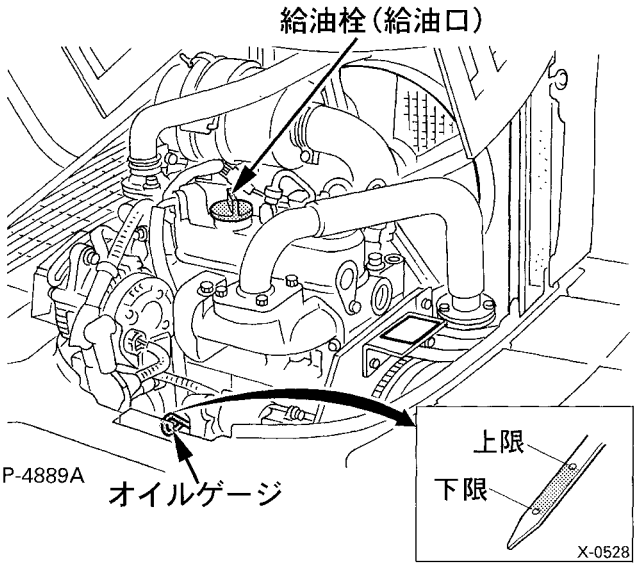
P-4918A

2. エンジンオイル

◆点検・補給

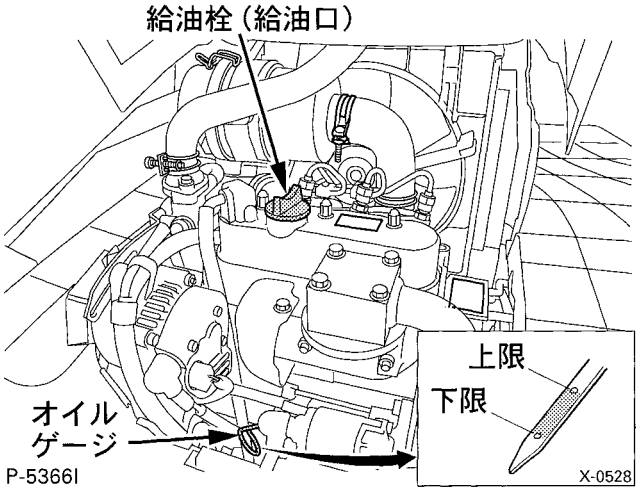
ボンネットをオープンしたあと，オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

【6・8・10】



【6・8・10】

【SP仕様】

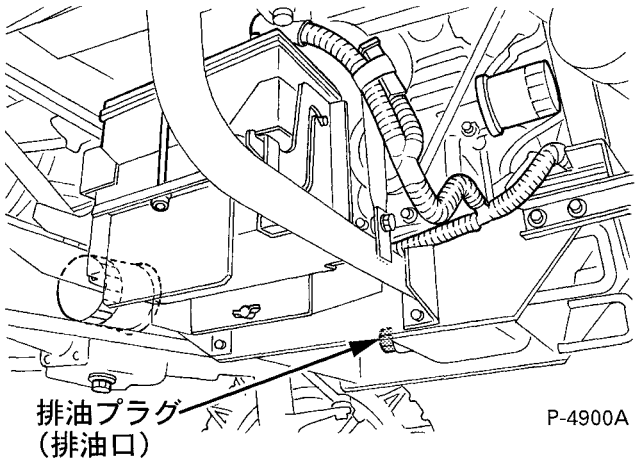


【SP仕様】

◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊エンジンオイルを補給・交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

＊指定以外のオイルは使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃以下のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W-30	2.2L【6】 2.5L【8・10】
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10-W30	

＊クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W-30
0～25℃	SAE20又は10W-30
25℃以上	SAE30又は10W-30

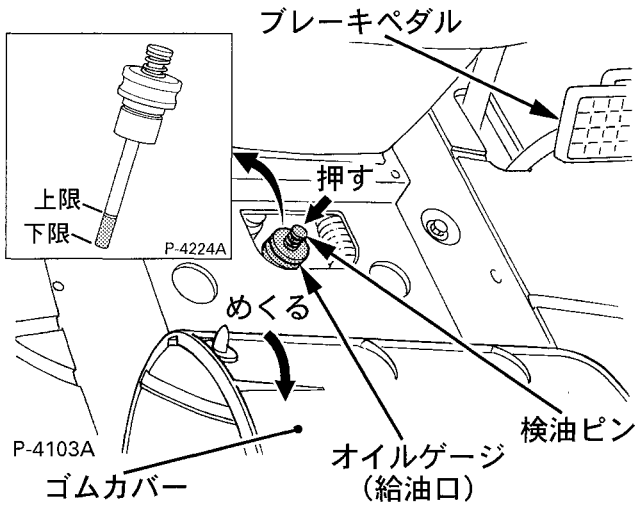
※10W-30はオールシーズン用です。

3. ミッションオイル

◆点検・補給

【6・8・10】

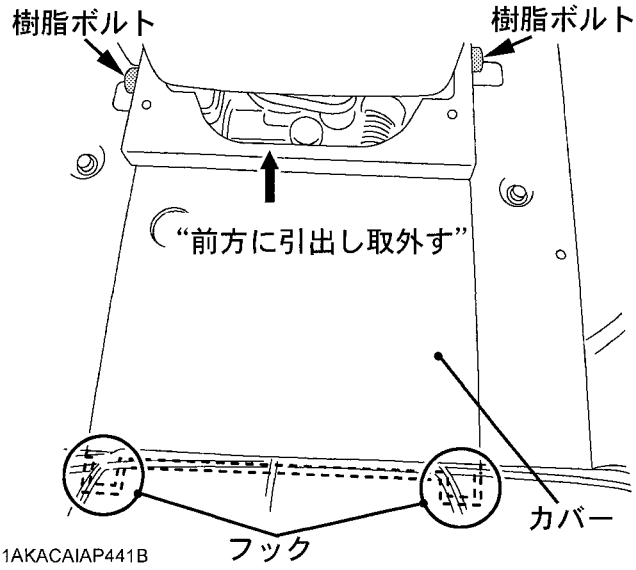
植付部を下降させたあと，副変速レバーを**“圃場作業”**位置にします。そのあと，ステップ前方にあるゴムカバーをめくり，オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み，検油ピンをいっぱいまで押込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

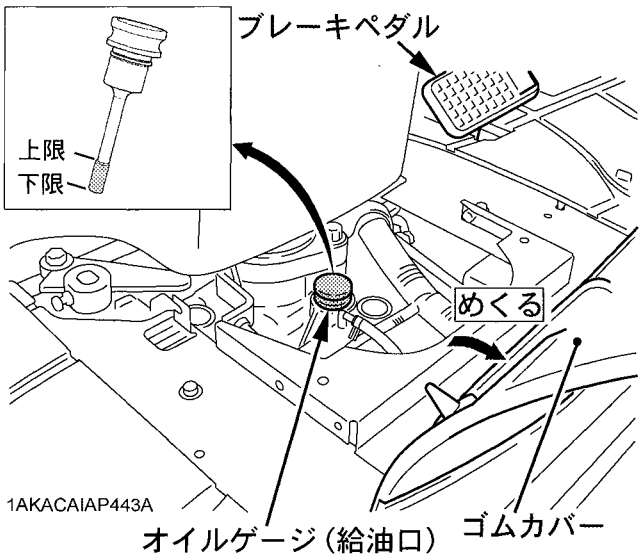


【6・8・10】

【SP仕様】

植付部を下降させたあと，副変速レバーを**“圃場作業”**位置にします。そのあと，ステップ前方にあるゴムカバーをめくり，樹脂ボルトを取外してカバーをいったん前方に引出し，フックを外して後方に引きオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み，いっぱいまで押込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



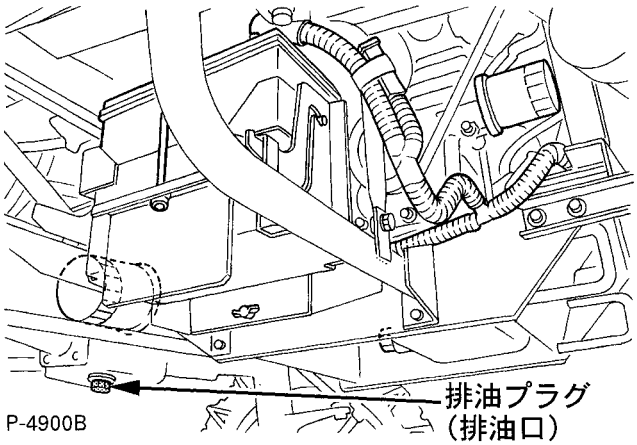


【SP仕様】

◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



P-4900B

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT又は，NEW UDT	8.5L

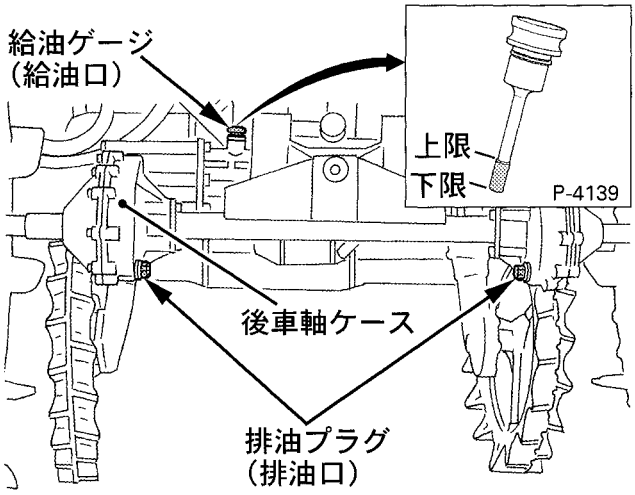
重　要

＊給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない不足しているときは，オイルを追加補給してください。

4. 後車軸ケースオイル

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



P-4901A

◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT又は，NEW UDT	4.9L

■ラジエータ冷却水の点検・交換

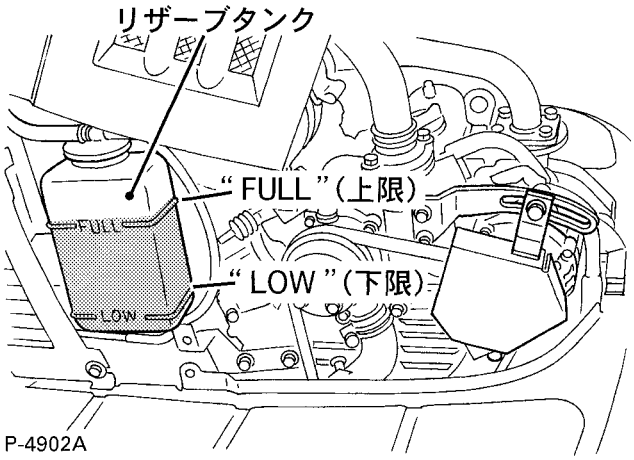
注 意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。
＊異なるメーカの不凍液を混用しないでください。

◆点検

エンジンルームをオープンしたあと，水量が“LOW”（下限）と“FULL”（上限）の間にあるか確かめます。“LOW”（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。

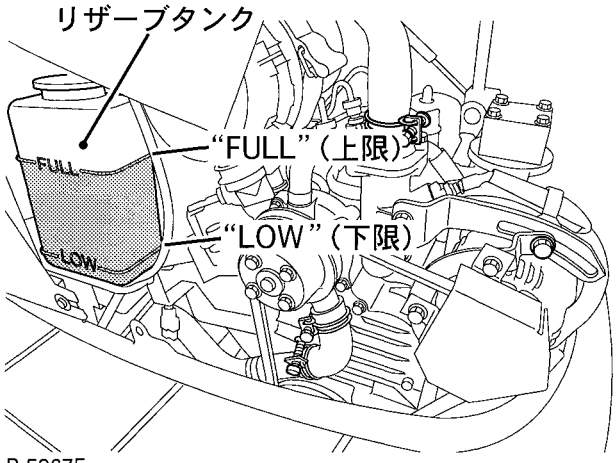
【6・8・10】



P-4902A

【6・8・10】

【SP仕様】



P-5367F

【SP仕様】

重 要

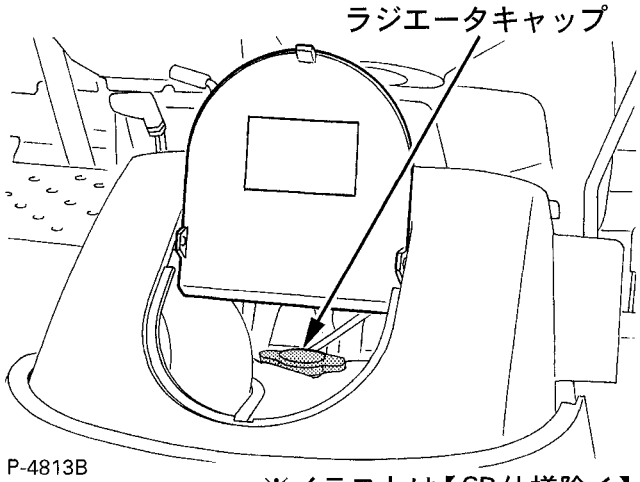
＊冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補 足

＊“FULL”（上限）の線以上は補給しないでください。

◆交換

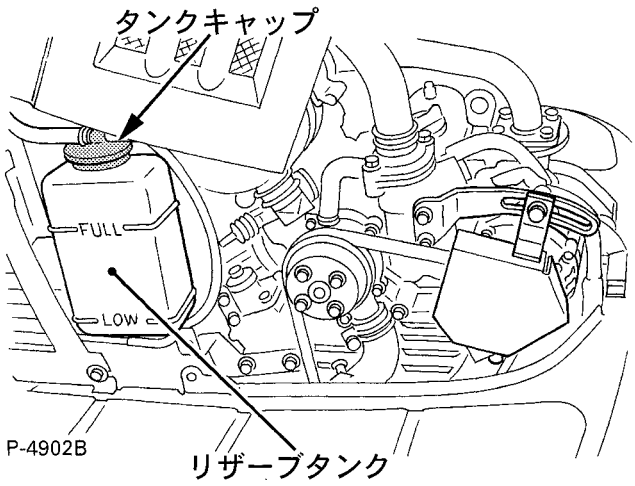
1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。
2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。



P-4813B

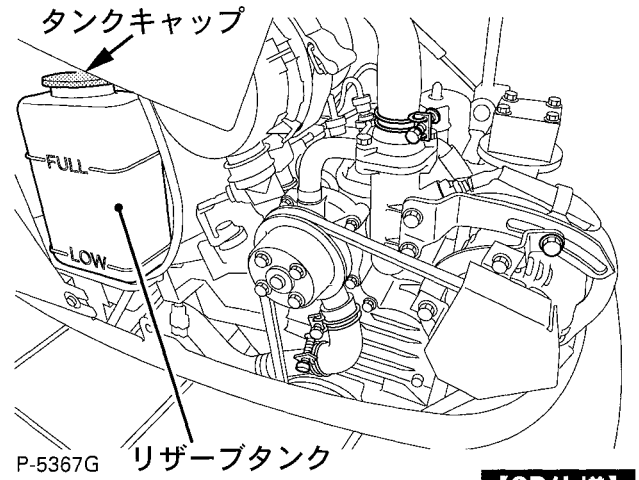
※イラストは【SP仕様除く】

【6・8・10】



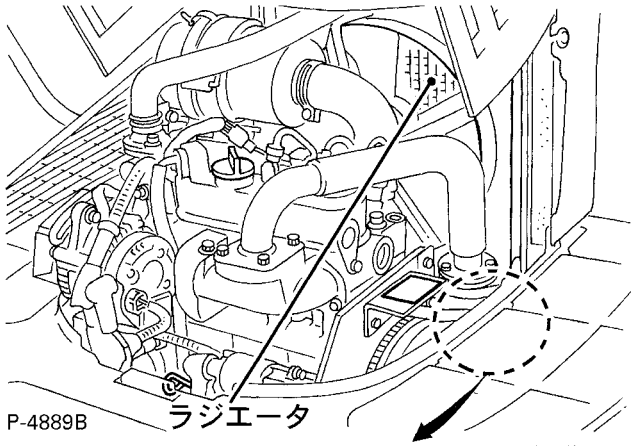
【6・8・10】

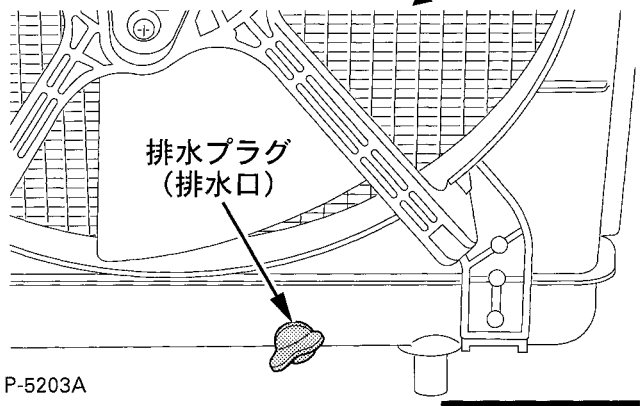
【SP仕様】



【SP仕様】

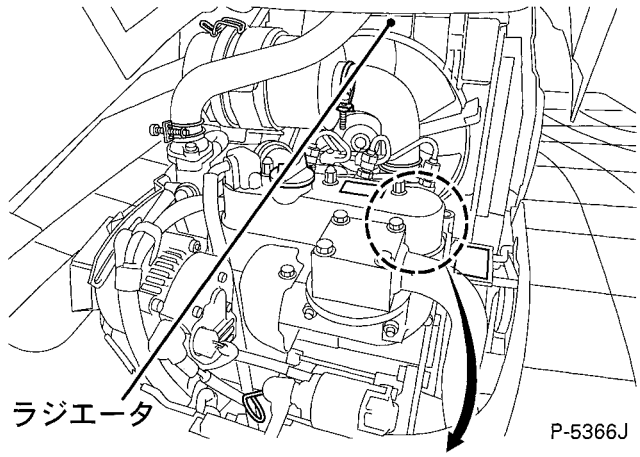
【6・8・10】

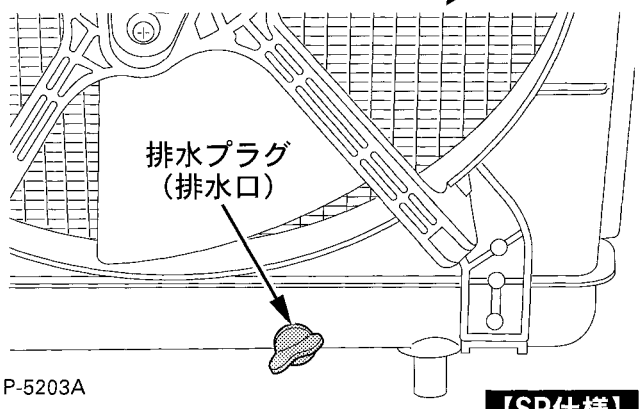




【6・8・10】

【SP仕様】





【SP仕様】

4. 排水口をボルトで取付けて，排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。
＊排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

●不凍液混合比率表

外気温度（℃）		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水（%）	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	25	30	35	40	45	50	55

※出荷標準 不凍液35%（C仕様：50%）
※ラジエータ容量…1.5L（エンジン内含む：2.5L：）
※新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，5分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

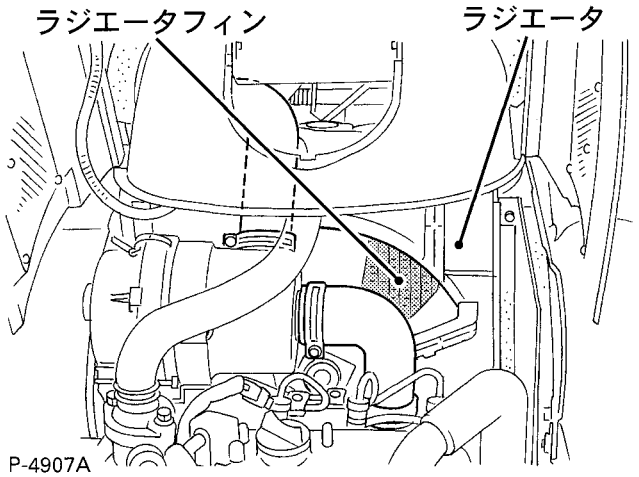
5. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

■ラジエータフィンの掃除

◆掃除

ボンネットをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどしてラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

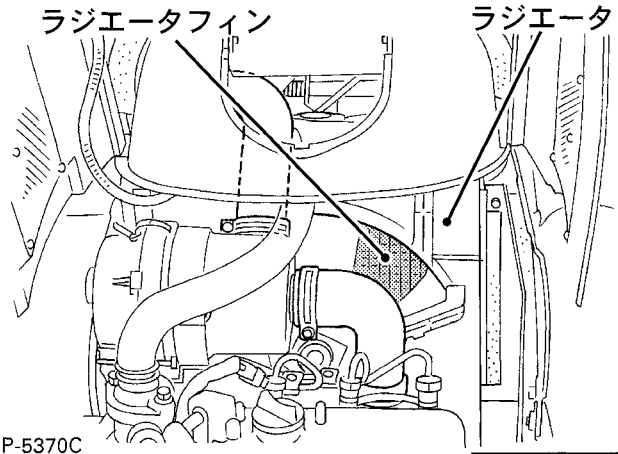
【6・8・10】



P-4907A

【6・8・10】

【SP仕様】



P-5370C

【SP仕様】

重　要

＊ヘラやドライバなど固いものを使用して，ラジエータフィンは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。
＊エンジンの不調又は，故障の原因となりますので，水を掛けないでください。

■エンジンオイルフィルタ カートリッジの交換

エンジンオイルの交換（148ページ参照）と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。

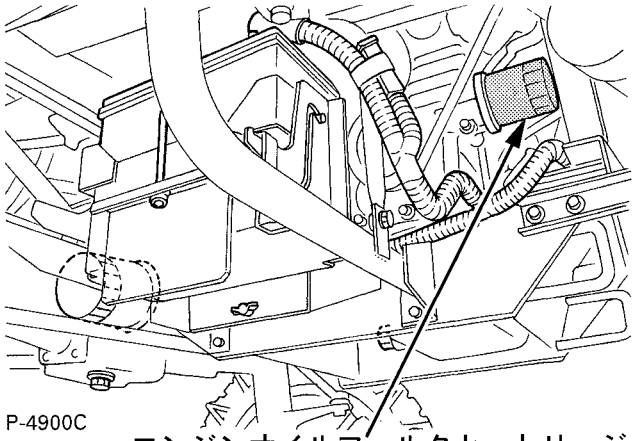
◆交換

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



P-4900C

エンジンオイルフィルタカートリッジ

重　要

＊新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

＊エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

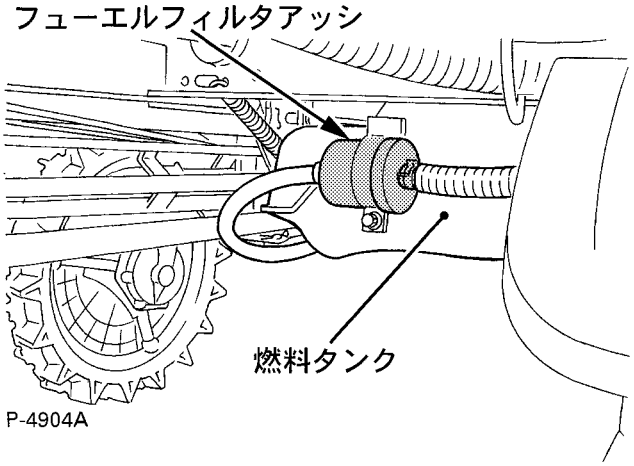
補　足

＊オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■フューエルフィルタアッシの交換

◆交換

運転時間が400時間ごとにフューエルフィルタアッシを交換してください。フューエルフィルタアッシは燃料タンクの後側にあります。



P-4904A

重　要

＊フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に交換してください。

＊燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

補　足

＊交換後は，キースイッチを**“入”**位置にすると５～10秒で自動的にエア抜きされます。

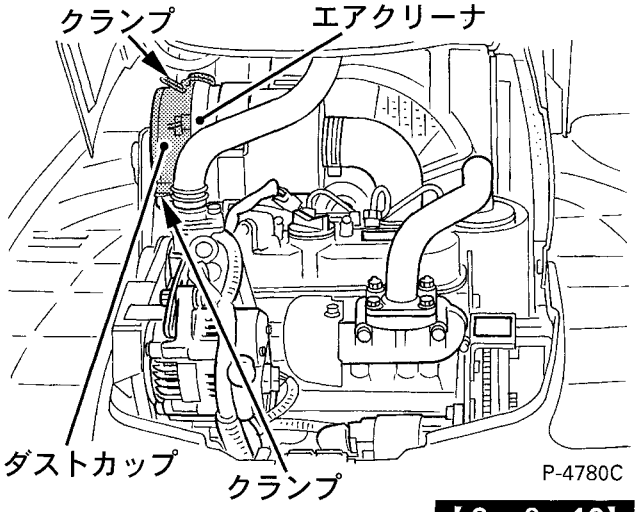
■エンジンバルブクリアランスの点検

運転時間が800時間ごとに購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■エアクリーナの点検・掃除・交換

ボンネットをオープンし，クランプ３箇所を外してダストカップを取外してください。ダストカップ内側のゴミはバキュエータバルブをつまんで取除いてください。

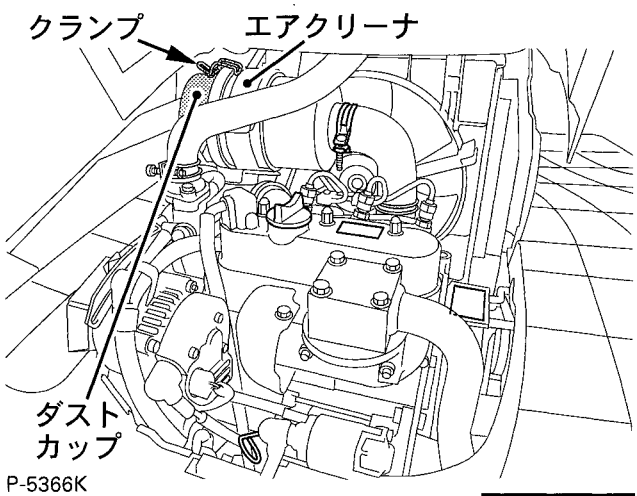
【6・8・10】



P-4780C

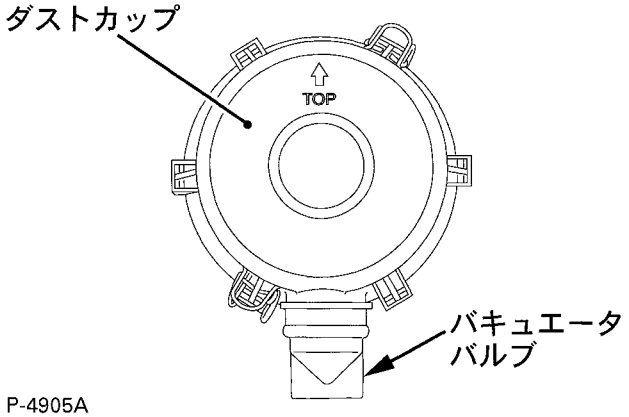
【6・8・10】

【SP仕様】



P-5366K

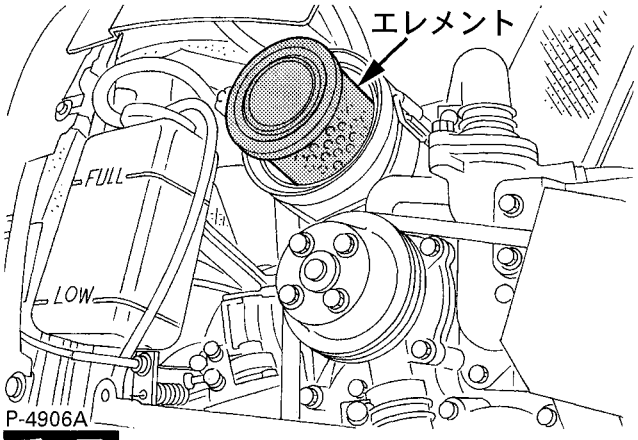
【SP仕様】



P-4905A

◆点検・掃除・交換

エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合は，交換してください。



P-4906A

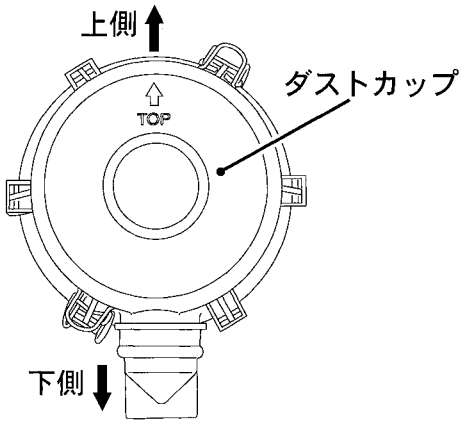
重　要

＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

＊エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。

＊エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。



P-4905B

＊エレメントを掃除する場合，エアの圧力は205kPa（2.1kgf/cm²）をこえないよう注意し，エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

■パイプ・ホース類の点検・交換

注 意

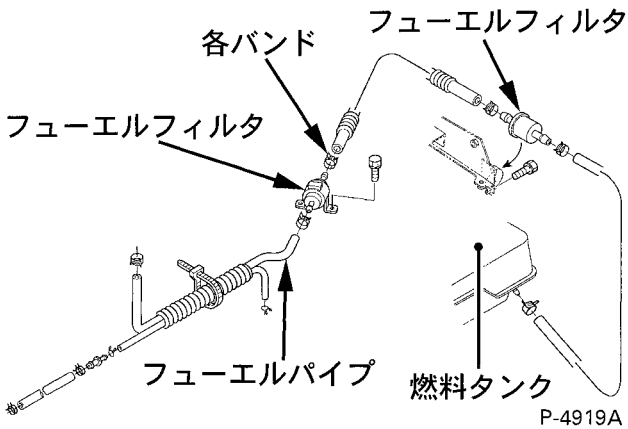
＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

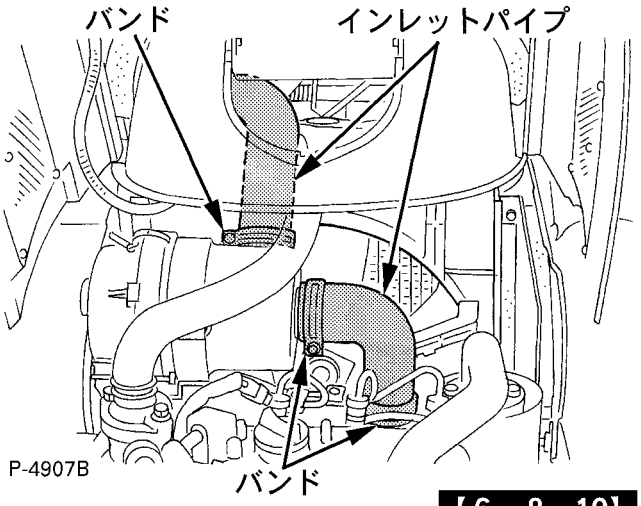
重 要

＊油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。



P-4919A

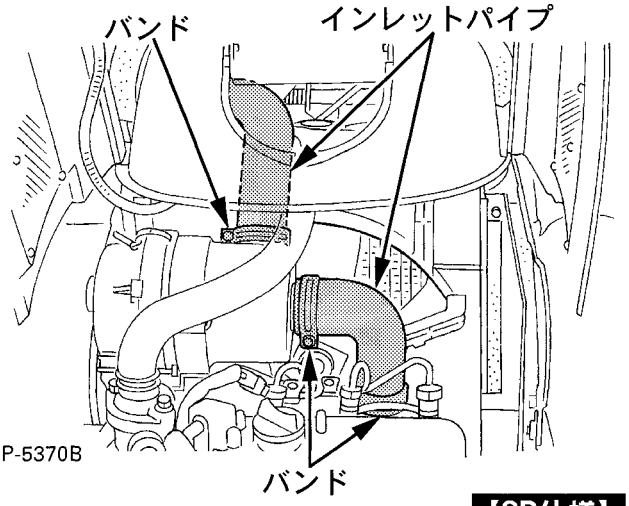
【6・8・10】



P-4907B

【6・8・10】

【SP仕様】



P-5370B

【SP仕様】

◆交換

交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

重　要

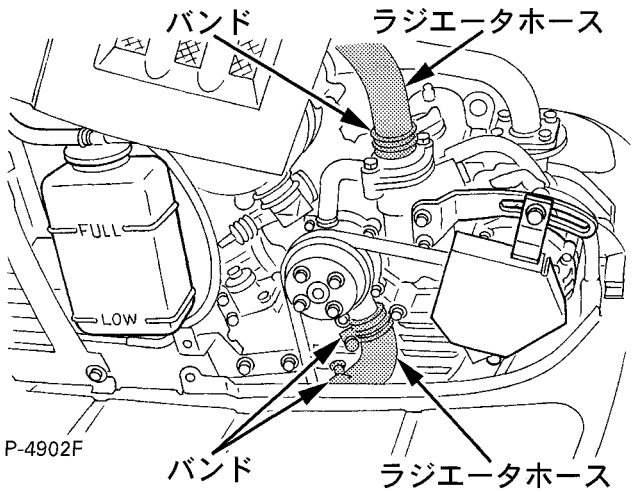
＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

補　足

＊交換を行なうときは，購入先に連絡してください。

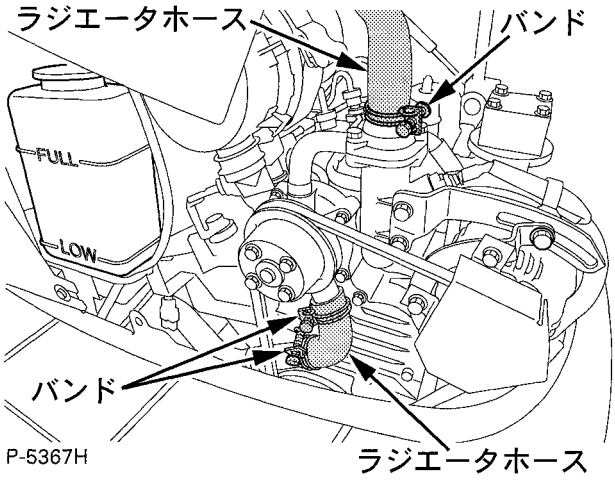
＊フューエルパイプ交換後は，キースイッチを“入”位置にすると５～10秒で自動的にエア抜きされます。

【6・8・10】



【6・8・10】

【SP仕様】



【SP仕様】

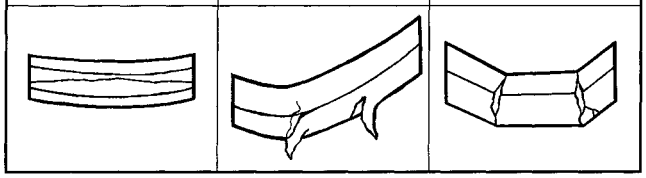
■ミッション駆動ベルトの点検

◆点検

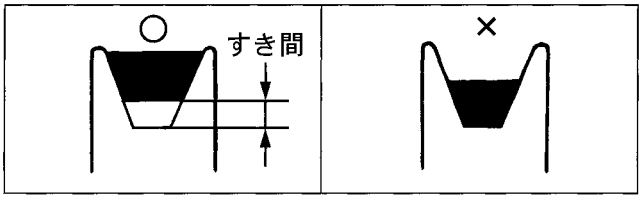
ベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

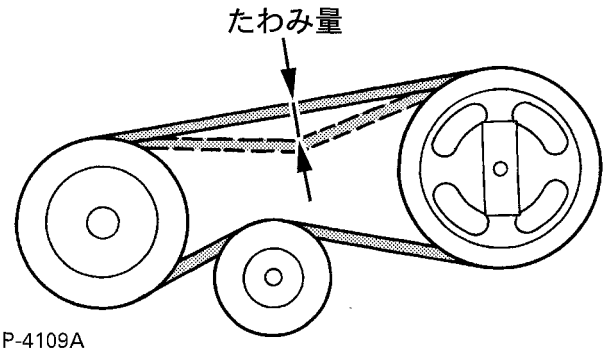
焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×



2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



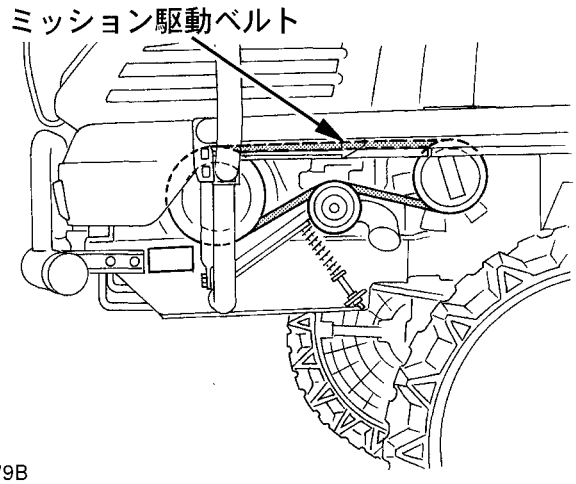
3. ベルトの伸び（たわみ量）



● ミッション駆動ベルト

前記の事項を確認したとき，異常があれば購入先へ連絡してベルト交換を行なってください。

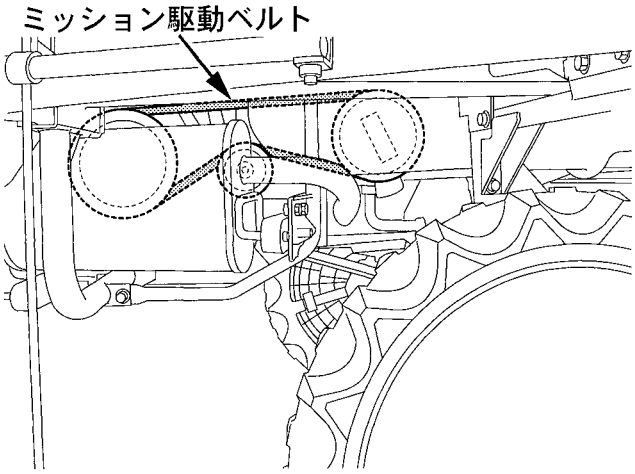
【6・8・10】



P-4779B

【6・8・10】

【SP仕様】



P-5369C

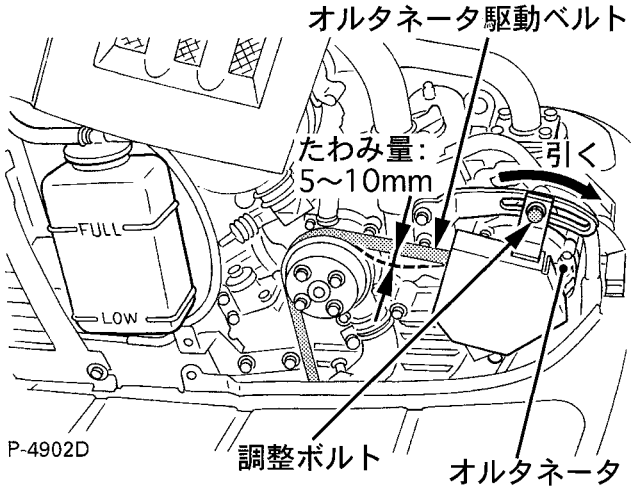
【SP仕様】

● オルタネータ駆動ベルト

指先でベルトの中央部を押したとき（約60～70N {6～7kg} の荷重）のたわみ量を5～10mmに調整します。

1. ボンネットをオープンします。
2. オルタネータの調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けます。

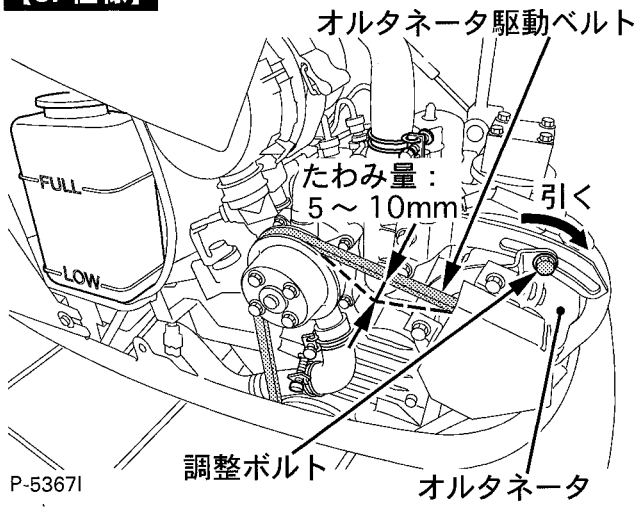
【6・8・10】



P-4902D

【6・8・10】

【SP仕様】



P-5367I

【SP仕様】

5. ボンネットを閉じます。

重 要

＊ベルトは必ずクボタ純正のものを使用してください。

■ミッションオイルフィルタ カートリッジの交換

◆交換

1. 植付部を下降します。
2. ミッションオイルを排出します。
(149ページ参照)
3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

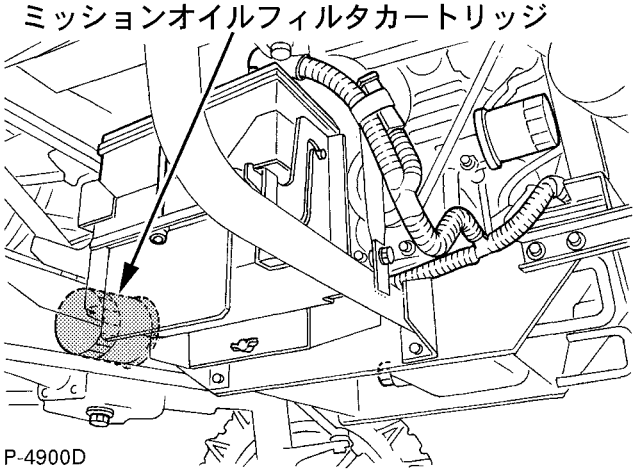
補　足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

4. 新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
5. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

補　足

＊オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけミッションオイルの油面が下がります。



P-4900D

重　要

＊ミッションオイルを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，ミッションの故障の原因となります。
＊給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

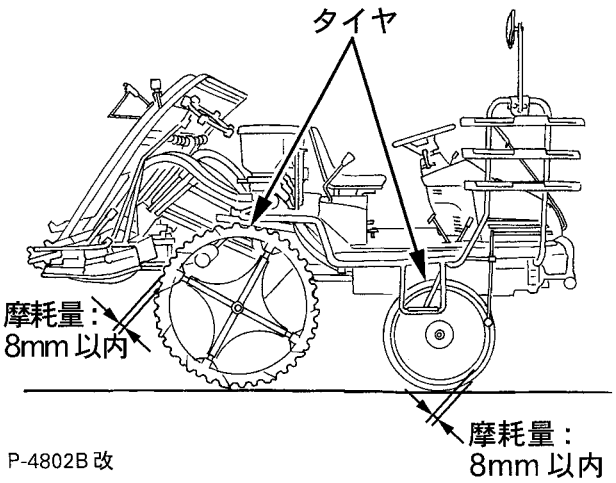
■タイヤの点検

注　意

＊タイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなるため，あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。

◆点検

前輪・後輪共にタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し，８mm以上摩耗している場合や，破損がひどい場合は，購入先に連絡して交換してください。



P-4802B 改

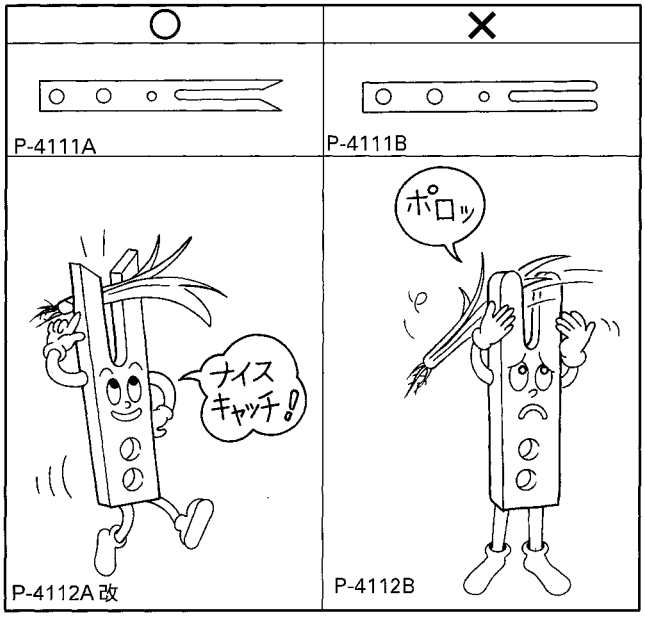
■植付爪・押出金具の点検・調整・交換

警　告

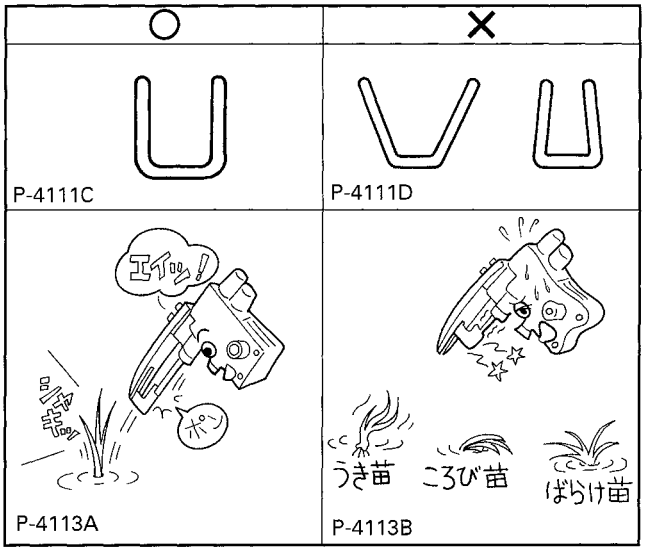
＊植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので，植付爪の交換・調整・清掃，苗取出し口の異物の除去，残り苗の取出しなどを行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

植付爪が摩耗や破損すると，苗の取出しができなくなるため，植付不良となり，押出金具が変形や破損をすると，うき苗・ころび苗・ばらけ苗などの植付不良となりますので，定期点検を良く行なってください。

● 植付爪

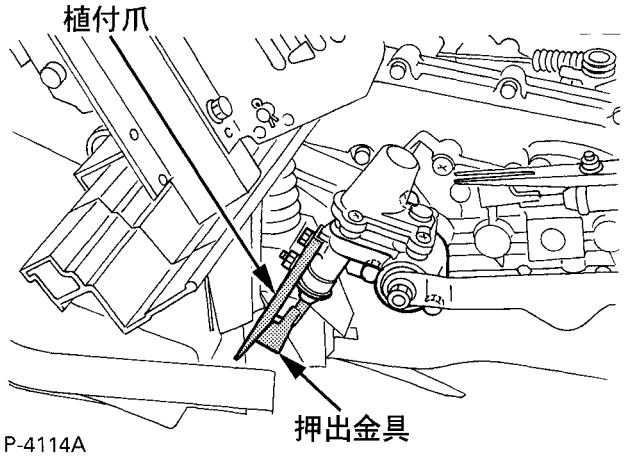


● 押出金具

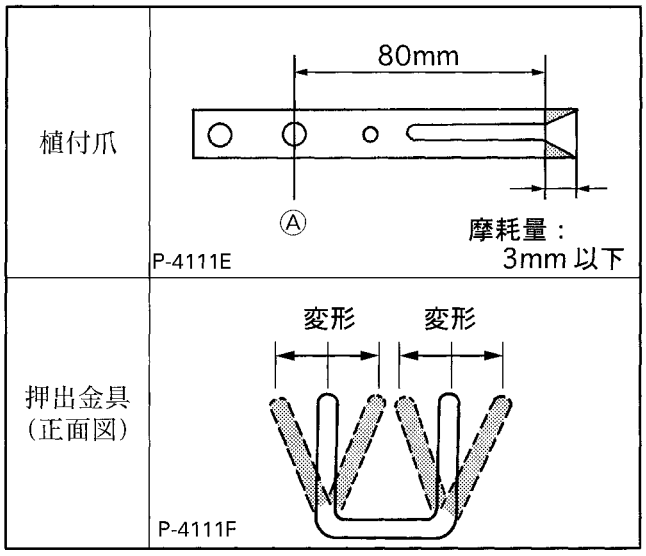


◆点検

1. 機体を平坦な場所に止めて，駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
2. 植付爪の摩耗状態や押出金具の変形状態を確認します。
3. 植付爪の摩耗状態が３mm以内のときは，苗取りゲージで高さ調整を行ない，３mm以上（A位置から残り80mm）摩耗しているときは交換してください。また，押出金具の変形量により，押出金具の押出し確認又は，購入先に連絡して交換してください。



P-4114A



◆植付爪の調整

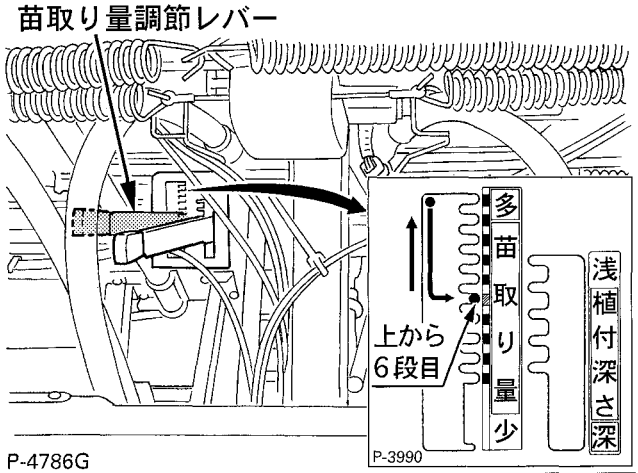
1. エンジンを始動したあと，十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇したあと，少し植付部を下げ，油圧ロックレバーを**“閉”**位置にし，植付部の下降防止を行ないます。
2. 十字ポンパレバーを**“下”**（**下降**）側に２回操作して，植付部の駆動の準備をしたあと，エンジンを停止します。

補　足

＊植付部が最上昇にあると植付クラッチが入らないため，植付爪を手で回すことができなくなります。

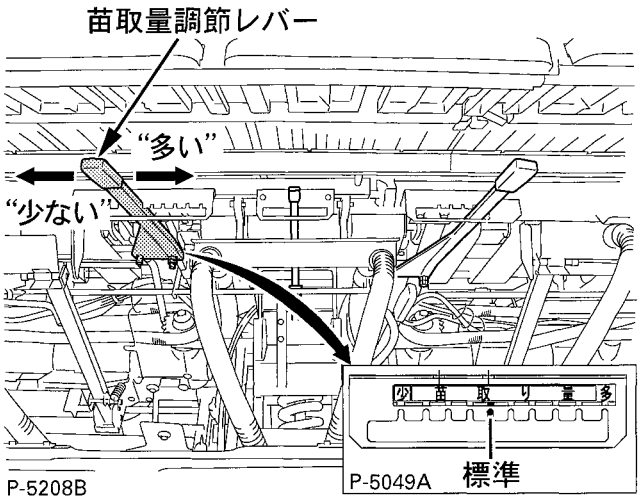
3. 苗取り量調節レバーをいったん一番上まで動かしたあと，**“多”**い方から６段目の切欠溝にセットします。

【6・8】



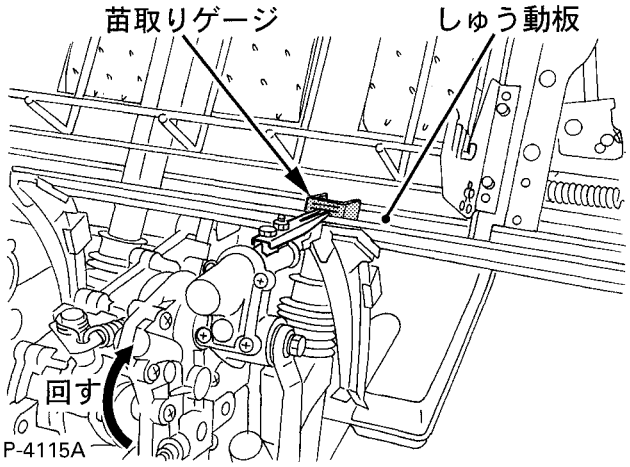
【6・8】

【10・10-8】

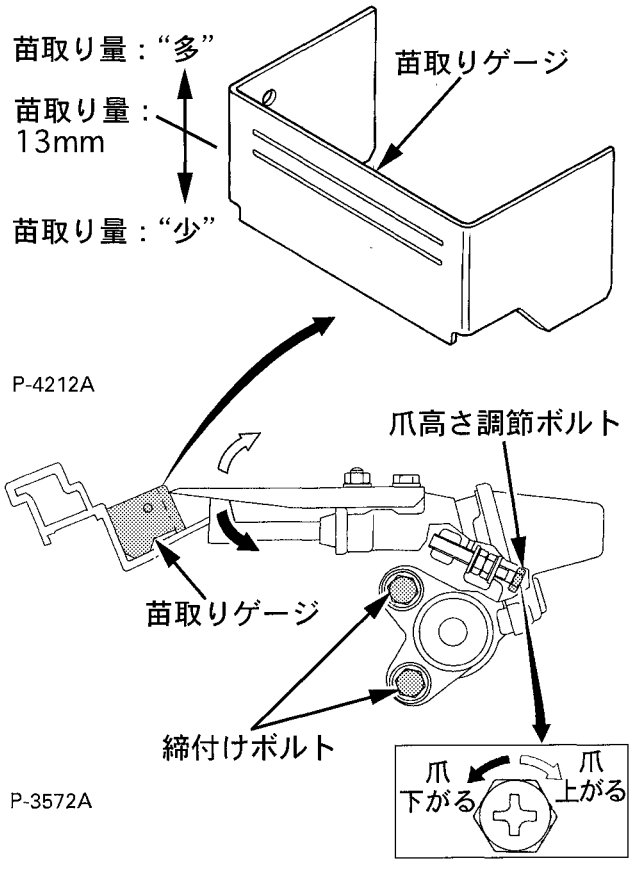


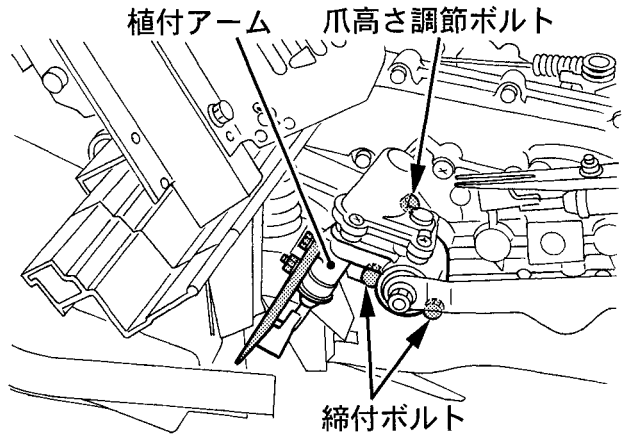
【10・10-8】

4. しゅう動板の切欠部に苗取りゲージを図のようにセットし，植付爪がゲージに当たるまで手で回します。



5. 植付アームの締付ボルト２本をゆるめます。
6. 植付爪を苗取りゲージに軽く接触させ，上下方向に爪を動かすとガタがあるため，爪を上に持上げた状態で爪高さ調節ボルトをドライバやスパナで右又は，左に回して爪の先端を苗取りゲージの**“苗取り量13”**（13mm）の線に合わせます。





P-4114B

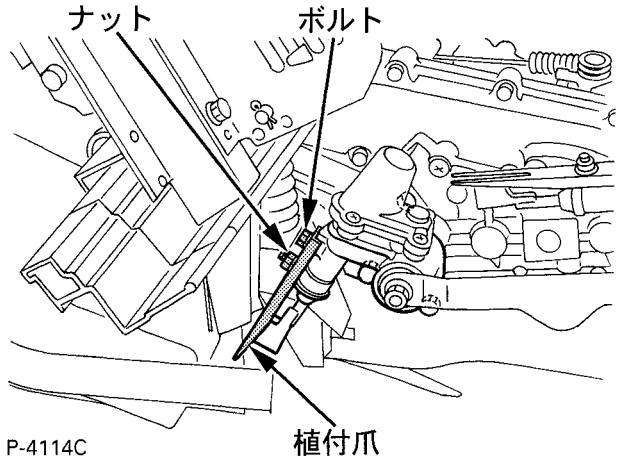
7. 植付けアームの締付ボルト２本を締付けたあと，爪高さ調節ボルトを軽く締付けます。
8. 植付爪を回転させたあと，もう１つの植付爪も同じ要領で調節します。

補　足

＊他の植付爪も同じ要領で行なってください。

◆植付爪の交換

1. **植付爪の調整**の1.と2.を行ないます。
2. 植付爪を取付けているボルトとナットを取外します。



P-4114C

3. 新しい爪と交換します。

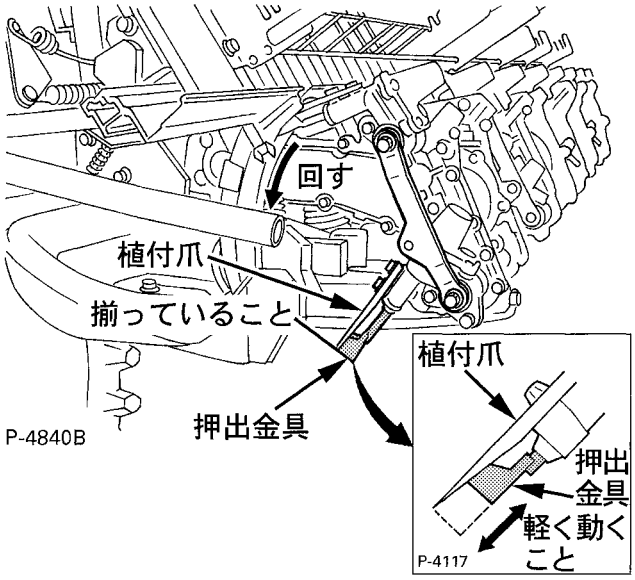
補　足

＊植付爪は，常に１台分の予備を準備しておいてください。（200ページ参照）

4. ボルトとナットを締付けます。
5. **植付爪の調整**の3.～8.を行なって爪の高さ調節を行ないます。

◆押出金具の動作確認

1. **植付爪の調整**の1.と2.を行ないます。
2. 植付爪を手で回して，最下端のときに押出金具と植付爪のそれぞれの先端が揃っていることを確認します。



P-4840B
P-4117

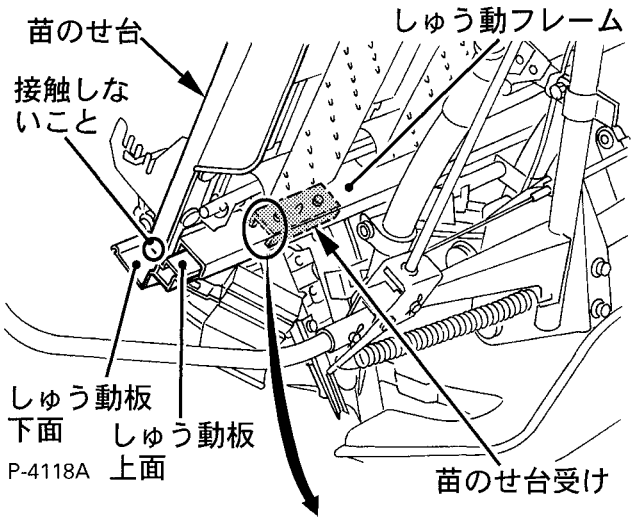
3. 押出金具の変形や破損で動かないときは，購入先に連絡して交換してください。

■苗のせ台のしゅう動板と受けの点検

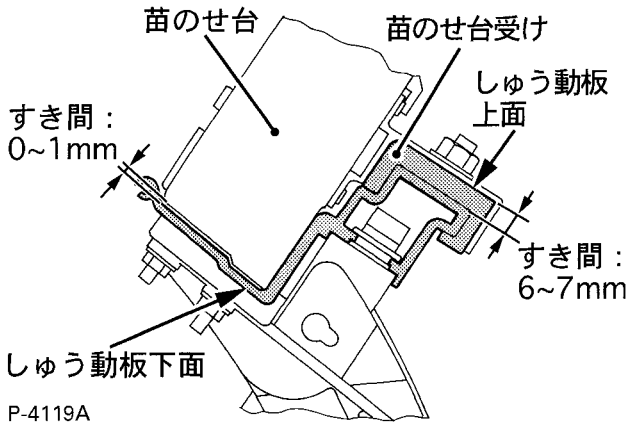
苗のせ台のしゅう動状態が悪くなると，正常な植付作業が行なえないおそれがありますので点検してください。

◆点検

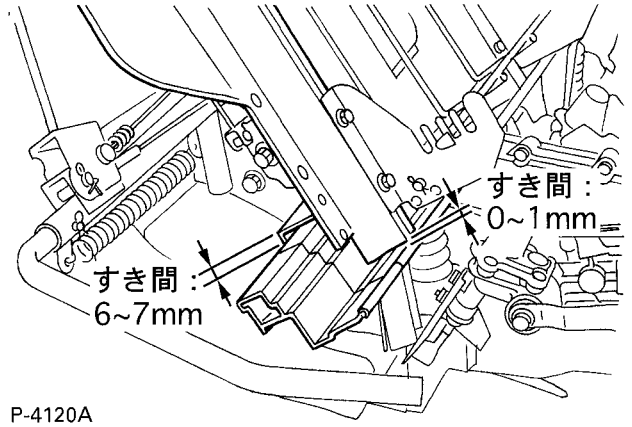
しゅう動板上面と苗のせ台ウケの入っているしゅう動フレーム終端のすき間を測り，6mm以下のときは苗のせ台としゅう動板下面が接触しますので購入先に連絡してください。



P-4118A



P-4119A



P-4120A

■施肥ブラシの点検・掃除・交換【F仕様】

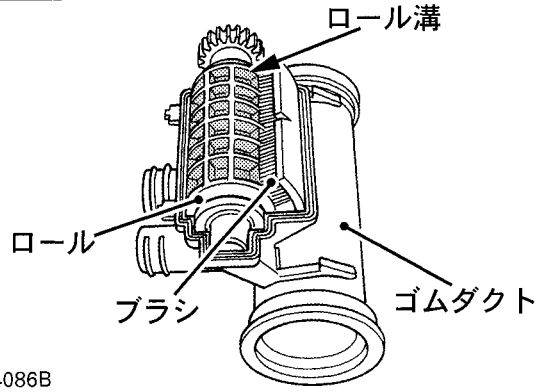
施肥ブラシが摩耗や変形をすると，肥料の繰出し量にバラツキが発生しますので，掃除を行なうと同時に，ブラシの点検を行なってください。

【6・8・10】

◆点検・掃除

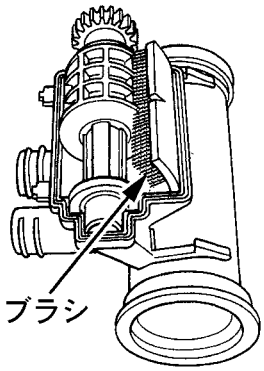
ロールケースを取外したあと，施肥ブラシとロールを取外して掃除してください。また，施肥ブラシの摩耗や変形がひどい場合は，付属部品に入っている新しい施肥ブラシと交換してください。

【2条】

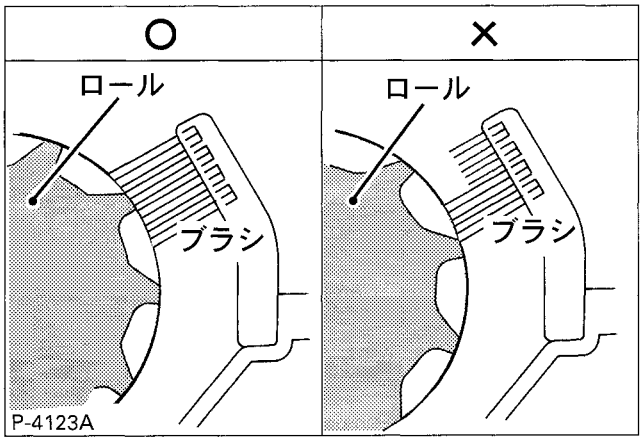


P-4086B

【1条】



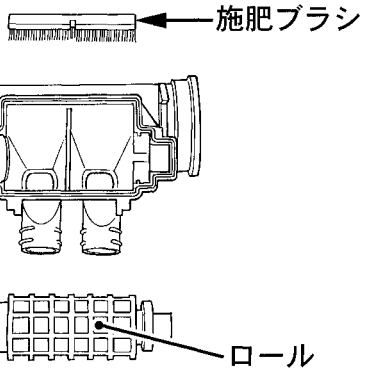
P-4135A



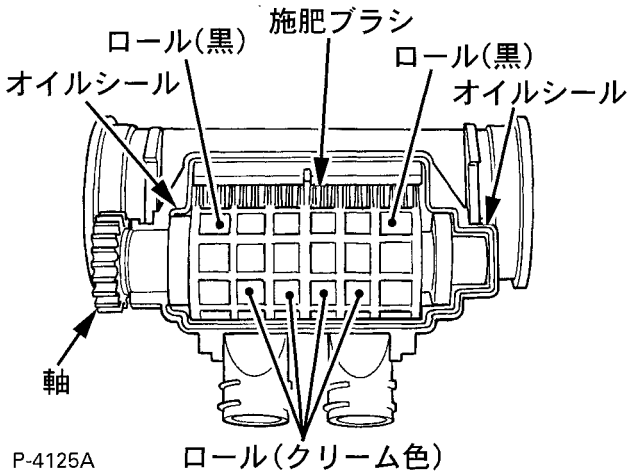
P-4123A

補　足

＊施肥ブラシやロールの取付方向に注意してください。

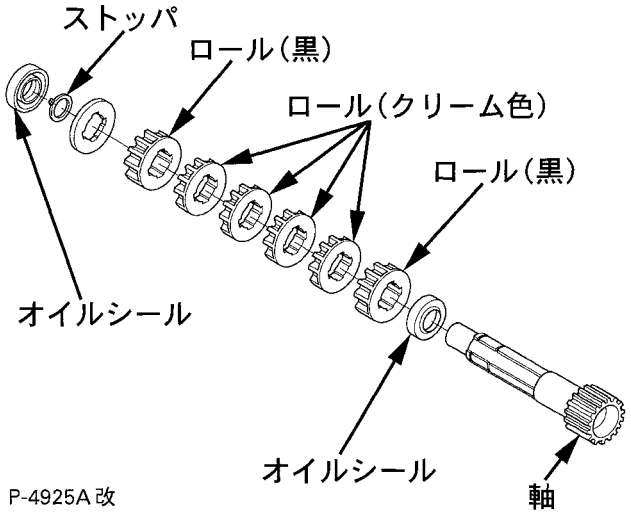


P-4124A



P-4125A

＊ロートを分解掃除するときは，オイルシールを抜取ったあと，ストッパリングを取外してください。また，組付けるときは，逆の手順でロールの取付け方向に注意して組付けてください。



P-4925A 改

【6・8・10】

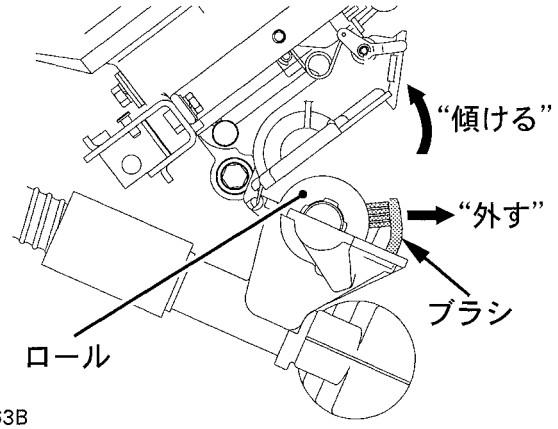
【SP仕様】

◆点検・掃除

施肥ブラシとロールを取外して掃除してください。また，施肥ブラシの摩耗や変形がひどい場合は，付属部品に入っている新しい施肥ブラシと交換してください。

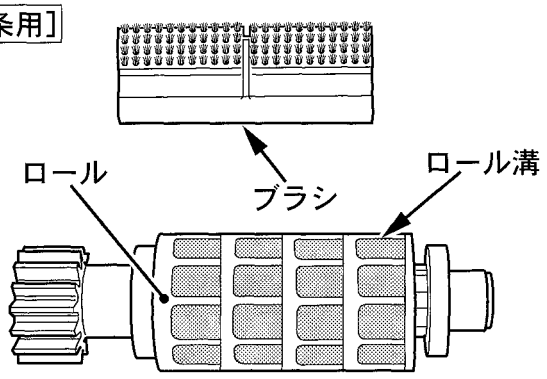
重　要

＊付属のブラシは風通しが良く，湿気が少なく，日があたらない場所で保管してください。（ブラシが変形するおそれがあります。）



P-5363B

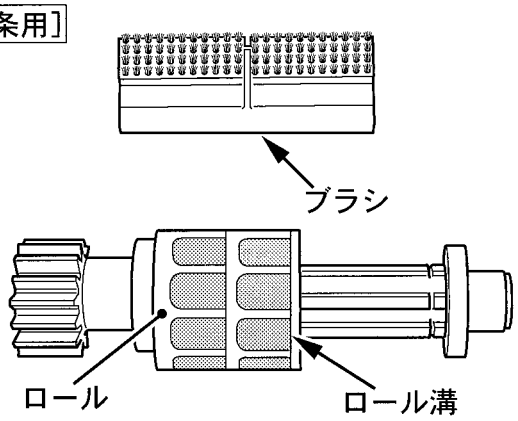
[２条用]



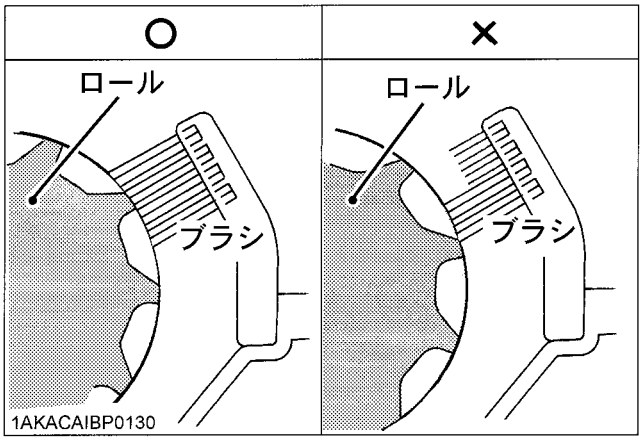
1AKACAIAP371A

定期点検

［1条用］



1AKACAIAP373A

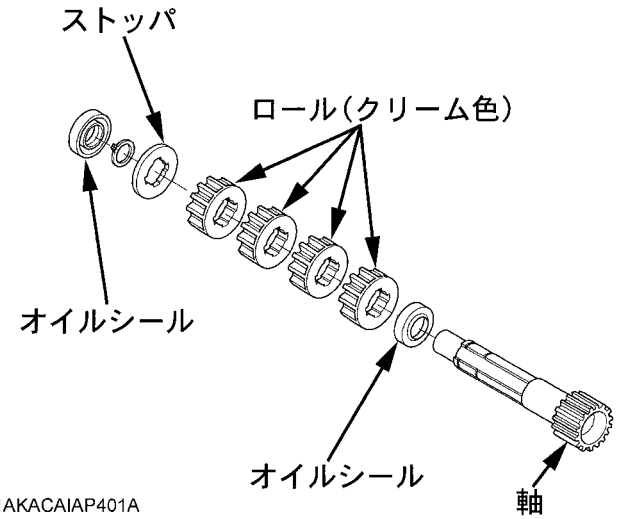


1AKACAIBP0130

補　足

＊施肥ブラシやロールの取付方向に注意してください。

＊ロートを分解掃除するときは，オイルシールを抜取ったあと，ストッパリングを取外してください。また，組付けるときは，逆の手順でロールの取付け方向に注意して組付けてください。

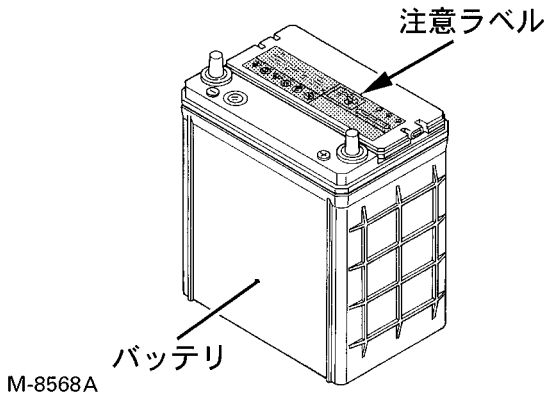


1AKACAIAP401A

【SP仕様】

■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



M-8568A

危　険

＊バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

＊バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。

＊充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。

＊この12Vバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。

＊急速充電は厳禁です。

＊開封は厳禁です。（密封タイプ）

警　告

＊バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

＊出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆点検

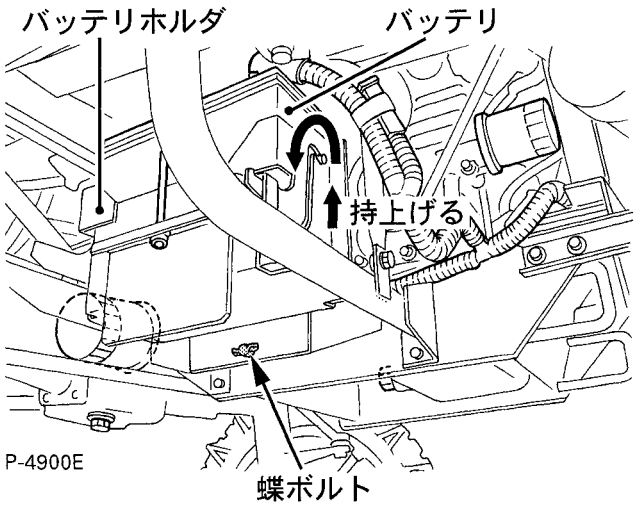
危 険

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……

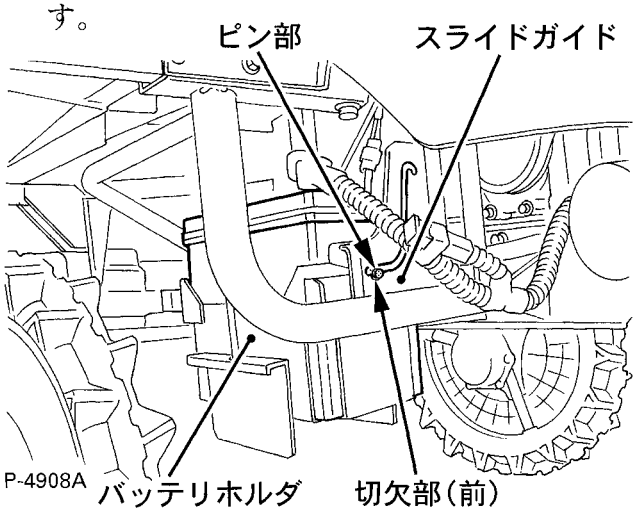
＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

＊バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

1. 蝶ボルトを取外したあと，バッテリホルダを持上げて下側にスライド下降します。



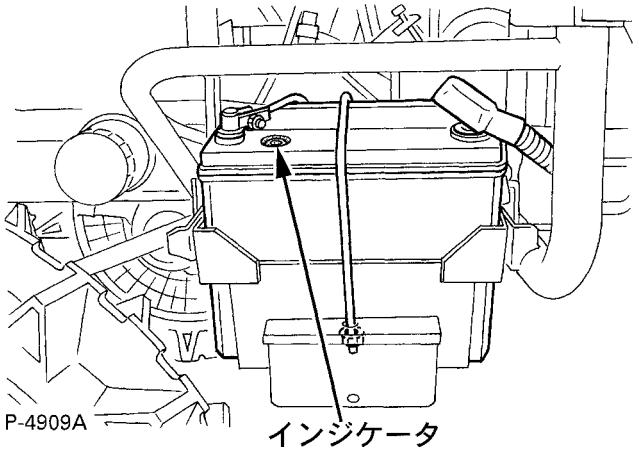
2. バッテリホルダのピン部をスライドガイドの前・後にある切欠部にはめ込んだ状態にします。



3. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

(1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補 足

＊インジケータは真上から確認してください。

(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

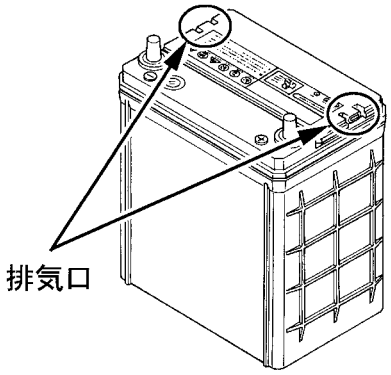
重 要

＊液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

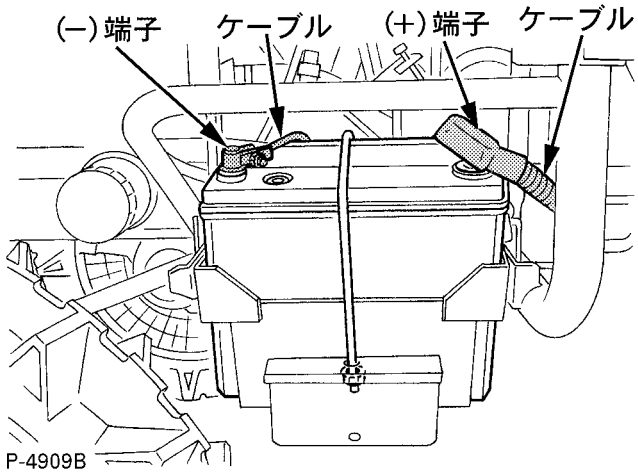
重 要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



M-8568C

(4) バッテリケーブルの破損や(＋)端子，(－)端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



P-4909B

◆補充電・交換

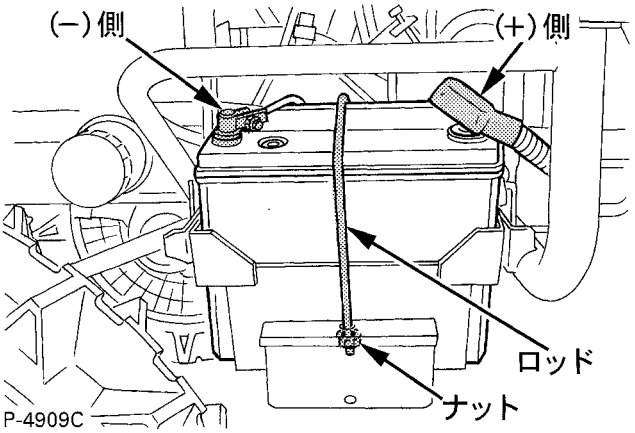
警 告

＊バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…(－)端子側(アース側)から外す。
・取付け…(－)端子側(アース側)を最後に接続する。
＊バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊バッテリの取付け方向を間違えないでください。(＋)と(－)が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。
- バッテリ電解液の減りが早い。

1. バッテリを機体から取外します。
(1) 蝶ボルトを取外し，バッテリをスライド下降します。
(2) ケーブル端子のボルトとナットを取外し，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず**(−)端子**側から取外します。
(3) ロッドを固定しているナット２個を取外し，バッテリ固定用のロッドを外します。
(4) バッテリを取外します。



重　要

＊バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平坦で風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの(+)を充電器の(+)側に，バッテリの(−)を充電器の(−)側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**50B24L-MF**
＊バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

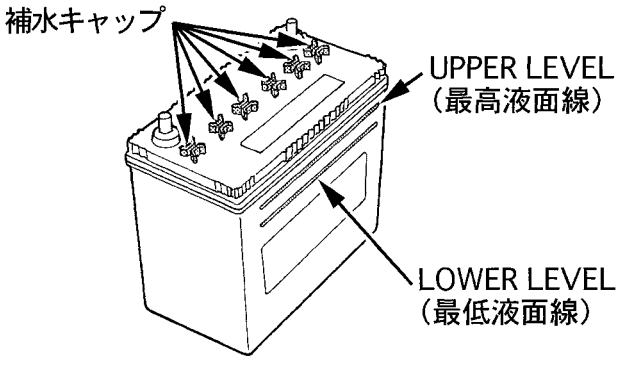
◆点検・補水

注　意

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**“UPPER LEVEL”**（最高液面線）と**“LOWER LEVEL”**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



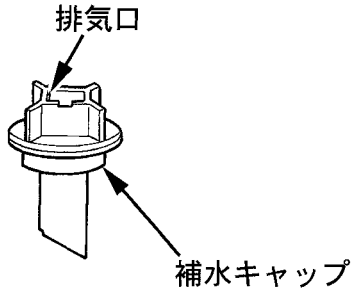
重　要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



M-8166B

◆補充電・交換

注　意

＊補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの(＋)を充電器の(＋)側に，バッテリの(－)を充電器の(－)側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換

注　意

＊配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先へ連絡して交換してください。

◆各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

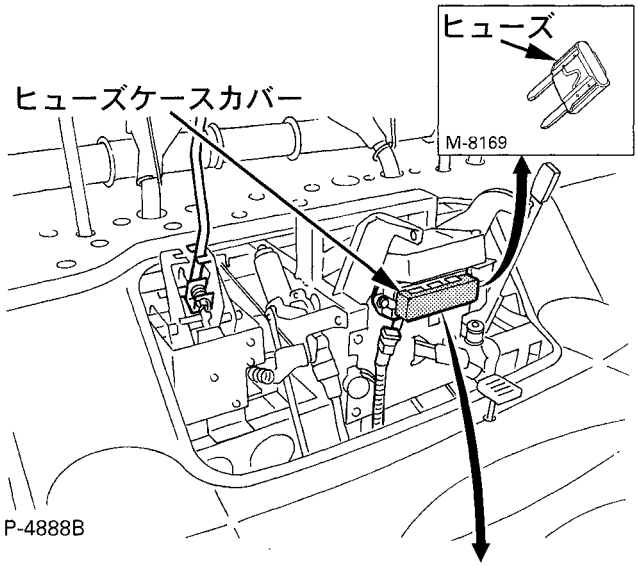
重　要

＊新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

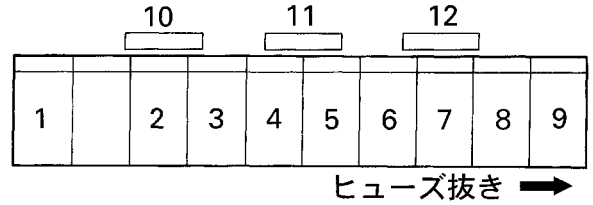
補　足

＊ヒューズを交換するときは，ヒューズケースのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。

1. エンジンを止めた状態で植付部を降します。
2. 運転席下部のカバーを取外します。
3. ヒューズケースのカバーを取外します。
4. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。



P-4888B



P-4129A

図番	回　路	容量(A)
1	停止ソレノイド 燃料ポンプ ラジエータ	30
2	モンローモータ	30
3	マイコンユニット（バッテリ直引）	3
4	オルタネーター	3
5	施肥ユニット	10
6	ヘッドライト ウインカー パネル	10
7	マイコンユニット（キー経由）	10
8	傾斜センサ ポンパレバー	3
9	マーカモータ 植付クラッチモータ	20
10	予備	3
11	予備	10
12	予備	30

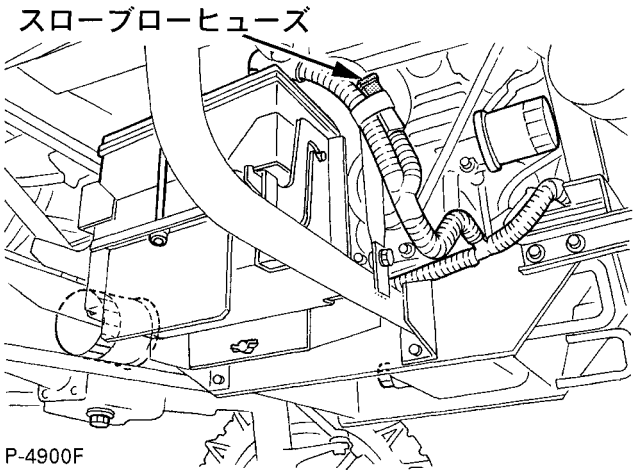
補　足

＊ヒューズケースカバー表面のラベルで容量（A）を確認してください。

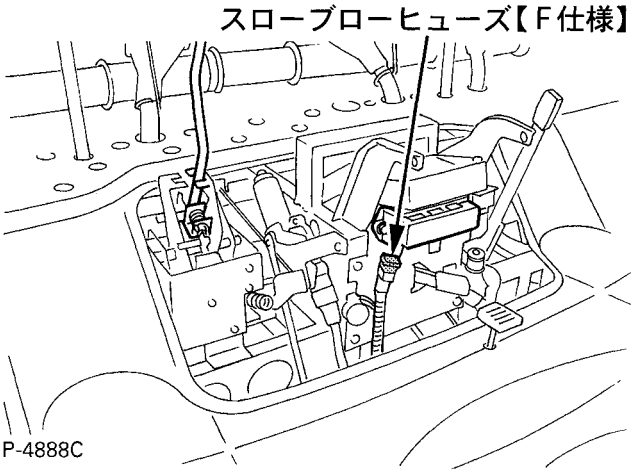
＊ヒューズを交換するときは，ヒューズケース右下に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。

●スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズ（50A）は，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは付属部品の中にある予備のヒューズと交換してください。また，スローブローヒューズ（30A）**【F仕様】**は，ブロアが動かなくなったときに点検し，切れているときは購入先に連絡して交換してください。



P-4900F



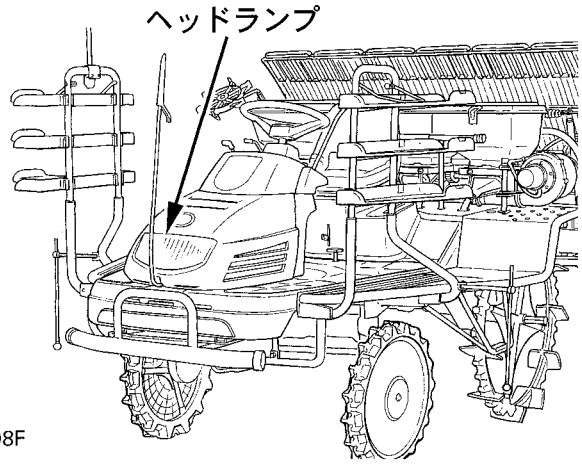
P-4888C

■ ランプ（電球）の点検・交換

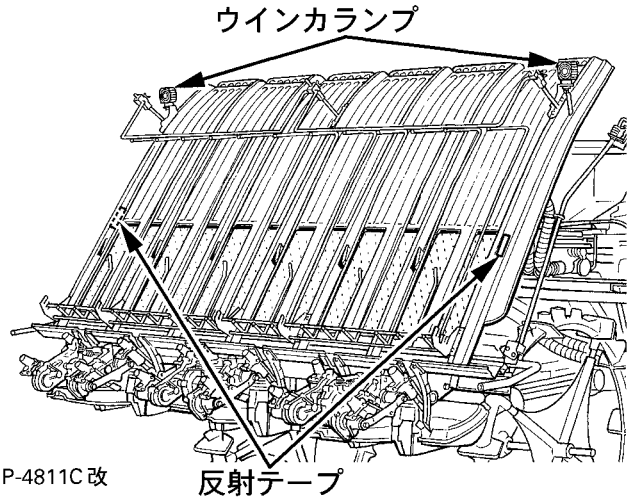
■ 反射テープの点検・交換

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，反射テープに汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。

【6・8】



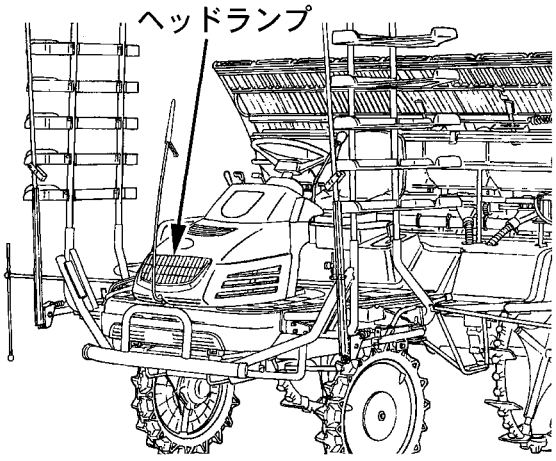
P-4808F



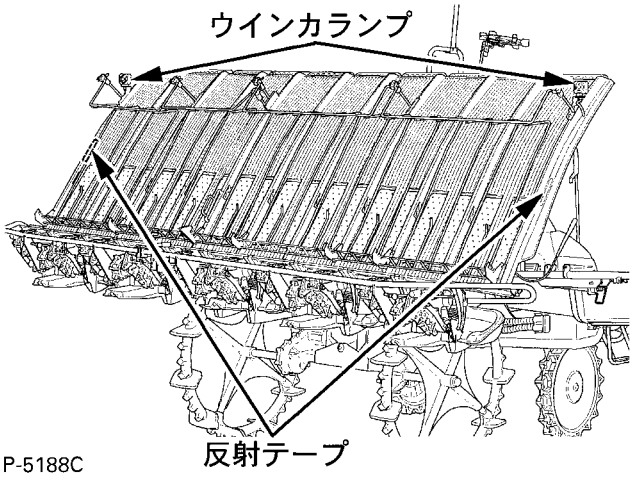
P-4811C改

【6・8】

【10・10-8】

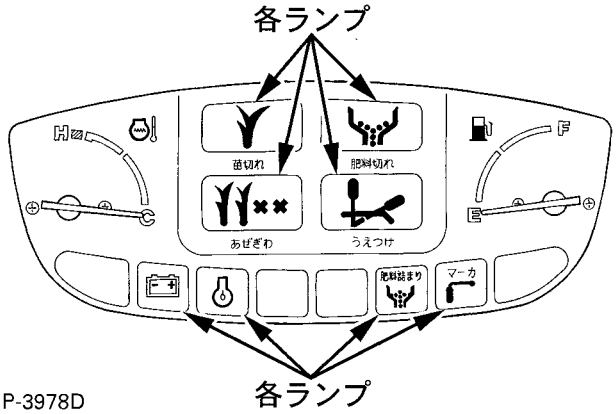


P-5186E



P-5188C

【10・10-8】



P-3978D

植付作業後の手入れ

植付作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の田植作業に備えてください。

■毎日の作業後

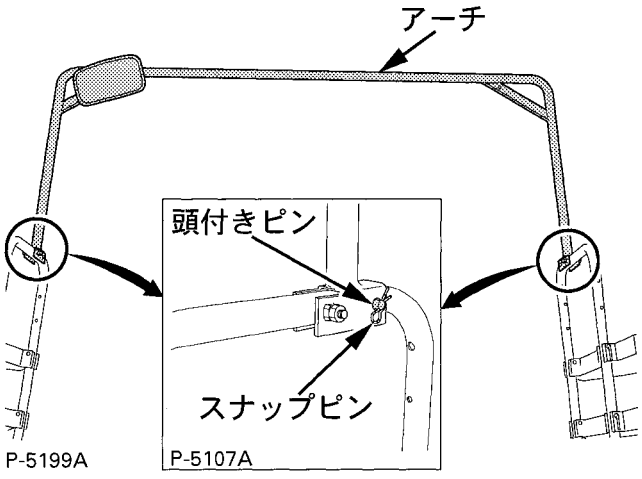
注　意

＊機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。
＊掃除する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。
＊燃料抜取り時は火気厳禁。

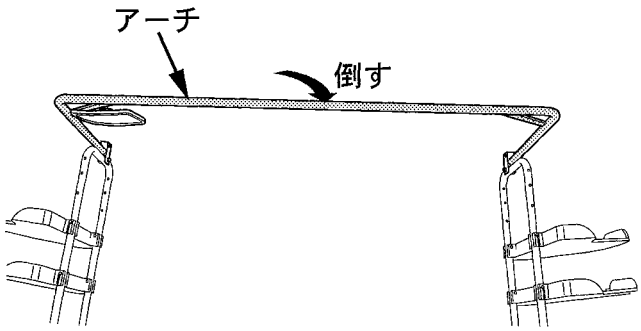
1. 平坦な場所に田植機を停めます。
2. 機体各部の泥などを取除いたあと，必要に応じて各部に注油を行ないます。
（133，137ページ参照）
3. 格納場所に格納します。

補　足

＊狭い場所に収納するときは，予備苗のせ台を収納し（29ページ参照），しゅう動板ガードやしゅう動板を収納（【8】は70ページ参照）してください。
＊【10】のアーチを折りたたむ場合は，左，右の頭付きピンとスナップピンを取外し，後方に倒してください。取外した頭付きピンとスナップピンは失くさないように保管してください。

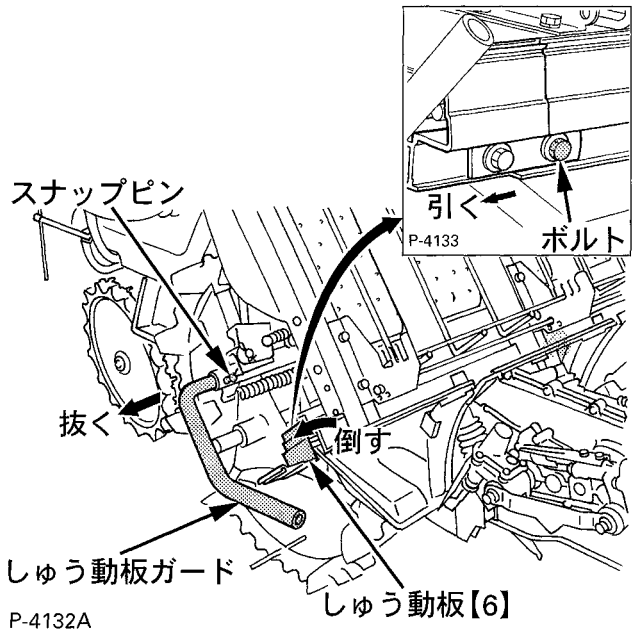


P-5199A　P-5107A



P-5200A

- **しゅう動板ガード（左，右）**
  スナップピンを外してしゅう動板ガードを取外します。
- **しゅう動板【6】（左，右）**
  ボルトをゆるめて外側に引いたあと，下側に倒します。



P-4133　P-4132A

4. 植付部を降ろします。
5. メインスイッチのキースイッチを抜取ります。
6. 駐車ブレーキを掛け，本機カバーを掛けます。

植付作業後の手入れ

■ 長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平坦な場所に停めて下記事項を行なってください。

- 水洗い後，ゴミ・水滴をじゅうぶんふき取り，油をしみこませた布で清掃してください。
- 各グリース塗布個所にはグリース，注油個所には注油を行なってください。
- 塗布したグリースや油が縦送りベルトに付着したら，必ずふき取ってください。
- 植付け爪の先端など，錆やすい所にはグリースを塗ってください。
- 各部のゆるみを調べ，増締めを行なってください。

重　要

＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

◆ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。（151ページ参照）

重　要

＊冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比35％〔C仕様：50％〕），よく水と混ぜ合せてからお使いください。
（ラジエータ容量…1.5L〔エンジン含む：2.5L〕）

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。

◆バッテリ

危　険

＊保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを“切”にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は1ヵ月，冬は2ヵ月に1回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。

(1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
(2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
(3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，(－)側のケーブルを必ず取外してください。

◆各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは植付部を地面に設置させて，下記事項を行なってください。

【SP仕様除く】

- アクセルレバーを前方いっぱいまで押して（“🐢”位置）止めておいてください。

【SP仕様除く】

- メインスイッチのキースイッチは，必ず抜取って保管してください。
- 駐車ブレーキを掛け，本機カバーを掛けてください。

乗用田植機の不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！　　ページ

欠株が出る　175

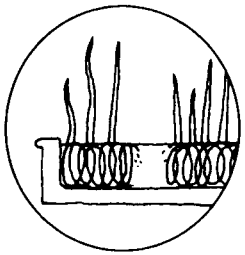
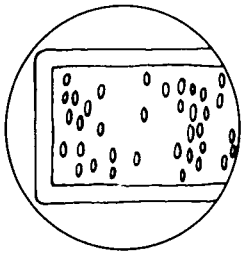
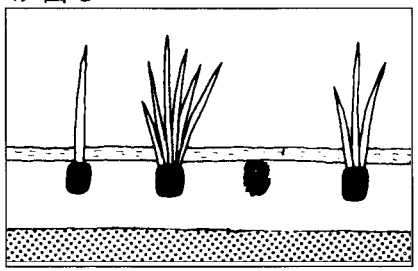
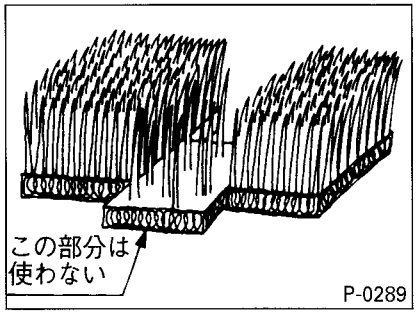
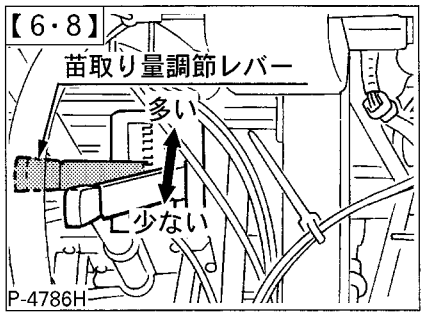
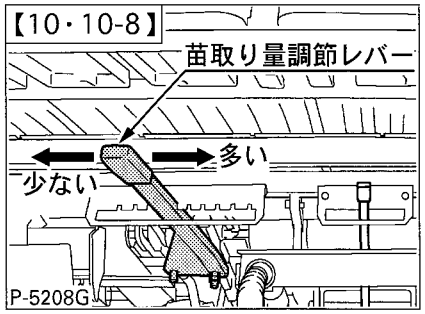
浮苗が出る・植付けが乱れる　179

浮苗が出る・植付けが悪い　183

植付けが乱れる・欠株が出る　184

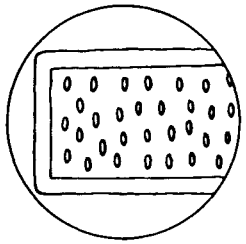
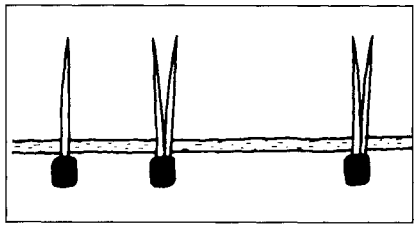
施肥をしない・施肥量がばらつく【F仕様】　185

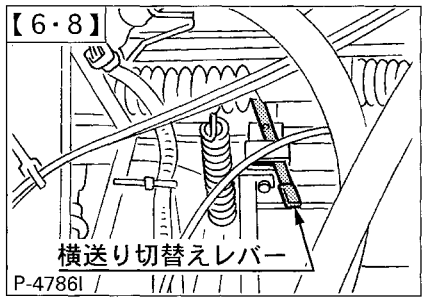
その他の不具合　189

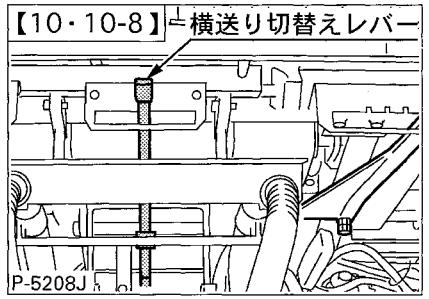
このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗  注 意 このような苗は使用しない。 苗の播種ムラがひどい苗 	●植付け本数がバラついたり欠株が出る 	苗の処置 ①生育の悪い部分やハゲたところを切取って植付ける。 ②悪い苗は，使用しない(補植に使用する)。 機械の処置 苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。(横送り量を多くする。) (104，105，106ページ参照)	  

P-0302　　P-0321　P-0324改

欠株が出る

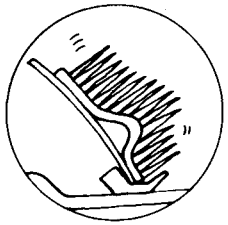
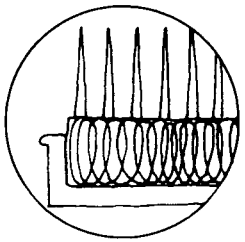
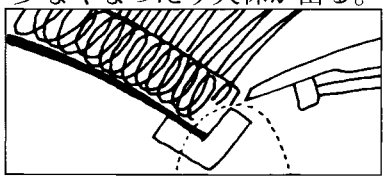
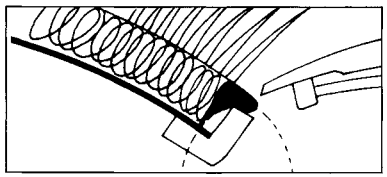
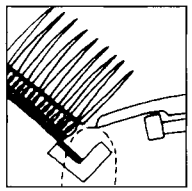
このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
播種量が少ない苗 	●植付け本数が少なくなり欠株が出る。 	**苗の処置** 中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。 **機械の処置** 苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。(横送り量を多くする。) (104，105，106ページ参照)

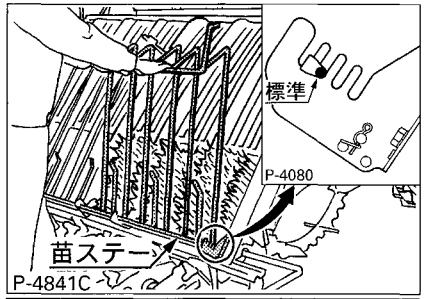


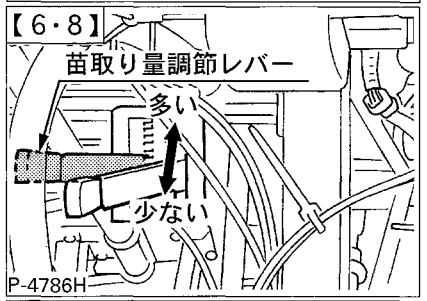


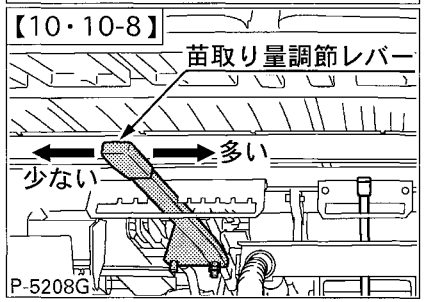
P-0302　　P-0321　P-0324改

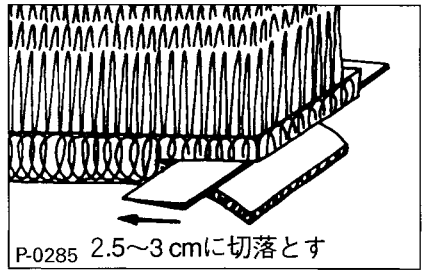
欠株が出る

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
苗床がうすく又根張りが悪い苗 苗床が軟らかすぎる苗	苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。 	**機械の処置** 苗ステーと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち，くずれを防止する。(110ページ参照) **苗の処置** ①苗床厚が2㎝以上の苗を使用する。 ②苗床を乾かして硬めにする。
苗床が厚い苗  **注 意** 苗床厚(マット厚)が4㎝以上の場合，植付け爪が苗を取ることができない(植付け困難)。	①苗がうまく取れないため，苗取量が少なくなったり欠株が出る。  ②爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。  ③苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株が出る。 	**機械の処置** ①苗取り量を多少多くして苗を取るようにする。(104, 105, 106ページ参照) ②苗ステーを調節して苗床とのすき間をあける。(110ページ参照) **苗の処置** ①苗床厚(マット厚)が2.5～3㎝になるよう切落す。切落せない場合はその苗は使用しない。 ②植付け前にかん水してすべりを良くする。



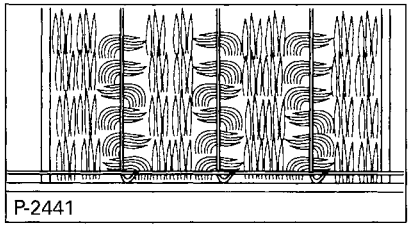
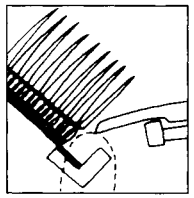
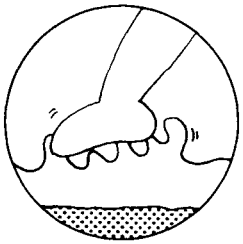
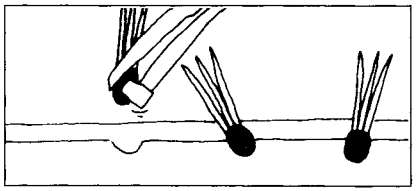


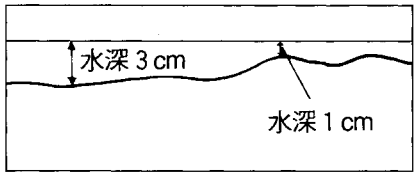


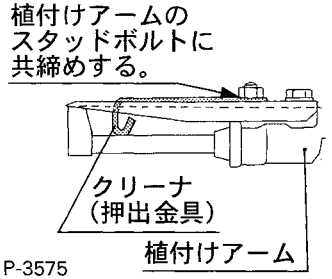


P-0302 P-0316 P-0467 P-0317

欠株が出る

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
苗の入り方が悪い。  P-2441	苗が苗ステーに引っかかって落ちない。 	苗の処置 引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。
床土が粘土質で粘りが強い苗。 粘土質のほ場でしかも水が少ない。 	植付け時，苗が植付爪より離れず欠株が発生する。 	苗の処置 苗床を乾き気味にする。又は水につけじゅうぶん水分をもたせる。 ほ場の処置 ほ場に水を１～３㎝程張り苗が爪より離れやすくする。 機械の処置 クリーナ(押出金具)を取付ける。

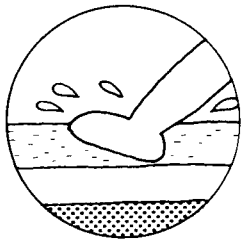
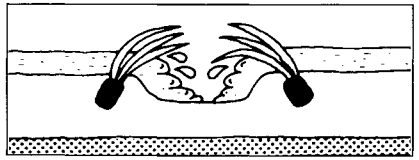
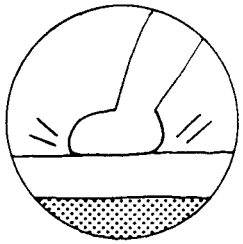
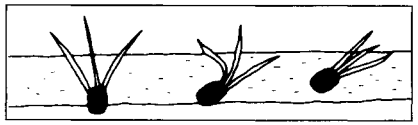
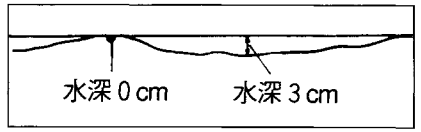
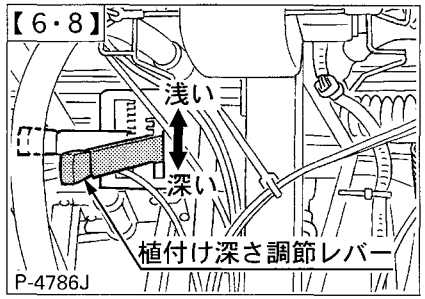
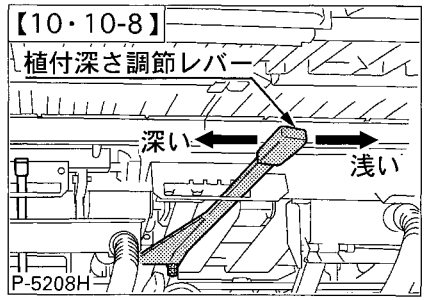
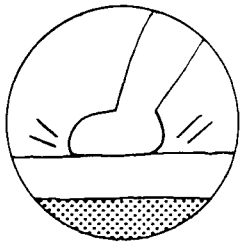
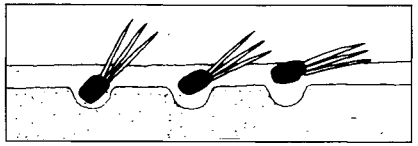
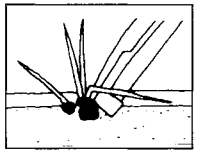
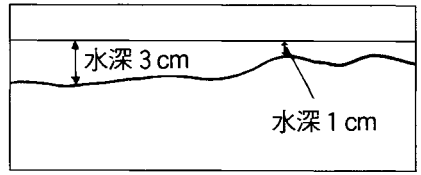




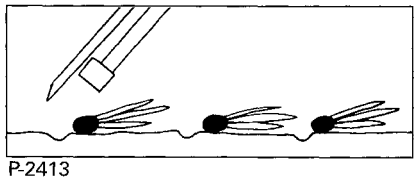
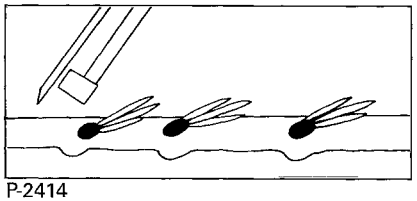
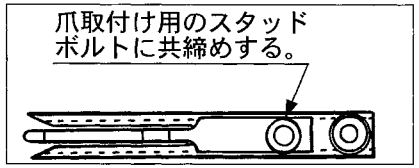
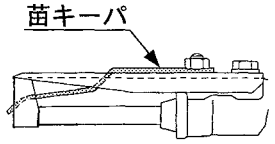
P-3575

P-0302 P-0314 P-0283

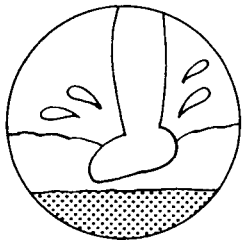
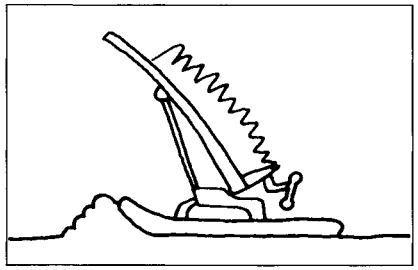
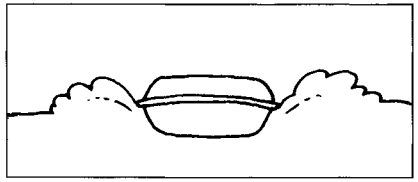
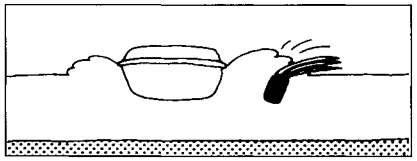
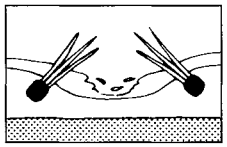
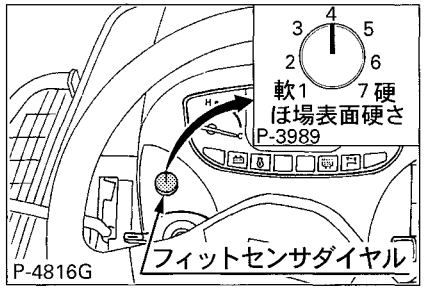
浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
水深が３cm以上あるほ場。  ⚠ 注 意 水深が３cm以上のほ場では，植付けが乱れやすい。	①フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗又は，隣接苗が倒れる。   ②植付姿勢が悪い又浮苗が発生する。 	ほ場の処置 水を落す。水深０～３cmにする。 機械の処置 ①植付け速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。 ②植付け深さを許せる範囲で深めにする。	  
ほ場が硬い。 	①爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。  ②苗を押込むとき，苗が傷んだりバラける。 	ほ場の処置 ①再度代かきして植えやすい硬さにする。 ②水を１～３cm入れ軟らかくして植える。 機械の処置 ● 植付け速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。	

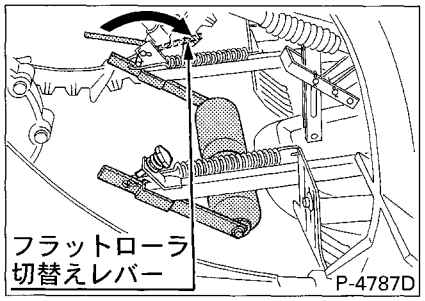
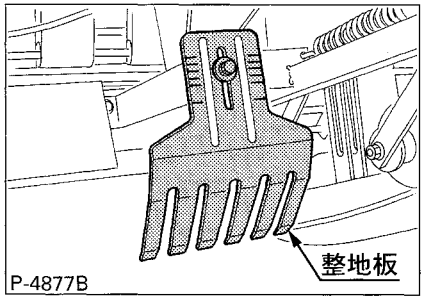
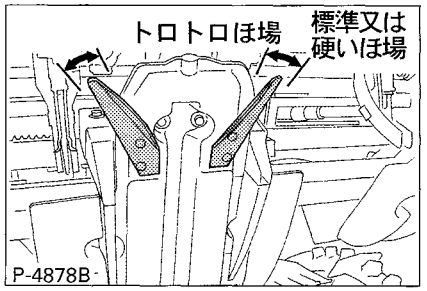
P-0302　P-0310　P-0283　P-0282

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
根張りが悪く，床土が砂質の苗で，しかも苗が爪から離れやすく，水につかると床土が溶ける苗。	①苗がころぶ。  P-2413 ②水がある場合，浮苗が出る。  P-2414	ほ場の処置 水が多い場合は水を落とす。 苗の処置 ①根張りのよい床土がブロックになる苗にする。 ②床土は水に溶けにくい土質のものにする。 ③植付け前に苗床に少し水気をもたせる。 機械の処置 別売品（オプション）の苗キーパを爪に付ける。	  P-3576

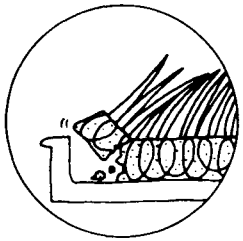
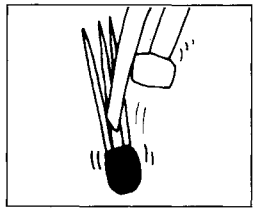
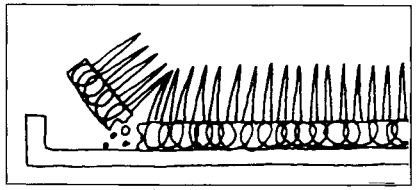
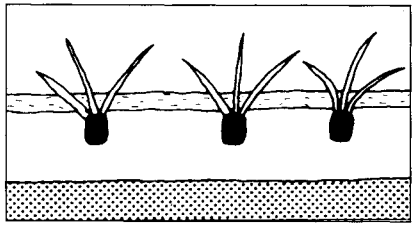
浮苗が出る・植付けが乱れる

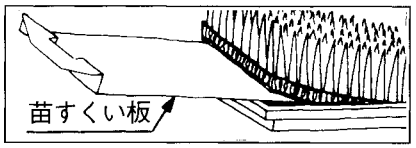
このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
表面がトロトロで軟らかいほ場。 	①フロートが沈み，泥を押す。   ②泥を押して，隣接苗を倒す。  ③フロート通過跡の溝が大きくなり，そこに土が流れ込むとき，植えた苗が内側に倒れる。 	ほ場の処置 ●水を落として表面を硬くする又は表面を落着かせる。(植付けを延期する)。 機械の処置 ①フィットセンサダイヤルを軟らかい方へ移動させ泥を押さないようにする。 ②植付け速度を遅くする。	

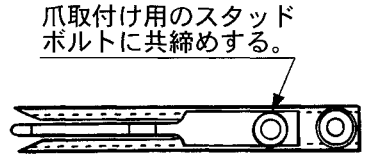
P-0302　　P-0308

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
		③フラットローラの切替えレバーを**“軟”**(軟い)位置にしてローラを浮かし，左，右の整地板の高さを**6**の位置にしてください。	
			
	④ふく土板で泥を押す。**【F仕様】**	④各フロート下面の各ふく土板の取付角度（位置）を狭くする。（**【F仕様】**）	
	⑤車輪がスリップして調節した施肥量と異なる。**【F仕様】**	⑤施肥量を再調節してください。	

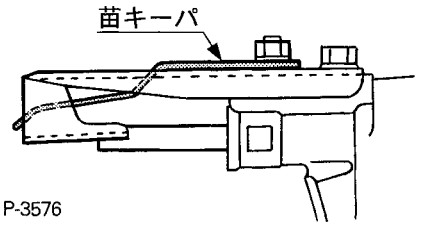
浮苗が出る・植付けが悪い

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
根張りの悪い苗 床土に粘りがなくくずれやすい苗 	①苗が植付ける前に植付爪から落ち浮苗となる。  ②苗を取出すとき苗がくずれる。  ③植付けた苗がバラける。 	苗の処置 ①苗床に少し水気をもたせる。 ②苗すくい板を使用して苗がくずれないようにする。 機械の処置 ● 植付け速度を遅くする。 ● 別売品（オプション）の苗キーパを使用する。 ● 苗押さえ棒を②(内側)の穴に差換える。

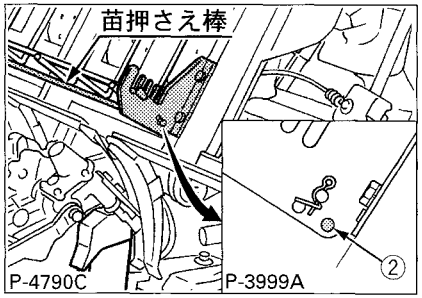




P-2415



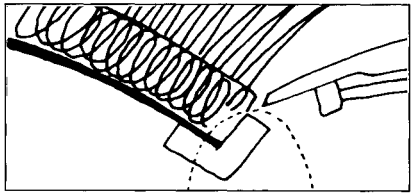
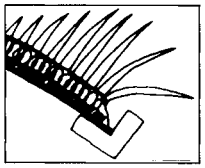
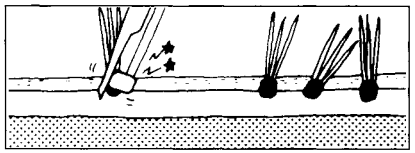
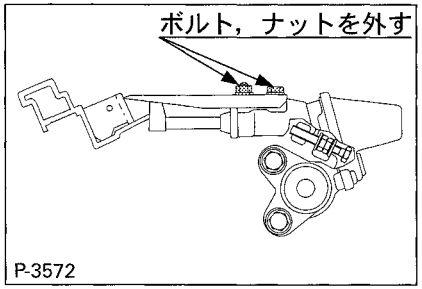
P-3576



P-4790C P-3999A

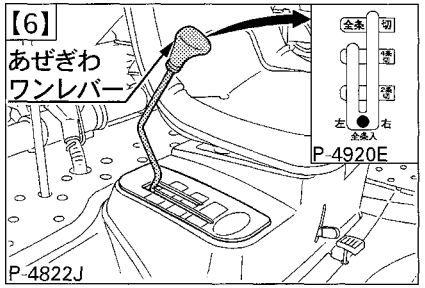
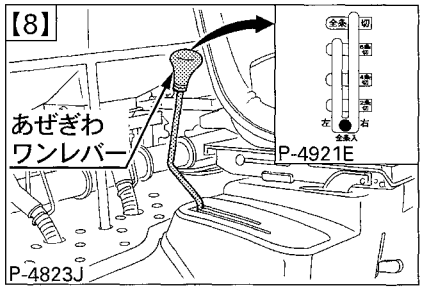
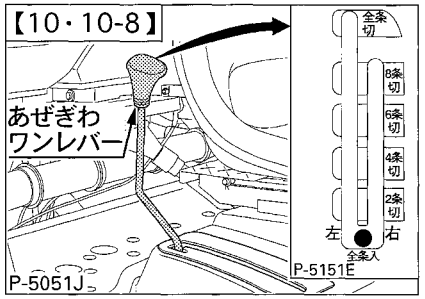
P-0302 P-0313 P-0284

植付けが乱れる・欠株が出る

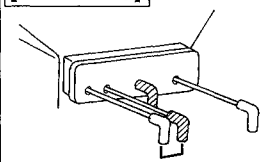
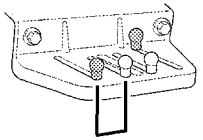
このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
植付爪の異常 ●爪の摩耗 ●爪の変形 ●押出金具の変形 ●押出金具がじゅうぶん押出さない。	①苗を取らずに欠株となる。  ②苗取り後残りの苗がバラケル。  ③押出金具が押しきらず植付けが乱れる。 	機械の処置 ①植付爪と押出金具の点検。 ●爪の曲がりを直す。 ●押出金具の曲がりを直す。 ②爪，押出金具などの部品を新品と交換する。	

P-0316 P-317 P-0306

施肥をしない・施肥量がばらつく【F仕様】

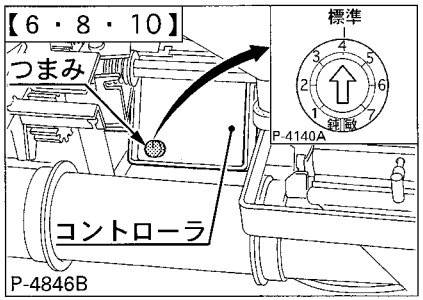
このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
施肥に適さない肥料	①施肥量にバラツキがある。 ②ホッパ内の肥料の減り方にバラツキがある。 ③施肥をしない。 ④残量センサが誤作動する。	肥料の処置 ①条件に合った肥料を選ぶ。 (93ページ参照) ②固まった（湿った）肥料は使わない。	
機械の設定		機械の処置 ①あぜぎわワンレバーを**“全条入”**位置にする。	  

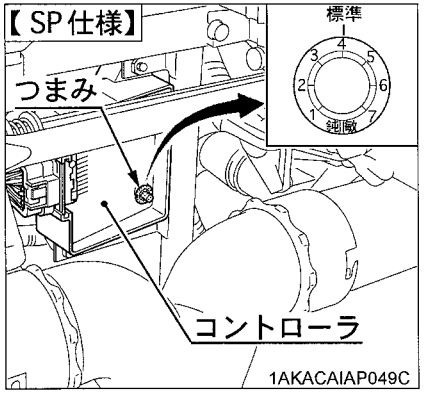
施肥をしない・施肥量がばらつく【F仕様】

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
機械の設定		②１条分の調量ツマミを２本共引いているとき（繰出し停止状態）は，他の施肥量と同じ位置に調節する。（114，117ページ参照）	停止 (0kg / 10a) 【6・8・10】  １条分停止 P-4513C 【SP仕様】  １条分停止 1AKACAIAP052B

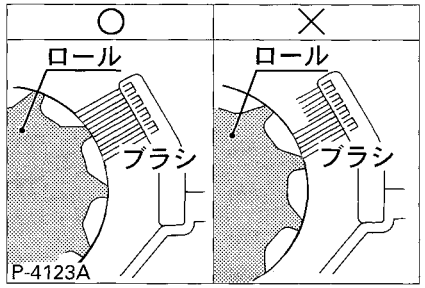
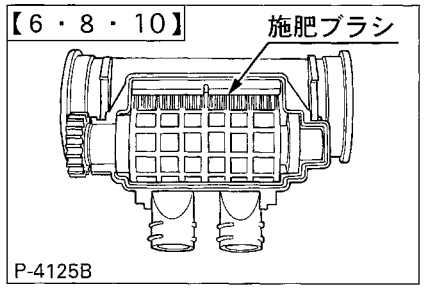
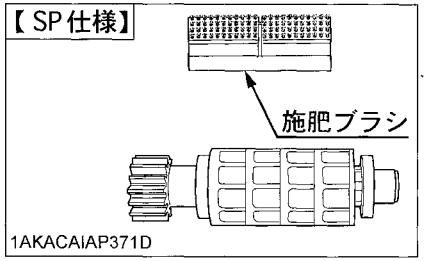
施肥をしない・施肥量がばらつく【F仕様】

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
各部の詰まり		機械の処置 ①ホッパ内に肥料の固まりがあれば取除く。 ②ホッパ内，ロールケース内，ロール溝，各ホース，作溝器内に付着した肥料は取除く。 (133ページ参照) **補　足** ＊深水ほ場で，苗補給や肥料補給などで一時停止したときに，詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して，詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを**“鈍”**側（**鈍感**）の方向に調整して作業を続けてください。 ＊乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき，作溝器内を点検してください。 ＊ほ場の水位が高いほど予知センサがはたらきやすくなりますので注意してください。



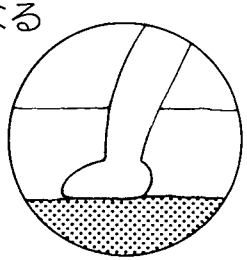


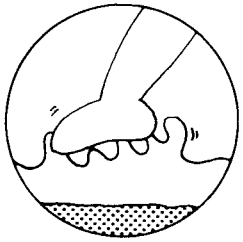
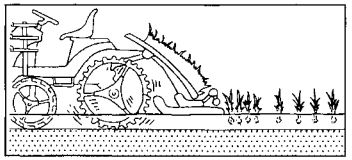
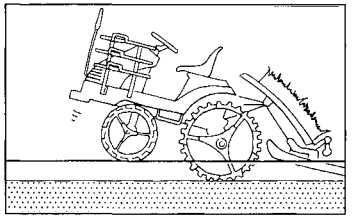
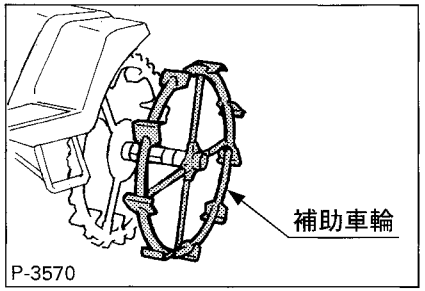
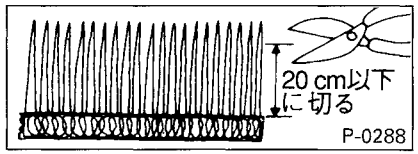
施肥をしない・施肥量がばらつく【F仕様】

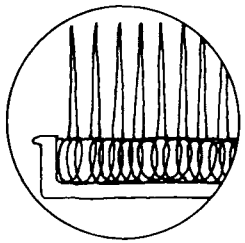
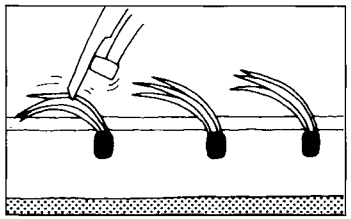
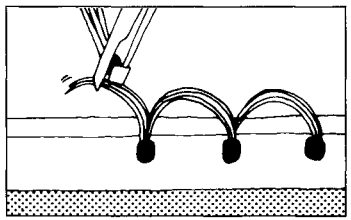
このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
施肥ブラシの摩耗・損傷	●施肥量が多くなる。 ●ホッパの肥料の減りが早くなる。	処置 ①施肥ブラシを交換する。 (163ページ参照)	  
ブロワが回転していない。 ※植付部最上昇位置では，ブロワは回転しません。	●ロート，ホース内で肥料が詰まる。	機械の処置 ①スローブローヒューズ切れのときは，交換する。(170ページ参照) ②カプラが入っているか確認する。	

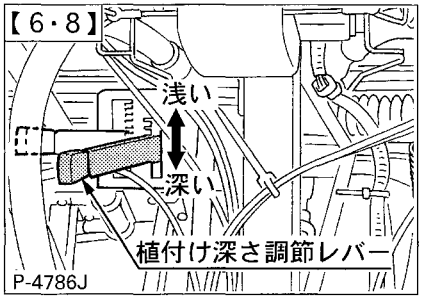
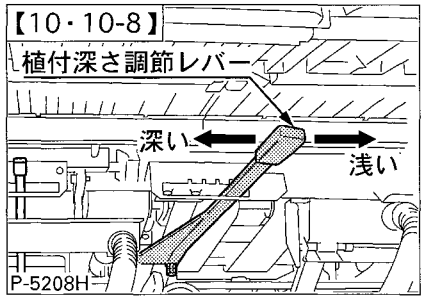
その他の不具合

<table>
<tr><th>このような状態で(原因)</th><th>このようになる</th><th>どうする(処置方法)</th><th></th></tr>
<tr>
<td>株間が狭くなる

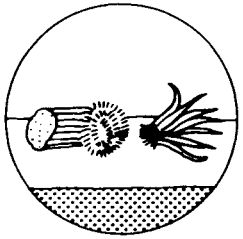
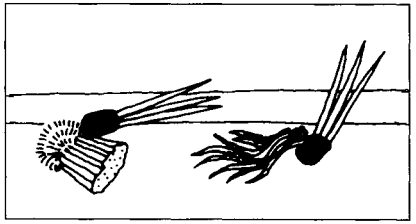
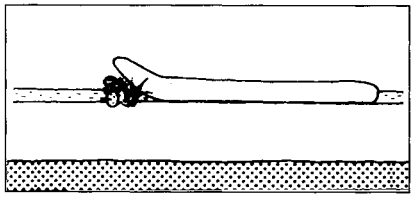
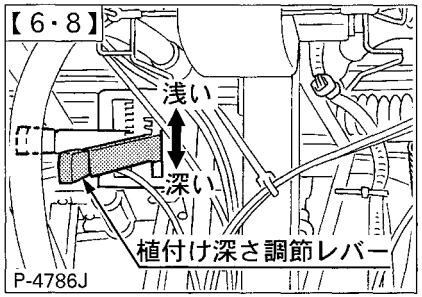
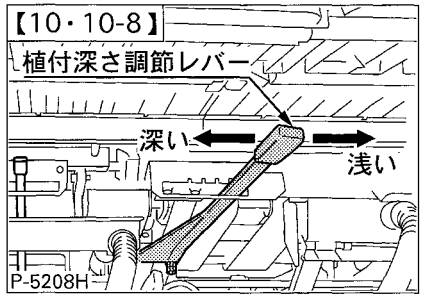
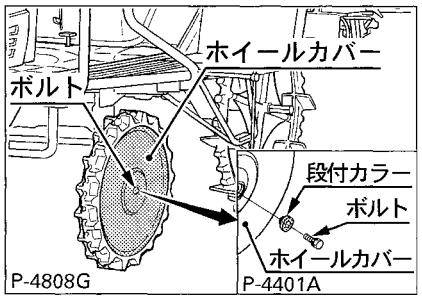
深いほ場
 

強粘土質のほ場
  </td>
<td>①走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。
 
 
②機体前部が浮上りスリップする。</td>
<td>機械の処置
①補助車輪を取付けてスリップを少なくする。
②株間を一段広くして坪当り株数を確保する。</td>
<td> 
  </td>
</tr>
<tr>
<td>苗の草丈が長すぎる

草丈が20cm以上ある苗の植付け。
  </td>
<td>①植付けた苗が爪に押されて傾く。
 
②植付けた苗がアーチ状になる。
  </td>
<td>苗の処置
葉先を20cm以下に切りそろえる。

機械の処置
①植付け深さを深めにする。
②植付け速度を遅くする。
③苗おさえ棒の位置を一番上に上げる。</td>
<td> 
  </td>
</tr>
</table>

P-2448 P-2449 P-0304 P-0319

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
夾雑物の多いほ場 代かき後も刈株，ワラ，雑草などが多量に露出しているほ場。 	①夾雑物の上では，苗が植わらなかったり，植付け姿勢が悪くなったりする。  ②夾雑物がフロート，整地板や作溝器(**【F仕様】**)で押されてたまる。 	ほ場の処置 ①代かき時，夾雑物をすき込む。 ②耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。 機械の処置 ①植付け深さをやや深くする。 ②植付け速度を遅くする。 ③整地板をあげ夾雑物の掘起しを少なくする。	【6・8】  【10・10-8】 
強粘土質のほ場	前輪ホイールカバーに泥が付着し，隣接苗に泥を落とす。	機械の処理 ●前輪ホイールカバーを取外す。 ※組付けるときは段付カラーを反対に向けて，ボルトに封着剤を付けて，締付けてください。	

付　表

主要諸元

名称			ウエルスター・ビップ		
型式			SPD6〈F〉	SPD8〈F〉	
区分			標準	標準	Y32
駆動方式			4輪駆動		
機体寸法	全長(mm)		3175	3175	3354
	全幅(mm)		2820[折畳み時：2220] [C仕様：3030(折畳み時：2400)]		2820[折畳み時：2320] [C仕様：3030(折畳み時：2400)]
	全高(mm)		1635	1870	2514
	最低地上高(mm)		460		
機体質量(kg)			615〈645〉	703〈743〉 [C仕様：748〈788〉]	803〈843〉 [C仕様：848〈888〉]
エンジン	型式名		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼルエンジン		
	種類		D722-P-2	D782-P	
	総排気量(L{cc})		0.719{719}	0.778{778}	
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		13.2{18}/3000	14.7{20}/3000	
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	タンク容量(L)		20		
	始動方式		セルスタータ式		
	バッテリ(V·Ah)		12·36[50B24L]		
走行部	かじ取り方式		アッカーマン方式		
	車輪 種類	前輪	ノーパンクタイヤ	標準：ノーパンクタイヤ　T2仕様：細幅ノーパンクタイヤ	
		後輪	ゴムラグ車輪		
	車輪 外径×幅(mm)	前輪 標準	650×78	650×95[C仕様：650×120]	
		前輪 T2仕様	—	650×78	
	車輪 外径×リム幅(mm)	後輪	950×50		
	車輪 輪距(mm)	前輪	1080		
		後輪	1240		
	変速方式		油圧式トランスミッション[HST]		
	変速段数(段)		前·後進無段変速		
植付部	植付方式		ロータリ式強制植付け		
	植付条数(条)		6	8	
	植付条間(cm)		30	30[C仕様：33]	
	植付株間(cm)		※12, 14, 16, 18, 21, 24	※12, 14, 16, 18, 21, 24[C仕様：11, 12, 14, 16, 18, 21]	
	植付株数(株/3.3m²)		※90, 80, 70, 60, 50, 45		
	植付深さ(cm)		2～5.3[5段階]		
	1株本数調節 横送り量(mm/回数)		11/26, 14/20, 18/16[3段]		
	1株本数調節 縦かき取り量(mm)		8～18		
苗の条件	苗の種類		マット苗		
	草丈(cm)		8～25		
	葉令(葉)		2.0～4.5		
施肥装置	肥料の種類		一般市販の粒状化成肥料の中から適するものを選ぶ		
	施肥方式		側条作溝施肥・強制埋設		
	施肥位置(cm)		苗の側方：4.5, 深さ：5		
	肥料ホッパ容量(L{kg})		66{約60}	88{約80}	
	繰出方式		溝付ロール式		
	繰出量調節方式		ロール切替え式＋ロール回転数調節式		
	繰出量調節範囲(kg/10a)		10～80		
	ふく土方式		フロートとふく土板		
予備苗とう載数(箱)			6	8	32
警報装置			充電警報[ランプ], 油圧警報[ランプ], 後進時[ブザー], 燃料計, 水温計, マーカ出忘れ警報[ランプ・ブザー], 植付クラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー], 苗切れ警報[ランプ・ブザー], あぜぎわクラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー], 肥料切れ警報[ランプ・ブザー]**【F仕様】**, 肥料詰まり[ランプ・ブザー]**【F仕様】**		
作業速度(m/s)			0～1.57[※0～1.42]		
作業能率[計算値]	(a/h{分/10a})		※ ～60{10～} 〈～50{12～}〉	※ ～73{8～} 〈～61{10～}〉	

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊〈F〉：施肥機付仕様

※車輪スリップ率10%

主要諸元

名称				ウエルスター・ビップ	
型式				SPD6-SP〈F〉	SPD8-SP〈F〉
区分				標準	標準
駆動方式				4輪駆動	
機体寸法	全長(mm)			3195	
	全幅(mm)			2360	2820[折畳み時：2220]
	全高(mm)			1786	1860
	最低地上高(mm)			460	
機体質量(kg)				615〈645〉	703〈743〉
エンジン	型式名			水冷4サイクル3気筒立形ディーゼルエンジン	
	種類			D722-P-2	D782-P
	総排気量(L{cc})			0.719{719}	0.778{778}
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)			13.2{18}/3000	14.7{20}/3000
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	タンク容量(L)			20	
	始動方式			セルスタータ式	
	バッテリ(V·Ah)			12·36[50B24L]	
走行部	かじ取り方式			アッカーマン方式	
	車輪 種類		前輪	ノーパンクタイヤ	標準：ノーパンクタイヤ　T2仕様：細幅ノーパンクタイヤ
			後輪	ゴムラグ車輪	
	車輪 外径×幅(mm)	前輪	標準	650×78	650×95
			T2仕様	——	650×78
	車輪 外径×リム幅(mm)	後輪		950×50	
	車輪 輪距(mm)		前輪	1080	
			後輪	1240	
	変速方式			油圧式トランスミッション[HST]	
	変速段数(段)			主変速：前進無段·後進無段[副変速：2段]	
植付部	植付方式			ロータリ式強制植付け	
	植付条数(条)			6	8
	植付条間(cm)			30	
	植付株間(cm)			※12, 14, 16, 18, 21	
	植付株数(株/3.3m²)			※90, 80, 70, 60, 50	
	植付深さ(cm)			2～5.3[5段階]	
	1株本数調節 横送り量(mm/回数)			11/26, 14/20, 18/16[3段]	
	1株本数調節 縦かき取り量(mm)			8～18	
苗の条件	苗の種類			マット苗	
	草丈(cm)			8～25	
	葉令(葉)			2.0～4.5	
施肥装置	肥料の種類			一般市販の粒状化成肥料の中から適するものを選ぶ	
	施肥方式			側条作溝施肥・強制埋設	
	施肥位置(cm)			苗の側方：4.5, 深さ：5	
	肥料ホッパ容量(L{kg})			66{60}	88{80}
	繰出方式			溝付ロール式	
	繰出量調節方式			ロール切替え式＋ロール回転数調節式	
	繰出量調節範囲(kg/10a)			10～80	
	ふく土方式			フロートとふく土板	
予備苗とう載数(箱)				6	8
警報装置				充電警報[ランプ], 油圧警報[ランプ], 後進時[ブザー], 燃料計, 水温計, マーカ出忘れ警報[ランプ・ブザー], 植付クラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー], 苗切れ警報[ランプ・ブザー], あぜぎわクラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー], 肥料切れ警報[ランプ・ブザー]【F仕様】, 肥料詰まり[ランプ・ブザー]【F仕様】	
作業速度(m/s)				0～1.57[※0～1.42]	
作業能率[計算値]	(a/h{分/10a})			※ ～60{10～}〈～50{12～}〉	※ ～73{8～}〈～61{10～}〉

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊〈F〉：施肥機付仕様

※車輪スリップ率10%

主要諸元

名称				ウエルスター・ビップ	
型式				SPD10〈F〉	SPD10-8
区分				標準	標準
駆動方式				4輪駆動	
機体寸法	全長(mm)			3440	
	全幅(mm)			3405[折畳み時：2000]	
	全高(mm)			2610	
	最低地上高(mm)			460	
機体質量(kg)				851〈911〉	831
エンジン	型式名			水冷4サイクル3気筒立形ディーゼルエンジン	
	種類			D782-P	
	総排気量(L{cc})			0.778{778}	
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)			14.7{20}/3000	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	タンク容量(L)			20	
	始動方式			セルスタータ式	
	バッテリ(V·Ah)			12·36[50B24L]	
走行部	かじ取り方式			アッカーマン方式	
	車輪 種類	前輪		標準：ノーパンクタイヤ　T2仕様：細幅ノーパンクタイヤ	
		後輪		ゴムラグ車輪	
	車輪 外径×幅(mm)	前輪	標準	650×95	
			T2仕様	650×78	
	車輪 外径×リム幅(mm)	後輪		950×50	
	車輪 輪距(mm)	前輪		1080	765
		後輪		1200	
	変速方式			油圧式トランスミッション[HST]	
	変速段数(段)			主変速：前進無段·後進無段[副変速：2段]	
植付部	植付方式			ロータリ式強制植付け	
	植付条数(条)			10	
	植付条間(cm)			30	
	植付株間(cm)			※12, 14, 16, 18, 21, 24	
	植付株数(株/3.3m²)			※90, 80, 70, 60, 50, 45	
	植付深さ(cm)			2～5.3[5段階]	
	1株本数調節 横送り量(mm/回数)			11/26, 14/20, 18/16[3段]	
	1株本数調節 縦かき取り量(mm)			8～18	
苗の条件	苗の種類			マット苗	
	草丈(cm)			8～25	
	葉令(葉)			2.0～4.5	
施肥装置	肥料の種類			一般市販の粒状化成肥料の中から適するものを選ぶ	——
	施肥方式			側条作溝施肥・強制埋設	——
	施肥位置(cm)			苗の側方：4.5, 深さ：5	——
	肥料ホッパ容量(L{kg})			110{約100}	——
	繰出方式			溝付ロール式	——
	繰出量調節方式			ロール切替え式＋ロール回転数調節式	——
	繰出量調節範囲(kg/10a)			10～80	——
	ふく土方式			フロートとふく土板	——
予備苗とう載数(箱)				10	——
警報装置				充電警報[ランプ], 油圧警報[ランプ], 後進時[ブザー], 燃料計, 水温計, マーカ出忘れ警報[ランプ・ブザー], 植付クラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー], 苗切れ警報[ランプ・ブザー], あぜぎわクラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー], 肥料切れ警報[ランプ・ブザー]【F仕様】, 肥料詰まり[ランプ・ブザー]【F仕様】	
作業速度(m/s)				0～1.57[※0～1.42]	
作業能率[計算値]	(a/h{分/10a})			※ ～92{7～}〈～76{8～}〉	

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
＊〈F〉：施肥機付仕様
※車輪スリップ率10%

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1
＊取扱説明書	1
＊機体カバー	1
＊苗ストッパ	1
＊苗取りゲージ	1
＊苗すくい板	6【6】
＊苗すくい板	8【8】
＊苗すくい板	10【10】
＊苗すくい板	1【10-8】
＊植付爪	1
＊スローブローヒューズ	1
＊リレー	1
＊工具	
10－12スパナ	1
14－17スパナ	1
ドライバ(＋，－差換え式)	1
プライヤ	1
＊ブラシ	1【F仕様】

オプション（別売品）（純正部品を使いましょう）

■苗キーパ

苗キーパは，苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止します。

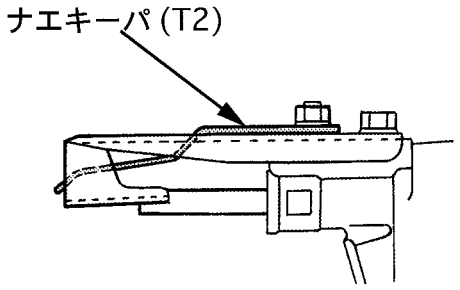
※アッシ（セット）の場合

品　　名	品　　番	数量	対象型式
キット (ナエキーパT2,6)	PA601-9815-0	12	6
キット (ナエキーパT2,8)	PL851-9851-0	16	8

- 【10】は単品を10個注文してください。

※単品の場合

品　　名	品　　番	対象型式
ナエキーパ(T2)	PA401-5372-0	全型式



P-2415A

■クリーナ

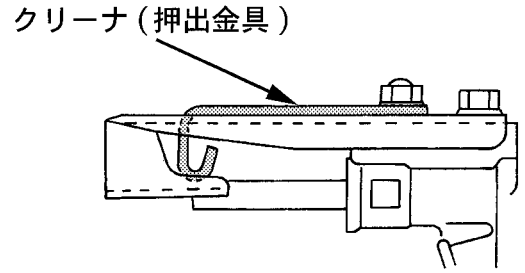
クリーナは，苗を詰まらなくする効果があります。爪の間に苗が詰まり，植付姿勢が乱れたときなどに有効です。

※アッシ（セット）の場合

品　　名	品　　番	数量	対象型式
クリーナ，アッシ (押出金具6)	45603-9390-0	12	6
クリーナ，アッシ (押出金具8)	45801-9390-0	16	8
クリーナ，アッシ (押出金具10)	PF001-9390-0	20	10

※単品の場合

品　　名	品　　番	対象型式
クリーナ (オシダシカナグ)	45403-9391-0	全型式



P-2412A

オプション（別売品）（純正部品を使いましょう）

■補助車輪

ほ場に合った補助車輪を使用してください。

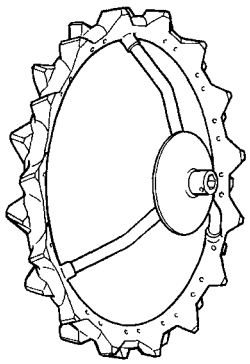
品　　名	品　　番	補　助　車　輪	整　地　板	対象型式
キット（ホジョシャリン，T，ソト）	PF801-9840-0	幅95 径φ900 エアタイヤ+延長車軸	無し	全型式　※1
キット（ホジョシャリン，T，ウチ）	PM808-9820-0	幅95 径φ900 エアタイヤ（朝顔型）	無し	全型式

※1【6】は整地板アッシが別途必要です。

● ゴムラグタイヤ

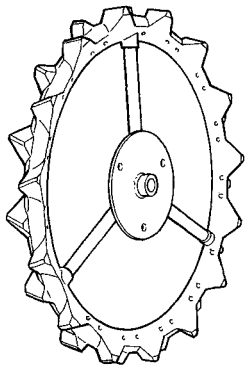
品　　名	品　　番	補　助　車　輪	整　地　板	対象型式
キット（ホジョ，ゴム，ウチ）	PM808-9880-0	幅90 径φ900 ゴムタイヤ+延長車軸	無し	全型式
キット（ホジョ，ゴム，ソト）	PM808-9890-0	幅90 径φ900 ゴムタイヤ+延長車軸	無し	全型式

ゴムラグ内

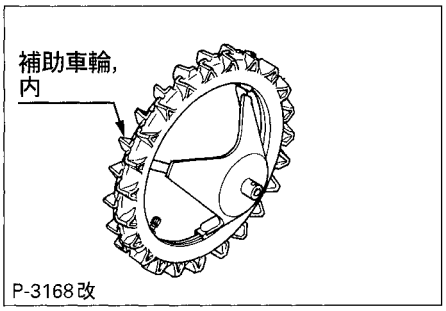


1AKACAIAP203A

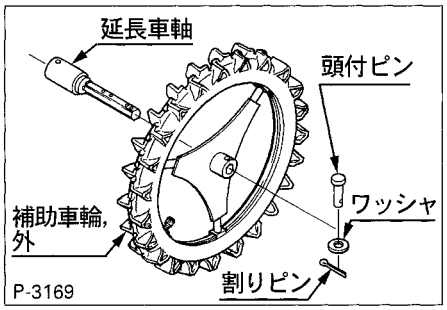
ゴムラグ外



1AKACAIAP204A



P-3168改



P-3169

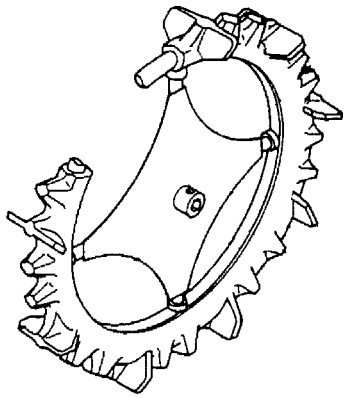
オプション（別売品）（純正部品を使いましょう）

■整地板

品　名	品　番	仕　様	対象型式
整地板，アッシ(S)	PA501-9830-0	外側補助車輪用	6

■後輪タイヤ

品　名	品　番	対象型式
後輪エアタイヤ，アッシ	PF801-2490-0	全型式

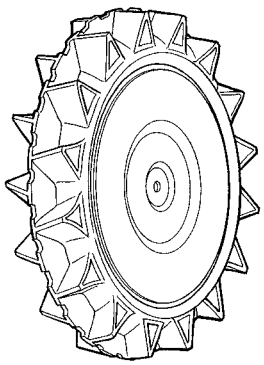


P-5217A

■広幅前輪タイヤ

ほ場の耕盤が軟弱で，後進時に前輪が沈下する条件で沈下を少なくできます。

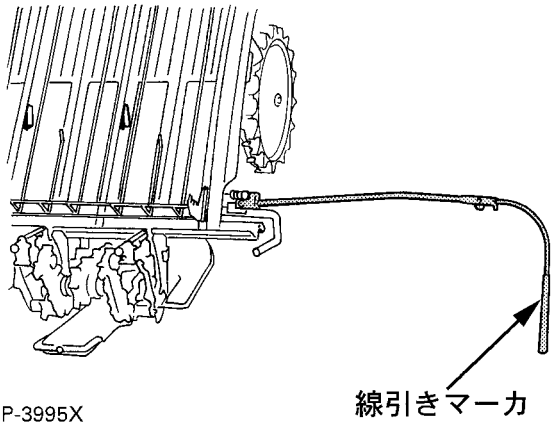
品　名	品　番	仕　様	対象型式
前輪，キット(F，650-120)	PL503-2350-0	幅120mm 径φ650 ノーパンクタイヤ ホイールキャップ付	8C除く
前輪，キット(F，650-95)	PL503-2360-0	幅95mm 径φ650 ノーパンクタイヤ	6，8T2，10T2



P-4263A

■線引きマーカ

品　名	品　番	対象型式
マーカ，キット(ライン)	PL651-9840-3	6・8・8C

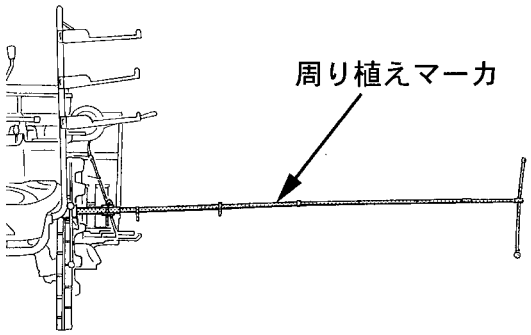


P-3995X

■周り植えマーカ

最終の枕地を１回の周り植えで作業が行なえます。

品　名	品　番	対象型式
マーカ，キット(まわり植え)	PL851-9880-0	8・8C・CY32



P-4264A 改

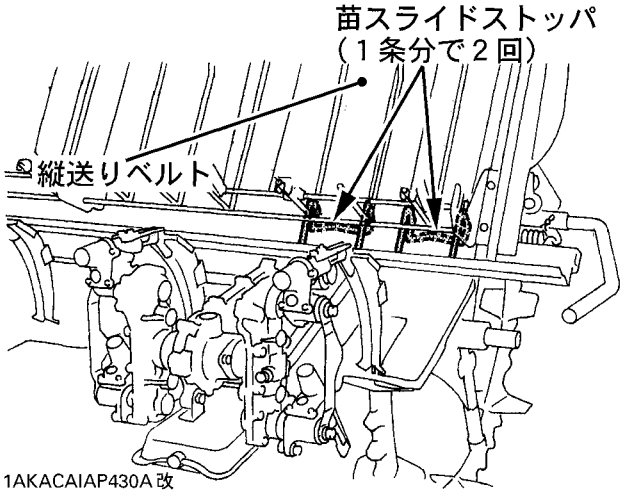
オプション（別売品）（純正部品を使いましょう）

■苗スライドストッパ

軟弱苗で苗がかたよっているときに使用します。

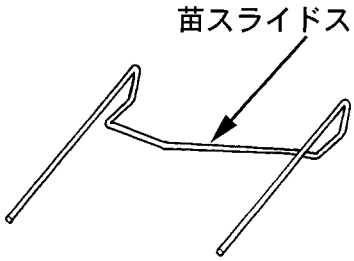
●取付けかた

1. 植付部を上昇させたあと，エンジンを止めます。
2. 苗のせ台に下図のような方向から，苗スライドストッパを縦送りベルト下端のすきまから差込みます。



1AKACAIAP430A 改

1AKACAIAP431A



1AKACAIAP432A

品　　名	品　　番	対象型式
ナエスライドストッパ	45403-9881-0	全型式

補　足

＊苗スライドストッパは，１条分あたり２個使用します。

＊苗スライドストッパを差込んだあとは，きっちりとはめ込んでください。

3. 同じ要領で苗のせ台全条に取付けます。

補　足

＊植付作業時に，植付爪と苗スライドストッパが接触しても支障はありません。

■延長予備苗のせ台

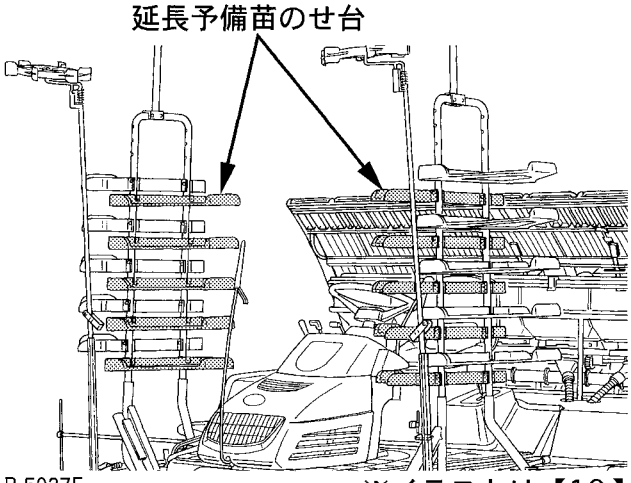
延長予備苗のせ台を追加，取付けると，倍の予備苗を載せることができ，大きなほ場などでは便利であり，能率的です。

【6・8・10】

品　名	品　番	仕　様	対象型式
苗載台，キット(延長)	PM808-9840-0	８枚追加	8・8C

【SP仕様】

品　名	品　番	仕　様	対象型式
苗載台，キット(延長)	PM611-9840-0	６枚追加	SPD6-SP
苗載台，キット(延長)	PM811-9840-0	８枚追加	SPD8-SP



P-5027F

※イラストは【10】

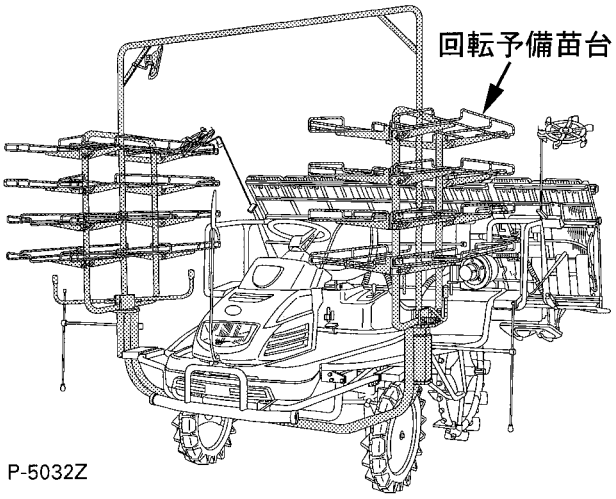
オプション（別売品）（純正部品を使いましょう）

■回転予備苗台

予備苗を箱のまま32枚載せることができ，レバーにより予備苗台が360°回転するために，能率的な作業ができます。　※CY仕様は標準装着

品　　名	品　　番	対象型式
苗載台 （キットY32）	PM807-9881-0	〔注１〕 8・8-C

〔注１〕機番が500357以降のものに適応。



P-5032Z

■苗すくい板ホルダ

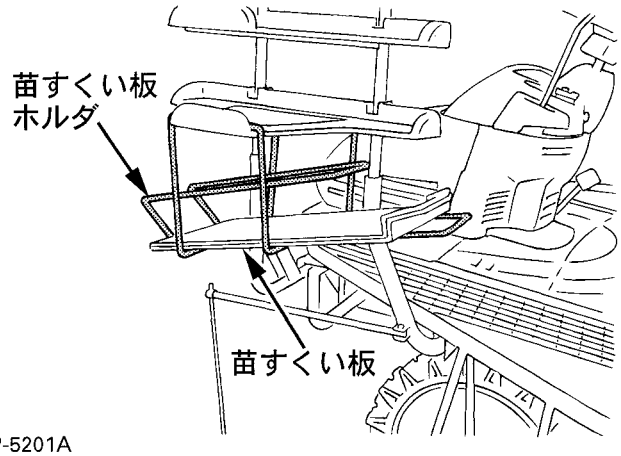
作業状況に合わせて苗すくい板の収納場所の変更が行なえます。

【6・8・10】

品　　名	品　　番	対象型式
キット， スクイイタホルダ	PM808-9870-0	全型式

【SP仕様】

品　　名	品　　番	対象型式
ホルダ，キット （スクイイタ）	PP501-9840-0	SPD6・8-SP （延長除く）



P-5201A

■キャノピ

品　　名	品　　番	対象型式
PD-1 キャノピアッシ	4E201-0000-0	Y・Q・Q2・ SP仕様除く
PD-2 キャノピアッシ	4E202-0000-0	Y・Q・Q2 仕様除く

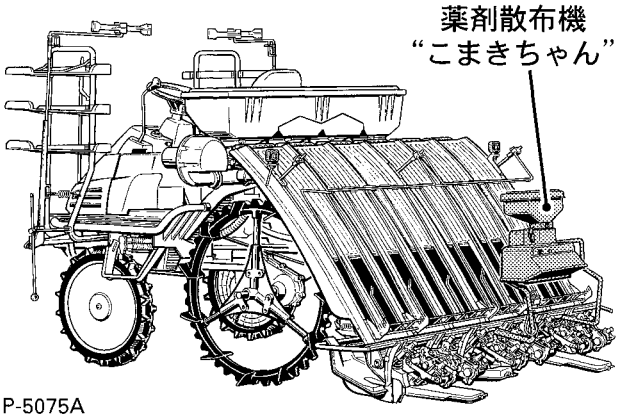
■薬剤散布機“こまきちゃん”

粒状の薬剤（除草剤など）の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業なので，時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく，すぐれた除草効果が得られます。また，薬剤が体につかず安心で快適な作業が行なえます。

品　　名	品　　番	対象型式
こまきちゃんCS-10	4M101-9002-0	C仕様除く 全型式

※10，10-8には別キットが必要です。



P-5075A

■除草剤散布機“滴下マン”

液体除草剤（フロアブル剤）の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業なので，時間と人手の省力化ができます。
- 植付け速度にあった散布や散布量の過不足がない均等な散布を行ない，すぐれた除草効果が得られます。
- 田植え前の散布が必要ないので，落水による流失がなく環境保全に有効です。

品　　名	品　　番	対象型式
滴下マンLS-10	4D101-9003-0	C仕様除く全型式

オプション（別売品）（純正部品を使いましょう）

■増量ロール【SP-F仕様】

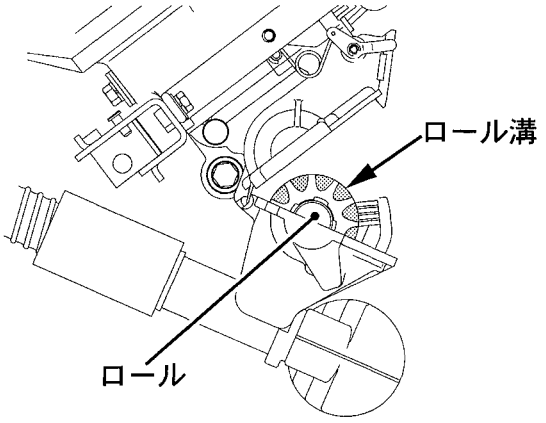
実際の施肥量が設定した施肥量より少なく（肥料の比重が小さいため）80kg/10a繰出しを行ないたい場合は，標準よりロール溝が深い増量ロールを使用してください。
（有機肥料を繰出す場合は別紙の［**施肥機を上手に使うために**］の肥料選定を参考にして肥料を選んでください。）

※アッシ（セット）の場合

品　名	品　番	対象型式
クリダシロール，キット（6Y）	PP601-9590-0	SPD6-SP
クリダシロール，キット（8Y）	PP851-9590-0	SPD8-SP

※単品の場合

品　名	品　番	対象型式
クリダシロール（Y）	PP501-9154-0	SPD6・8-SP

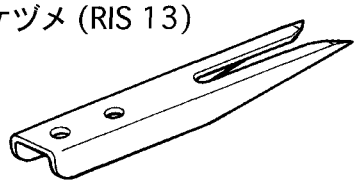


P-5363C

消耗部品（純正部品を使いましょう）

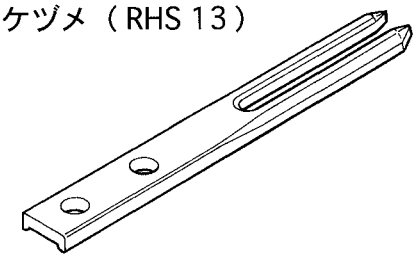
◆植付爪

ウエツケヅメ（RIS 13）



P-1741A

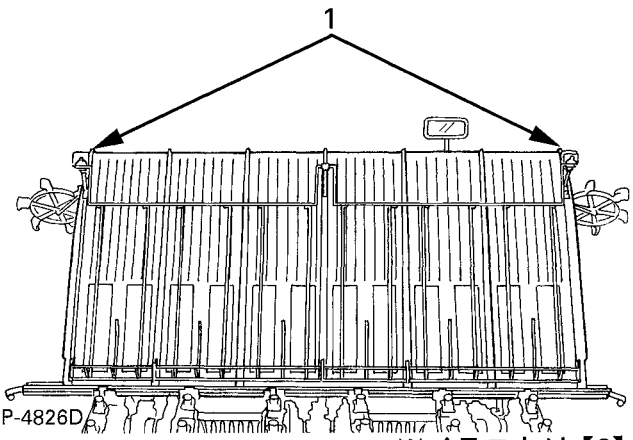
ウエツケヅメ（RHS 13）



P-2434A

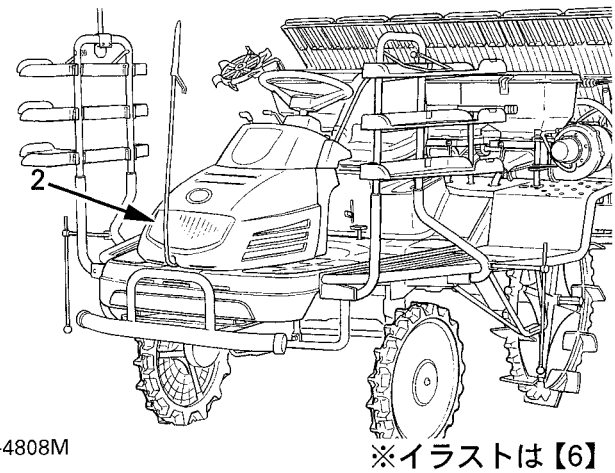
品　名	品　番	1台当り数量	
		6	8
ウエツケヅメ(RIS13)	PA401-5171-0	12	16
ウエツケヅメ(RHS13)	PA401-5371-0	12	16

◆各ランプ



P-4826D

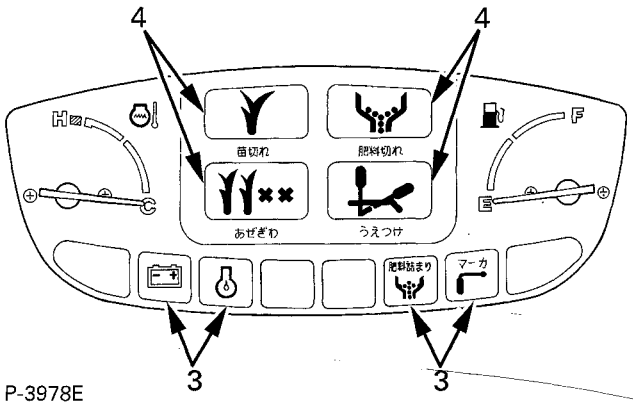
※イラストは【6】



P-4808M

※イラストは【6】

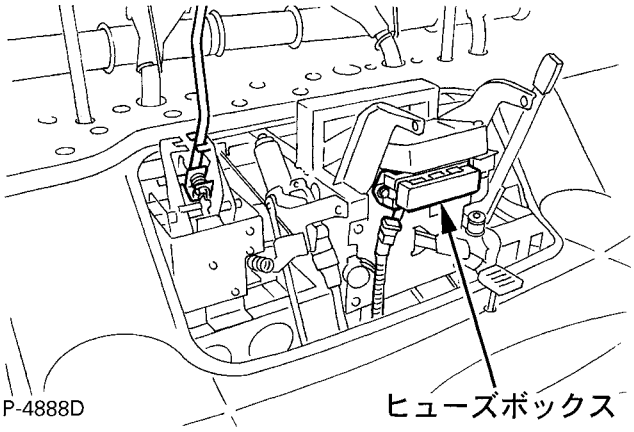
消耗部品（純正部品を使いましょう）



P-3978E

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フラッシャー(デンキュウ)	54216-4119-0	全型式
2	バルブ(ホジョ)	3F740-7594-0	
3	ランプアッシ	PL501-6848-0	
4	ランプアッシ	38240-3146-0	

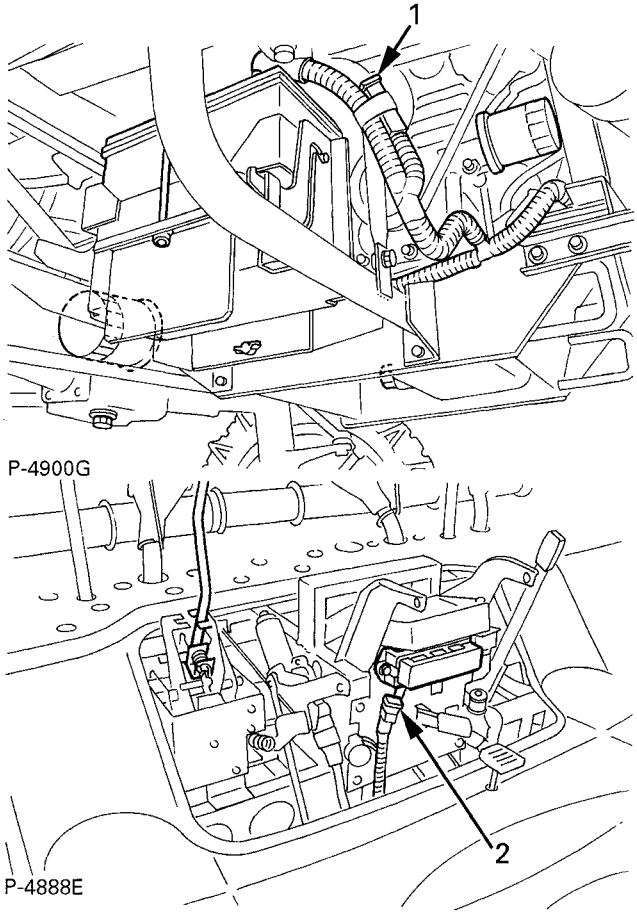
◆ヒューズ



P-4888D

品　　名 (容量)	品　　番	対象型式
ヒューズ(オート，３A)	48200-5587-0	全型式
ヒューズ(10A)	36730-7555-0	
ヒューズ(20A)	36919-5665-0	
30Aオートヒューズ	52300-4163-0	

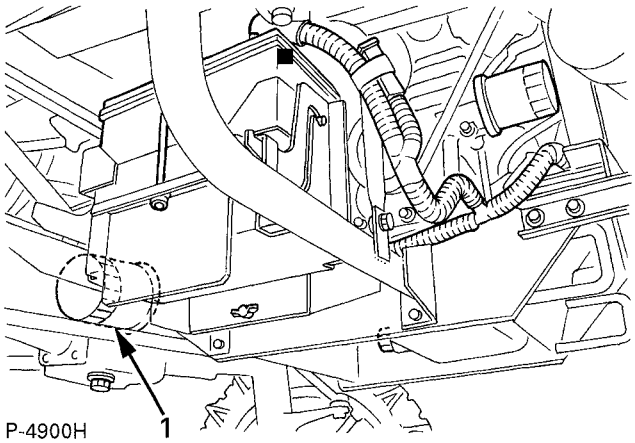
◆スローブローヒューズ



P-4900G
P-4888E

図番	品　　名 (容量)	品　　番	対象型式
1	スローブローヒューズ(50A)	35080-3453-0	全型式
2	ヒューズ(30A)	51950-2932-0	F仕様

◆ミッションオイルフィルタカートリッジ

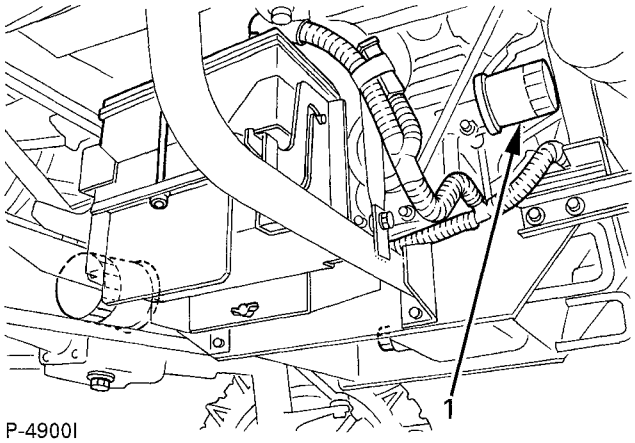


P-4900H

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ（オイル）	PL501-7547-0	全型式

消耗部品（純正部品を使いましょう）

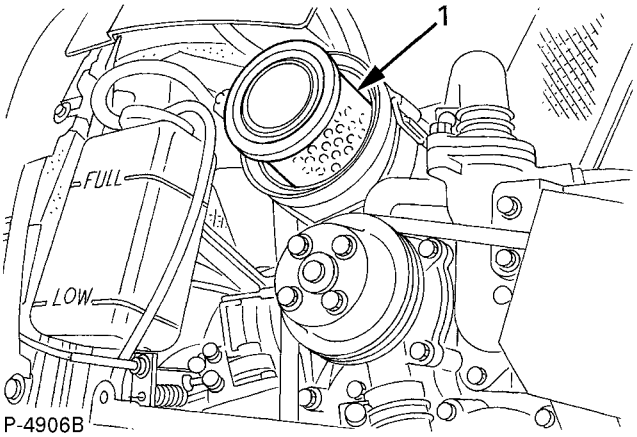
◆エンジンオイルフィルタカートリッジ



P-4900I

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ（カートリッジ）	15853-3243-4	全型式

◆エアクリーナエレメント

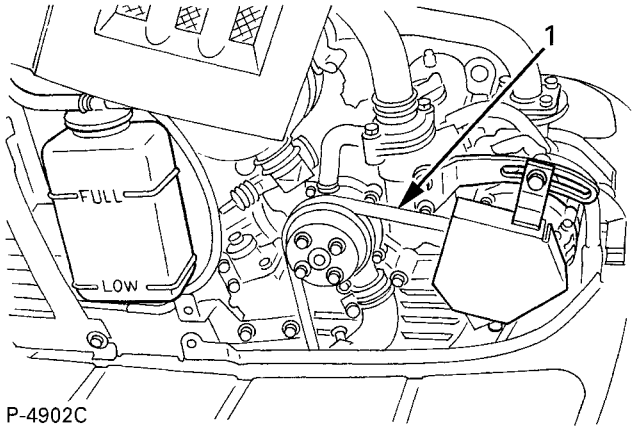


P-4906B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	エレメント，アッシ	6A100-8263-2	全型式

◆オルタネータ駆動ベルト

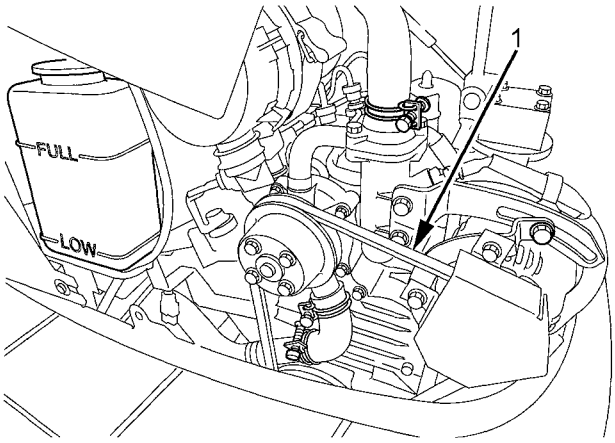
【6・8・10】



P-4902C

【6・8・10】

【SP仕様】



P-5367E

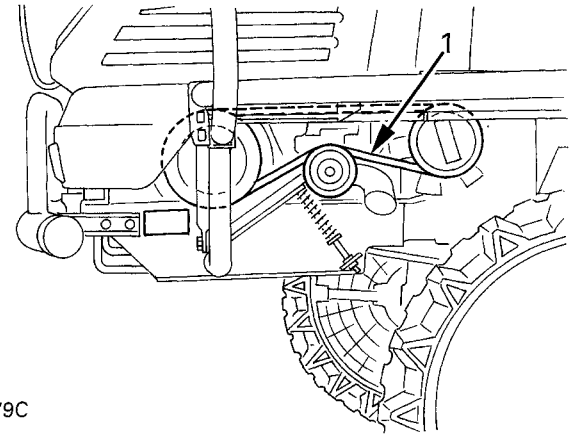
【SP仕様】

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	34.5ブイベルト	15881-9701-0	全型式

消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆ミッション駆動ベルト

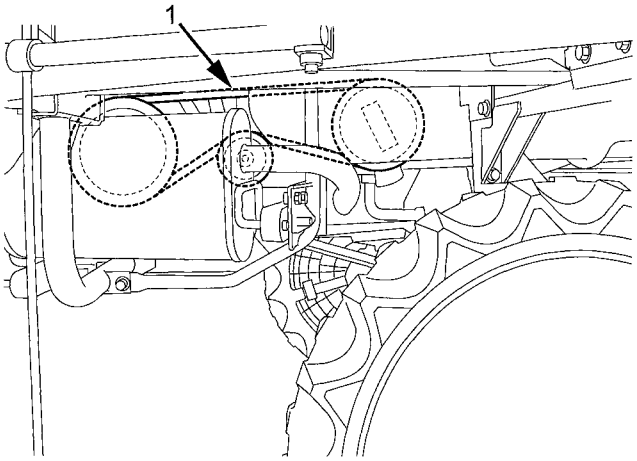
【6・8・10】



P-4779C

【6・8・10】

【SP仕様】

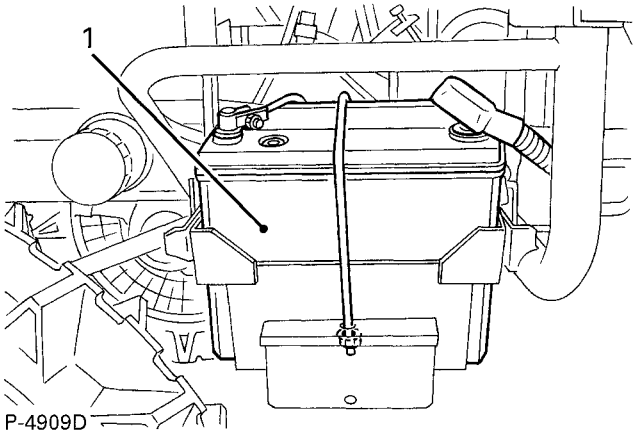


P-5369B

【SP仕様】

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	Vベルト (50IN)	PM808-8116-0	全型式

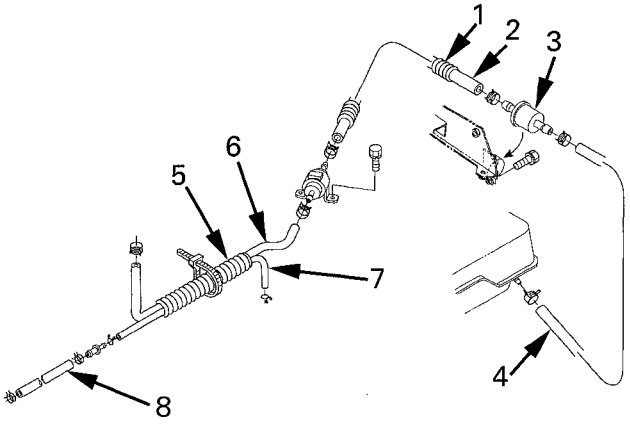
◆バッテリ



P-4909D

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	バッテリ	5H522-4111-0	全型式

◆フューエルパイプ
◆フューエルフィルタアッシ



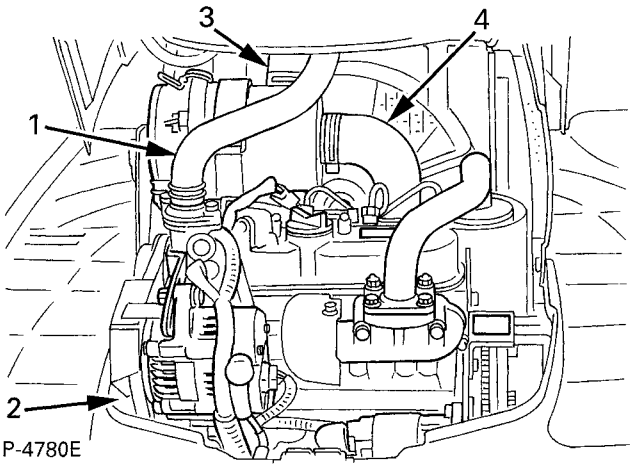
P-4919B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チューブ(1,コルゲート)	PM808-8256-0	全型式
2	フューエルチューブ	09661-70280	
3	フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2	
4	フューエルチューブ	09661-70260	
5	チューブ(2,コルゲート)	PM808-8257-0	
6	フューエルチューブ	09661-71500	
7	フューエルチューブ	09661-60250	
8	フューエルチューブ	09661-41500	

消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆ラジエータホース
◆インレットパイプ

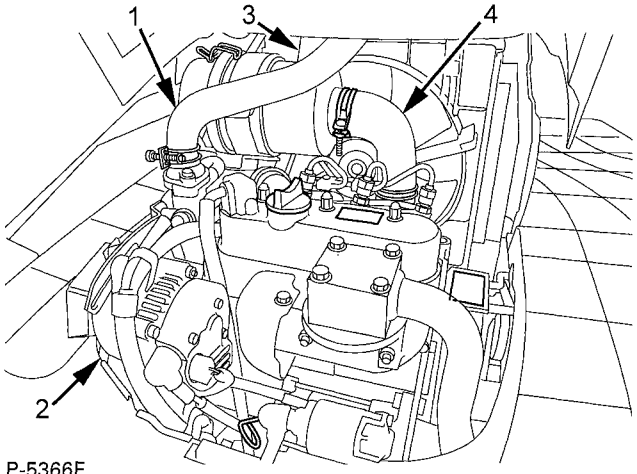
【6・8・10】



P-4780E

【6・8・10】

【SP仕様】

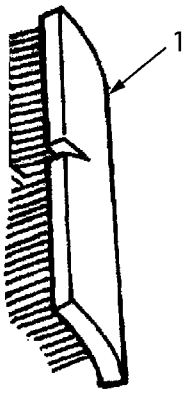


P-5366F

【SP仕様】

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ホース(ウエ,ラジエータ)	PM808-8217-0	全型式
2	ホース(シタ,ラジエータ)	PM808-8218-0	
3	チューブ(1,インレット)	PM808-8242-2	
4	チューブ(2,インレット)	PM808-8243-0	

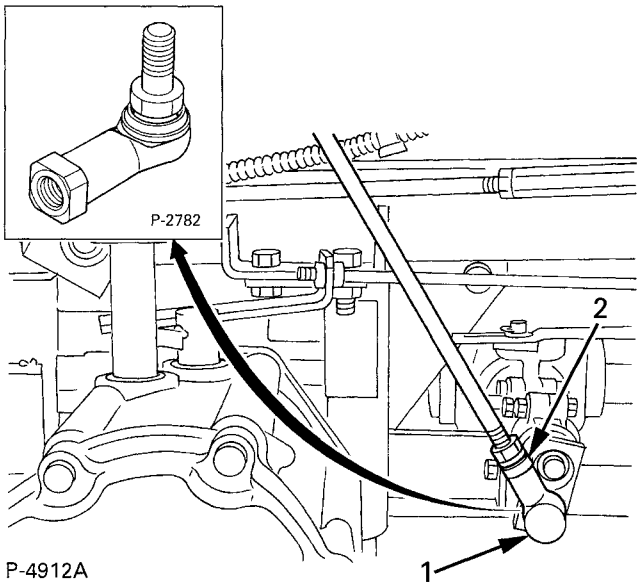
◆施肥ブラシ【F仕様】



P-4135B 改

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ブラシ(ロールケース用)	PL501-9164-0	F仕様
	SP仕様ブラシ(ロールケース用)	PP501-9164-0	

◆ロッドエンド・ブーツ【F仕様】



P-4912A

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ブーツ	PA224-9275-0	F仕様
2	ロッドエンド	45404-9577-0	

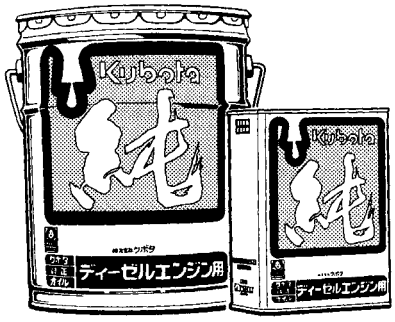
クボタ純オイル

■オイルは　クボタ純オイル　をお使いください。

オイルは，田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切な田植機の寿命を縮めることがあります。

お買求めは，購入先へご用命ください。

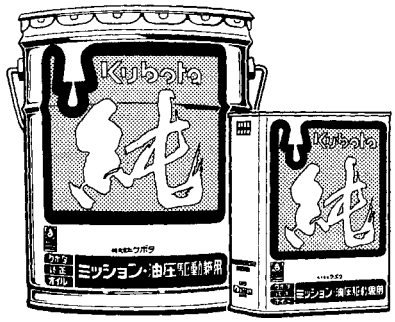
● D30又はD10W-30（ディーゼルエンジン用）



20L　4L

Z-1025

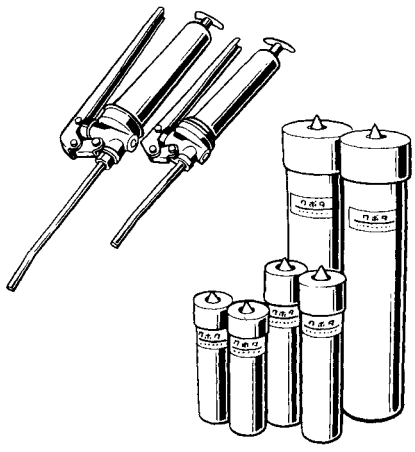
● スーパーUDT又はNEW UDT
（油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）



20L　4L

Z-1021

■クボタスペアグリース



60　100　400

Z-1026

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，**購入先へ** ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号（製造番号）	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

SPD6/8/10
AK. D. 11-11 . 5. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

LEMA
陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の
19kW未満汎用ディーゼルエンジン排ガス自
主規制に適合していることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　PM808-9751-6